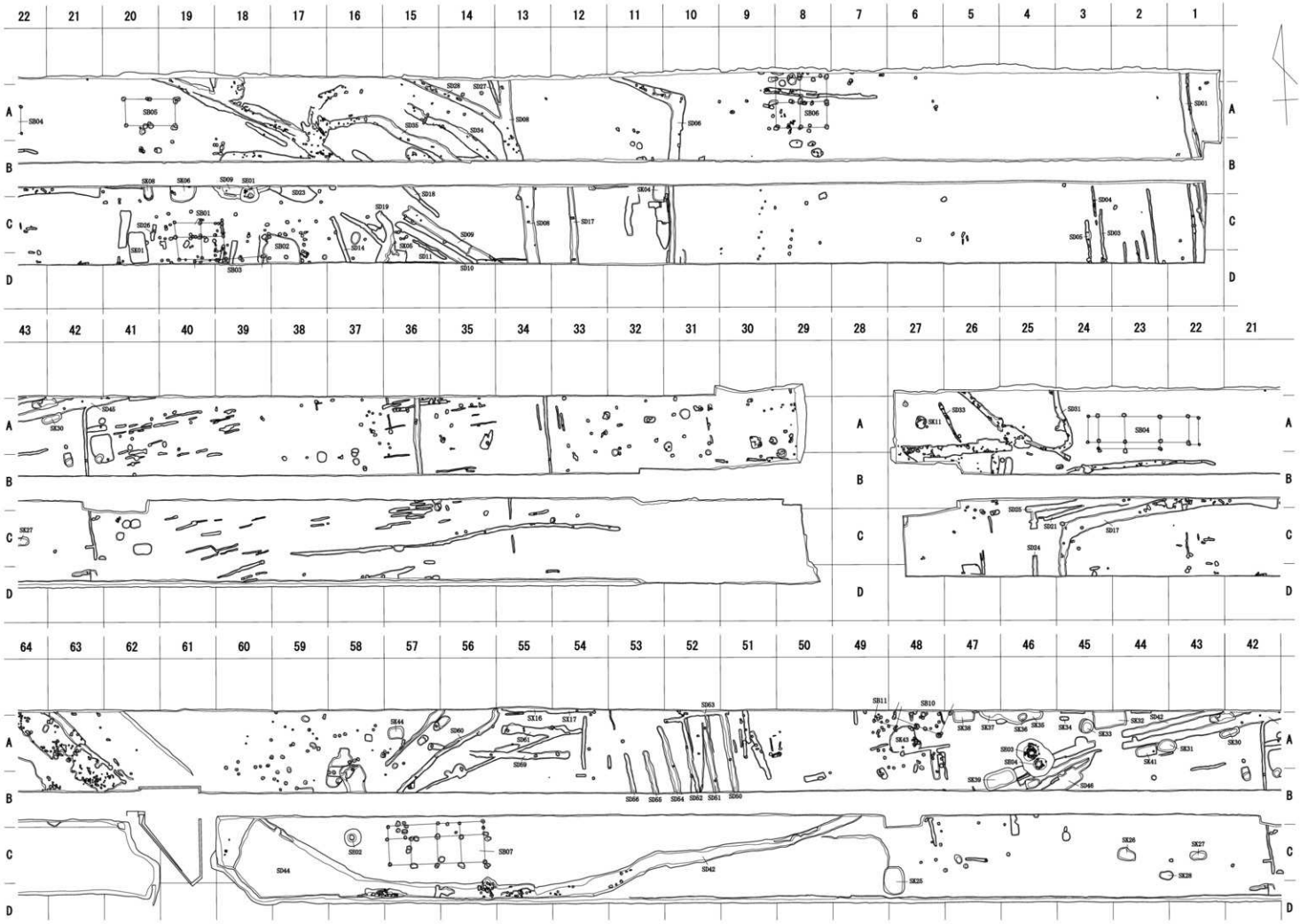
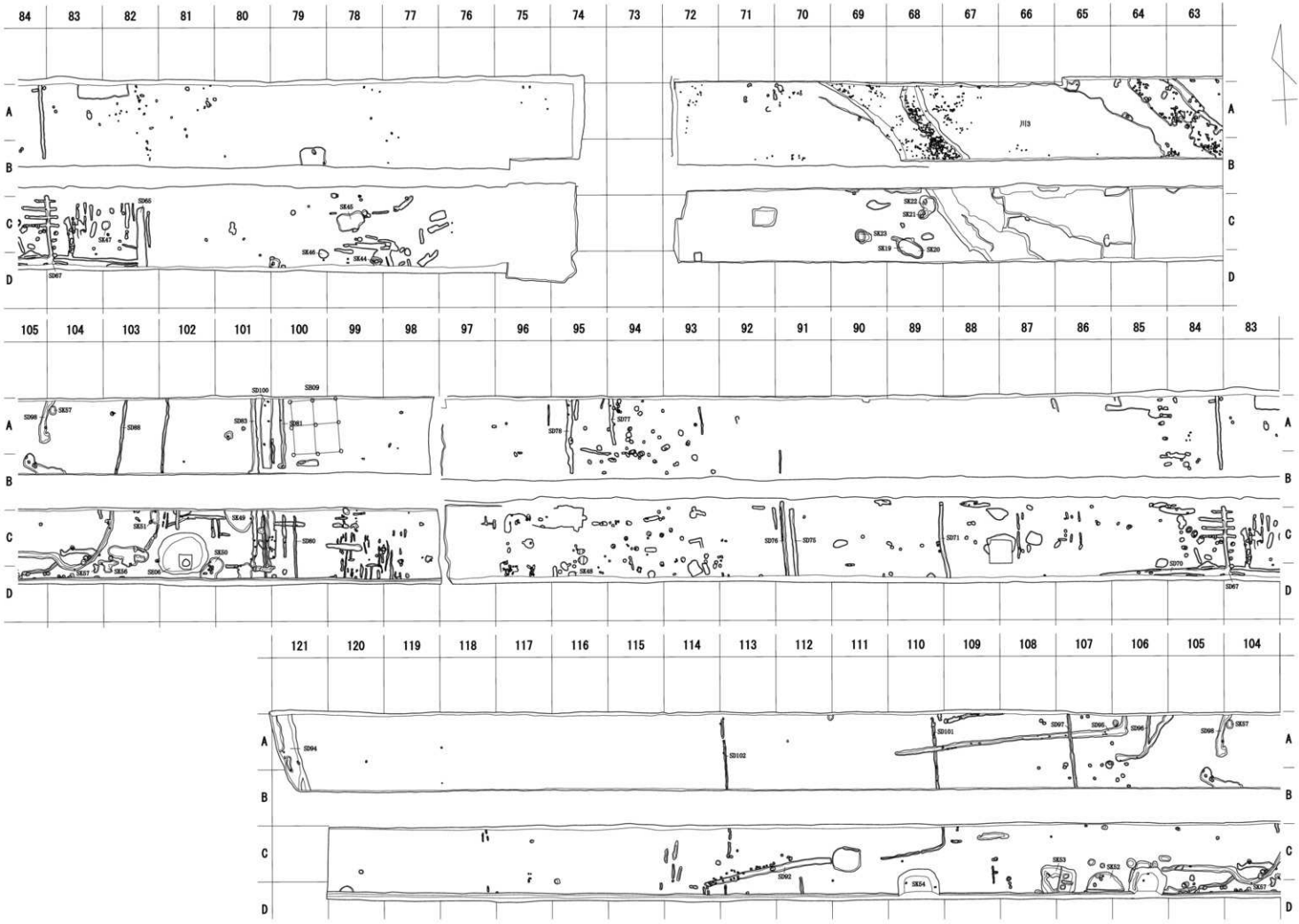
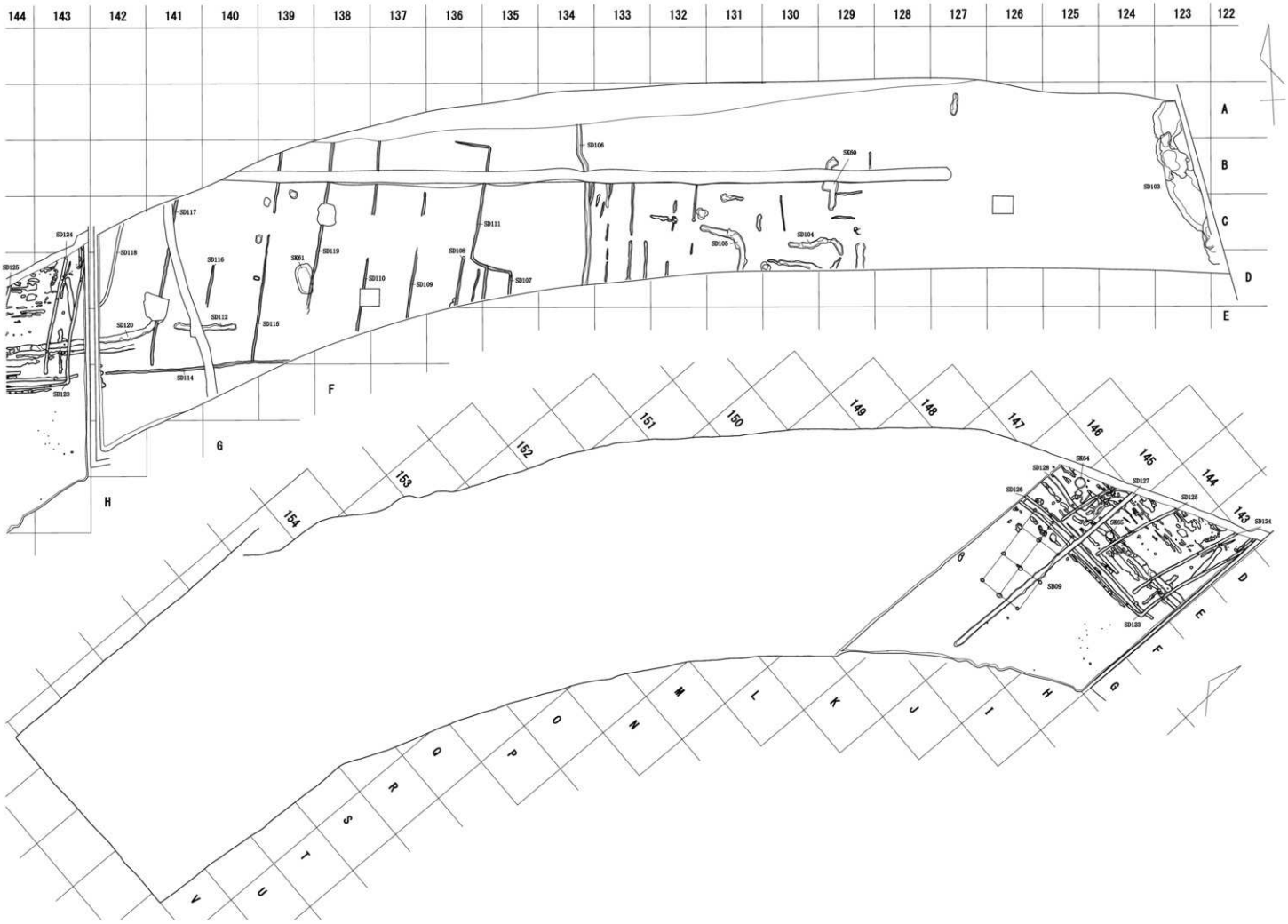


第10図　上層遺構全体図（1）（縮尺1/300）



第11図　上層遺構全体図（2）（縮尺1/300）



第12図　西地区上層遺構全体図（縮尺1/300）

第４章　遺　構

第１節　下層（縄文・弥生～古墳時代前期）の遺構

１　東地区の遺構

東地区で検出した主な遺構は、竪穴住居22棟、平地式住居１棟、掘立柱建物12棟（うち布掘建物２棟）、井戸２基、土器集中区17ヶ所、土器溜まり１ヶ所、埋甕１基、伏せ甕１基、土坑187基、溝等を検出した。時期は大半が、弥生時代後期に属するものだが、若干ではあるが、古墳時代前期の遺構が含まれる。

（１）竪穴住居

SI01（第13図）　Ｂ・Ｃ14・15区に位置する。北でSI11を切り,西をSI06で切られ、壁周溝は同住居の床面下に潜り込んだ形で検出した。南は一部調査区外となる。平面形は円形で、拡張されており、直径は約8.8mと約10m、深さは約0.6mを測る。拡張前の周溝は、幅が約0.6mと広く深さも床面から約0.3mあり、通常の壁周溝とは異なり平地式住居の周溝に近い形状を呈する。一方、拡張後の周溝は幅約0.3m、深さ約0.2mの規模である。中央に土坑（SK5041）を持ち、埋土中には多くの遺物が含まれていた。全体に貼り床が明瞭に見られ、表面の広い範囲で焼土が認められた。柱穴と考えられるものは13基存在し、５～６本柱で建てられていたと考えられる。

遺物は、床面状に土器片が比較的多く残されていた他、覆土中には多量の玉作関連遺物が含まれ、緑色凝灰岩製管玉の未成品、完成品の他、錐や調整加工用棒状工具等の鉄製工具が含まれていた。

SI06（第14図）　Ｂ・Ｃ15～17区に位置する。西側でSI01を切る。平面形は円形で、直径は約7.5m、深さ約0.3mを測る。中央に約1.1m×0.9m、深さ約0.3mの楕円形の中央土坑を持つ。全面に貼り床が明瞭に見られ、北東壁際には、比較的完形に近い土器がまとまって出土し、その西側に、口縁部をほぼ床面に接した状態で倒立した形で伏せられた高さ37㎝、口径31㎝の大型甕形土器が置かれていた。ほとんど破損は見られず、内部には高さの半分程度の白色粘土塊が納められていた。

玉作関連遺物は、覆土中に多少含まれていたが、周辺の住居や包含層に比べるとかなり少ないが、鉄製品は、SI01やSI11に比べ少ないものの、その他の住居に比べると比較的多い。

SI11（第15図）　Ａ～Ｃ13～15区に位置する。南でSI01に切られ、東でSI14を切る。壁周溝が二重に認められ拡張したと考えられる。平面形は円形で、直径は約9.2mと約10.6m、深さ約0.1mを測る。全面に貼り床が明瞭に見られ、中央付近と北東壁際に炭混じりの焼土が認められた。柱穴は、６～８本で構成されると考えられる。西側は、古墳時代前期の遺物が出土したSK-5095とSX10に切られている。中央に約1.1m、幅約0.8m、深さ約0.6mの土坑を持つ。埋土内に含まれる遺物は少なく、焼土なども見られない。埋土は、埋めも戻された状況を呈していた。東に近接して、直径約0.6mで深さ0.5mのピットが伴う。

玉作関連遺物が、SI01と同様に多量に出土し、鉄製品も多く見られる。覆土中が大半であり、床面近くでのまとまった出土は見られなかった。時期の新しいSK5095の覆土中にはほとんど含まれないことから、SI11が埋没する課程で流れ込んだものであることがわかる。

SI14（第14図）　Ａ・Ｂ13区に位置する。西側のSI11に切られ、全体の1/3程度が残っているに過ぎない。SI11の床面下から壁周溝の一部が検出されている。平面形は円形で、直径は約7.8m、深さは0.1m

程度である。貼り床はまばらに残り、床面に近い遺物はほとんど見られない。柱は、Ｐ３が深さ0.5mありそれに当たる可能性が高く、対応するものとして、SI11のＰ４が考えられ、Ｐ１とSI11Ｐ14と合わせ、４本柱と考えられる。中央土坑は切られた部分に当たり断定はしがたいが、SK5098がそれに当たる可能性がある。SD1017に切られるため、正確な形・規模は不明だが、約1.3m×0.8mの楕円形で、深さは約0.4cmを測る。埋土は黒褐色土が主で、遺物量は少ない。

SI03（第16図）　Ｂ・Ｃ20～22に位置する。平面形が六角形を呈し、柱はその角に配置されている。一辺は約4.6mで、対角線長さ約11m、深さ約0.4mを測る。全面には明瞭な形で貼り床が認められる。床面直下は礫層となっており、一部に小礫が露出していた。柱穴は、地山中の礫層を掘り抜いており、内部壁面は礫層面と明らかに異なる礫の集積がみられ、意図的に柱を礫で支える構造をとっていたことが窺える。おそらく、掘り上げた礫を利用し、柱を設置する際に周りに配置しながら埋設していった結果であろう。中央には柱の空間が何れも空いていた。中央に二段掘りの土坑を持つ。外側の堀方は約1.9m×1.4mの不整形な楕円形で、内側は直径約0.8mの円形で、深さ　を測る。東側に0.8mの円形のピットを持つ。

床面近い遺物は少ないが、貼り床内から大型の翡翠製勾玉が出土している。玉作関係遺物は覆土下層からやや多く出土し、鉄製品も多く出土している。

SI08（第17図）　Ａ・Ｂ３・４区に位置する。約4.4m×４mのやや不整形な隅丸長方形で、深さは約0.2mを測る。中央に0.5m×0.4mの楕円形の浅い土坑を持つ。他にピットが２基見られるが、何れも10～15cm程度と浅いため柱穴とはいえず、この住居での柱穴は存在していない。貼り床は全面に渡って明瞭に見られ、東壁際の床面には２～３cmの小砂利の集積が見られ、その上から遺物が集中して出土している。壁周溝は幅が0.15mと狭く、南北の角付近では掘り込みが不明瞭になっている。玉作関連遺物はほとんど出土していない。

SI02（第17図）　Ｃ・Ｄ18・19に位置する。南は調査区外で、ほぼ1/2が検出されている。円形で、直径約5.6m、深さ約0.15mを測る。南西側はSK5032に切られている。貼り床は、住居の中心付近に顕著に見られるが、周辺部は地山との区別はほとんどできない程度に止まる。柱はＰ１・Ｐ４が主となり、おそらく４本と考えられる。床付近の遺物はほとんど無く、玉作関連遺物も極めて少ない。

SI12（第18図）　Ａ・Ｂ24・25に位置する。西側でSI13を切る。約6.5m×７mの、丸味を帯びた隅丸方形で、深さは約0.15mを測る。柱は４本と考えられるが、北西角は小さく不明瞭であった。柱穴内部は、SI03で見られたように、礫を周囲に詰め込んだもので、礫により柱を支えたと考えられる。壁周溝が全周し、貼り床は全面に明瞭に見られ、北西角付近は焼土化し赤変していた。中央には二段掘りの土坑があり、外側は1.7m×0.9m深さ約0.15mで東西に長い楕円形、内側はそれと直交する形で、約１m×0.55m、深さ0.35mの長楕円形に作られていた。埋土には多量の礫が含まれ、土器もその中に入りこんだ形で出土している。

玉作関連遺物は、未成品などが北西側のSI13と接する壁際付近で多くみられ、そこを軸に対称位置となる北東と南西側の壁周溝から、大型の砥石（前者からは凝灰岩の中砥石、後者からは砂岩製の荒砥石）がそれぞれ１点ずつ出土している。鉄製品はほとんど出土していない。

SI13（第19図）　Ａ25・26に位置する。東側でSI12に切られ、北半部は調査区外で全体の1/2を検出した。円形で、壁周溝が貼り床下からも検出され、拡張したと考えられる。直径は約8.65mと約6.7mで、深さ約0.1mを測り、貼り床は全面に明瞭に見られる。中央に二段掘りの土坑を持ち、その周囲は土手

状に盛り上がり、方形に囲まれていた。規模は、外側が土手の裾からで約２m、深さ床面から約0.1m、内側は円形で直径が約0.6m、深さ床面から約0.3mを測り、内部には多量の礫と土器が入りこんでいた。底部は硬く締まり、土手と共に堅固に作られていたが、焼土痕は見られず、炉である確証は得られなかったが、比較的炭化物が多く、その可能性も否定できない。覆土下層から鳥のような先刻画が出土した長頸壺の破片が１点出土している。

南の床面上で、小型の甕形土器が伏せられた状態で出土している。内部に遺物等が含まれている痕跡はなかった。玉作関連遺物は少ないが、覆土を水洗した結果えられた微細遺物の中に、鍛造剥片と考えられる５㎜前後の鉄片が多く含まれていた。他の住居ではほとんど認められないことから、この住居で、鉄製品の加工が行われていた可能性がある。土手を有する中央土坑との関連も考える必要があるかもしれない。

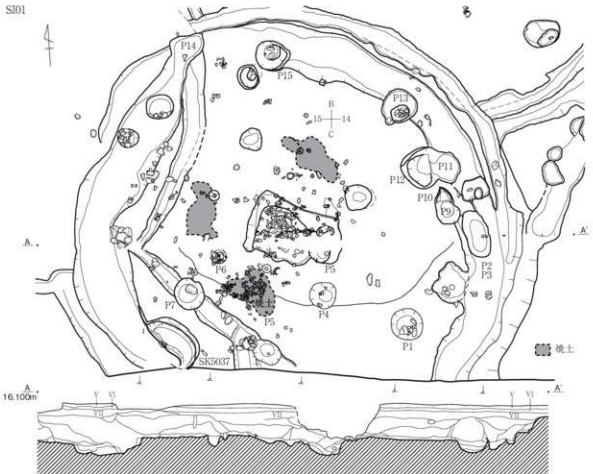
SI05（第20図）　C・D19～20 区に位置する。西をSI03で切られ南は調査ため、全体の1/5程度しか検出できていない。円形または多角形と考えられ、推定直径は約9.2mである。深さは0.25mを測る。柱穴は北側に見られ、SI03と同様に礫で内部が固められている。壁の外周が僅かに角張った部分に対応する位置にあり、それもSI03に似る。この点から考えると、SI03と同じような多角形となる可能性も大いにありうる。貼り床は明瞭に認められる。床に近い遺物は少なく、ほとんど覆土中で、玉作関連遺物も少ない。北東部壁際の覆土上面で、刀子が１点出土している。

SI07（第21図）　A20・21区に位置する。北1/3は調査区外にかかる。方形で一辺が約5.8m、深さ約0.2mを測る古墳時代前期の住居である。全面に貼り床が明瞭にみられ、柱は角に２本がほぼ対称に配置されていることから、４本柱と考えられる。南側中央付近には、長さ約1.3m、幅約0.9m、深さ約0.5mの土坑を持ち、壁の外にはみ出す形で深さ約0.7mのピットが掘られていた。竈風の構造だが、焼土のような被熱痕跡は認められず、性格の特定には至らなかった。遺物量は少なく、貼り床内で古墳時代前期の高坏片が出土したことと、他の住居とは異なり整った方形を呈している点から、時期を特定した。玉作関係遺物は流れ込んだ程度でほとんど見られず、鉄製品も僅かである。しかし、長さ12.8㎜、幅６㎜、厚さ５㎜の小さな柄と思われる部分に、繊維状の糸を巻き付けた鉄製品が覆土下層から出土している。

SI09・10（第21図）　A19区に位置し、大半は調査区外にかかり、南は、SX05を切っている。東側で小さく回り込む部分をSI09、それを覆い西に拡がる部分をSI10としたが、１つの住居の可能性もある。SI09を拡張したものと考えられる。前者は円形で推定直径約4.8m、深さ0.2m、後者は長円形又は隅丸方形で大きさは７～８m程度と考えられる。貼り床は明瞭ではないが、壁周溝がはっきりと確認できる。東壁際の床面付近で、破片がまとまって出土している。

SI15（第22図）　B・C30・31区に位置する。南はSX12に切られる。隅丸方形で、一辺が約5.5m、深さ約0.2mを測る。壁周溝は西半分では明瞭に見られるが、東半分ではほとんど掘り込みが存在しない。貼り床はほぼ全面で見られ、中央付近には炭化物片の集中が認められる。地床炉の可能性が高い。ピットは深さ0.2m程度浅いものしかなく、主柱穴となりうるものを特定しづらい。遺物は、床面近くから破片が出土してはいるが、決して多いとは言えない。玉作関連遺物はあるものの、量は少ない。

SI16（第23図）　C・D32・33区に位置する。東側は、古墳時代前期の土坑SK5127に切られ、南側は調査区外である。長方形で拡張が１回され、上層が約4.5m×5.5m、深さ約0.25m、下層が約４m×4.8m、深さ約0.3mを測る。貼り床はほぼ全面に見られ、壁周溝は下層では狭く10㎝程度だが、上層では20～



P4

1. 10YR2/2　黒褐色土　　粘性やや弱。しまり弱。粒子の粗い。砂質土。砂分全体に多く含む。炭粒子が極に大きく含む。
2. 10YR3/1　黒褐色土　　粘性弱。しまり弱。砂分・炭粒子ブロック状に多量に含む。
3. 10YR2/3　黒褐色土　　粘性やや弱。しまり弱。黒っぽい色調の土。砂分全体に炭粒子ブロック状に含む。
4. 2.5Y3/2　黒褐色土　　粘性やや弱。しまり弱。砂質土。砂分・炭粒子多量に含む。
5. 2.5Y3/2　黒褐色土　　粘性やや弱。しまり弱。砂分は分体に炭粒子ブロック状に含む。
6. 2.5Y5/2　明灰黄色土　粘性やや弱。しまりやや強。明るい色調の土。黄色土・炭粒子ブロック状に含む。砂分少量含む。
7. 10YR2/1　黒色土　　粘性やや弱。しまりやや強。砂分全体に多量に含む。炭粒子ロック状に含む。黄色土粒状に含む。
8. 10YR3/2　黒褐色土　　粘性弱。しまりやや強。砂分全体に炭粒子ブロック状に含む。黄色土ブロック状に含む。
9. 10YR3/1　黒褐色土　　粘性やや弱。しまり弱。炭粒子多量に含む。砂分多量に含む。
10. 10YR6/1　褐灰色土　粘性弱。しまり弱。サラサラ土。砂分多量に含み、炭粒子ブロック状に含む。黄色土ブロック状に含む。
11. 2.5Y3/2　黒褐色土　粘性弱。しまり弱。パサパサした土。炭粒子ブロック状に含む。黄色土分体に多量に含む。
12. 2.5Y4/1　黄灰色土　粘性弱。しまり弱。しめりけのある砂質土。炭粒子ブロック状に含む。黄色土多量に含む。砂分全体に含む。

P11-12

1. 10YR2/3　黒褐色土　粘性弱。しまりやや強。シルト質埋土。黄褐色の土少量含む。黒色炭化物やや多く含む。
2. 10YR3/3　暗褐色土　粘性弱。しまりやゝ。シルト質埋土。黄褐色の土微量含む。黒色炭化物の粒ごく微量含む。
3. 10YR3/2　黒褐色土　粘性弱。しまりやや強。シルト質埋土。黄褐色の土30%含む。黒色炭化物の粒微量含む。
4. 10YR3/3　暗褐色土　粘性弱。しまりゆ。シルト質埋土。浅黄褐色の土少量含む。黒色炭化物やや多く含む。
5. 10YR3/3　暗褐色土　粘性やや強。しまりゆ。シルト質埋土。黄褐色の土微30%含む。黒色炭化物の粒微量含む。
6. 10YR3/3　暗褐色土　粘性弱。しまりゆ。シルト質埋土。浅黄褐色の土微30%含む。黒色炭化物の粒ごく微量含む。
7. 10YR3/4　暗褐色土　粘性やや強。シルト質埋土。浅黄褐色の土微30%、橙色の土微20%含む。黒色炭化物の粒微量含む。
8. 10YR3/3　暗褐色土　粘性やや弱。しまりやや強。シルト質埋土。黄褐色の土20%含む。黒色炭化物の粒ごく微量含む。
9. 10YR3/3　暗褐色土　粘性弱。しまりやゝ。シルト質埋土。浅黄褐色の土10%含む。黒色炭化物の粒ごく微量含む。
10. 10YR3/3　暗褐色土　粘性弱。しまりやゝ。シルト質埋土。浅黄褐色の土30%含む。黒色炭化物の粒ごく微量含む。
11. 10YR3/3　暗褐色土　粘性弱。しまりやゝ。シルト質埋土。浅黄褐色の土20%含む。黒色炭化物の粒少量含む。
12. 10YR3/3　暗褐色土　粘性弱。しまりやゝ。シルト質埋土。黄褐色の土1%含む。黒色炭化物やや多く含む。
13. 10YR3/3　暗褐色土　粘性やや強。しまりやゝ。シルト質埋土。浅黄褐色の土少量含む。黒色炭化物の粒ごく微量含む。
14. 10YR3/2　黒褐色土　粘性やゝ。しまりゆ。シルト質埋土。黄褐色の土微量含む。黒色炭化物の粒微量含む。
15. 10YR3/2　黒褐色土　粘性弱。しまりゆ。シルト質埋土。黄褐色の土少量含む。黒色炭化物の粒少量含む。
16. 10YR3/3　暗褐色土　粘性やゝ弱。しまりゆ。シルト質埋土。黄褐色の土微30%含む。黒色炭化物の粒ごく微量含む。
17. 10YR3/3　暗褐色土　粘性やゝ弱。しまりゆ。シルト質埋土。黄褐色の土20%含む。黒色炭化物の粒ごく微量含む。
18. 10YR3/4　暗褐色土　粘性弱。しまりゆ。シルト質埋土。黄褐色の土40%含む。黒色炭化物の粒少量含む。

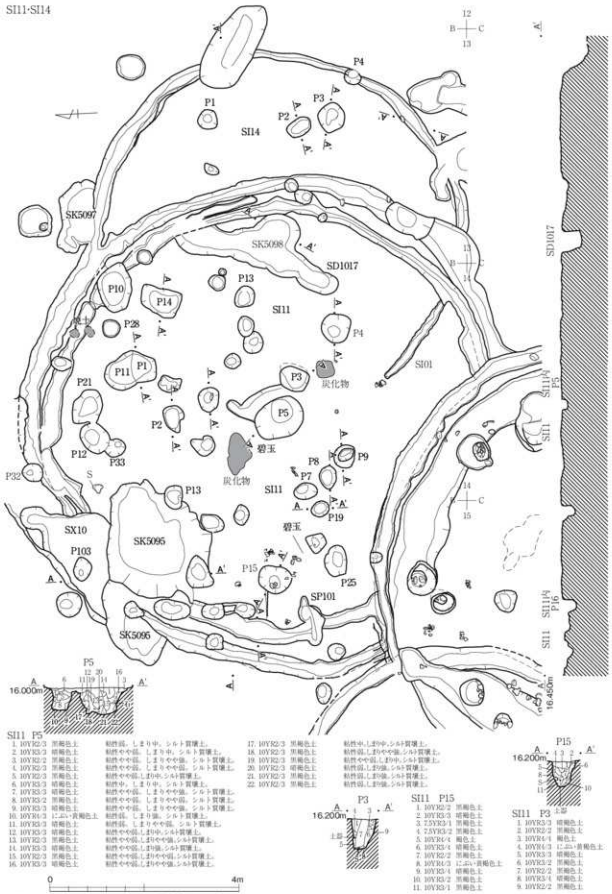
P15

1. 7.5YR3/2　黒褐色土　粘性強。しまり強。粘砂混粘質土。黄褐色ブロック微量含む。
2. 7.5YR3/1　黒褐色土　粘性強。しまり強。粘砂混粘質土。黄褐色ブロック1.2%多く含む。
3. 10YR3/2　黒褐色土　粘性強。しまり弱。粘砂混粘質土。黄褐色ブロック黄色状に含む。
4. 7.5YR3/1　黒褐色土　粘性強。しまり強。粘砂混粘質土。（キメが細かい）黄褐色ブロック少し含む。下位に鉄分沈着。黄片含む。
5. 10YR4/2　褐色土　粘性強。しまり強。粘砂混粘質土。（パサパサ感多い）黄褐色ブロック多く含む。
6. 10YR3/3　暗褐色土　粘性強。しまり強。礫（φ4cm）混粘質土。黄褐色ブロック多く含む。（5.3とではない）鉄分沈着。
7. 10YR3/2　黒褐色土　粘性強。しまり強。礫（φ12cm）混粘質土。下位に鉄分沈着。黄褐色ブロック少し含む。（2.2）
8. 10YR4/3　褐色土　粘性強。しまり弱。地山とみる。粘砂混粘質土。（砂多く含む）
9. 10YR3/4　暗褐色土　粘性強。しまり強。礫（φ5cm）混粘質土。黄褐色ブロック多く含む。（レンズ状→崩し土状）

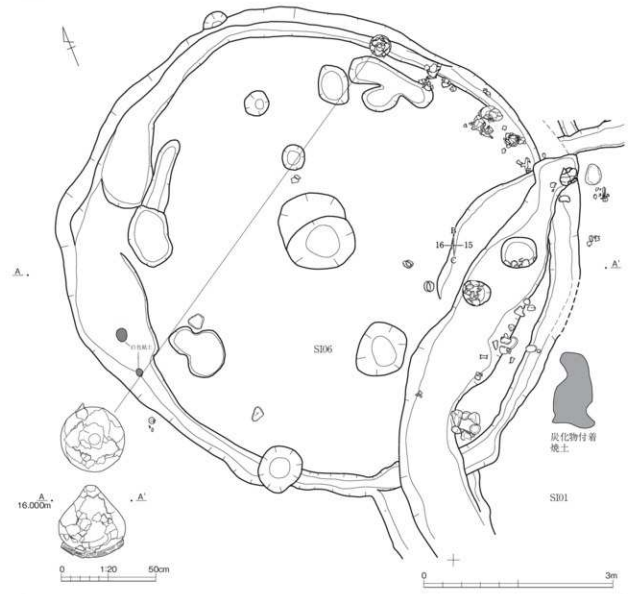
P16

1. 10YR3/2　黒褐色土　粘性やや弱。しまり弱。シルト質埋土。黄褐色の土少量含む。黒色炭化物の粒ごく微量含む。
2. 10YR3/4　暗褐色土　粘性やや弱。しまり弱。シルト質埋土。黄褐色の土1%含む。黒色炭化物の粒ごく微量含む。
3. 10YR3/3　暗褐色土　粘性弱。しまり弱。シルト質埋土。黄褐色の土微20%含む。黒色炭化物の粒ごく微量含む。
4. 10YR3/2　黒褐色土　粘性やゝ弱。しまり弱。シルト質埋土。黄褐色の土少量含む。黒色炭化物の粒ごく微量含む。
5. 10YR3/3　にぶ・黄褐色土　粘性やゝ弱。しまり弱。シルト質埋土。黄褐色の土少量含む。黒色炭化物の粒ごく微量含む。
6. 10YR4/4　褐色土　粘性弱。しまり弱。シルト質埋土。黄褐色の土2.5%含む。黒色炭化物の粒ごく微量含む。
7. 10YR4/3　にぶ・黄褐色土　粘性やゝ弱。しまり弱。シルト質埋土。黄褐色の土40%含む。
8. 10YR4/3　にぶ・黄褐色土　粘性やゝ弱。しまり弱。シルト質埋土。黄褐色の土少量含む。黒色炭化物の粒ごく微量含む。

第13図　SI01実測図（縮尺1/80）

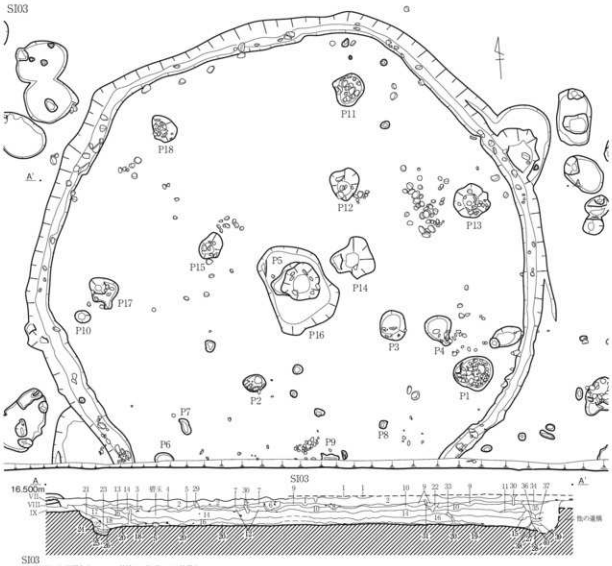


第14図　SI11・SI14実測図（縮尺1/80）



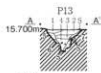
2. 10YR 2/3　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強、黄褐色土ブロック
（φ5mm）炭化物ブロック少量含む。
3. 10YR 3/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強。
4. 10YR 3/2　黒褐色土　粘性やや強、しまり強。
5. 10YR 4/1　褐色土　粘性やや強、しまり強。
6. 10YR 3/3　暗褐色土　粘性強、しまり強、粘質土。
7. 10YR 3/3　暗褐色土　粘性強、しまりやや強、黄褐色砂質土ブロックやや多く、炭化物少量含む。
8. 10YR 3/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強。
9. 10YR 3/4　暗褐色土　粘性強、しまり強。
10. 10YR 3/4　暗褐色土　粘性やや強、しまりやや強。
11. 10YR 3/4　暗褐色土　粘性強、しまりやや強。
12. 10YR 3/2　黒褐色土　粘性強、しまり強、炭化物片やや多く含む。
13. 10YR 3/4　暗褐色土　粘性やや強、しまりやや強、黄褐色ブロック状に含み、約1/2を占める。
14. 10YR 4/3　にぶい黄褐色土　粘性やや強、しまり強、キメの細かい土。
15. 10YR 4/1　褐色土　粘性強、しまりやや強。
16. 2.5Y 3/3　暗オリーブ褐色土　粘性やや強、しまりやや強。
17. 7.5YR 4/3　褐色土　粘性やや強、しまりやや強。
18. 7.5YR 4/3　褐色土　粘性やや強、しまりやや強。
19. 7.5YR 3/2　黒褐色土　粘性強、しまりやや強、やや砂っぽい。
20. 10YR 3/4　暗褐色土　粘性やや強、しまりやや強、黄褐色土ブロック多く含む。
21. 7.5YR 4/3　褐色土　粘性やや強、しまりやや強。
22. 10YR 3/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強。
23. 10YR 3/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強。
24. 10YR 3/4　暗褐色土　粘性やや強、しまり強。
25. 10YR 4/3　にぶい黄褐色土　粘性やや強、しまり強。
26. 10YR 6/6　明黄褐色土　粘性やや強、しまり強。
27. 10YR 4/3　にぶい黄褐色土　粘性強、しまりやや強。
28. 10YR 6/6　明黄褐色土　粘性強、しまり強。（ほぼ床状を呈す）
29. 10YR 5/4　にぶい黄褐色土　粘性やや強、しまり強。
30. 7.5YR 3/2　黒褐色土　粘性やや強、しまり強。
31. 7.5YR 4/3　褐色土　粘性強、しまりやや強。
32. 10YR 4/1　褐色土　粘性強、しまりやや強。
33. 7.5YR 4/3　褐色土　粘性やや強、しまり強。
34. 10YR 3/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強。
35. 10YR 2/3　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強。
36. 10YR 2/3　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強。
37. 7.5Y 2/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強。
38. 10YR3/3　暗褐色土　粘性やや強、しまりやや強。
39. 2.5Y 3/1　黒色土　粘性やや強、しまりやや強。
40. 10YR 2/2　黒褐色土　粘性強、しまり強。
41. 7.5Y 2/2　黒褐色土　粘性強、しまり強。

第15図　SI06実測図（縮尺1/60・1/20）



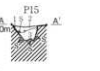
SI03

1. 7.5YR4/2 灰褐色土　粘性やや強,砂っぽい粘質土。
2. 5YR4/1 褐灰色土　粘性やや強,砂質土っぽい粘質土。
3. 5YR5/2 灰褐色土　粘性やや強,砂質土。
4. 7.5YR4/1 褐灰色土　粘性やや強,砂質土。
5. 10YR5/2 灰褐色土　粘性やや強,砂っぽい粘質土。
6. 7.5YR3/1 黒褐色土　粘性やや強,砂質土っぽい粘質土。
7. 10YR3/2 黒褐色土　粘性やや強,砂質土っぽい粘質土。
8. 10YR4/2 灰黄褐色土　粘性強,砂質土。
9. 7.5YR4/2 灰褐色土　粘性強,砂質土。
10. 10YR5/2 灰黄褐色土　粘性やや強,砂質土。
11. 7.5YR5/2 灰黄褐色土　粘性強,砂質土。
12. 10YR5/2 灰黄褐色土　粘性やや強,砂質土っぽい粘質土。
13. 5YR5/1 褐灰色土　粘性やや弱,砂質土。
14. 7.5YR6/1 褐灰色土　粘性やや弱,砂質土。
15. 7.5YR5/1 褐灰色土　粘性やや弱,砂質土。
16. 5YR6/1 褐灰色土　粘性やや弱,砂質土。
17. 10YR5/3 にぶい黄褐色土　粘性やや強,砂質土っぽい粘質土。
18. 10YR5/2 灰黄褐色土　粘性やや強,砂質土っぽい粘質土。
19. 10YR5/3 にぶい黄褐色土　粘性やや強,砂質土っぽい粘質土。
20. 7.5YR6/1 褐灰色土　粘性強,灰色の粘質土。
21. 10YR7/1 灰白色土　粘性やや強,灰色の粘質土。
22. 10YR5/2 灰黄色褐色土　粘性強,灰色の粘質土。
23. 7.5YR5/1 褐灰色土　粘性やや強,砂質土っぽい粘質土。
24. 10YR6/3 浅黄褐色土　粘性弱,黄色の砂質土。
25. 10YR6/2 灰黄褐色土　粘性やや強,砂質土っぽい粘質土。
26. 10YR6/2 灰黄褐色土　粘性やや強,砂質土っぽい粘質土。
27. 10YR6/3 にぶい黄褐色土　粘性やや弱,砂質土。
28. 10YR7/4 にぶい黄褐色土　粘性やや弱,黄色の砂質土。
29. 7.5YR4/2 灰褐色土　粘性強,砂質土っぽい粘質土。
30. 7.5YR4/2 灰褐色土
31. 10YR6/2 灰褐色土　粘性強,粘質土。
32. 10YR4/1 褐灰色土　砂質土っぽい粘質土。
33. 10YR6/1 褐灰色土　粘性やや強,砂質土。
34. 10YR5/1 褐灰色土　粘性やや強,砂質土。
35. 7.5YR5/2 灰黄褐色土　粘性やや強,砂質土。
36. 10YR5/2 灰褐色土　粘性やや強,砂質土。
37. 10YR5/2 灰褐色土　粘性やや強,砂質土。
38. 10YR4/2 灰黄褐色土　粘性やや強,砂質土。
39. 10YR3/2 黒褐色土　粘性やや強,砂質土。
40. 10YR5/3 にぶい黄褐色土　粘性やや強,砂質土。



P13

1. 10YR2/2 黒褐色土
2. 10YR2/3 黒褐色土
3. 10YR3/2 黒褐色土
4. 10YR3/2 黒褐色土
5. 10YR3/2 黒褐色土
6. 10YR2/3 黒褐色土
7. 10YR2/3 黒褐色土



P15

1. 10YR3/3 暗褐色土
2. 10YR2/3 黒褐色土
3. 10YR2/2 黒褐色土

P16

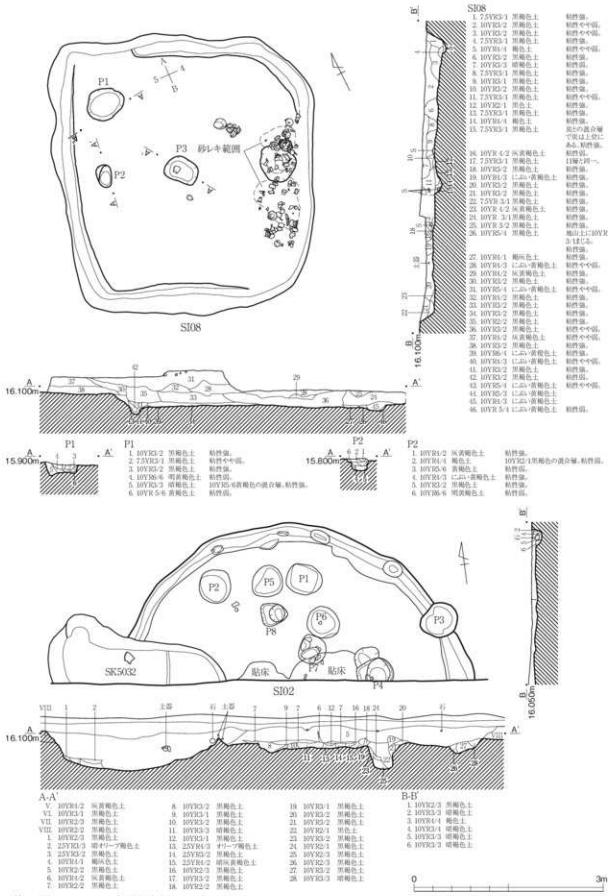
1. 10YR3/1 黒褐色土
2. 10YR3/1 黒褐色土
3. 10YR4/1 褐灰色土
4. 10YR3/1 黒褐色土
5. 2.5Y4/1 黄灰色土

P18

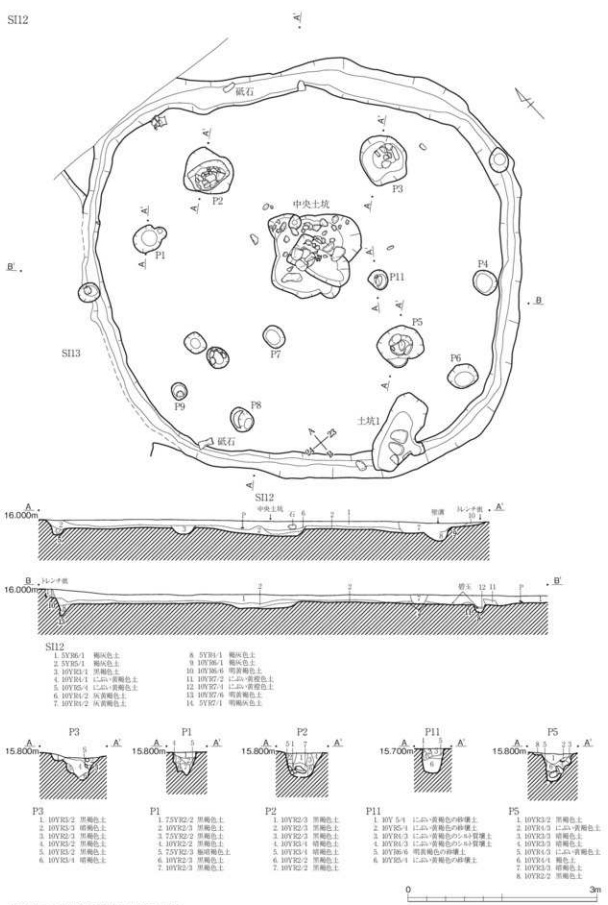
1. 10YR3/2 黒褐色土
2. 10YR2/3 黒褐色土
3. 10YR2/3 黒褐色土
4. 10YR2/2 黒褐色土

0　4m

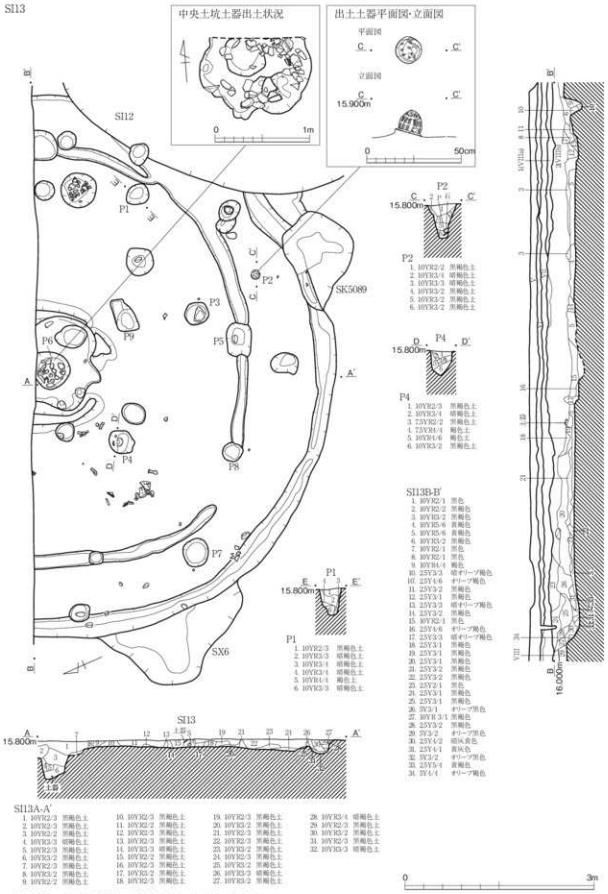
第16図　SI03実測図（縮尺1/80）



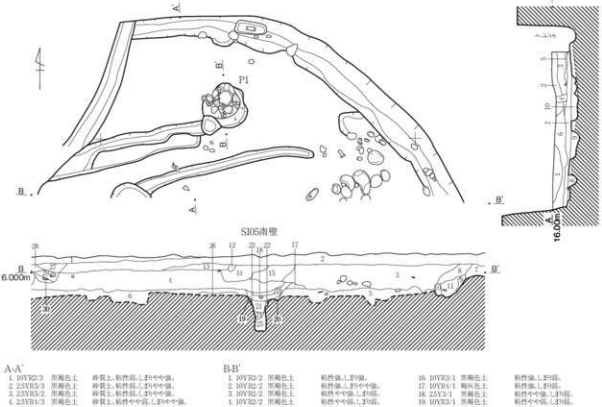
第17図 SI08・SI02実測図(縮尺1/60)



第18図　SI12実測図（縮尺1/60）



第19図　SI13実測図（縮尺1/60・1/40・1/20）



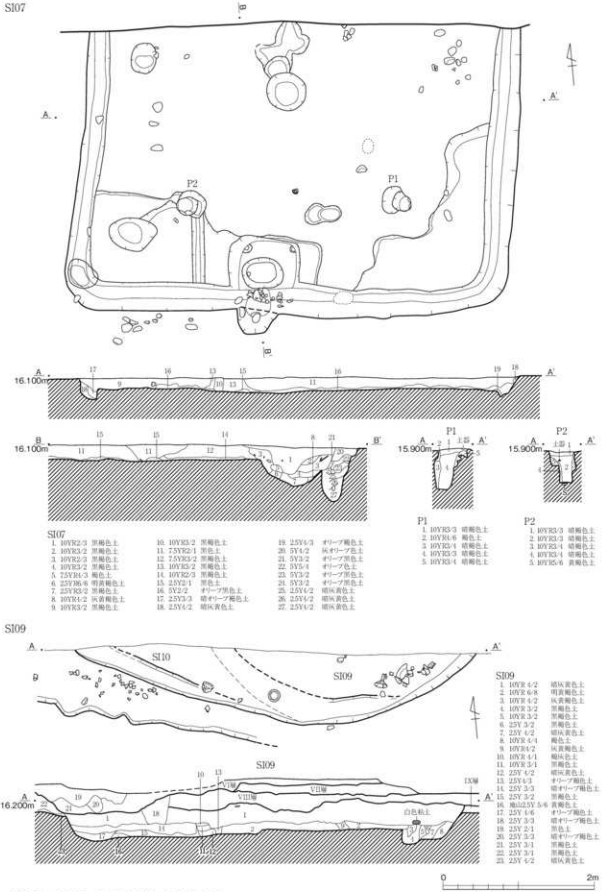
第20図　SI05実測図（縮尺1/60）

30cmに広がる。主柱穴は４本と考えられ、東側の２本は深さ60～70cmを測りかなり深いが、西側の方が確認できていない。遺物は、床面近くでの出土は多くはなく、SK5127の遺物が混ざっているため、時期は特定するには至らなかった。平面形から、古墳時代に入る可能性もある。

SI19（第24図）　Ａ・Ｂ35～37区に位置する。南側でSI20を切り、北1/3は調査区外に当たる。隅丸方形で、一辺が約6.6m、深さ約0.3mを測る。貼り床は全面に見られ、南西壁際には集石を伴う。柱は４本と考えられ、２本を検出している。うち、Ｐ２は内部に礫が詰め込まれていた。中央に二段掘りの土坑を持ち、外側は約１m四方の方形で深さ約0.15m、内側は直径約0.5mの円形で、深さ約0.35mを測る。内部に焼土が部分的にみられた。壁周溝は明瞭で、しっかりとした立ち上がりを持つ。

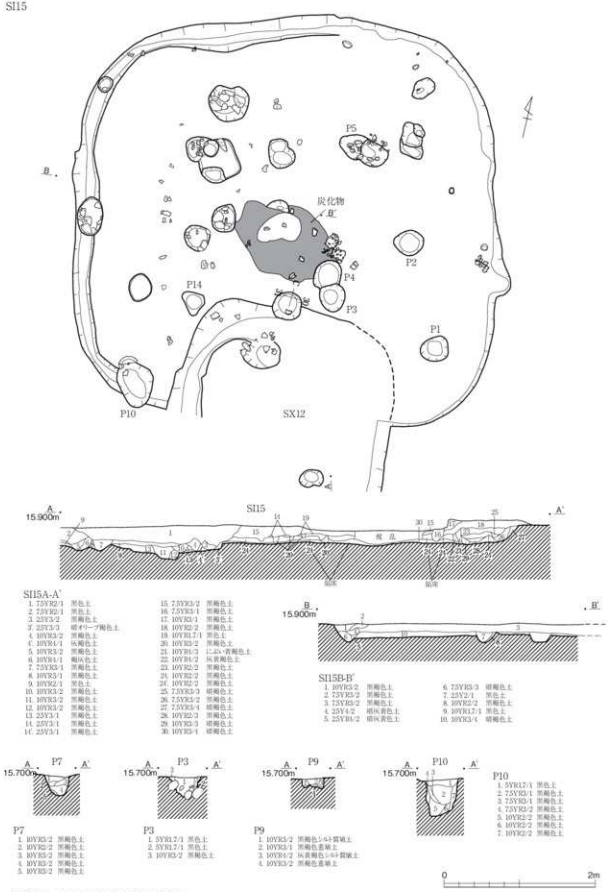
遺物は多く、床面付近では、中央土坑内とその東側に集中していた他、完形に近い甕形土器が西側で出土している。また、南東隅の床面から、石鹸箱のような脚付き（欠損）の方形容器が口を下にした状態で出土している。北東部の覆土中には、古墳時代前期の土器がまとまって出土し、その他にも同時期の土器が多く含まれていた。絶対量は弥生時代のものより圧倒的に多いが、床面と中央土坑の土器は弥生時代後期のもので、住居の時期は同時期と言えるが、廃棄後、古墳時代に土器捨て場のような場所として再利用されたと考えられる。

SI07

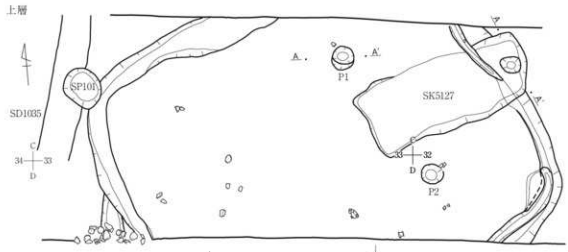


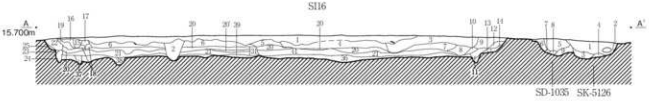
第21図 SI07・SI09実測図（縮尺1/50）

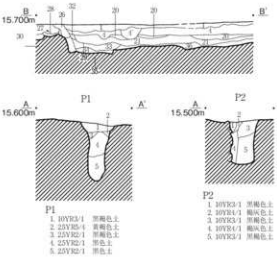
SI15



第22図　SI15実測図（縮尺1/50）







P1
1. 10YR3/4　黒褐色土
2. 2.5Y3/3-4　黄褐色土
3. 2.5Y3/2-1　黒褐色土
4. 2.5Y3/2-1　黒色土
5. 2.5Y3/2-1　黒色土

P2
1. 10YR3/1　黒褐色土
2. 10YR4/1　褐灰色土
3. 10YR3/1　黒褐色土
4. 10YR4/1　褐灰色土
5. 10YR3/1　黒褐色土

SI16
1. 10YR2/3　黒褐色土
2. 10YR2/3　黒褐色土
3. 10YR2/3　黒褐色土
4. 10YR4/2　灰黄褐色土
5. 10YR2/3　黒褐色土
6. 7.5YR2/1　黒色土
7. 10YR3/3　暗褐色土
8. 10YR3/2　黒褐色土
9. 10YR4/2　灰黄褐色土
10. 7.5YR2/1　黒色土
11. 10YR3/2　黒褐色土
12. 2.5Y2/1　黒色土
13. 2.5Y4/2　灰黄褐色土
14. 10YR3/3　暗褐色土
15. 2.5Y 3/3　暗褐色土
16. 10YR3/2　黒褐色土
17. 10YR3/3　暗褐色土
18. 10YR3/2　黒褐色土
19. 10YR3/3　暗褐色土
20. 10YR3/3　暗褐色土
20'. 10YR3/3　暗褐色土
21. 10YR3/3　暗褐色土
22. 10YR3/3　暗褐色土
23. 10YR3/1　黒褐色土
24. 10YR3/3　暗褐色土
25. 10YR3/2　黒褐色土
26. 10YR2/3　黒褐色土
27. 10YR2/2　黒褐色土
28. 10YR3/3　暗褐色土
29. 10YR3/3　暗褐色土
30. 10YR3/2　黒褐色土

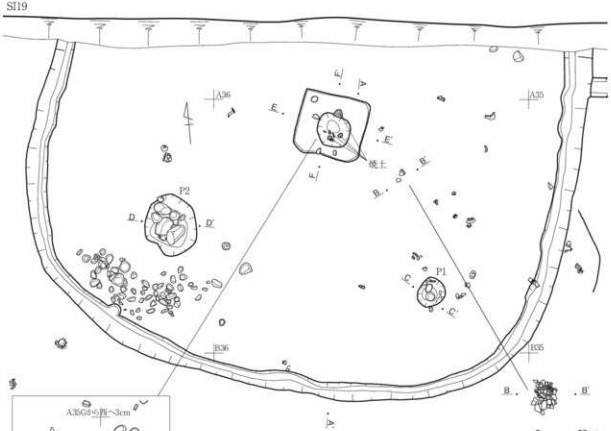
建て替え前
31. 10YR4/1　褐灰色土
32. 2.5YR6/4　にぶい黄色土
33. 2.5Y 8/6　黄色土
34. 10YR3/1　黒褐色土
35. 10YR3/1　黒褐色土
36. 2.5YR6/6　黄色土
37. 10YR3/3　黒褐色土
38. 10YR3/1　黒褐色土
39. 10YR 3/1　黒褐色土

SK5126
1. 10YR2/2　黒褐色土
2. 2.5Y3/3　暗オリーブ褐色土
3. 5YR4/1　褐灰色土
4. 2.5Y3/3　暗オリーブ褐色土

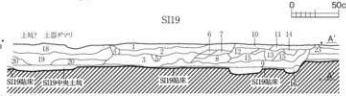
SD1035
5. 10YR2/2　黒褐色土
6. 10YR3/1　黒褐色土
7. 10YR2/2　黒褐色土
8. 10YR3/1　黒褐色土
9. 2.5Y4/1　黄灰色土

0　2m

第23図　SI16実測図（縮尺1/50）



中央土坑内土器出土状況

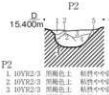


SI19

1. 25Y3/1　黒褐色土　粘性弱、しまり強、炭粒小量含み、砂粒多く含む。
2. 10YR3/2　黒褐色土　粘性やや強、しまり強、炭粒やや多く含み、黄白色粒少量含む。12Cやや鉄分多い。
3. 10YR3/3　暗褐色土　粘性やや強、しまり強、炭粒やや多く橙色粒多く含み、鉄分多い。
4. 10YR3/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強、炭白色粘土粒多く含む。
5. 10YR3/2　黒褐色土　粘性やや強、しまり強、3層よりやや明るく暗よりやや明るい、炭粒少量含む。
6. 10YR3/2　黒褐色土　粘性強、しまり強、炭粒若干含み、橙色粒がやや多い。
7. 25Y3/2　黒褐色土　粘性やや強、炭粒がやや多く、鉄分橙色粒がすこし含む。
8. 25Y3/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強、樹黄色ブロック多く含む炭粒やや多く、鉄分多く含む。
9. 25Y4/1　黄灰色土　粘性やや強、しまりやや弱、黄白色粒（5mm）やや多く含み炭分若干混入やや軟質強い。
10. 10YR2/2　黒褐色土　粘性弱、しまり強、炭多量に含む、黄白色粒もやや多い。
11. 10YR3/3　暗褐色土　粘性強、炭、黄白色粒がすこし含まれ、砂粒やや多く含む。
12. 25Y3/2　黒褐色土　粘性強、しまり強、黒色土ブロック、黄白色ブロック含む、炭粒はすこし混入。
13. 25Y3/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強、炭粒少量含み、黄白色粒やや多く含む。
14. 25Y3/2　黒褐色土　粘性やや強、しまり強、黄色土ブロック（5cm）含む　　ゃ　ゃ、黄色土粒が多い。
15. 25Y4/1　褐灰色土　粘性弱、しまり強、黄白色粒（5ボ～10mm）大玉多く含む、鉄分がやや多く混入。
16. 25Y4/1　黄灰色土　粘性やや強、しまりやや弱、黄白色粒山土ブロック多く含み砂層より白黒系統層堆積土。
17. 次
18. 25Y3/1　黒褐色土　粘性強、しまり弱、炭粒やや多く含む白粒多く含む。
19. 10YR3/1　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強、ボ～8mmの砂多く含む、黄白色粒も大粒のものが少量含まれる。
20. 25Y3/1　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強、鉄分多く含み炭粒が少量混入。

P1

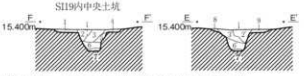
1. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや弱、ややはそはそしており、焼土粒の（黄褐色土）のごく少量含む。
2. 10YR3/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強、はそはそしたした。
3. 10YR2/3　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強、黄褐色土を少量に少量混入。
4. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや弱、炭粒微量含む。



P2

1. 10YR2/3　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強、ややはそはそしたと。
2. 10YR2/3　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強、黄褐色土粒若干やや多く含む。
3. 10YR2/3　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強、炭化物微量含む。
4. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強。

SI19内中央土坑



中央土坑

1. 10YR2/2　黒褐色シルト質粘土　粘性弱、しまり強、浜貝色の土1%、黒色炭化物微量、鉄分微量含む。
2. 10YR3/1　黒褐色シルト質粘土　粘性弱、しまり強、黄褐色の土5%、黒色炭化物微量、鉄分少量含む。
3. 10YR2/3　黒褐色シルト質粘土　粘性弱、しまり強、黄褐色の土少量、黒色炭化物の粒微量、鉄分中程度含む。
4. 10YR2/2　黒褐色シルト質粘土　粘性弱、しまり強、灰黄色の2.5%、黒色炭化物微量、鉄分微量含む。
5. 10YR2/3　暗褐色シルト質粘土　粘性弱、しまり強、黄褐色の1.1%、黒色炭化物の粒微量、鉄分微量含む。
6. 10YR3/2　黒褐色シルト質粘土　粘性弱、しまり強、黄褐色の土少量、黒色炭化物微量、鉄分少量含む。
7. 10YR4/2　にぶい黄褐色砂質土　粘性弱、しまりやや強、浜貝色の土少量、鉄分少量含む。
8. 10YR3/2　黒褐色シルト質粘土　粘性弱、しまり強、浜貝色の1.1%、黒色炭化物ごく微量、鉄分微量含む。
9. 10YR3/2　黒褐色シルト質粘土　粘性弱、しまり強、浜貝色の土微量、黒色炭化物ごく微量、鉄分少量含む。

第24図　SI19実測図（縮尺1/60・1/40）

SI20（第25図）　Ｂ・Ｃ35～37区に位置する。北側をSI19に、西側をSI21に切られる。円形で、直径は約10m、深さ約0.05mでほとんど掘り込みが見られない。壁周溝は明瞭で、貼り床は部分的に広がる。床面は下層のSI22の覆土である黒褐色土で、その上に薄く貼り床を敷いているが、全体ではなく、中央土坑を取り巻くように方形に敷かれていると止まっていた。南東部に一部焼土が見られた。中央には、周囲に土手を有する二段掘りの土坑を持つ。土手は一辺が約2.9mの方形で、その内側に二段掘りの土坑が作られ、浅いものは残存長さ約２m、幅約1.5m、深さ約0.05mで、深いものは直径約0.6mの円形で、深さは約0.4mを測る。埋土中には礫と遺物が多く入っていた。

SI22（第26・27図）　Ｂ・Ｃ35～37区に位置する。SI20の下層で検出した住居である。いびつな多角形で、ほぼ八角形になると考えられ、南東側に張り出しを持つため、柄鏡状を呈する。直径は約8.5mで、深さはSI20床面から約20cmを測る。柱は、壁際に７本認められ、基本的には角の位置に一致するよう配置されているように見えるが、微妙に平面形とのずれがある。張り出し部は、壁周溝がそのまま折れてやや開きながらSI20の壁周溝に繋がる。壁周溝と立ち上がりは明瞭で、SI19の貼り床下にもその残存が認められた。貼り床は全面に広がり、張り出し部にも敷かれていた。中央土坑は、この段階で作られたものか判断することはできなかった。

遺物は、床面近くからのものは少なく、覆土中のものが大半である。玉作関連遺物は、中央土坑南側にやや集中して見られたものの、絶対量は多くはない。

なお、北側のSI19床面下で、約0.9m×0.6m、深さ約0.4mの楕円形土坑が検出され、完形の撥形打製石斧２点が埋納されたように納められていた。遺物はこれのみで時期は不明だが、おそらく縄文時代のものと考えられる。

（２）平地住居

SI21（第28図）　Ａ・Ｂ37・38区に位置する。北東角はSI19に切られ、SI22を切っていた。幅１m前後で深さ0.2m前後の溝が巡る方形の住居で、一辺は約6.4mを測る。柱は４本で、四隅の溝内に配置されている。床面に貼り床は見られず、遺物も周囲の溝に入っている以外はまばらである。

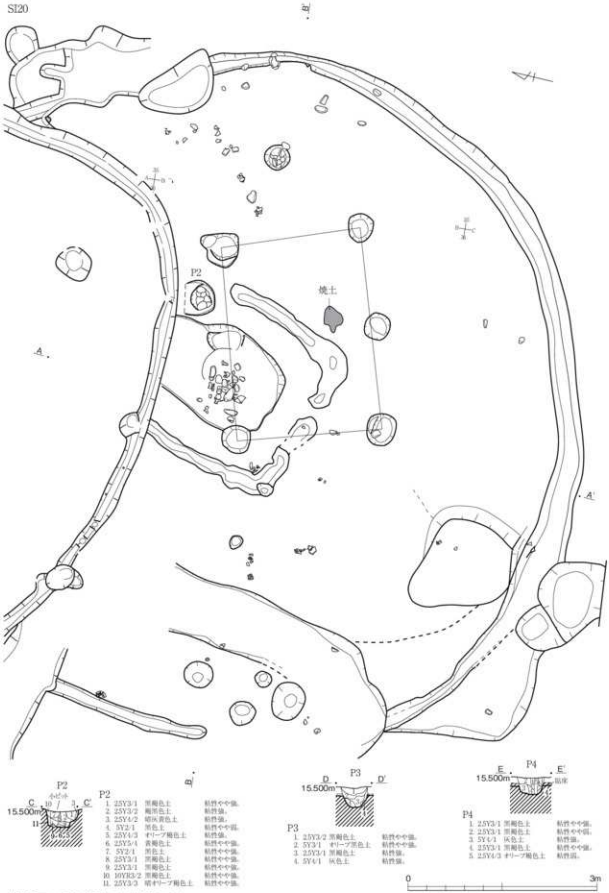
SI23（第29・30図）　Ａ33・34区に位置する。北側半分は調査区外に当たる。円形で、中心部の直径は約９mを測る。幅約0.2mの溝で囲まれ、貼り床がまばらに見られるが、立ち上がりはなく、平地住居と捉えたが、溝の規模から考えると、包含層中に立ち上がりがある可能性も拭いきれない。また、その外側を溝状土坑が断続的の巡り、その外側での直径は約17mを測る。SD1041、1047、SK5145、5159、5144がこれに当たり、SD1040もその一部である可能性もある。土坑列内側から中心部までは約2.5mの間隔を持つ。遺物は、弥生時代後期の土器が大半で、中心部より多く出土する。深さは必ずしも一定しないが、0.2～0.3mを測り、形状は不整形な溝状を呈する。断面は浅皿状で、埋土は自然堆積である。

この上面の包含層中から、古墳時代前期の多量の遺物がまとまって出土しており、住居の廃絶後に捨てられたものと考えられる。規模は異なるが、SI19の覆土と状況が似る。

（３）掘立柱建物

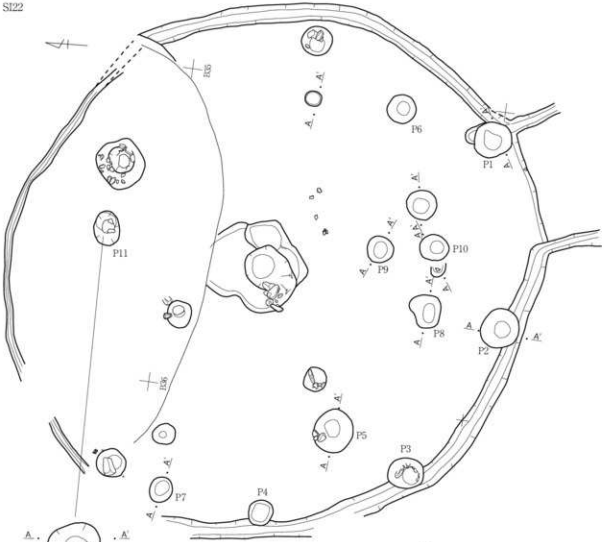
SB101（第31図）　Ｂ・Ｃ13・14区に位置し、SI01とSI11の壁周溝を切っている。布掘建物で桁行約4.5m、梁行約2.7m、方位Ｎ26°Ｅを測る。柱跡は必ずしも明瞭ではないが、底部に若干の窪みが両端と中間に見られ、桁行は２間であったとみられ、柱の深さは約0.6mである。遺物は、埋土から弥生時代後期の土器が僅かに出土しているが、必ずしも時期を示しているとは限らない。

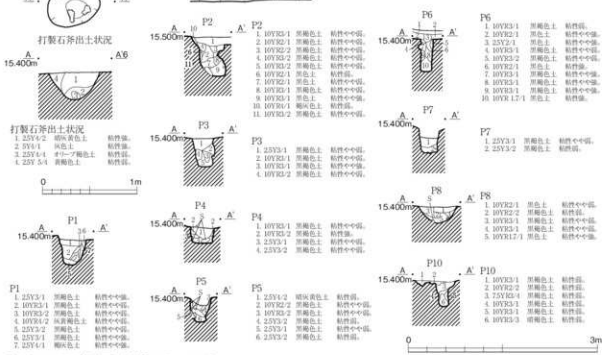
SB102（第31図）　Ａ・Ｂ17・18区に位置する。SD1007とSK5074を切る。布掘建物で桁行約5.4m、梁



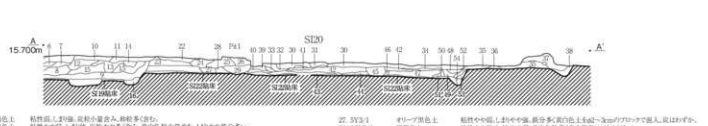
第25図　SI20実測図（縮尺1/60）

SI22

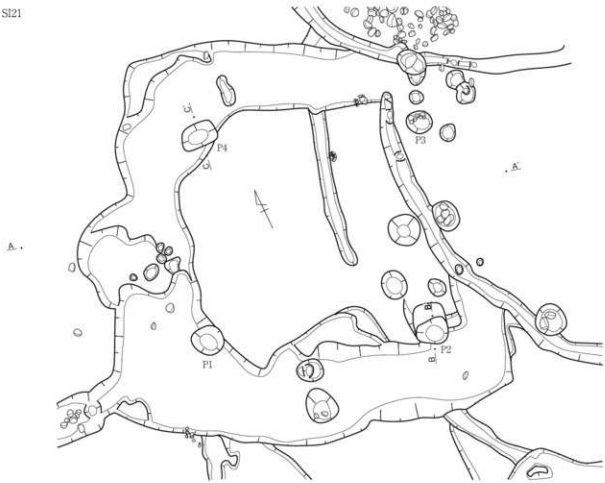




第26図　SI22実測図（縮尺1/60・1/40）


A
15.700m
SI20
A'
SD08溝
SD09溝
SD10溝
SD11溝
SD12溝
SD13溝
SD14溝
SD15溝
SD16溝
SD17溝
SD18溝
SD19溝
SD20溝
SD21溝
SD22溝
SD23溝
SD24溝
SD25溝
SD26溝
SD27溝
SD28溝
SD29溝
SD30溝
SD31溝
SD32溝
SD33溝
SD34溝
SD35溝
SD36溝
SD37溝
SD38溝
SD39溝
SD40溝
SD41溝
SD42溝
SD43溝
SD44溝
SD45溝
SD46溝
SD47溝

SI21



SI21

1.	2.5Y2/1	黒色土	粘性弱。
2.	2.5Y2/1	黒色土	粘性やや弱。
3.	2.5Y3/1	黒褐色土	粘性やや強。
4.	2.5Y4/6	オリーブ褐色土	粘性弱。
5.	2.5Y3/1	黒褐色土	粘性やや強。
6.	2.5Y4/6	オリーブ褐色土	粘性やや強。
7.	2.5Y3/2	黒褐色土	粘性やや強。
8.	2.5Y3/2	黒褐色土	粘性やや強。
9.	2.5Y4/3	オリーブ褐色土	粘性強。
10.	2.5Y3/2	黒褐色土	粘性強。
11.	2.5Y4/2	暗灰黄色土	粘性強。
12.	2.5Y3/1	黒褐色土	粘性やや強。
13.	2.5Y3/1	黒褐色土	粘性強。
14.	10YR3/1	黒褐色土	粘性やや強。
15.	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色土	粘性弱。
16.	2.5Y3/2	黒褐色土	粘性強。
17.	2.5Y3/2	黒褐色土	粘性やや強。
18.	10YR3/1	黒褐色土	粘性やや強。
19.	2.5Y3/2	黒褐色土	粘性やや強。
20.	2.5Y6/6	明黄色土	粘性やや強。
21.	10YR4/4	褐灰色土	粘性やや強。
22.	10YR3/1	黒褐色土	粘性強。
23.	10YR3/2	黒褐色土	粘性やや強。
24.	2.5Y3/1	黒褐色土	粘性やや強。
25.	2.5Y3/1	黒褐色土	粘性強。
26.	10YR2/2	黒褐色土	粘性強。
27.	10YR6/4	にぶい黄橙色土	粘性強。
28.	10YR2/1	黒褐色土	粘性やや強。

P2

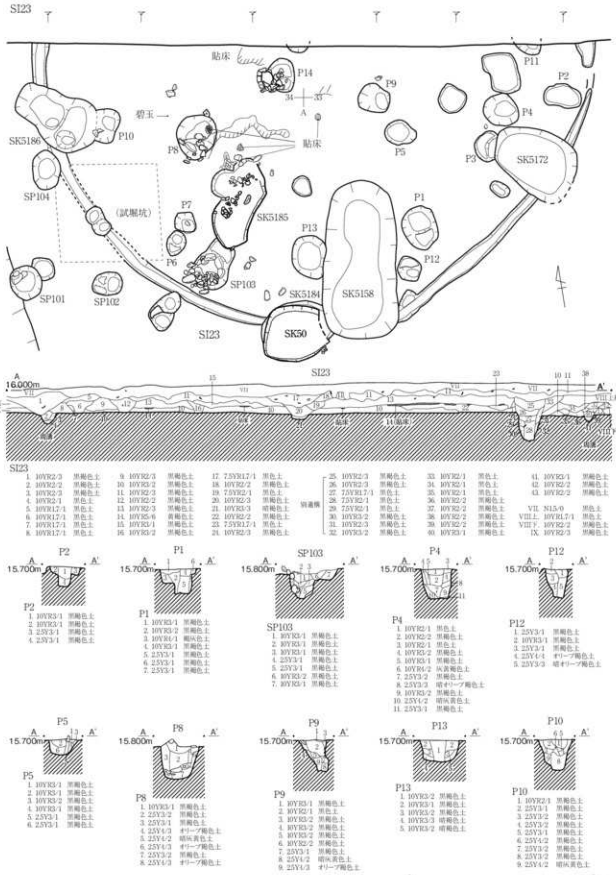
1.	10YR3/1	黒褐色土	粘性やや強。しまりなし。 パサつく感じの土。鉄分化物に少量混入。
2.	10YR3/2	黒褐色土	粘性強。しまりやや強。 粘性が強い土。黄褐色土微点的に含む。 鉄分多量に含む。
3.	10YR3/1	黒褐色土	粘性強。しまりやや強。 薄く黄褐色土と黄褐色土とみぢに含む。
4.	10YR2/1	黒色土	粘性やや強。しまり強。 下部に黄褐色土含む。暗い色調の土。
5.	10YR3/1	黒褐色土	粘性やや強。しまり弱。 黄褐色土微点的に土 塊に含む。

P4

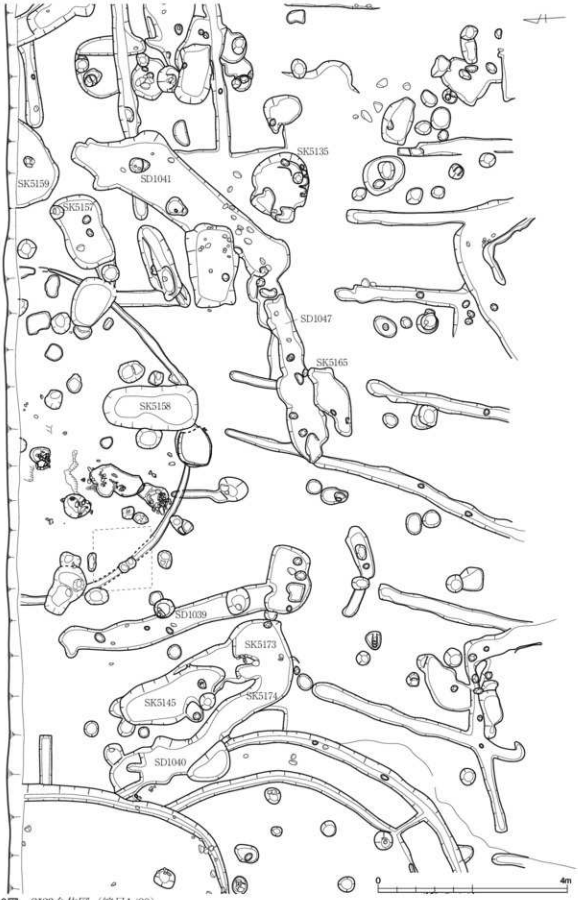
1.	10YR3/2	黒褐色土	粘性やや強。しまりやや強。 黄褐色土粒状に含む。鉄分多量含む。
2.	10YR3/1	黒褐色土	粘性やや強。しまりやや強。 ややパサつく感じの土。暗い色調の土。
3.	10YR3/1	黒褐色土	粘性やや強。しまりやや弱。ぶ粒状土。
4.	10YR3/2	黒褐色土	粘性やや強。しまりやや強。黄褐色土 しみぢに少量に含む。鉄分多量含む。
5.	10YR3/1	黒褐色土	粘性弱。しまり弱。パサパサした土。 鉄分化物含む。黄褐色土少量含む。
6.	10YR3/1	黒褐色土	粘性やや強。しまり弱。黄褐色土しみぢに含む。

0 3m

第28図 SI21実測図（縮尺1/60）



第29図　SI23実測図（縮尺1/60）



第30図　SI23全体図（縮尺1/80）

行約3.6m、方位Ｎ45°Ｗを測る。桁行２間で、柱の深さは約0.6mである。遺物は僅かに弥生時代後期土器が出土している。

SB103（第32図）　Ｃ・Ｄ24区に位置し、南は調査区外となる。確認できたのは２間×１間で、桁行約4.5m、梁行約2.6m、方位Ｎ32°Ｗ、柱穴の深さは約0.5mを測る。他に検出している掘立柱建物から考えて、２間以上にはならない可能性が高く、検出できていない柱は１基のみと考えられる。遺物は、弥生時代後期土器片が僅かに出土している。

SB104（第32図）　Ｃ・Ｄ25･26に位置し、南は調査区外に掛かる。２間×１間と考えられ、桁行約3.8m、梁行約2.9m、方位Ｎ15°Ｗ、柱穴の深さ約0.5mを測る。２間の内、北側の柱間は約2.1mあるのに対し、南側は約1.75mとやや狭い。南西側の柱穴は狭く、上端で約0.35m、下端で約0.25mを測り、柱の太さは同程度であった可能性が高い。遺物は弥生時代後期土器片が少量のみである。

SB105（第33図）　Ｃ33・34区に位置する。SI16に南東部を切られ、１基柱穴が見られない。２間×１間で、桁行約6.3m、梁行約3.7m、方位Ｎ88°Ｅを測る。柱の深さは約0.5mで、遺物はほとんど出土していない。

SB106（第33図）　Ｂ・Ｃ34・35区に位置する。１間×１間で、桁行約３m、梁行約2.4m、方位Ｎ４°Ｗを測る。柱の深さ約0.5mで、遺物はほとんど出土していない。SB-103とほぼ同一方向を示し、ほぼ同時期と考えられる。

SB107（第34図）　Ｂ・Ｃ40区に位置する。１間×１間で、桁行約3.２m、梁行約3.1mのほぼ方形で、方位はＮ33°Ｗを測る。柱穴の直径は0.5m前後で、深さは0.55mである。遺物はほとんど出土していない。

SB108（第34図）　Ｂ40区に位置し、SB105の北に近接する。２間×１間で、桁行約3.8m、梁行約3.8m、方位はＮ２°Ｅを測り、ほぼ方形である。柱穴径は0.4m前後で、深さは0.6m前後である。遺物はほとんど出土していない。

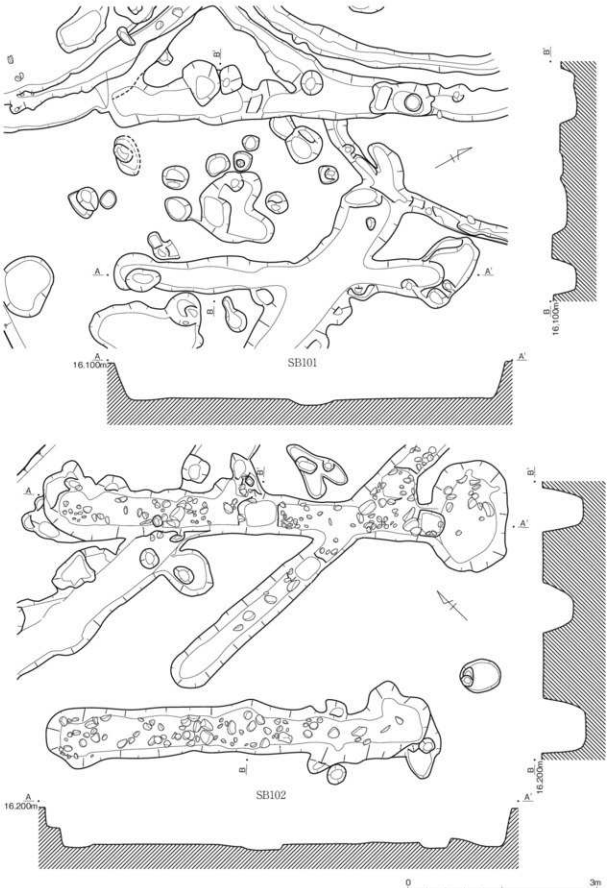
SB109（第35図）　Ａ40・41区に位置し、SB106の北側に近接する。１間×１間で、桁行約3.9m、梁行約2.8m、方位Ｎ81°Ｗを測る。柱穴径は0.4～0.5mで、深さ0.5m前後である。北側の桁行が僅かに狭い。遺物はほとんど出土していない。

SB110（第35図）　Ａ40・41区に位置し、SB107の北側に近接し、北側は調査区外に当たる。周辺の状況から１間×１間の可能性が高く、桁行約3.4m、梁行約３m、方位Ｎ28°Ｅを測る。柱穴径は0.5m前後、深さ0.5m前後である。遺物はほとんど出土していない。

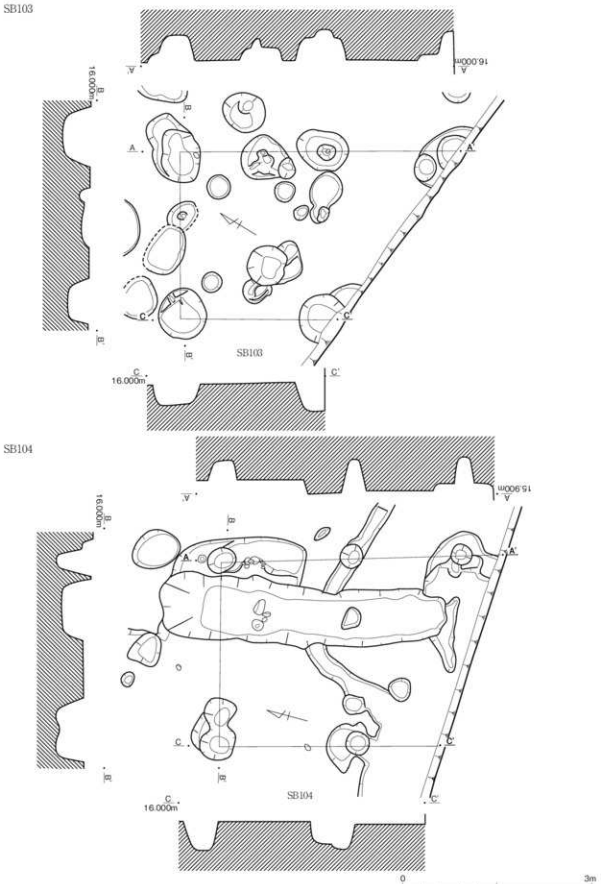
SB111（第36図）　Ｂ42・43区に位置する。棟支え柱を持つ１間×１間の建物。桁行約2.5m、梁行1.8～1.9m、方位Ｎ75°Ｅを測る。主柱穴径は0.3～0.4m、深さ0.6m前後で、棟支え柱径は0.25～0.3m、深さ0.3～0.45mである。遺物はほとんど出土していない。

SB112（第36図）　Ａ・Ｂ34区に位置し、SI23を切る形で西側に位置する。１間×１間で、桁行約3.5m、梁行約2.2m、方位Ｎ87°Ｗを測り、SB103・104とほぼ同一方向となる。柱穴径は0.7m前後で、深さは0.6m前後である。北東のものは、柱周囲を囲むように礫が配置されていた。

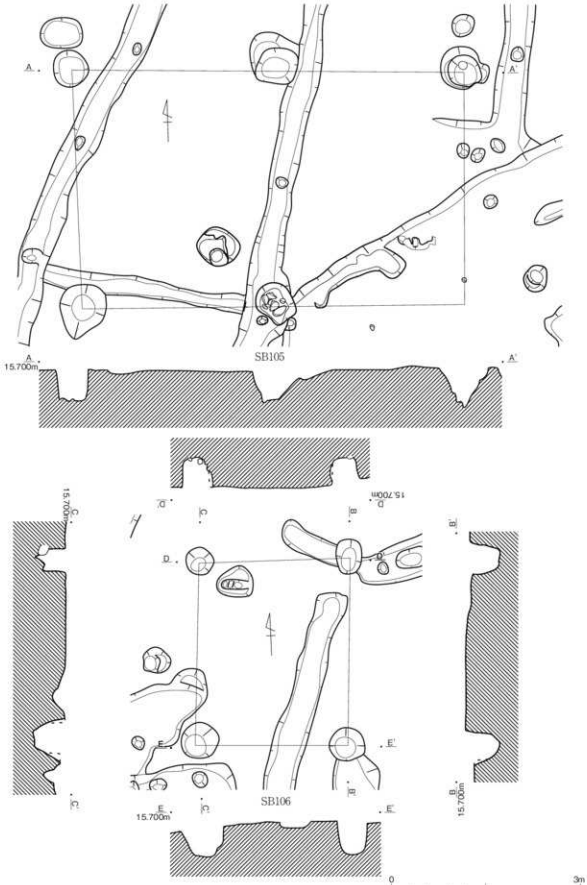
SB113（第37図）　Ｂ36区に位置し、SI20中央やや南側でこれを切る形構築されていた。２間×１間で、桁行約3.2m、梁行約2.3m、方位Ｎ78°Ｅを測る。柱穴径は約0.4mで、深さはSI20の床面からは約0.2mだが、覆土上層から測ると約0.45mとなる。SI20の検出中に初めて確認できているので、伴う遺物は明瞭ではない。



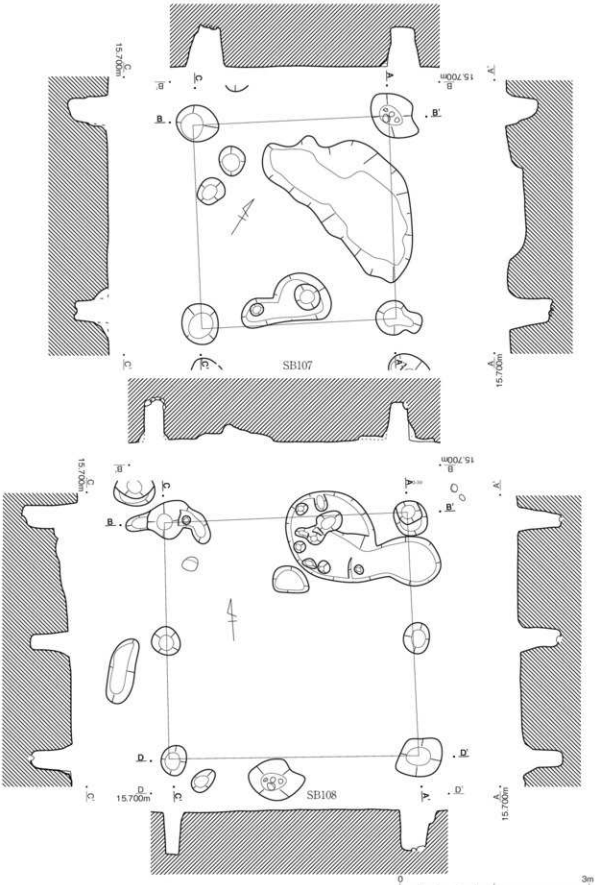
第31図　SB101・SB102実測図（縮尺1/60）



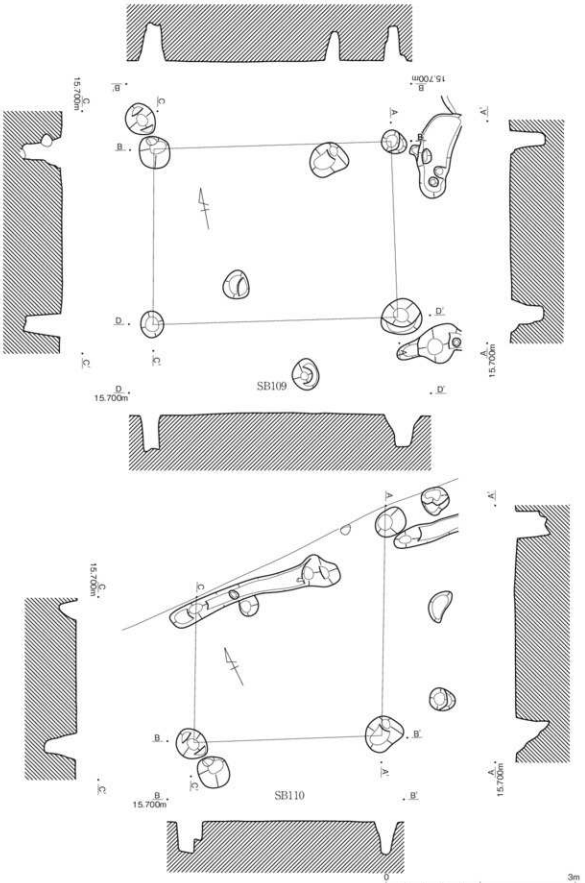
第32図　SB103・SB104実測図（縮尺1/60）



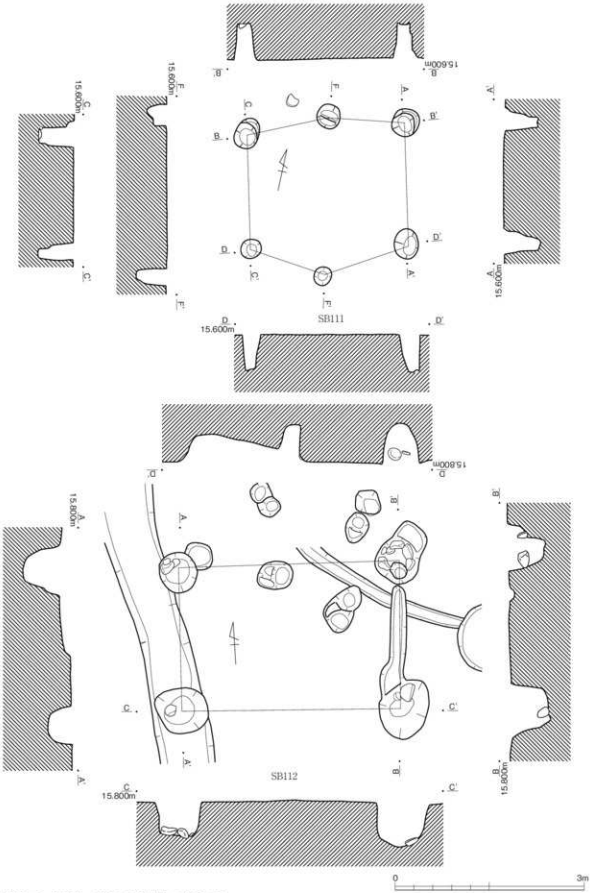
第33図 SB105・SB106実測図（縮尺1/60）



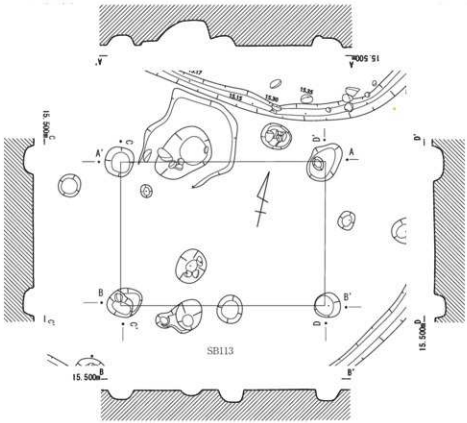
第34図　SB107・SB108実測図（縮尺1/60）

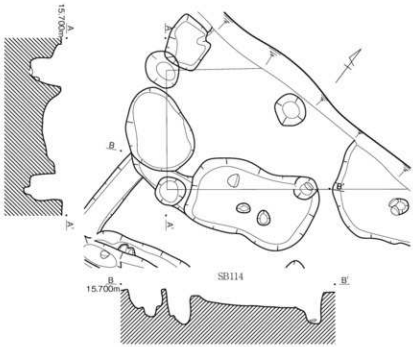


第35図　SB109・SB110実測図（縮尺1/60）

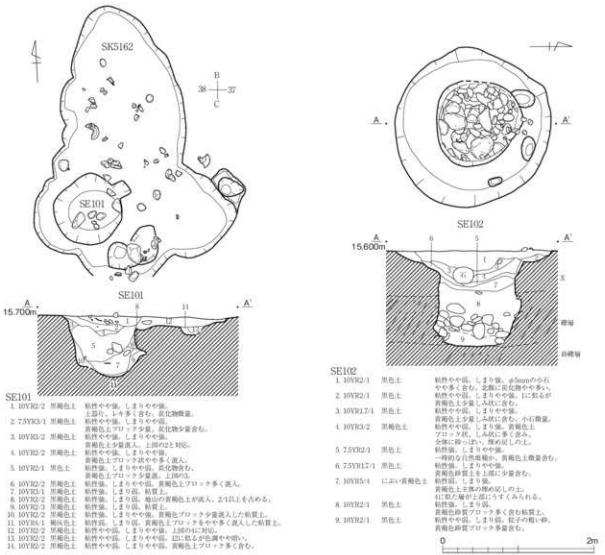


第36図　SB111・SB112実測図（縮尺1/60）





第37図　SB113・SB114実測図（縮尺1/60）



第38図　SE101・SE102実測図（縮尺1/50）

SB114（第37図）　A32・33区に位置する。北側は調査区外に延びると考えられる。梁行は約1.9m で、桁行の柱間は約2.1m、方位はN55°Eを測る。柱穴径は0.5m前後、深さは0.5m前後である。SK5157を切る。遺物はほとんど出土していない。

SB115（第56図）　A・B31・32区に位置する。１間×１間で、桁行約2.55m、梁行約1.75m、方位N7°Wを測る。柱穴径は約4.5～4.8m で、深さは約0.55m を測る。周辺はSD1010とSD1022に挟まれた土坑集中区で、SK5171とSK5132を切っているが、SK5133やSK5134などの土坑と関連がある可能性はあるが、明確ではない。

（4）井戸

SE101（第35図）　C38区に位置し、SK5162を切る形で南西隅にある。円形で、直径は約0.9m、深さ約0.8m を測り、底部は礫層を掘り込んでいる。礫が埋土上層からやや多く出土した。遺物は弥生時代後期末の土器が中心で、高坏の割合がやや多い。枠の痕跡は認められず、単純な素掘り井戸と考えられる。埋土は、レンズ状自然堆積で大半が黒褐色土であったが、他の遺構に比べ粘性が強い傾向が窺えた。

SE102（第35図）　C40区に位置する。円形の二段掘りで、上部径は約２m、下部径は約１mでやや

北に中心が偏る。深さは約1.25mで、礫層を0.6m掘り抜き砂礫層の上面まで達して止まっている。底には礫が詰め込まれていたが、枠に当たるものはなく、単純な素掘り井戸である。埋土は、下層は地山黄褐色土と黒色土の混在土で、明らかに埋め戻しているものの、上層はレンズ状自然堆積であることから、下部堀方のみを埋め戻したものと考えられる。遺物は少ないが、弥生時代後期の把手付き壺が１点出土している。

両者とも、井戸としてはかなり浅いが、周辺の水位は近くに上水用井戸が掘られるまでかなり高く、湧水も多くみられたとのことで、礫層下の砂礫層まで達すれば水が得られたと考えられる。

（５）土坑

SK5032（第39図）　D19区に位置し、東側はSI05を切っている。南は調査区外で楕円形と推定されるが全容は不明である。確認長は約2.8mで、深さは約0.4m、方位はN71°Wを測る。遺物は古墳時代前期の土器が埋土中から多く出土した。

SK5071（第39図）　A・B22区に位置する。長方形で、約4.2m×0.9m、深さ約0.2m、方位N６°Wを測る。断面は浅皿状を呈する。南半部に多量の古墳時代前期の土器が集積していた。墓壙の可能性が高い。

SK5095（第39図）　A15区に位置し、東側でSI11を、北側でSX10を切っている構築されている。不整形な円形が２基重なり、東をA、西をBとした。Aは、約2.5×２m、深さ約0.25m、方位N87°Eを測る。底部は東に向かって徐々に傾斜しており、東端の下層とBの西部から、古墳時代前期の土器がまとまって出土した。しかし、玉作関連遺物はほとんど出土していない。

SK5044（第40図）　A・B9・10区に位置する。不整な円形を並べた形状で、約２m×0.8～１m、深さ約0.7m、方位N35°Eを測る。上層に弥生時代後期の土器が多量に含まれ、白色粘土ブロックも１塊出土した。断面は上層でやや箱形を呈し、下層の一部が深くなる。

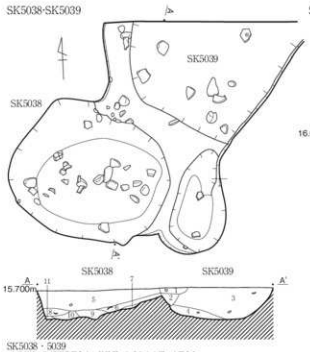
SK5100･5101（第40図）　B・C10区に位置する。隅丸長方形の土坑が２基並んで検出された。SK5100は、約1.25m×0.6m、深さ約0.2m、方位N37°W、SK5101は、約2.35m×0.8m、深さ約0.5m、方位N37°Wを測る。断面は、前者が浅皿状、後者がV字状で、前者には多量の弥生時代後期の土器が集積していた。一方、後者からはほとんど遺物は出土していない。２基で１組と捉え、副葬品の埋納と埋葬が考えられたが、土器は使用された甕や壺が主で、祭祀的な色が薄い感が拭えない。

SK5087（第32図）　B12区に位置する。不整形で、約2.5m×1.7m、深さ0.4m、方位N48°Eを測る。断面は浅皿状を呈す。上層やや南で、弥生時代後期土器がほぼ完形の甕形土器１点も含めまとまって出土した。

SK5074（第40図）　A16・B16・17区に位置する。SB102に北西側を一部切られる。小判形で、約1.8×1.26m、深さ0.46m、方位N47°Eを測る。断面は箱形に近く、立ち上がりは直線的である。自然堆積で、下層から弥生時代後期の遺物が多く出土した。

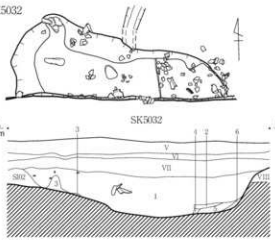
SK5075（第40図）　C17区に位置する。楕円形で、約2.6×1.15m、深さ約4.8m、方位N22°Wを測る。断面は、箱形に近いしっかりとした立ち上がりを持つが、南側は段上になる。自然堆積の上層に弥生時代後期土器や礫が多く含まれていた。

SK5084･5085･5094（第41図）　B25区に位置する。SK5084は最も北に位置し、SK5085を直交する形で切っていた。やや不整形な隅丸方形で、約2.56×1.2m、深さ約0.6m、方位N76°Eを測る。断面はU字形に近く、中層付近から礫がやや多く出土した。



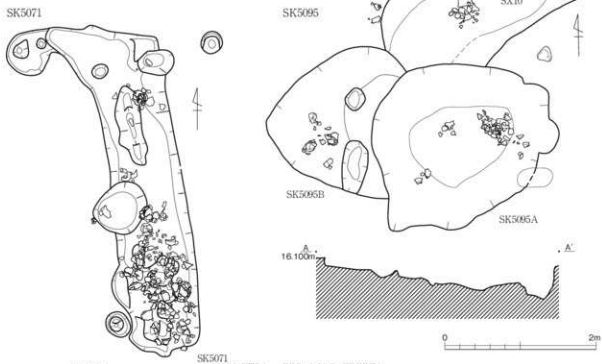
SK5038・5039

1. 2.5YR5/2	明灰黄褐色土	粘性弱、しまりやや弱、上部多く。
2. 7.5YR2/2	黒褐色土	粘性強、しまりやや強、N側に黄色土含む。鉄分ブロック状に少量含む。
3. 10YR2/3	黒褐色土	粘性弱、しまり強、鉄分粘状に多量含む。
4. 10YR4/2	灰黄褐色土	粘性やや強、しまりやや強、中央に鉄分多量含む。下部に黄色土含む。
5. 10YR3/1	黒褐色土	粘性やや強、しまりやや強、上部含む。鉄分粘状に多量含む。
6. 10YR2/2	黒褐色土	粘性やや強、しまりやや強、上部含む。
7. 10YR4/3	褐～黄褐色土	粘性やや強、しまりやや強、黄色土多量含む。鉄分少量含む。
8. 10YR5/2	灰黄褐色土	粘性強、しまり強、上部含む。鉄分粘状に多量含む。
9. 10YR3/2	黒褐色土	粘性やや強、しまり強、上部５７部で薄う色調の土。
10. 2.5YR5/2	明灰黄褐色土	粘性やや弱、しまりやや強、上部に黄色土多量、炭化物粒子少量含む。
11. 2.5YR6/1	黄褐色土	粘性やや強、しまり強、明るい色調の土、鉄分多量含む。



SK5032

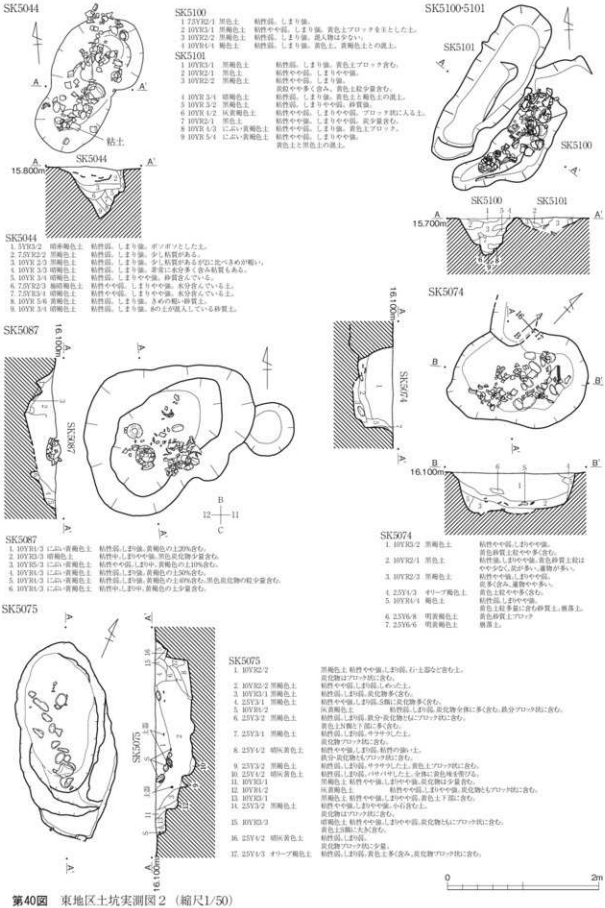
1. 10YR2/2	黒褐色土	粘性やや弱、しまりやや強。 黄褐色ブロックが少量混入。鉄分少量含む。
2. 2.5YR4/4	オリーブ褐色土	粘性弱、しまり弱、砂質。 黒褐色ブロック多く含む。鉄分少量含む。
3. 10YR5/6	黄褐色土	粘性弱、しまり弱、砂質、黒褐色ブロック1/2含む。
4. 2.5YR4/3	オリーブ褐色土	粘性弱、しまり弱、砂質、黒褐色ブロック1/2含む。 鉄分多量含む。
5. 10YR3/2	黒褐色土	粘性やや強、しまりやや強、鉄分多量含む。
6. 10YR4/3	褐～黄褐色土	粘性やや強、しまりやや強、鉄分少量含む。



SK5071

1. 10YR3/2	黒褐色土	粘性強、しまり強、礫砂混粘質土。 7部に黄褐色（10YR5/4）において黄褐色）の地山ブロック多く含む。
2. 10YR3/1	黒褐色土	粘性強、しまり強、礫砂混粘質土。 黄褐色ブロックわずかに含む。→東北方向断面のうと同一。
3. 10YR3/2	黒褐色土	粘性強、しまり強、礫砂混粘質土。
4. 10YR4/2	灰黄褐色土	粘性強、しまり強。 黄褐色ブロック（10YR5/6にぶい黄色褐色地山土）多く含む。1より多い。
5. 10YR4/6	褐色土	粘性弱、しまり弱、地山土、粘砂混粘質土。
6. 10YR5/2	灰黄褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色の混合層、粘性弱、しまり弱、礫砂混粘質土。

第39図　東地区土坑実測図１（縮尺1/50）



第40図　東地区土坑実測図２（縮尺1/50）

SK5085は、SK5084とSK5094に挟まれた位置にあり、直径約1.5mの円形と推定される。 深さは約0.3mで、断面形は浅皿状となる。遺物は少ないが、礫が少量含まれる。

SK5094はSK5085と連続して南に位置し、楕円形で、推定長は約2.2m、幅約1.4m、深さ約3.2m、方位N14° Wを測る。断面形は、浅皿状で西側がやや深くなる。中層付近から弥生時代後期土器がやや多く出土し、東壁近くに高坏の坏部が出土している。自然堆積と考えられる。

SK5079（第41図） B・C23区に位置する。北西側をSK5080に切られる。不整形な長円形で、約2.1m×1.06m、深さ約0.35m、方位N50° Wを測る。断面形はU字形で、下層に弥生時代後期土器が若干まとまって出土した。

SK5064（第41図） A11・12区に位置する。楕円形の土坑と小判形の土坑が重なっているような形状を呈するが、両者の切り合いなどを積極的に認識はできていない。楕円形のものは、約2.24m×1.2m、方位N４° Wを測る。小判形のものは、約2.28m×0.9m、深さ約0.4m、方位N67° Wを測る。中央付近の埋土上面付近から、弥生時代後期土器片が多量に出土した他、壁際に白色粘土ブロックが６ヶ所で確認された。断面は浅皿状を呈し、自然堆積と考えられるが、下層には炭化物が多く含まれる。

SK5088（第41図） C25区に位置する。北西に一段高くなり、２基が切り合うような形状を呈する。楕円形で、約1.22m×0.7m、方位N43° Wを測る。南東部でほぼ完形の甕形土器１点が潰れた状態で出土し、土器片の他、管玉未成品も少量出土している。

SK5033（第41図） C27区に位置する。西半分は現道下に入るため、調査範囲外となり、東半分を検出した。埋土中から、古墳時代前期土器片がまとまって出土した。

SK5094（第42図） A18区に位置し、SD1007を切る。楕円形で、約１m×0.7m、深さ約0.32m、方位N85° Wを測る。断面は浅皿状で、東に向かって深くなる。遺物は少ない。

SX05（第42図） A18･19区に位置する。SI19の南側に位置し、SD1007と重なる。立ち上がりは低く、深さ約0.1mで、平面形は不整形だがやや方形状を呈し、貼り床と壁周溝は認められなかった。北側床面に焼土が見られたほか、南側を中心に弥生時代後期土器片が多く出土し、甕形土器がほぼ完形に近い状態で潰れて出土している。明確な新旧関係は不明だが、SD1007が若干新しいと考えられる。

SK5036（第42図） D22区に位置する。南は調査区外で、東はSI03に切られる。円形と考えられ、直径約1.6mと推定される。断面はほとんど深さのない浅皿形で、埋土内から弥生時代後期土器片がややまとまって出土している。

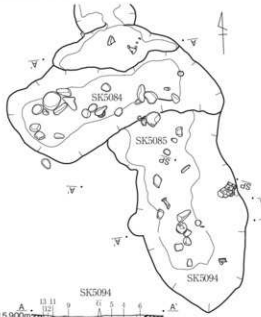
SK5119（第43図） D36区に位置する。小判形で、約1.6m×0.68m、深さ約0.25m、方位N83° Eを測る。断面は浅皿状で、底面はやや凸凹する。遺物量は少ない。

SK5125（第43図） C36区に位置する。楕円形で、約1.86m×0.78m、深さ約0.2m、方位N90° Eを測る。断面は浅皿状で、底面はやや起伏があり、埋土は埋め戻したような形跡がある。中央やや東よりに礫がやや多くまとまって出土している。

SK5134（第43図） A31・32区に位置する。SD1010とSD1022に挟まれた土坑密集地区にあり、SK5132を切る。小判形で、約1.58m×0.86m、深さ約0.48m、方位N75° Wを測る。断面は緩やかに立ち上がるU字形で、埋土は均質な黒色土で、遺物は弥生土器片が少量含まれるに過ぎない。

SK5166（第43図） A31・32区に位置し、中央付近でSD1010に切られ、南西側でSK5171に切られる。長円形で東側は溝状に僅かに落ち込む。推定長約２m、幅約1.6m、深さ0.1m、方位７° Eを測る。浅い土坑で遺物は少なく、底面は小さな起伏がある。

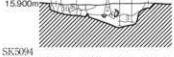
SK5084·5085·5094



SK5084

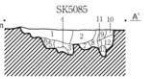
SK5084
1. 10YR2/1　黒色土　粘性強し.まりや中強.
2. 10YR2/2　黒褐色土　粘性強し.黄褐色土微量含む.
3. 10YR1/6　褐色土　粘性強し.まり弱.黄褐色土.炭褐色土.ムラ状に多く混入.
4. 10YR2/3　黒褐色土　粘性強し.まりや中弱.
5. 7.5YR3/1　黒褐色土　粘性強し.まりや中強.黄褐色土ブロック(≦5mm以下)を少量混.
6. 7.5YR3/1　黒褐色土　粘性強し.まりや中強.3.5色土の粒状.ムラ状に混入.
7. 10YR2/2　黒褐色土　粘性強し.まりや中強.固く.まっの黄褐色土ブロック(≦10.0cm)と炭化物がやや多く混入.
8. 10YR2/3　黒褐色土　粘性強し.まりや中強.粘質.
9. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや強し.まりや中強.黄褐色土がブロック状にやや多く混入.
10. 10YR3/3　暗褐色土　粘性やや強し.まりや中強.黄褐色土ブロックが多く混入.
11. 7.5YR3/1　黒褐色土　粘性強し.まりや中強.粘質土.黄褐色土が少量.ムラ状に混.
12. 10YR4/4　褐色土　粘性強し.黄褐色土が粒状に多く混入.
13. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや強し.まりや中強.黄褐色土が.ムラ状に少量混入.
14. 10YR4/6　褐色土　粘性やや強し.まりや中強.黒褐色土が粒状に多く混入.
15. 10YR2/3　黒褐色土　粘性やや弱.まりが強.地山の崩落土の混入.
16. 10YR2/3　黒褐色土　粘性やや強し.まりや中強.
炭化物多く.上部には地山の崩落土がみられる.

SK5094



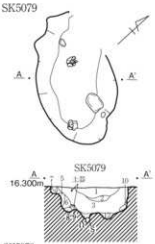
SK5094
1. 10YR2/3　黒褐色土　粘性弱.しまり強.固くしまっている土.
2. 10YR3/3　暗褐色土　粘性弱.しまり強.固くしまっている土.
3. 10YR3/2　黒褐色土　粘性強.しまり強.炭化物含む.
4. 10YR1/6　褐色土　粘性強.炭化物ごく少量含む.
5. 10YR2/3　黒褐色土　粘性強.しまり強.砂質含む土.
6. 10YR3/2　黒褐色土　粘性強.しまり強.固くしまっている砂質含む土.
7. 10YR3/2　黒褐色土　粘性強.しまり強.石類黄褐色砂質土含む.
8. 10YR2/3　黒褐色土　粘性強.しまり強.固くしまっている土.
9. 10YR1/6　褐色土　粘性強.しまり強.黄色砂質土.
10. 10YR3/2　黒褐色土　粘性強.しまり強.固くしまっている砂質含む土.
11. 10YR3/2　黒褐色土　粘性強.しまり強.黄色砂質土含む.
12. 10YR3/2　黒褐色土　粘性強.しまり強.黄色土少量混入.
13. 10YR3/2　黒褐色土　粘性強.しまり強.固くしまっている砂質土.

SK5085



SK5085
1. 10YR2/3　黒褐色土　粘性強.しまり強.土器片含む.
2. 10YR2/3　黒褐色土　粘性強.しまり強.1の上に似る.土器片はみられない.
3. 10YR3/4　暗褐色土　粘性強.しまり強.5類に3の土が混入している.
4. 10YR3/4　暗褐色土　粘性強.しまり強.3の上に似る.
5. 2.5Y3/4　黒色土　粘性強.しまり強.灰白色の土が混じる.
6. 10YR2/2　黒褐色土　粘性強.しまり強.オレンジ色の粒状含む.
7. 10YR3/4　暗褐色土　粘性強.しまり強.黄色砂質土含む.
8. 10YR3/4　暗褐色土　粘性強.しまり強.7に似るが色調明るい.
9. 10YR2/3　黒褐色土　粘性強.しまり強.3の上と同一.
10. 7.5YR3/3　暗褐色土　粘性強.しまり強.赤みを呈している.
11. 10YR3/4　暗褐色土　粘性強.しまり強.炭化物粒子ごく少量みられる.
12. 10YR4/4　褐色土　粘性強.しまり強.炭化物粒子ごく少量.色調明るい.
13. 7.5YR3/4　褐色土　粘性強.しまり強.色調明るい.

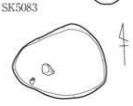
SK5079



SK5064

SK5088

SK5083

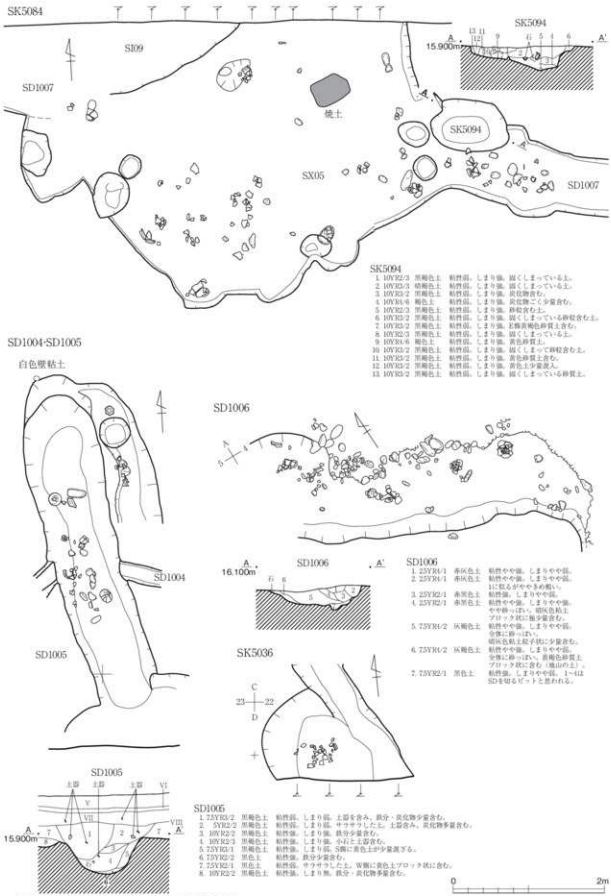


SK5079
1. 2.5Y3/2　黒褐色土　粘性やや強.しまり弱.炭化物少量ブロック状に含む.
2. 2.5Y4/1　黄灰色土　粘性やや強.しまり弱.
3. 2.5Y3/2　黒褐色土　粘性やや強.しまり弱.炭化物少量含む.
4. 2.5Y3/2　黒褐色土　粘性やや強.しまり弱.炭化物下部に多く含む.
5. 2.5Y4/3　オリーブ褐色土　粘性やや強.しまり弱.黄色土ブロック状に含む.炭化物は少量である.
6. 2.5Y4/2　暗灰黄色土　粘性やや強.しまりやや強.炭化物はごく微量含む.
7. 2.5Y3/2　黒褐色土　粘性やや強.しまり弱.炭化物下部に多く含む.
8. 2.5Y3/3　暗オリーブ褐色土　粘性弱.しまり弱.サラサラした土.黄色土が微に多く含む.
9. 10YR3/3　にぶい黄褐色土　粘性やや強.炭化物とも.ブロック状に含む.黄色土下部に含む.
10. 10YR2/3　黒褐色土　粘性やや強.しまり弱.砂分少無に多く.炭化物ブロック状に含む.
11. 10YR1/3　黒褐色土　粘性やや強.しまり強.粘性が強い.上.炭化物も多量に含む.
12. 2.5Y3/2　黒褐色土　粘性やや強.しまり弱.
黄色土を真ん中に大きく入る.炭化物少量含む.

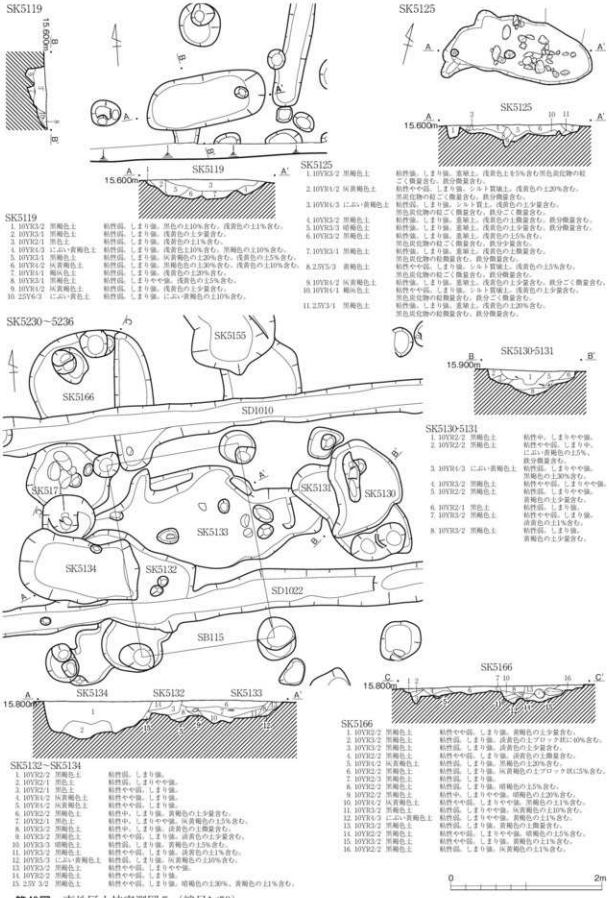
SK5033

0　2m

第41図　東地区土坑実測図３（縮尺1/50）



第42図　東地区土坑実測図４（縮尺1/50）



SK5119

1. 10YR3/2 黒褐色土　粘性弱、しまり強、黒色の土10%含む。浅黄色の土1%含む。
2. 10YR3/1 黒褐色土　粘性弱、しまり強、浅黄色の土少量含む。
3. 10YR2/1 黒色土　粘性弱、しまり強、浅黄色の土1%含む。
4. 10YR3/3 にぶい黄褐色土　粘性弱、しまり強、浅黄色土10%含む。黒褐色の土10%含む。
5. 10YR3/4 黒褐色土　粘性弱、しまり強、灰黄褐色の土20%含む。浅黄色の土5%含む。
6. 10YR5/2 灰黄褐色土　粘性弱、しまり強、黒褐色の土30%含む。浅黄色の土10%含む。
7. 10YR4/4 褐色土　粘性弱、しまり強、浅黄色の土20%含む。
8. 10YR3/1 黒褐色土　粘性弱、しまりやや強、浅黄色の土5%含む。
9. 10YR5/2 灰黄褐色土　粘性弱、しまり強、浅黄色の土少量含む。
10. 25Y6/3 にぶい黄色土　粘性弱、しまり強、にぶい黄褐色の土10%含む。

SK5125

1. 10YR3/2 黒褐色土　粘性強、しまり強、若干土、浅黄色土を5%含む黒色炭化物の粒ごく微量含む。鉄分微量含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色土　粘性やや強、しまり強、シルト質土。浅黄色の土20%含む。黒炭化物の粒ごく微量含む。鉄分微量含む。
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　粘性弱、しまり強、シルト質土。浅黄色の土少量含む。黒色炭化物の粒ごく微量含む。鉄分ごく微量含む。
4. 10YR3/2 黒褐色土　粘性強、しまり強、基質土。浅黄色の土微量含む。鉄分微量含む。
5. 10YR3/3 暗褐色土　粘性強、しまり強、基質土。浅黄色の少量含む。鉄分微量含む。
6. 10YR3/2 黒褐色土　粘性強、しまり強、基質土。浅黄色の15%含む。黒色炭化物の粒ごく微量含む。鉄分少量含む。
7. 10YR3/1 黒褐色土　粘性強、しまり強、基質土。浅黄色の土微量含む。黒色炭化物の粒ごく微量含む。鉄分微量含む。
8. 2.5Y5/3 黄褐色土　粘性やや強、しまり強、シルト質土。浅黄色の上5%含む。黒色炭化物の粒微量含む。鉄分微量含む。
9. 10YR4/2 灰黄褐色土　粘性強、しまり強、基質土。浅黄色の上少量含む。鉄分ごく微量含む。
10. 10YR4/1 褐灰色土　粘性やや強、しまり強、シルト質土。浅黄色の上少量含む。黒色炭化物の粒微量含む。鉄分ごく微量含む。
11. 2.5Y3/1 黒褐色土　粘性強、しまり強、基質土。浅黄色の上20%含む。黒色炭化物の粒微量含む。鉄分微量含む。

SK5230～5236

SK5130-5131

1. 10YR2/2 黒褐色土　粘性中、しまりやや強。
2. 10YR2/2 黒褐色土　粘性やや強、しまりや。にぶい黄褐色の上5%、鉄分微量含む。
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　粘性弱、しまりやや強。黒褐色の上30%含む。
4. 10YR3/2 黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強。
5. 10YR2/2 黒褐色土　粘性強、しまりやや強。黄褐色の上少量含む。
6. 10YR2/1 黒色土　粘性弱、しまり強。
7. 10YR3/2 黒褐色土　粘性やや強、しまり強。浅黄色の上1%含む。
8. 10YR3/2 黒褐色土　粘性弱、しまり強。黄褐色の上1%含む。

SK5132～SK5134

1. 10YR2/2 黒褐色土　粘性弱、しまり強。
2. 10YR2/1 黒色土　粘性弱、しまりやや強。
3. 10YR2/1 黒色土　粘性やや強、しまり強。
4. 10YR4/2 灰黄褐色土　粘性やや強、しまり強。
5. 10YR4/2 灰黄褐色土　粘性やや強、しまり強。
6. 10YR3/2 黒褐色土　粘性中、しまり強。黄褐色の上少量含む。
7. 10YR2/1 黒色土　粘性中、しまりやや強。灰黄褐色の15%含む。
8. 10YR3/2 黒褐色土　粘性中、しまり強。浅黄色の上微量含む。
9. 10YR3/2 黒褐色土　粘性やや強、しまり強。浅黄色の上少量含む。
10. 10YR3/3 暗褐色土　粘性弱、しまり強。黄褐色の15%含む。
11. 10YR3/2 黒褐色土　粘性やや強、しまり強。浅黄色の上1%含む。
12. 10YR5/3 にぶい黄褐色土　粘性弱、しまり強。灰黄褐色の上10%含む。
13. 10YR3/2 黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強。
14. 10YR2/2 黒褐色土　粘性弱、しまり強。
15. 2.5Y 3/2 黒褐色土　粘性やや強、しまり強。暗褐色の上30%、黄褐色の上1%含む。

SK5166

1. 10YR3/2 黒褐色土　粘性やや強、しまり強。黄褐色の上少量含む。
2. 10YR3/2 黒褐色土　粘性弱、しまり強。浅黄色の上ブロック状に30%含む。
3. 10YR3/2 黒褐色土　粘性弱、しまり強。浅黄色の上少量含む。
4. 10YR3/2 黒褐色土　粘性やや強、しまり強。浅黄色の上微量含む。
5. 10YR4/2 灰黄褐色土　粘性弱、しまり強。黒褐色の上20%含む。
6. 10YR3/2 黒褐色土　粘性弱、しまり強。灰黄褐色の上ブロック状に5%含む。
7. 10YR2/3 黒褐色土　粘性弱、しまり強。
8. 10YR3/2 黒褐色土　粘性弱、しまり強。暗褐色の上5%含む。
9. 10YR3/2 黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強。浅黄色の上20%含む。
10. 10YR4/2 灰黄褐色土　粘性やや強、しまりやや強。黒褐色の上1%含む。
11. 10YR3/2 黒褐色土　粘性弱、しまりやや強。灰黄褐色の上10%含む。
12. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　粘性弱、しまりやや強。黄褐色の上1%含む。
13. 10YR3/2 黒褐色土　粘性弱、しまり強。浅黄色の上微量含む。
14. 10YR2/2 黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強。暗褐色の上5%含む。
15. 10YR3/2 黒褐色土　粘性やや強、しまり強。黄褐色の上1%含む。
16. 10YR2/2 黒褐色土　粘性弱、しまり強。灰黄褐色の上1%含む。

第43図　東地区土坑実測図5（縮尺1/50）

SK5146（第44図）　C38・39区に位置する。北側をSK5147に切られる。不整円形で、推定長約３m、幅約2.1m、深さ約0.1m、方位Ｎ４°Ｅを測る。東側に弥生時代後期土器がややまとまって出土した。

SK5147（第44図）　C38・39区に位置する。南側でSK5146を切る。両端がやや尖る楕円形で、約2.06m×0.9m、深さ約0.2m、方位N54°Wを測る。断面は緩やかに立ち上がるＵ字状で、埋土は黒色土の自然堆積である。埋土上面の北西隅から手焙り形土器・有段口縁鉢・高坏の坏部各１点が並んで出土している。時期は弥生時代後期末に位置付けられる。

SK5126（第44図）　D33・34区に位置し、南側は調査区外になり、北東側はSD1035を切っている。楕円形と考えられ、残存長約1.35m、幅約1.12m、深さ約0.3m、方位Ｎ０°を測る。断面は浅皿状で、自然堆積した下層に高さ46cmに復元できた大型甕形土器の破片が詰まっていた。

SK5117（第44図）　C・D32区に位置する。南は一部調査区外となる。隅丸方形状で、約1.65m×0.82m、深さ約0.25m、方位N40°Eを測る。土層は単一黒色土で、下層の西壁際から弥生時代後期の甕形土器口縁と礫が出土している。

SK5157（第44図）　A32・33区に位置する。楕円形で、約2.04m×1.16m、深さ0.15m、方位N65°Eを測る。断面は浅皿状で底面はほぼ平坦である。遺物は少ない。

SK5159（第44図）　A32区に位置する。北側は調査区外で、全形は不明である。幅約2.25m、深さ約0.3mを測る。南肩部に、弥生時代後期土器片が少量散らばる。位置から、SI23の外周土坑列の１つと考えられる。

SK5151（第44図）　A32・33区に位置する。細長い小判形で、約2.06m×0.56m、深さ約0.5m、方位N75°Eを測る。底部はやや起伏があり、壁は直線的に立ち上がる。下層は埋め戻したと考えられるブロック堆積だが、上層は単一層に近い。遺物は弥生時代後期の土器片が下層中央部付近に少量まとまっていたに過ぎない。

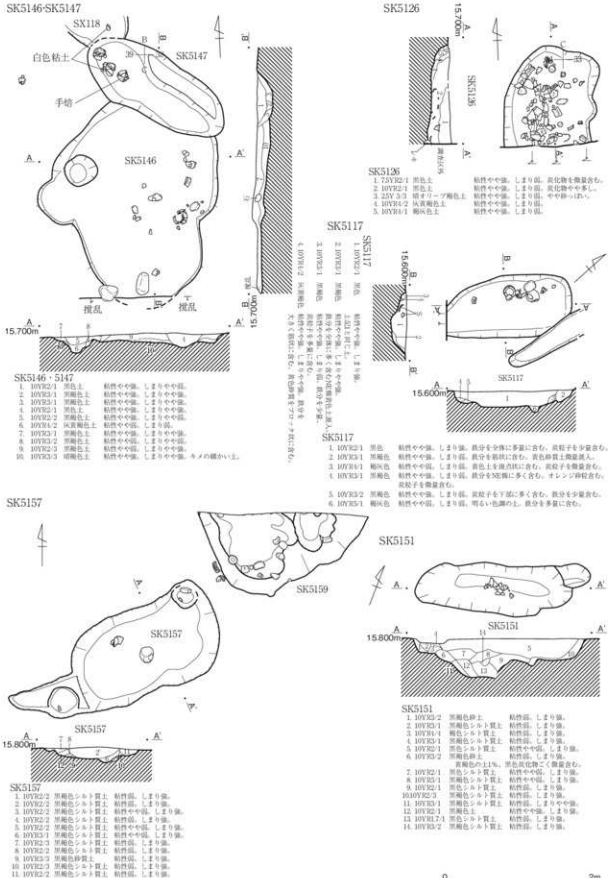
SK5155（第45図）　A31区に位置する。南北に走るやや浅い溝内に平行する形で掘り込まれていた。隅丸方形状で、約1.98m×0.74m、深さ0.4m、方位N27Wを測る。断面はＵ字状で、自然堆積をしめし、遺物は僅かに土器片が見られる程度に止まる。

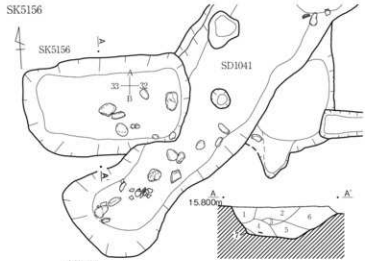
SK5156（第45図）　A・B32・33区に位置し、東側はSD1041を切る。隅丸方形で約2.22m×1.3m、深さ約0.4m、方位N88°Wを測る。断面はＵ字状で底部はほぼ平坦である。土層はブロック堆積で埋め戻した状況である。遺物は少ないが、礫が底部付近東よりに散らばっていた。

SK5145（第45図）　A・B35区に位置し、南はSK5173を切っている。楕円形で、約2.9m×1.26m、深さ約0.3m、方位N19°Wを測る。断面は浅皿状で、レンズ状自然堆積をしている。遺物は少量弥生土器片が出土しているに止まる。

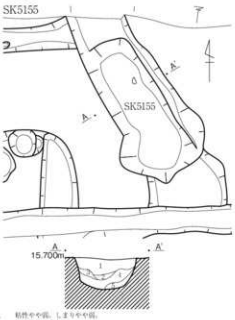
SK5167（第45図）　A37・38区に位置し、北は調査区外となり、南は小土坑SK5168を切る。楕円形と考えられ、残存長約１m、幅約1.2m、深さ約0.5m、方位Ｎ２°Ｅを測る。断面はＵ字状で、底面はほぼ平坦である。東側は埋め戻したようなブロック堆積で、西側で黒色土が大きく落ち込んだ底付近で、弥生時代後期の土器がまとまって出土している。

SK5173（第45図）　A30区に位置する。南西でSD1018に切られる。南東部はSD1019と接し、北はSD1010につながるなど、切り合いが多く形状は明確ではない。幅が1.2m前後で、深さは約0.15mだが、底面は起伏が多い。遺物は上面部から古墳時代前期の土器が多量に出土しており、北のSD1010につながる付近に１ブロック、東の肩部付近に１ブロック集中区を持つ。必ずしもSK5073に伴うものではな

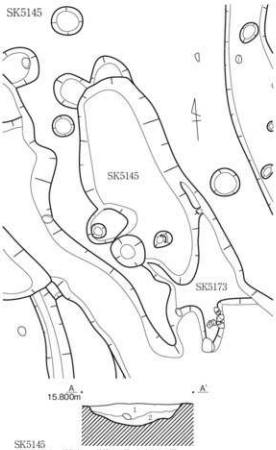

SK5146・SK5147
SX118
白色粘土
手焙
SK5147
SK5146
撹乱
撹乱
15.700m
SK5146・5147
1. 10YR2/1 黒色土 粘性やや強、しまりやや弱。
2. 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや強、しまりやや強。
3. 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや強、しまりやや強。
4. 10YR2/1 黒色土 粘性やや強、しまりやや強。
5. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや強、しまりやや強。
6. 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性やや強、しまり弱。
7. 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや強、しまりやや強。
8. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや強、しまりやや強。
9. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや強、しまりやや強。
10. 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや強、しまりやや強。キメの細かい土。
SK5126
15.700m
SK5126
1. 7.5YR2/1 黒色土 粘性やや強、しまり弱。炭化物を微量含む。
2. 10YR2/1 黒色土 粘性やや強、しまり弱。炭化物やや多し。
3. 2.5Y 3/3 暗オリーブ褐色土 粘性やや強、しまり弱。やや砂っぽい。
4. 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性やや強、しまり弱。
5. 10YR4/1 褐灰色土 粘性やや強、しまり弱。
SK5117
15.600m
SK5117
1. 10YR2/1 黒色 粘性やや強、しまり強。
2. 10YR2/1 黒色 粘性やや強、しまりやや強。
3. 10YR3/1 黒褐色 粘性やや強、しまりやや強。炭化物を多量に含む。
4. 10YR3/1 黒褐色 粘性やや強、しまりやや強。炭化物を多量に含む。
5. 10YR3/1 黒褐色 粘性やや強、しまりやや強。炭化物を多量に含む。
6. 10YR3/1 黒褐色 粘性やや強、しまりやや強。炭化物を多量に含む。
7. 10YR3/1 黒褐色 粘性やや強、しまりやや強。
8. 10YR3/1 黒褐色 粘性やや強、しまりやや強。炭化物を多量に含む。
9. 10YR3/1 黒褐色 粘性やや強、しまりやや強。炭化物を多量に含む。
10. 10YR3/1 黒褐色 粘性やや強、しまりやや強。炭化物を多量に含む。
11. 10YR3/1 黒褐色 粘性やや強、しまりやや強。炭化物を多量に含む。
12. 10YR3/1 黒褐色 粘性やや強、しまりやや強。炭化物を多量に含む。
13. 10YR3/1 黒褐色 粘性やや強、しまりやや強。炭化物を多量に含む。
14. 10YR3/1 黒褐色 粘性やや強、しまりやや強。炭化物を多量に含む。
15. 10YR3/1 黒褐色 粘性やや強、しまりやや強。炭化物を多量に含む。
16. 10YR3/1 黒褐色 粘性やや強、しまりやや強。炭化物を多量に含む。
17. 10YR3/1 黒褐色 粘性やや強、しまりやや強。炭化物を多量に含む。



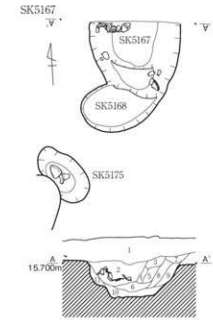
SK5156
1. 10YR3/2　黒褐色土　粘性弱、しまり強、黄褐色の土少量含む。
2. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや弱、しまり強、黒色炭化物少量含む。
3. 10YR3/2　黒褐色土　粘性やや弱、しまり強、黄褐色の土少々、黒色炭化物ごく微量、炭少微量含む。
4. 10YR3/1　黒褐色土　粘性やや弱、しまり強、黄褐色のごく微量、黒色炭化物ごく微量、炭少微量含む。
5. 10YR2/3　黒褐色土　粘性やや弱、しまり強、黄褐色の土微量、黒色炭化物少量、炭少ごく微量含む。
6. 10YR3/2　黒褐色土　粘性やや弱、しまり強、黄褐色の土1%、黒色炭化物微量、炭少ごく微量含む。
7. 10YR3/3　暗褐色土　粘性弱、しまり強、黄褐色の土少量、黒色炭化物やや多ごく微量、炭少微量含む。

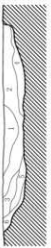


SK5155
1. 10YR1.7/1　黒色土　粘性やや弱、しまりやや弱、炭少微量に含む。
2. 10YR3/1　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや弱、粘質の強い土、黄褐色土ふみ状に含む、炭少少量含む。
3. 10YR1.7/1　黒色土　粘性やや弱、しまり弱、サラサラした土、炭少多く含む。
4. 10YR1.7/1　黒色土　粘性弱、しまり弱、湿り気がやや強い色調の土、炭少全体に多量含む。
5. 10YR2/1　黒色土　粘性強、しまり強、保水性のある土、炭化物ブロック状に含む。



SK5145
1. 10YR2/1　黒色土　粘性やや強、しまりやや弱、下層を中心に黄褐色土ブロック少量含む。
2. 10YR1.7/1　黒色土　粘性やや弱、しまり強、色調暗い。
3. 2SY2/1　黒色土　粘性弱、しまりやや強。
4. 7.5YR2/1　黒色土　粘性やや強、しまりやや強。
5. 2.5Y5/3　黄褐色土　粘性弱、しまりやや弱、黒色土ふみ状に多く含む。
6. 2.5Y5/3　黄褐色土　粘性弱、しまりやや弱、5に粘土がより黒色土少なく。





SK5167
1. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや強、しまり強、粘性の高い土を粘状に含み、宿舎に土器を含む。
2. 10YR2/1　黒色土　粘性やや強、しまりやや強、多くの土器含み、微量の褐色の土と炭分を含む。
3. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや強、しまり強、土器に土器含む。
4. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや弱、褐色の土と粘性の高い土を微量に含む。
5. 10YR2/1　黒色土　粘性やや強、しまりやや強、褐色の土と鉄分を微量に含む。
6. 10YR2/1　黒色土　粘性やや強、しまりやや強、粘性の高い土少量含み、褐色の土を微量に含む。
7. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや強、しまり強、粘性の高い土を微量含む。
8. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや弱、下部に少量の褐色の土含む。
9. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強、炭粒にふみ状に褐色の土を含む。
10. 10YR2/1　黒色土　粘性やや強、しまりやや弱、W・E壁の下部にふみ状に褐色の土を含む。
11. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強、鉄分を微量に含む。

第45図　東地区土坑実測図７（縮尺1/50）

い可能性もある。ＳＤ1018も古墳時代前期だが、SD1019は弥生時代後期である。

（６）溝・溝状土坑

SD1001（第46図）　調査区の東端、Ｃ・Ｄ３・４区に位置し、Ｃ３区でSD1002から分岐する。延長は約4.8m、幅約0.85m、深さ約0.4mを測る。断面はＵ字状を呈し、埋土は砂である。川１から水が引き込まれ南に向かって流れていた用水路と考えられる。

SD1002（第46図）　調査区の東端、Ｂ２～Ｄ６区に延び、川１と合流する。延長約24m、幅1.2～1.4m、深さ約0.4mを測る。断面はＵ字状で、埋土は砂で、水流が強く比較的短期に埋まった状況である。川１から南西に向かって流れていた用水路と考えられる。SD1001との分岐点付近の埋土上面から、弥生時代後期の土器が潰れたような状態で、８個体（甕形土器４点、壺形土器１点、有孔鉢１点、蓋２点）が約1.5mの範囲内でまとまって出土している。SD1002が洪水などで一気に埋まったと考えられ、その後に祭祀を行った際か、祭祀的な意味合いを込めて置かれたものであろう。

SD1005（第42図）　C・D25・26区に位置する。溝状土坑で、SD1004を切り、南はSK5035に切られる。長さ約4.5m、幅0.92m、深さ約0.7m、方位Ｎ11°Ｗを測る。断面はＵ字形で、壁は緩やかに立ち上がる。中央付近、埋土の中層を中心に弥生時代後期土器がまとまって出土している。

SD1006（第42図）　Ａ４・５区に位置する。北側は礫が土手状に盛り上がり、その裾を東西に落ち込みが延びる。長さ約７m、幅1.2m、深さ約0.2mで、Ａ４付近の礫の裾に、弥生時代後期土器が転々と出土した。礫は下の礫層から続いており、周辺には同様な盛り上がりが見られ、人工的なものではなく、自然現象によるものと考えられる。１つの可能性としては、すぐ東で検出した川１の影響、もう１は、地震による墳礫が上げられる。地震考古学の寒川氏に現地調査を依頼したが、確証は得られていない。しかし、周辺にあまり遺構がない中で、土器が置かれたように出土し、Ａ５区の包含層中では、甕形土器が正立した状態で確認（埋甕？）されていることから、これらの礫に対する思いが窺える。

SD1019（第47図）　A・B29・30区に位置する。南は現代の用水路で削平されていた。残存長約2.25m、幅約0.8m、深さ約0.2mで、底面は起伏が多い。遺物は北に偏り、弥生時代後期の長頸壺がほぼ完形で１点、他に１点出土している。

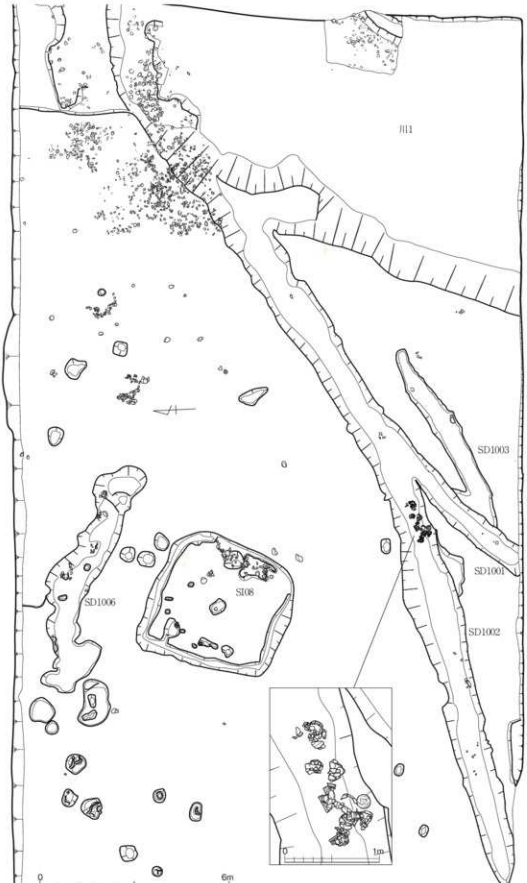
SD1018（第47図）　Ａ・Ｂ30区に位置し、南は現代排水路で削平されていた。残存長は約2.55m、幅0.4～0.5mを測る。南側に古墳時代前期の土器が集積していた。

SD1010・SD1022（第43図）　Ａ・Ｂ30～32区にから位置する。二条は綺麗に平行し、SD1010は長さ約12.5m、SD1022は長さ約9.9mで、両者とも幅0.4m前後、深さ0.2m前後である。埋土は単一な黒色土で、遺物は少ない。

（７）土器集中区

Ａ29・30区（第47図）　主としてＡ30区で、Ⅶ層中から出土した。北側では礫が多く出土し、南側で口縁部を一部欠損するものの、壺形土器が完形に近い状態で横になって出土した。口縁を北西方向斜め上に向けて横たわっていた。大半は、古墳時代前期の土器で、その下層で検出したSK5073上面土器の時期と近く、同じ土器溜まりと考えられる。

Ｃ29壺形土器（第47図）　Ｃ29区中央やや北に位置する。ほぼ完形の古墳時代前期の広口壺で、口縁を南に向け、僅かに口を下にした状態で出土した。Ⅶ層中にあり、南は地山がやや落ち込んでおり、土器はそこに落ち込んだような状況で横たわっていた。その下層には直径約0.4m、深さ約0.4mのピットが確認できたが、土器との関係は不明である。



第46図　SD1001・SD1002・川1平面図（縮尺1/120・1/40）

A 3区（第48図）　Ⅷb層中の弥生時代後期の土器集積で、約1.3m×0.6mの範囲に広がる。甕形土器と長頸壺が主である。

A 5区（第48図）　Ⅷb層中の弥生時代後期の土器集積で、約1.2m×0.8mの範囲に広がる。甕形土器を中心に高坏も若干含まれていた。絶対量は少ない。

A 7区（第48図）　Ⅷb層中の弥生時代後期の土器集積で、約0.8m×0.6mの西ブロックと約1m×0.7mの東ブロックに分かれている。甕形土器と長頸壺が中心で、この内、西ブロックの甕形土器はほぼ完形に近い形で横たわっていた。

B18区（第48図）　中央やや南よりに位置するⅧ層中の弥生時代後期の土器集積である。約0.3m×0.4m、約1m×0.6m、約0.4m×0.4mの3ブロックがあり、中央のブロックは高坏とカップ形土器が含まれていたが、それ以外ではほとんど復元できなかった。

C 9区（第48図）　Ⅷ層中の弥生時代後期の土器集積で、約1m×0.6mに集中する。小片が多く復元できるようなものは含まれていなかった。

C17・18区（第48図）　Ⅷ層中の弥生時代後期の土器集積で、約3m×2.1mに広がる。全体を復元できるようなものは含まれていなかった。

A33・34区（第49図）　Ⅷ層中の古墳時代後期の土器集積で、約4.5m×3.2mの範囲にV字状に広がり、中心部に特に集中が見られる。破片の集積だが、比較的復元可能なものも多く、甕形土器・壺形土器・高坏・器台など多器種が見られた他、大型壺の口縁も1点含まれていた。

A35区（第49図）　Ⅷ層中の弥生時代後期末の土器集積で、約1.5m×3.5m帯状に広がっていた。土器量は多くないが、甕形土器や壺形土器の口縁部付近が比較的復元できる。

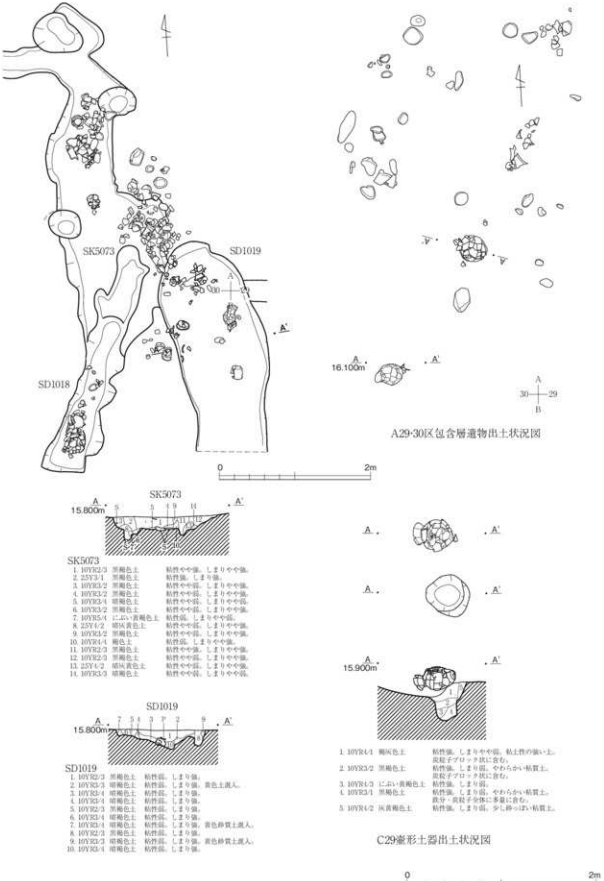
A36区（第49図）　SI19の覆土上層の弥生時代後期末の土器集積である。約1.7m×0.9mの範囲に集中していた。僅かに深度差があることから、掘り込みがあった可能性もある。集積に西端からほぼ完形の赤彩されたパレススタイルの壺形土器が1点口を南西に向けて横たわっていた。大半は甕形土器で、復元できたものもかなり多い。

A・B40区（第50図）　弥生時代後期末の土器集積で、約1.1m×3.5mで帯状に北西～南東に広がる。甕形土器が中心で、大型有段口縁壺も1点含まれていた。

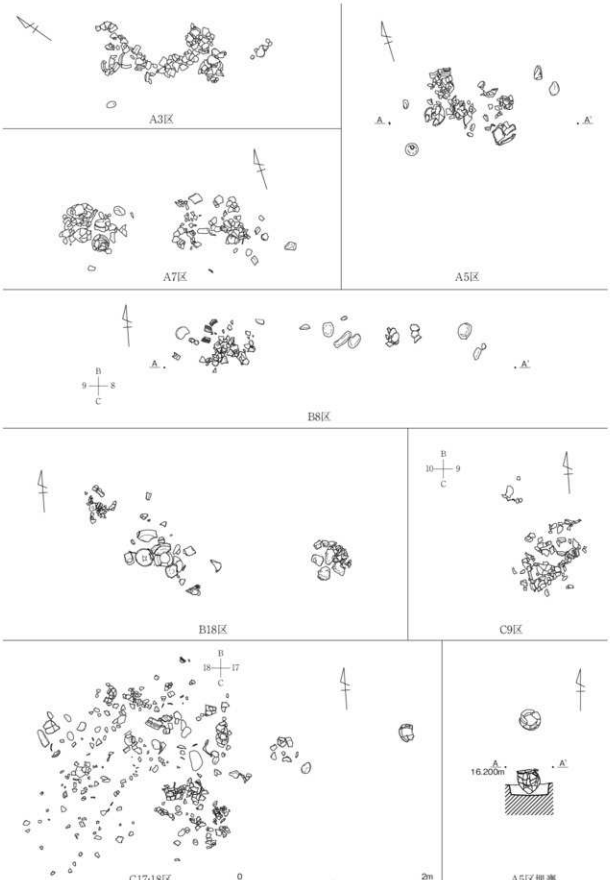
B37区（第50図）　弥生時代後期の土器集積で、約3m×0.5mで東西に帯状に広がる。遺物が少なく、復元できるものも僅かである。

A 5区埋甕（第48図）

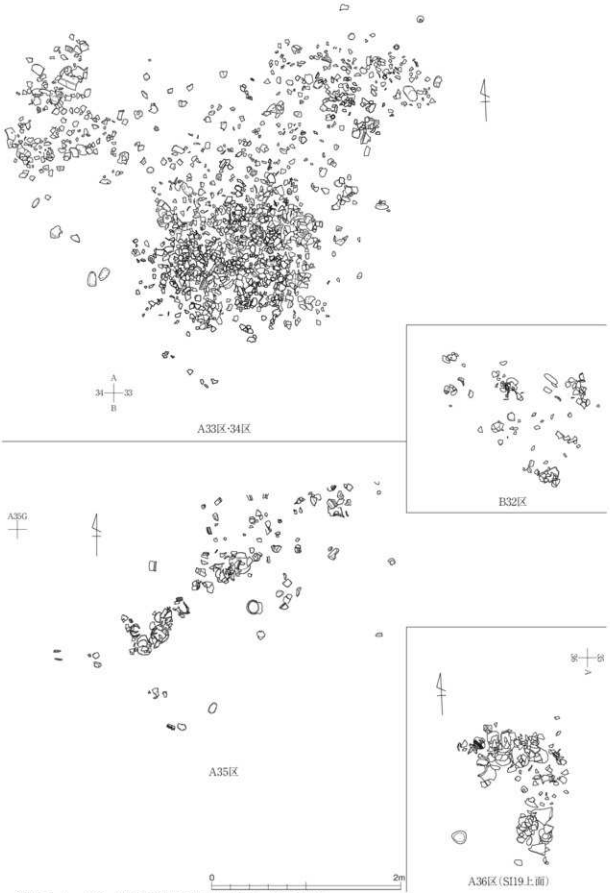
A 5区の包含層中で検出したもので、綺麗に正立し、底部は地山面直上に達していた。包含層中に掘り込みがあると考えられるが、確認することはできなかった。弥生時代後期の甕形土器で、器壁は極めて薄く、内部には肉眼で確認できるものはなかった。



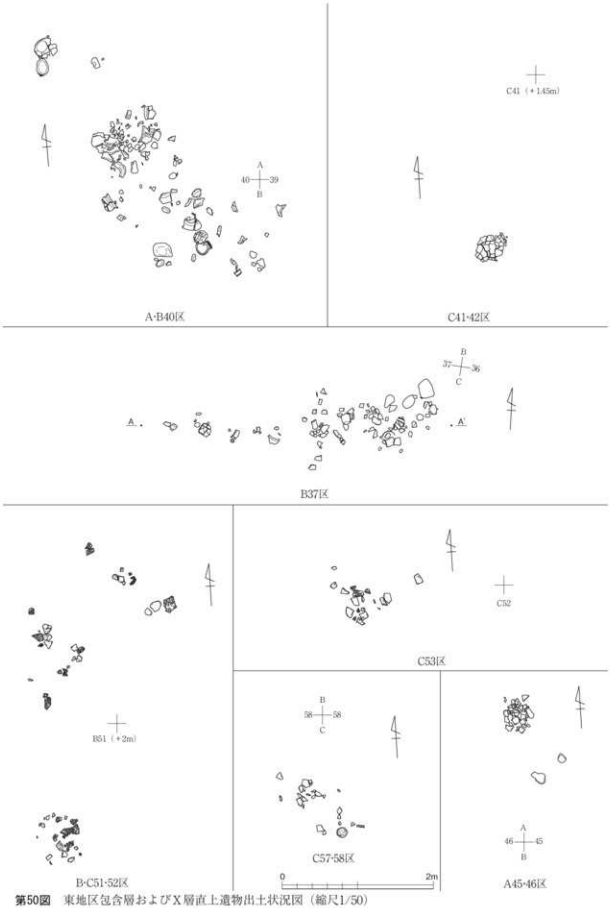
第47図　A～C29・30区遺構図（縮尺1/50）および遺物出土状況図（縮尺1/40）



第48図　東地区包含層遺物出土状況図（縮尺1/40）



第49図　A・B32～36区包含層遺物出土状況図（縮尺1/40）



第50図 東地区包含層およびX層直上遺物出土状況図（縮尺1/50）

２　中地区の遺構

中地区で検出された主な遺構は、竪穴住居６棟、平地住居５棟、掘立柱建物12棟（うち布掘建物１棟）、土坑214基、溝・溝状遺構83基、土器集中区17ヶ所、川跡２条、船着き場状遺構などである。大半は弥生時代後期の時期に属し、僅かに、弥生時代中期と考えられる遺構が認められる程度である。

（１）竪穴住居

SI24（第51図）　Ａ・Ｂ92・93区に位置する。隅丸方形で一辺は約5.5m、深さ約0.2mを測る。壁周溝は明瞭で、箱掘りのような堀方を持つ。４本柱で、四隅に直径約0.6m、深さ約0.3mの柱穴を持つ。中央に二段掘りの土坑を有し、外側は隅丸方形状で西が突出する形状で、約1.12m×0.95m、深さ約0.05mを測る。内側は不整な楕円形で、約0.83m×0.6m、深さ0.28mを測り、東側は急激に立ち上がるのに対し、西側は緩やかに立ち上がる。埋土中下層には、長さ10～15㎝大の礫がやや多くふくまれていた。堆積は自然堆積と考えられる。主軸は住居の軸と外側はほぼ同じだが、内側は約43°北にずれる。外側土坑には東と北西に幅約0.2m前後の細い溝が繋がる。貼り床はほぼ全面におよび、炭化物の集中区が中央土坑南側と西側の一部に見られる。また、25㎝前後の礫が、中央付近と南西隅にみられた。

床に近い遺物は多くはなく、東壁際に破片が少しまとまっていたに過ぎない。弥生時代後期の土器が主体で、玉作関連遺物は少量であったが、勾玉が翡翠製と蛇紋岩製各１点出土している。

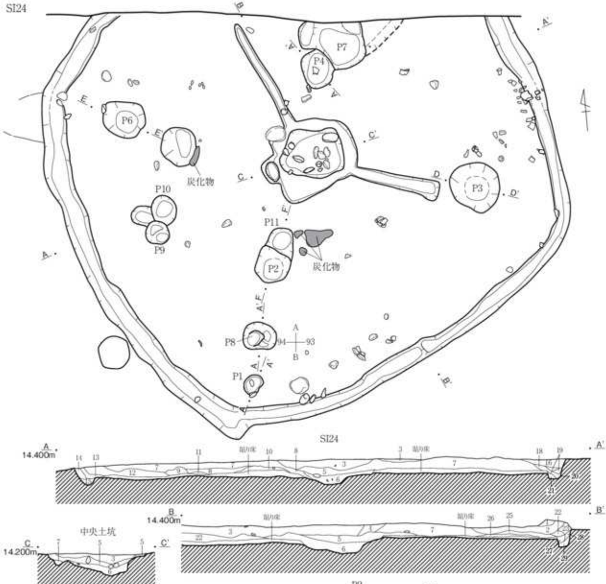
SI26（第52図）　Ｂ～Ｄ103～105区に位置し、南側は調査区外にかかり、南西側でSD1085を切る。整った隅丸長方形で、残存長は約9.2m推定長約10.5m、幅約8.52m、深さ約0.3m、主軸方位Ｎ21°Ｗを測る。４～６本柱と考えられ、柱穴は中央寄りに並ぶ。堀方は直径0.6～0.7mで、深さは0.4～0.5mである。貼り床はほぼ全面でみられ、北東側に焼土が認められたほか、狭い焼土や炭化物が散らばっている。中央北寄りに不整円形の二段掘り土坑を持つ。外側は約1.88m×1.4m、深さ約0.2m、内側は約1.08m×0.8m、深さ約0.64mを測る。

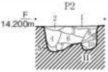
遺物量は多く、弥生時代後期の土器が覆土を中心出土している。南西部に位置するＰ３の上面で、ほぼ完形に近い甕形土器が潰れた状態で出土している。玉作関連遺物は少量であった。

SI33（第53図）　Ａ107・108区に位置し、北側の一部は調査区外に掛かる。円形に近い隅丸方形で、直径約6.6m、深さ約0.2mを測る。４本柱で、四隅に配置されると考えられ、２本は検出できたが、東の１本はSB118の柱穴に切られ、もう１本は調査区外である。深さは約0.5mを測る。遺物は少ないが、弥生時代後期の土器が主に出土している。

SI34（第54図）　Ａ103・104に位置する。北側の調査区外に大半がかかり、全体の1/3程度の調査である。丸味を持つ隅丸方形と考えられ、１辺の長さ約７m、深さ約0.35mを測り、２つの隅には深さ0.5～0.55mの柱穴を持つ。柱穴の埋土はブロック堆積で、柱が抜かれた後に埋め戻されたと考えられる。貼り床は全面に見られ、南側壁際に20㎝大の白色粘土ブロックが出土している。

SI36（第55図）　Ｂ、Ｃ118・119区に位置する。整った隅丸長方形で、約5.5m×4.15m、深さ約0.3mを測る。壁周溝は幅0.3m前後で、壁は僅かに開き気味に直線的に立ち上がる。貼り床もほぼ全面に厚く敷かれ、作りの丁寧さは際だっている。２本柱で、中間の南壁際に、約0.7m×0.6m、深さ約0.3mの円形の土坑があり、そこから南壁との間に土器がまとまって出土している。７～８個体の土器がそれぞれ潰れた形で、ブロック状に点在していた。弥生時代後期の甕形土器、有段口縁鉢が主で、高坏は脚部のみである。また、少し離れた北側の床面では、長頸壺が潰れた状況で出土している。玉作関連遺物はほとんど出土していない。



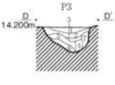


SI24

1. 7.5YR1.7/1 黒色土 粘性やや強、しまりやや強、黄褐色土微量含む。
2. 7.5YR1.7/1 黒色土 粘性やや強、しまりやや強、黄褐色土やや多く含む。
3. 10YR2/1 黒色土 粘性強、しまりやや弱、黄褐色土及び炭化物少量含む。
4. 10YR2/1 黒色土 粘性強、しまりやや弱、3に似るがややぼそぼそしている。
5. 10YR1.7/1 黒色土 粘性強、しまりやや強、炭化物やや多い、黄色土微量含む。
6. 10YR1.7/1 黒色土 粘性強、しまりやや強、炭化物多い、黄色砂質土やや多い。
7. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや強、しまりやや強、炭化物やや多い、黄色砂質土が粒子状にやや多く含む。
8. 10YR2/1 黒色土 粘性やや強、しまりやや強、内容は7と似る。
9. 10YR2/1 黒色土 粘性やや強、しまりやや強、黄褐色砂質土（φ5mm前）ブロック多く含む。
10. 10YR1.7/1 黒色土 粘性強、しまりやや弱、炭化物多く、黄色砂質土少量含む。
11. 10YR2/2 黒褐色土 粘性強、しまりやや強、混入物はみられず。
12. 7.5YR3/1 黒褐色土 粘性強、しまりやや強、黄色砂質土ブロック（φ2cm前後）やや多く含む。
13. 7.5YR2/1 黒色土 粘性強、しまりやや強、黄色砂質土下部を中心にやや多く含む。
14. 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや強、しまりやや強、（10YR4/1褐灰）色の土との混土。
15. 2.5Y2/1 黒色土 粘性やや強、しまりやや強、地山の崩落した土（黄色砂質土）φ2cmのブロックで多く混入。
16. 10YR2/1 黒色土 粘性強、しまりやや弱、3と同じ。
17. 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや弱、しりやや強、黄褐色土粒子多く含む。
18. 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや弱、しまりやや弱、黄褐色土粒子微量含む。
19. 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや弱、しまりやや強、17より黄褐色土多くまだら状を呈す。
20. 2.5Y5/3 黄褐色土 粘性弱、しまりやや弱、崩落土、19の土微量含む。
21. 10YR3/1 黒褐色土 粘性弱、しまり強、20の土をブロックで（φ5mm前）少量含む。
22. 7.5YR3/1 黒褐色土 粘性強、しまりやや強、12と同じ。
23. 10YR1.7/1 黒色土 粘性強、しまりやや強、黄色土微量含む。
24. 2.5Y5/3 黄褐色土 粘性弱、しまりやや強、崩落土、23の土微量含む。
25. 10YR3/1 黒褐色土 粘性強、しまりやや強、黄色土微量含む。
26. 7.5YR1.7/1 黒色土 粘性強、しまり強、黄色土微量、褐灰色との混土。
27. 2.5Y5/3 黄褐色土 粘性弱、しまり強、崩落した地山ブロック。
28. 10YR3/1 黒褐色土 粘性強、しまりやや強、混入物なし。
29. 2.5Y5/3 黄褐色土 粘性弱、しまりやや弱、褐灰色土微量含む。
貼り床. 2.5Y5/3 黄褐色土 粘性弱、しまり強、黒色土ブロック多量混入。

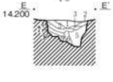
P2

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや強、しまりやや強。
2. 10YR2/1 黒色土 粘性やや強、しまりやや弱。
3. 2.5Y2/1 黒色土 粘性やや強、しまりやや強。
4. 2.5Y2/1 黒色土 粘性やや強、しまりやや強。
5. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや弱、しまりやや弱。
6. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや強、しまり強。
7. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや弱、しまり強。
8. 10YR3/2 暗褐色土 粘性やや強、しまり強。
9. 5Y2/6 オリーブ色土 粘性弱、しまり強。
10. 5Y2/1 黒色土 粘性強、しまりやや強。
11. 5Y2/2 オリーブ黒色土 粘性強、しまりやや強。



P3

1. 2.5Y 3/1 黒褐色土 粘性強、しまり弱。
2. 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性強、しまりやや弱。
3. 10YR2/1 黒色土 粘性強、しまりやや弱。
4. 2.5Y2/1 黒色土 粘性強、しまりやや強。
5. 2.5Y2/1 黒色土 粘性強、しまりやや強。
6. 7.5YR2/1 黒色土 粘性強、しまりやや強。
7. 7.5YR2/1 黒色土 粘性やや強、しまり強。

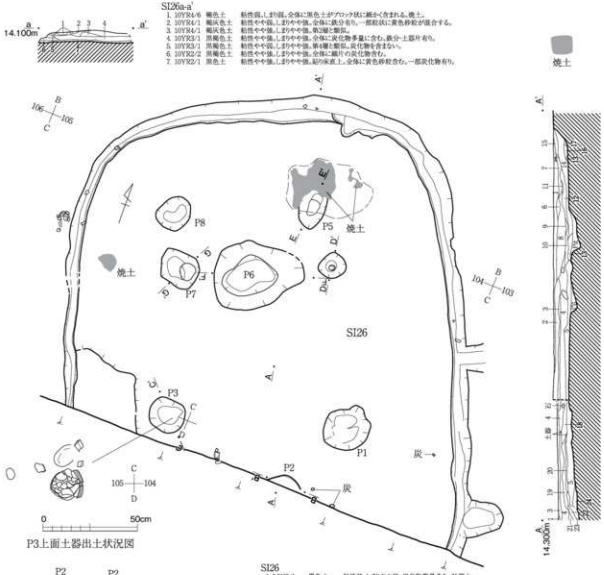


P6

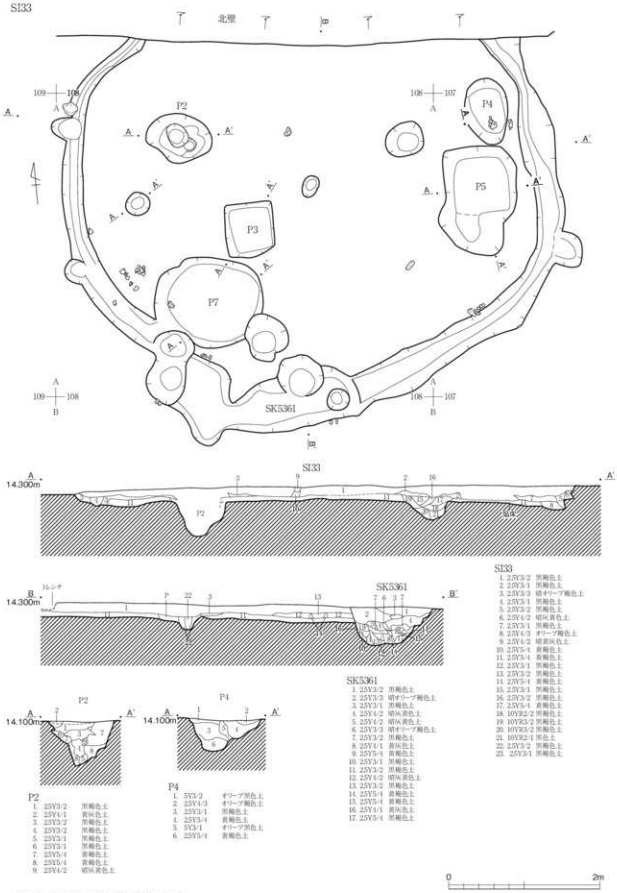
1. 7.5YR2/1 黒色土 粘性強、しまりやや強。
2. 7.5YR1.7/1 黒色土 粘性強、しまりやや強。
3. 10YR1.7/1 黒色土 粘性強、しまり強。
4. 10YR1.7/1 黒色土 粘性強、しまり強。
5. 10YR2/1 黒色土 粘性強、しまり強。
6. 10YR2/1 黒色土 粘性強、しまり強。
7. 10YR1.7/1 黒色土 粘性強、しまりやや強。
8. 10YR1.7/1 黒色土 粘性強、しまりやや強。
9. 7.5YR2/1 黒色土 粘性強、しまりやや弱。

0 2m

第51図 SI24実測図（縮尺1/50）

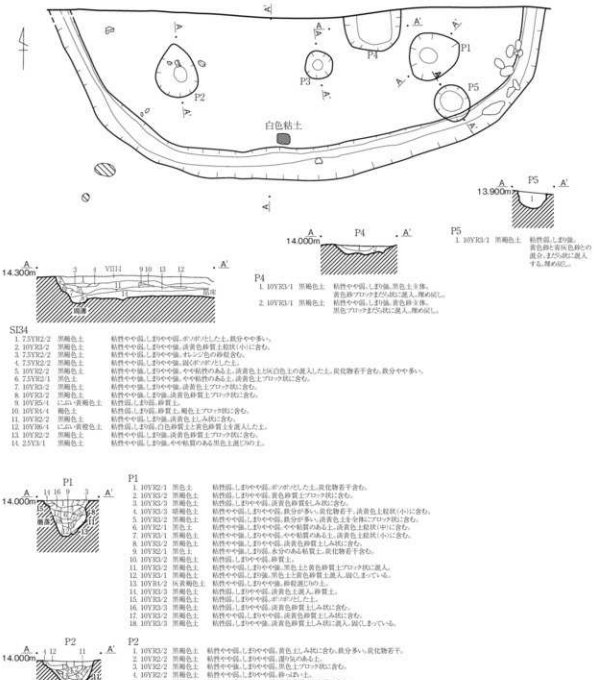


第52図　SI26実測図（縮尺1/80・1/20）



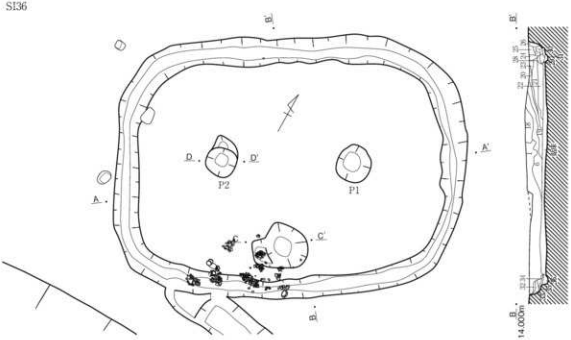
第53図 SI33実測図（縮尺1/50）

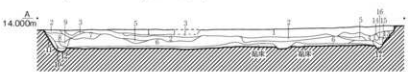
SI34



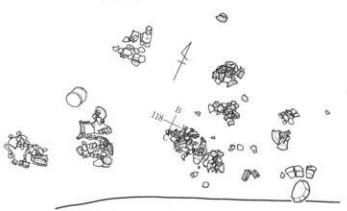
第54図　SI34実測図（縮尺1/60）

SI36





1. 10YR4/1　褐灰色土　粘性やや弱、しまりやや弱、全体に炭化物・鉄分含む。含有率は低い。上部側焼多量に含む。
2. 10YR3/3　暗褐色土　粘性やや強、しまりやや弱、一部黄色砂質土（10YR5/3）含む。鉄分少量、炭化物は含まない。
3. 10YR5/4　褐色土　粘性弱、しまりやや弱、全体に（10YR5/3）含む。薄い層編層。
4. 10YR3/3　暗褐色土　粘性やや強、しまりやや強、第2層と類似。炭化物少量有り。
5. 10YR3/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強、第2層に類似。若干土色が暗め。炭化物少量有り。
6. 10YR2/1　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強、全体に（10YR5/3）多量に含む。土器片・炭化物多量に含む。床面上層。
7. 10YR2/3　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強、第5層と類似。鉄分少量、炭化物少。
8. 10YR2/3　黒褐色土　粘性やや強、土色強（10YR5/3）少量含む。炭化物少。
9. 10YR2/3　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強、黒色粘質土。炭化物を含まない。
10. 10YR2/3　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強、第9層と類似。全体に（10YR5/3）の粒子含む。炭化物少。
11. 10YR5/3　にぶい黄褐色土　粘性やや強、しまりやや弱。以前掘の埋戻し土。黄色砂質土と黒褐色土が混合する。
12. 10YR5/3　にぶい黄褐色土　粘性やや強、しまりやや強。第11層に類似。光ベて黒褐色土の混合が少ない。
13. 10YR3/3　暗褐色土　粘性やや強、しまりやや強、第2層と類似。（10YR5/3）ブロック状に含む。
14. 10YR5/3　にぶい黄褐色土　粘性やや強、しまりやや強、第11層と類似。土色は明るめ。
15. 10YR5/3　にぶい黄褐色土　粘性やや強、第11層と類似。
16. 10YR2/3　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強、第9層と類似。
17. 10YR5/3　にぶい黄褐色土　粘性やや強、しまりやや強、第11層と類似。
18. 10YR3/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強、第6層と類似。土色暗め。
19. 10YR2/1　黒色土　粘性やや強、しまりやや強、全体に黄色砂粒含む。炭化物微量含む。
20. 10YR2/1　黒色土　粘性やや強、しまりやや強、鉄分微少。
21. 10YR2/1　黒色土　粘性やや強、第10層と類似。黄色砂粒の含有率高い。
22. 10YR1.7/1　黒色土　粘性やや強、黄色砂粒・炭化物微量含む。
23. 10YR2/1　黒色土　粘性やや強、第20層と類似。炭化物微量含む。
24. 10YR2/1　黒色土　粘性強、しまりやや強、黄色砂粒微量含む。炭化物なし。
25. 10YR3/1　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強、黄色砂粒微量含む。炭化物なし。
26. 10YR3/1　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強、黄色砂粒微量含む。炭化物なし。
27. 10YR2/1　黒色土　粘性強、しまりやや強、炭化物多量に含む。
28. 10YR3/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強、第27層と類似。やや土色が明るめ。
29. 10YR2/1　黒色土　粘性やや強、しまりやや強、全体に黄色砂粒含む。炭化物なし。
30. 10YR5/3　にぶい黄褐色土　粘性やや強、しまりやや強、第11層と類似。
31. 10YR5/3　にぶい黄褐色土　粘性やや強、しまりやや強、第12層と類似。
32. 10YR3/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強、全体に黄色砂粒多量に含む。
33. 10YR2/1　黒色土　粘性やや強、しまりやや強、第27層と類似。
34. 10YR3/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強、第32層と類似。
35. 10YR2/1　黒色土　粘性やや強、しまりやや強、第27層と類似。
36. 10YR2/1　黒色土　粘性強、しまり強。一部黄色砂粒含む。
地床. 10YR5/3　にぶい黄褐色土　粘性弱、しまりやや強、黄色土ブロックをやや多く混ぜる石。



SI36南床面土器出土状況図

P2

1. 10YR2/1　黒色粘質土　黄色土φ0.5cm粒状少量、鉄分少量。
2. 10YR1.7/1　黒色粘質土　黄色土φ0.5cm粒状はごく少量。
3. 2.5Y5/3　黄褐色砂質土　黒褐色粘質土少量。
4. 10YR3/1　黒褐色粘質土　黄色土φ0.5～1cm粒20%。
5. 10YR4/1　褐灰色粘質土　黄色土φ5cm塊中量。黒色粘質土φ3cm少量。
6. 10YR3/1　黒褐色粘質土　黄色土φ1cm粒少量。
7. 10YR3/1　黒褐色粘質土　褐色砂粒φ2cm塊15%。

土坑1

1. 2.5Y2/1　黒色粘質土　黄色土φ2cmの塊が1個、鉄分少量。
2. 10YR3/4　黒褐色粘質土　黄色土φ0.5～1cm粒少量、鉄分一定少量。
3. 10YR2/1　黒色粘質土　黄色土φ4cmの塊3%中量。

0　50cm　　0　3m

第55図　SI36実測図（縮尺1/60・1/20）

（２）平地住居

SI25（第56～58図）　中心部はＡ・Ｂ97・98区、全体はＡ～Ｃ96～99区に位置する。中心部は隅丸方形状に周溝が巡り、北隅は調査区外にかかる。大きさは６～6.5ｍを測る。貼り床は、西半部にのみ顕著で、炭化物集中ブロックが大きく２ヶ所で認められた他、一部に小砂利の集積が見られた。４本柱と考えられ、東側の２本は検出できたが、西側の１本はSK5293に重なり、もう１本はSK5288（SB116）と重なるため、明確にすることはできなかった。

遺物は弥生時代後期の土器を主として、全体的に多く、北側周溝付近とSK5377の上面付近でややまとまって出土している。また、勾玉は３点出土し、内１点は長さ0.66㎝、幅0.4㎝、厚さ0.17㎝の極めて小さな翡翠製のものである。

SK5374は、埋土上面を貼り床が覆っていることから、SI25以前の土坑である。二段掘りで、外側は不整形で、約1.7ｍ×１ｍ、深さ約0.3ｍ、内側は楕円形で約0.85ｍ×0.55ｍ、深さ約0.6ｍを測る。

中心部の周辺には大きく溝状土坑が取り囲むように連なり、その直径は約20ｍにおよぶ。北半分は調査区外に掛かる。東側では浅い溝状土坑が二重に巡り、南の開口部を挟んで西側は連続した比較的深い溝が巡らされている。中心部の周溝と外周溝との空間は、東は３ｍ程度だが、西は７～８ｍに広がる。構造として一体と考えるには、やや間延びした感が拭えないが、SI25の中心部分を意識しているのは間違いないであろう。

遺物は、外周の遺構のみならず、周辺部で多く出土し、特に南側では広く集中区が見られた。また、Ａ96区では白色粘土ブロックが、Ａ95区では緑色凝灰岩の玉材片が集中して見つかるなど、他の住居では見られない特徴も持ち合わせている。

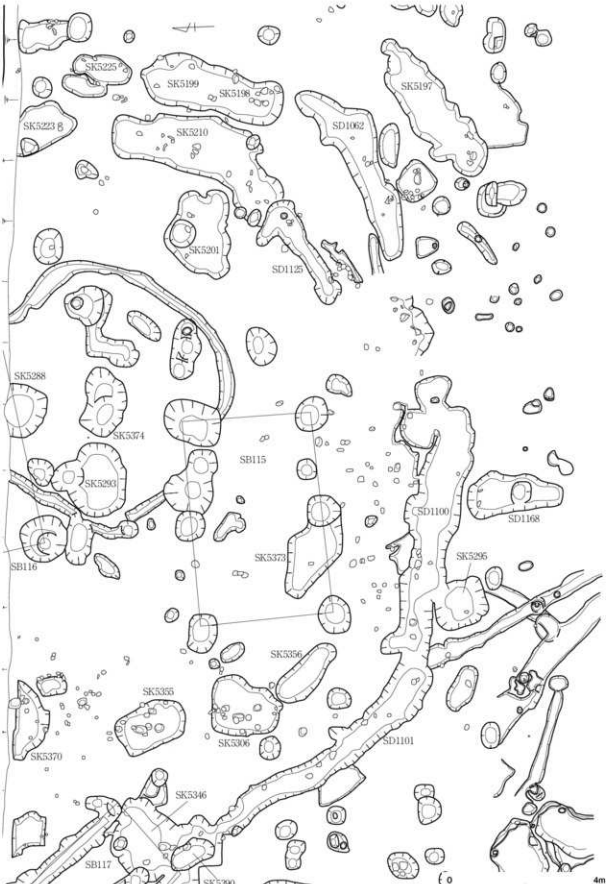
SI35（第59図）　Ａ113～115区に位置する。本体の2/3は調査区外に掛かる。中心に当たる部分は壁周溝で囲まれ、深さ約0.05～0.1ｍ程度の竪穴状になるが、平面形は明確ではない。南側に直線的な辺を持ち、その両側は屈曲がやや大きいので、多角形になる可能性もある。規模は、検出部分で約7.4ｍを測り、SI25よりやや大きい。主柱穴は１基のみが確認でき、直径約１ｍ、深さ約0.5ｍと規模は大きい。SI25と同様に、周囲は溝で囲まれ南側に開口部がある。二重に巡らされ、西では幅約１～1.5ｍ、深さは内側のSD1130で約0.4ｍ、外側のSD1109で約0.3ｍを測る。東は幅約0.8ｍ、深さ約0.4ｍで、形状に差が見られる。

遺物は、中心部、周溝共にあまり多くはなく、ほとんど弥生時代後期土器の破片で、特にまとまって出土した箇所はない。

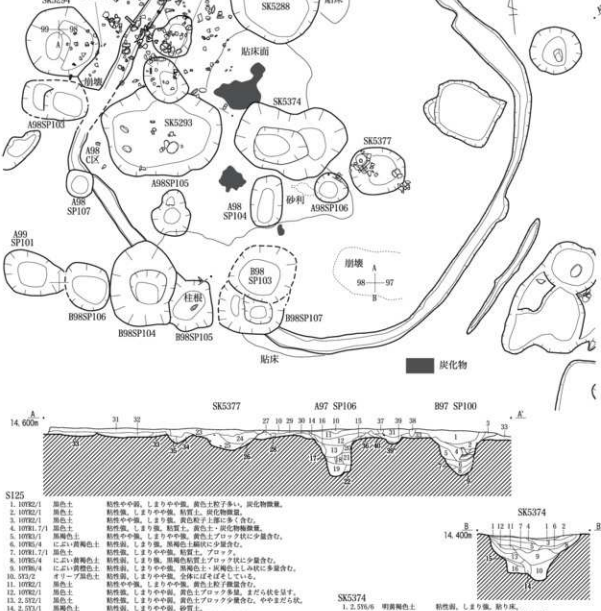
SI31（第60図）　Ｃ・Ｄ113～115区に位置する。南側の一部は調査区外に掛かかり、北側はSD1082と北西側でSD1129と重なる。幅１ｍ前後の溝が巡る隅丸方形で、一辺は約10ｍを測る。貼り床はみられず、柱穴も不明確である。遺物は西よりの床面で弥生時代後期の甕形土器が、ほぼ１個体分潰れた状態で出土した他、西側の溝（SD1092）内でも、ほぼ１個体分が横たわっていた。また、東側の溝（SD1128）がSD1129と重なる付近で、土器がまとまって出土している。

SI32（第61図）　Ｂ・Ｃ105・106区に位置する。ややいびつな方形の溝が巡り、幅は約3.5ｍを測るが、南側はSK5266とSD1091に切られるため、全体の大きさは不明である。貼り床はほぼ全面で検出しており、南端で狭い範囲で焼土を検出している。遺物は床面近いものはほとんどなく、柱も不明確なため全容は明らかではない。

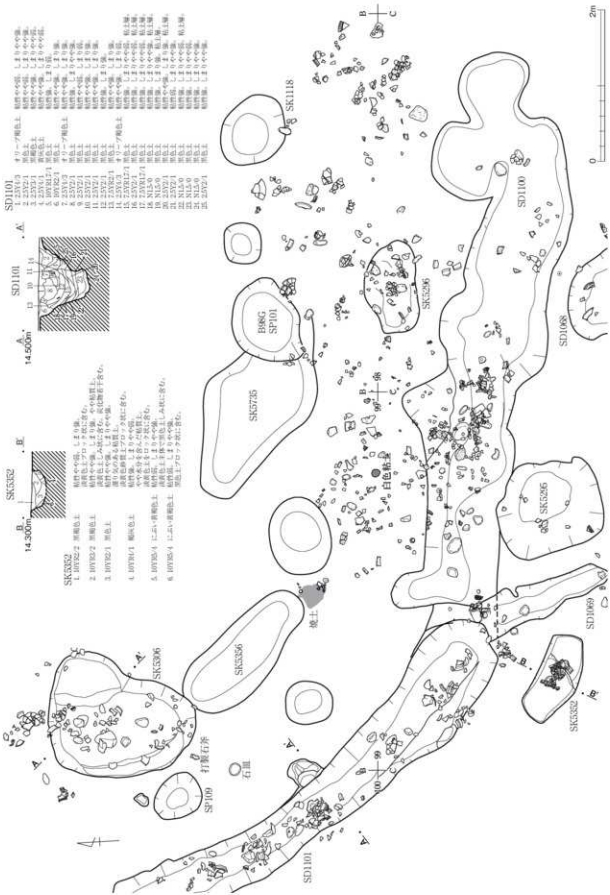
SI38（第61図）　Ｂ・Ｃ108・109区に位置する。方形だが、南東隅はやや隅丸方形状となる。幅0.2



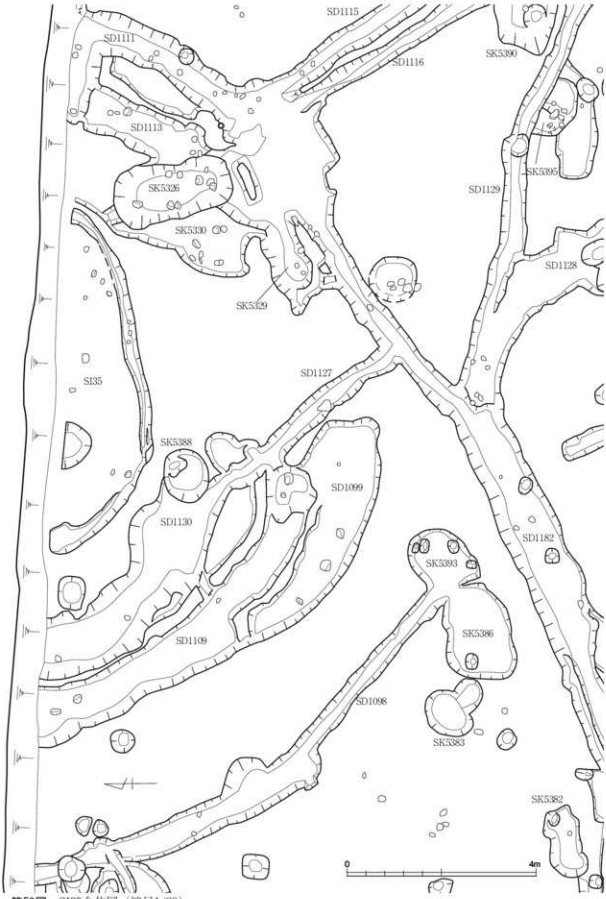
第56図 SI25全体図（縮尺1/100）



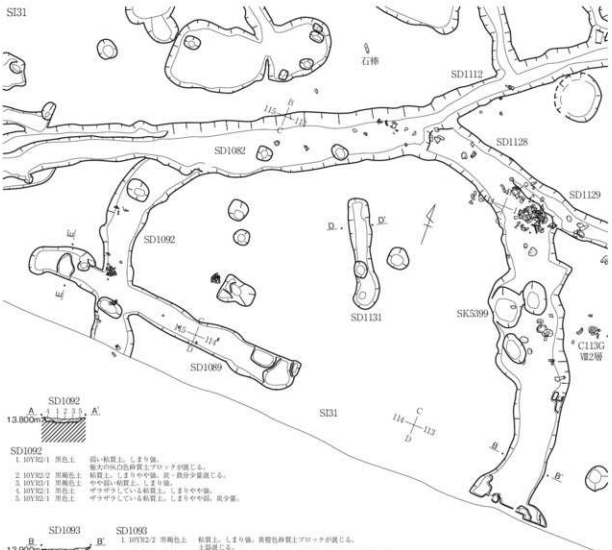
第57図　S125中心部実測図（縮尺1/60）



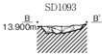
第58図　SI25南遺物出土状況とSD1100・1101実測図（縮尺1/50）



第59図　SI35全体図（縮尺1/80）



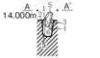
SD1092
1. 10YR2/1 黒色土　弱い粘質土。しまり強。
　　極大の灰白色砂質土ブロックが混じる。
2. 10YR2/2 黒褐色土　粘質土。しまりやや強。炭・鉄分少量混じる。
3. 10YR3/1 黒褐色土　やや弱い粘質土。しまり強。
4. 10YR2/1 黒色土　ザラザラしている粘質土。しまりやや強。
5. 10YR2/1 黒色土　ザラザラしている粘質土。しまりやや弱。炭少量。



SD1093
1. 10YR2/2 黒褐色土　粘質土。しまり強。黄褐色砂質土ブロックが混じる。
　　土器混じる。
2. 2.5Y2/1 黒色土　やや強い粘質土。しまり強。小の灰褐色砂質土ブロックが混じる。
　　炭・鉄分少量混じる。土器混じる。
3. 10YR2/1 黒色土　やや強い粘質土。しまり強。極大の灰白色砂質土ブロックが混じる。

SP101
1. 2.5Y2/1 黒色土　粘性やや強。しまり弱。黄色砂質土混在区に含む。
2. 2.5Y3/2 黒褐色土　粘性やや強。しまりやや強。黄色砂粒分散に含む。
3. 2.5Y3/1 黒褐色土　粘性やや強。しまりやや弱。塊の砂質土混入。炭化物分散に含む。
4. 2.5Y3/1 黒褐色土　粘性強。しまり強。黄色砂質土まだら状に多く含む。
5. 2.5Y2/1 黒色土　粘性強。しまりやや弱。黄色砂粒分散に含む。炭粒子多く含む。
6. 2.5Y3/1 黒褐色土　粘性やや強。しまり弱。
7. 10YR3/1 黒褐色土　粘性強。しまり弱。粘土質の土。
8. 2.5Y3/1 黒褐色土　粘性やや強。しまりやや弱。塊の黄色砂質土混入（90%以上）炭粒子含む。

SD1131
1. 10YR3/2 黒褐色粘質土　黄色土φ0.5cm粒強少量。炭化物少量。
2. 10YR3/2 黒褐色粘質土　灰黄褐色粘質土塊状に少量。黄色土φ0.5～4cm少量。鉄分少量。



SD1089
1. 10YR3/1 黒褐色土　粘性やや強。しまりややや強。
2. 10YR3/1 黒褐色土　粘性やや強。しまりややや弱。黄色砂粒分散に含む。
3. 10YR3/1 黒褐色土　粘性やや強。しまり強。少し固まったと、白色の砂ブロック含む。
4. 10YR3/1 黒褐色土　粘性やや強。しまり弱。黄色砂質土ブロック多く含む。下部にオレンジ色の砂粒含む。

SP103
1. 2.5Y3/1 黒褐色土　粘性弱。しまり弱。ザラザラした土。
2. 2.5Y3/1 黒褐色土　粘性やや強。しまりややや強。黄色砂粒分散に多く含む。
3. 10YR2/1 黒色土　粘性強。しまり弱。強い粘質土。黄色砂粒混在区に含む。
4. 2.5Y2/1 黒色土　粘性やや強。しまり弱。鉄分多く含む。黄色砂粒含む。
5. 2.5Y2/1 黒色土　粘性強。しまりやや強。炭粒子多く含む。
6. 2.5Y2/1 黒色土　粘性やや強。しまりやや強。黄色砂粒混在区に含む。

0　4m

第60図　SI31実測図（縮尺1/80）

m前後の溝が巡るのみで、貼り床は未検出である。南西隅に白色粘土が少量出土した。中央付近は土坑群に切られているため、伴う遺構との区別は困難であった。

SI30（第62図）　D111・112区に位置するが、大半は調査区外で、周溝（SD1080）の一部を検出したに止まる。住居の確証はないが、周溝の形状から住居に位置づけた。平面形は隅丸方形と考えられ、溝は幅約0.3～0.7mで、深さは約0.16mと浅い。遺物は弥生時代後期の土器が少量出土したに過ぎない。

北東隅には、ピットに立てられた立石とその西側に、長さ約１m、幅0.3～0.4mで帯状の砂利が見られた。地山面より僅かに盛り上がり、地山Ｘ層下の礫層からＸ層を突き破って連続していることから、地震による墳礫と判断した。立石は、これを明らかに意識して立てられていることから、弥生人の畏敬の念を示した記念碑的なものと考えられる。

SI27（第62図）　A88に位置し、大半は調査区外である。SD1060に中央付近を、SD1061に西側を、SD1051に東側の一部を切られている。貼り床は見られるが、壁周溝は確認できなかった。平面形は、円又は隅丸方形と考えられる。深さは約0.3mを測る。東壁に近くで、弥生時代中期の甕形土器の上半部が１点出土している。

（３）掘立柱建物

SB116（第63図）　B94区に位置する。１間×２間で、桁行約3.1m、梁行約2.7m、方位N85°Wを測る。北側は、柱穴が連続するように並び、中央のピットは溝状になり、深さは約0.3mを測る。南西の柱穴は溝に切られ、明確ではない。遺物はほとんど出土していない。

SB117（第63図）　B94・95区に位置する。１間×２間で、桁行約3.2m、梁行約2.4m、方位N50°Wを測る。柱穴は直径0.5m前後、深さ0.4m前後を測る。遺物は弥生時代後期の土器片が少量見られるに止まる。

SB118（第64図）　B98・99区に位置する。SI25を切る形で、中心部と外周溝の間に造られている。１間×２間で、桁行約5.5m、梁行約3.6m、方位N89°Eを測る。柱穴は比較的大きく、直径0.8～0.9m、深さ0.5m前後を測る。柱穴内から、弥生時代後期の土器片が少量出土している。

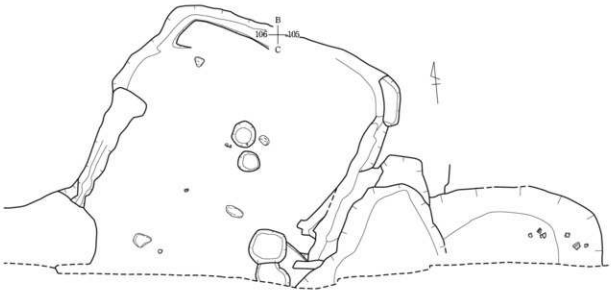
SB119（第64図）　A98・99区に位置する。SI25を切る形で中心部北側に造られている。２本のみが検出されており、主体は調査区外に延びると考えられ、規模は不明である。柱間は約3.6mで、柱穴掘り方は直径約1.2～1.5mを測り、建物規模はかなり大きいと考えられる。

SB120（第65図）　A・B100・101区に位置する。布掘建物で、桁行約3m、梁行約2.7m、方位N43°Wを測る。柱部分の掘り込みは明瞭ではなく、桁行２間かどうかは遺構から判断することはできなかった。南側は、SK5346やSK5290に切られていた。さらに、南東端では約0.4m×0.6m、深さ約0.3mの溝状落ち込みに切られ、弥生時代後期の甕形土器１個体が潰れた状況で入っていた。また、その下には、直径約0.3m、深さ約0.5mのピットを検出している。

SB121（第65図）　A107～109区に位置し、SI32を切るように造られていた。北側は調査区外で不明だが、おそらく１間×２間で、桁行約6.3m、方位N81°Eを測る。柱穴は方形となるものが２基あり、基本は方形と考えられる。南東の柱穴は一辺が約１m、深さ約0.6mでかなりしっかりしている。

SB122（第66図）　C112・113区に位置する。１間×２間で、桁行約3.9m、梁行約2.85m、方位N38°Wを測る。西側の中間柱穴はSD1128に重なり確認できていない。柱穴は、直径0.4m前後で深さ0.5～0.6mを測る。

SB123（第66図）　B・C111・112区に位置する。１間×２間で、桁行約4.6m、梁行約３mで北側は

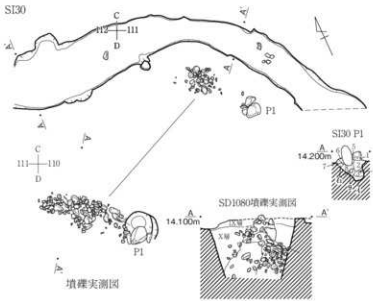


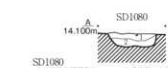
SI32

SI38

0　　2m

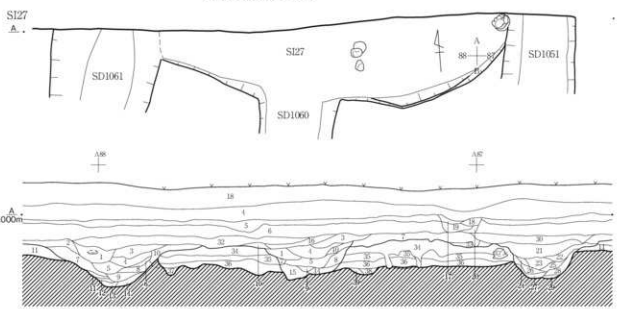
第61図　SI32・SI38実測図（縮尺1/50）





SD1080
1. 2.5Y3/1 黒褐色土　しまりあり。やや細砂質。土器片。鉄分粒。灰オリーブ色砂質土。ブロック少量。炭粒ごく少量。
2. 5Y6/2 灰オリーブ色土　しまり強。細砂質。2.5Y5/1黄灰色粗土ブロック多量。鉄分少量。

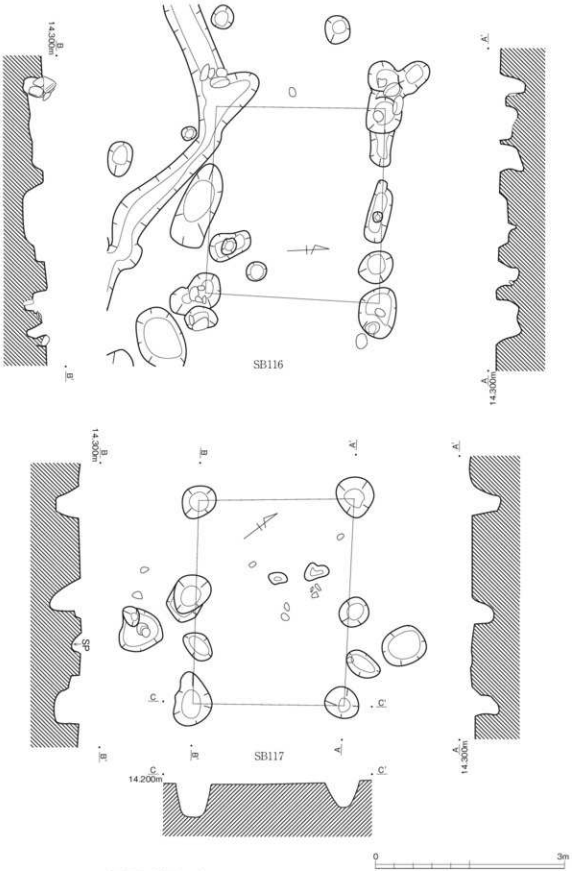
SI30
1. 10YR2/1 黒色土　粘性やや弱。しまり強。炭化物微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土　粘性やや弱。しまり強。地山の黄色土ブロック状に少量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土　粘性やや弱。しまりやや強。2.5Y5/6粘性が高い。色調暗い。
4. 2.5Y2/1 黒色土　粘性弱。しまり弱。砂質土。黄色砂質土多く含む。（他の層落土）
5. 10YR2/2 黒褐色土　粘性やや弱。しまりやや強。黄色砂質ブロック含む。2.5Y砂質。
6. 2.5Y4/2 暗灰黄色土　粘性弱。しまり強。砂質土。黒褐色土少量含む。
7. 10YR2/3 黒褐色土　粘性やや弱。しまり強。
8. 10YR2/2 黒褐色土　粘性やや弱。しまりやや強。黄色砂質土ブロック多く含み、まだら状を呈す。
9. 2.5Y2/1 黒色土　粘性弱。しまり強。砂質土。黄色砂質土粒子微量含む。



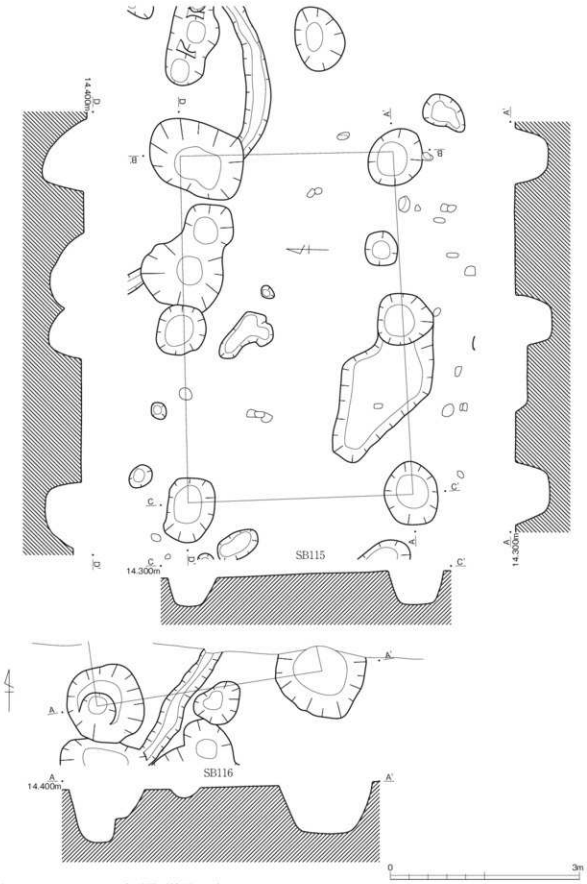
SI27
1. 10YR6/2 灰黄褐色土　粘性中。しまりや中。炭化物若干含む。
2. 10YR6/2 灰黄褐色土　粘性中。しまりや中。炭化物若干含む。
3. 10YR6/2 灰黄褐色土　粘性中。しまりや中。炭化物若干含む。
4. 10YR6/2 灰黄褐色土　しまりや中。炭化物若干含む。
5. 10YR6/2 灰黄褐色土　粘性やや弱。しまりやや中。炭化物若干含む。
6. 10YR6/2 灰黄褐色土　粘性やや弱。しまりやや中。炭化物若干含む。
7. 10YR6/2 灰黄褐色土　粘性やや弱。しまりやや中。
8. 10YR6/1 褐灰色土　粘性やや弱。しまりやや強。黒色土中量しみ状に含む。
9. 10YR3/1 黒褐色土　粘性やや弱。しまりやや強。黒色土均一にやや多い。
10. 10YR6/2 灰黄褐色土　粘性中。しまりやや中。
11. 10YR6/1 褐灰色土　粘性やや弱。しまりやや強。炭化物若干。黄褐色土しみ状に中量。黒色土しみ状に中量。
12. 10YR6/1 褐灰色土　粘性やや弱。しまりやや強。炭化物若干。黄褐色土やや多い。黒色土しみ状に中量。
13. 2.5Y6/6 明黄褐色土　粘性弱。しまり弱。黒色土若干。砂質土。
14. 10YR3/1 黒褐色土　粘性やや弱。しまりやや中。黄褐色土やや多い。黒色土均一にやや多い。
15. 2.5YR4/4 赤黄色土　粘性弱。しまりやや弱。5層土と9層（SZ）土との混合土。砂質土。
16. 10YR6/2 灰黄褐色土　粘性中。しまりや中。黄褐色土しみ状に若干混入。
17. 10YR5/1 褐灰色土　粘性中。しまりや中。明灰褐色土しみ状に若干混入。
18. 10YR5/1 褐灰色土　粘性中。しまりや中。明灰褐色土しみ状に若干混入。
19. 10YR7/6 明黄褐色土　粘性中。しまりや中。炭化物若干。
20. 10YR2/2 黒褐色土　粘性中。しまりや中。炭化物若干。鉄分若干。
21. 10YR6/2 灰黄褐色土　粘性やや中。しまりやや中。やや砂質がある。
22. 10YR5/2 灰黄褐色土　粘性やや中。しまりやや中。
23. 10YR5/2 灰黄褐色土　粘性やや中。しまりやや中。
24. 10YR5/2 灰黄褐色土　粘性やや中。しまりやや中。
25. 10YR5/2 灰黄褐色土　粘性やや中。しまりやや中。
26. 10YR4/2 灰黄褐色土　粘性やや中。しまりやや中。
27. 10YR4/2 灰黄褐色土　粘性やや中。しまりやや中。黄褐色砂しみ状にやや多く混入。
28. 10YR5/2 灰黄褐色土　粘性やや中。しまりやや中。骨落土か？
29. 10YR5/2 灰黄褐色土　粘性やや中。しまりやや中。炭化物若干。
30. 2.5Y7/3 浅黄色土　粘性やや中。しまりやや中。
31. 2.5Y6/6 明黄褐色土　粘性中。しまりや中。
32. 10YR4/1 褐色土　粘性中。しまりや中。
33. 10YR5/1 褐灰色土　粘性中。しまりやや中。炭化物若干。
34. 10YR2/1 黒色土　粘性やや強。しまりやや強。炭化物若干。褐灰色土がしみ状に若干混入。
35. 10YR2/1 黒色土　粘性中。しまりや中。炭化物若干。黄褐色砂（地山の土）しみ状に若干混入。
36. 10YR2/1 黒色土　粘性中。しまりや中。炭化物中量。黄褐色砂（地山の土）しみ状に多く混入。
37. 10YR7/6 明黄褐色土　粘性やや強。しまりやや強。炭化物若干。36層と地山の土との混合土。
38. 10YR7/6 明黄褐色土　粘性やや強。しまりやや強。炭化物若干。鉄分若干。36層と地山の土との混合土。
39. 10YR7/6 明黄褐色土　粘性やや強。しまりやや強。炭化物若干。鉄分微量。36層と地山の土との混合土。

0　2m

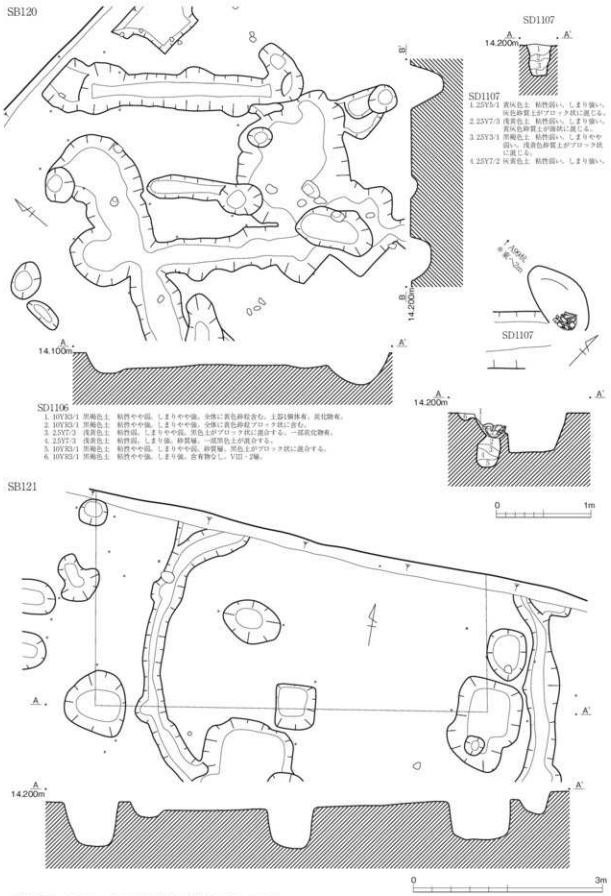
第62図　SI27・SI30実測図（縮尺1/50）



第63図　SB116・SB117実測図（縮尺1/60）



第64図　SB118・SB119実測図（縮尺1/60）



第65図　SB120・SB121実測図（縮尺1/60・1/40）

やや狭い。方位はＮ46°Ｗである。南の柱穴Ｃ112SP101には柱根が残っていた。

SB124（第66図）　Ｃ・Ｄ109・110区に位置し、南側の大半は調査区外となる。確認されたのは３本で、長さ約3.4ｍを測り、柱穴は深さ約0.5ｍで、比較的しっかり造られている。

SB125（第66図）　Ｃ・Ｄ108・109区に位置し、南側調査区外へ続く。１間×２間と考えれば、桁行約3.7ｍ、梁行約1.8ｍ、方位Ｎ53°Ｗを測る。柱穴は下部に向かって狭くなり上部直径0.4ｍ前後、下部直径0.2ｍ前後で深さ約0.6ｍである。

SB126（第67図）　Ａ・Ｂ116・117に位置する。１間×２間で、桁行約3.7ｍ、梁行約2.7ｍ、方位Ｎ73°Ｅを測る。切り合いがほとんど無く、単独で検出した。柱穴は0.5ｍ前後で深さ約0.45ｍ、断面は箱形に近い。遺物は、ピット内から小型の銅鏃が１点出土している。

SB127（第67図）　Ｂ111に位置する。１間×２間で桁行約3.75ｍ、梁行約３ｍ、方位Ｎ88°Ｗを測る。北列は僅かに東側へ振れる。SK5385やSK5371などと切り合うため、柱穴の大きさはばらつきがある。深さは0.5ｍ前後に収まる。

SB128　Ｂ・Ｃ99・100区に位置する。２間×１間で、桁行約５ｍ、梁行約３ｍ、方位Ｎ41°Ｗを測る。柱穴は直径約0.6ｍで深さ0.3～0.4ｍである。南東端で、SD1100を切る。遺物は、弥生時代後期土器が少量出土している。

（４）土坑

Ａ．SI25外周土坑列

SK5198・5199（第68図）　Ａ・Ｂ96区に位置する。SI25の東側外周土坑列の１つである。当初、２基の土坑の連続と考えたが、切り合いは明確ではなく、１基と考えて良さそうである。長楕円形で、約3.9ｍ×1.35ｍ、深さ2.2～2.8ｍ、方位Ｎ12°Ｅを測る。断面は浅皿状で、SK5198とSK5199の境付近は0.1ｍ程度立ち上がる。遺物は、弥生時代後期の土器片が少量出土したに過ぎない。SK5198南には、礫がまとまって出土している。

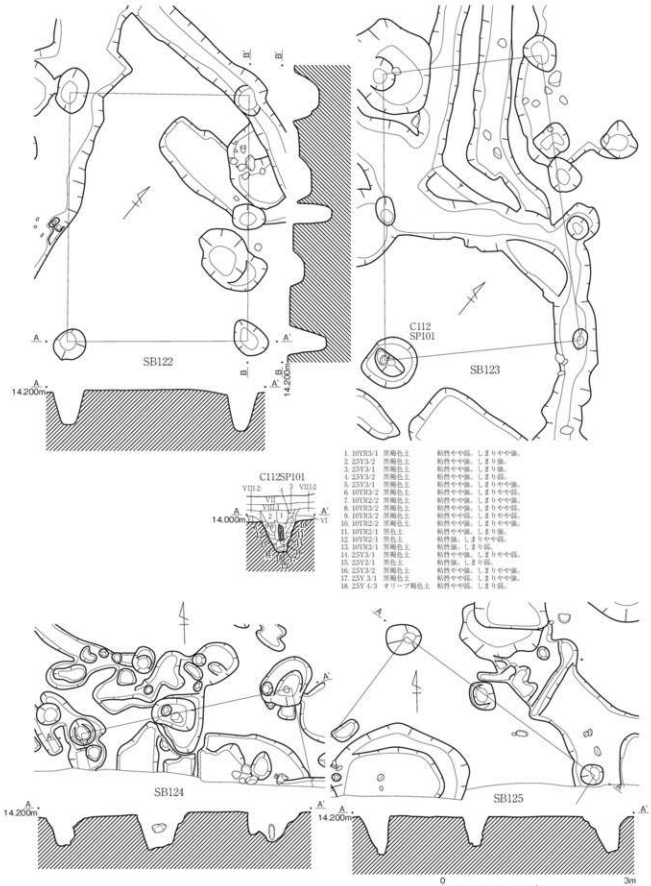
SK5210（第68図）　Ａ・Ｂ96・97区に位置する。SI25の外周土坑列の１つで、SK5199の西に平行する。西側は弧を描き東側は直線的になる。約3.7ｍ×1.25ｍ、深さ約0.2ｍ、方位Ｎ９°Ｅを測る。埋土内および周辺部に弥生時代後期の土器片が中央付近を中心にやや多く出土している。

SK5225・5245（第68図）　Ａ96区、SK5198のすぐ北に位置する。SI25の外周土坑の１つで、２基はほぼ接するような状態で並ぶ。SK5225は楕円形で、約1.45ｍ×0.65ｍ、深さ約0.1ｍ、方位Ｎ３°Ｅを測る。SK5245は、小判形で、約1.15ｍ×0.45ｍ、深さ約0.1ｍ、方位Ｎ４°Ｗを測る。これらの遺構の上面から、最大で長さ0.6ｍ、幅0.35ｍ、厚さ0.12ｍの白色粘土ブロックが２塊検出された。遺物は弥生時代後期の高付片がそれぞれで出土している。

SD1125（第68図）　Ｂ97区に位置する。SI25の外周土坑列の１つで、SK5200の南に接する。
溝状で、長さ約3.1ｍ、幅0.45～0.6ｍ、深さ約2.2ｍ、方位Ｎ60°Ｅを測る。北東部分から、弥生時代後期の甕形土器口縁部が出土したほか、南西部上層で多数の土器片が出土している。南東に隣接するSD1126との間には、多量の土器片が集積していた。

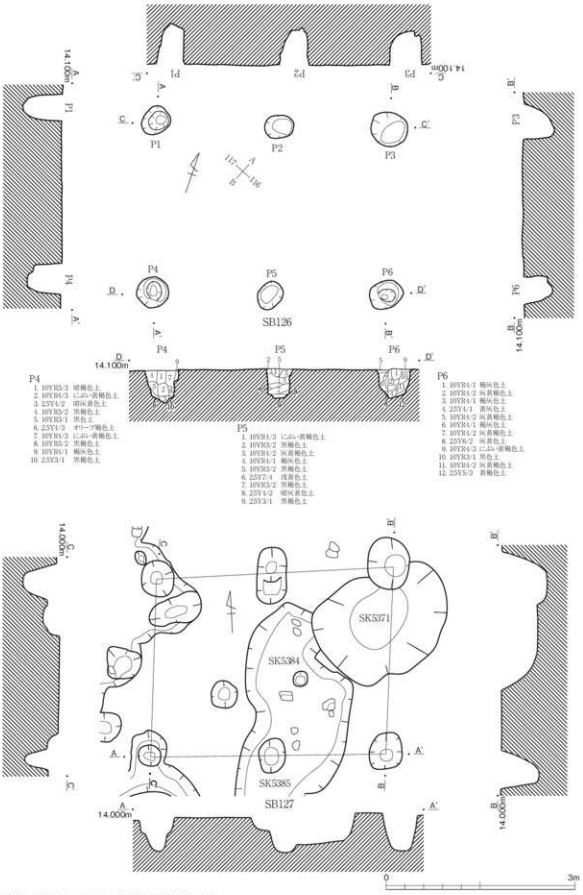
SK5226・5227（第69図）　Ａ96区に位置する。２基が南北に重なると考えたが、一体のものと考えてもよいかもしれない。SK5226は卵形で、約1.4ｍ×0.95ｍ、深さ約0.2ｍ、方位Ｎ６°Ｅを測る。南東肩部に、弥生時代後期の長頸壺が完形に近い状態で横たわっていた。

SK5246（第69図）　Ａ96区のSK5226のすぐ南に位置する。楕円形で約0.94ｍ×0.7ｍ、深さ0.15ｍ、



1. 10YR3/1　黒褐色土　粘性やや弱、しまりやや強。
2. 2.5Y3/2　黒褐色土　粘性やや強、しまり強。
3. 2.5Y3/1　黒褐色土　粘性やや強、しまり強。
4. 2.5Y3/2　黒褐色土　粘性やや強、しまり強。
5. 2.5Y3/1　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強。
6. 10YR3/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや弱。
7. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強。
8. 10YR3/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや弱。
9. 10YR3/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強。
10. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強。
11. 10YR2/1　黒色土　粘性やや強、しまり強。
12. 10YR2/1　黒色土　粘性強、しまりやや弱。
13. 10YR3/1　黒褐色土　粘性強、しまり弱。
14. 2.5Y3/1　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや弱。
15. 2.5Y2/1　黒色土　粘性強、しまり弱。
16. 2.5Y3/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強。
17. 2.5Y 3/1　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強。
18. 2.5Y 4/3　オリーブ褐色土　粘性やや強、しまり弱。

第66図　SB122・SB123・SB124・SB125実測図（縮尺1/60）



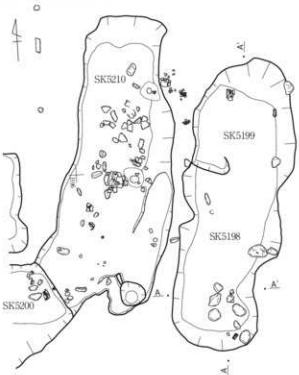
P4
1. 10YR3/3 暗褐色土
2. 10YR1/3 にぶい黄褐色土
3. 2.5Y4/2 暗灰黄色土
4. 10YR3/2 黒褐色土
5. 10YR3/1 黒色土
6. 2.5Y4/3 オリーブ褐色土
7. 10YR4/3 にぶい黄褐色土
8. 10YR3/2 黒褐色土
9. 10YR4/4 褐灰色土
10. 2.5Y3/1 黒褐色土

P5
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土
2. 10YR3/2 黒褐色土
3. 10YR4/2 灰黄褐色土
4. 10YR4/1 褐灰色土
5. 10YR3/2 黒褐色土
6. 2.5Y7/4 浅黄色土
7. 10YR3/2 黒褐色土
8. 2.5Y4/2 暗灰黄色土
9. 2.5Y3/1 黒褐色土

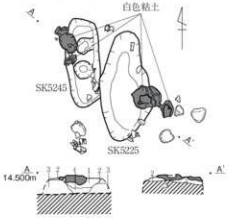
P6
1. 10YR4/1 褐灰色土
2. 10YR4/2 灰黄褐色土
3. 10YR4/4 褐灰色土
4. 2.5Y4/1 黄灰色土
5. 10YR4/2 灰黄褐色土
6. 10YR4/1 褐灰色土
7. 10YR4/2 灰黄褐色土
8. 2.5Y6/2 灰黄色土
9. 10YR3/3 にぶい黄褐色土
10. 10YR3/1 黒色土
11. 10YR4/2 灰黄褐色土
12. 2.5Y5/3 黄褐色土

第67図　SB126・SB127実測図（縮尺1/60）

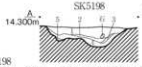
SK5198·5198·5200·5210



SK5225·SK5245

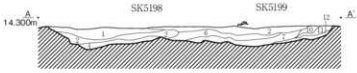


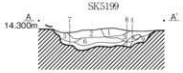
1. 25Y3/2 黒褐色土 粘性やや強、しまりやや強、白色粘土小ブロック（φ2～3cm）と粒含む、炭粒少量含む、層1層行。
2. 25Y3/2 黒褐色土 粘性やや強、しまりやや強、白色粘土粒少すかに含む。層1層行。
3. 25Y2/1 黒色土 粘性やや強、しまりやや強、白色シルト粒やや多く含み、炭粒少やや多い、層2層行
4. N2 黒色土 粘性やや強、しまりやや強、3と似るがやや黒い。下層に炭粒多く含む、下に遺構。



SK5198

1. 25Y2/1 黒色土 粘性強、しまり強、炭化物やや多し。
2. 25Y2/1 黒色土 粘性強、しまり強、
炭炭色土(地山の土)粒子的に多く含む。
3. N2/1 黒色土 粘性強、しまり強、炭化物少量含む。
4. 25Y2/1 黒色土 粘性強、しまりやや強、
地山の土(黄灰色砂質土)ブロックで多く含む。
5. 10YR4/1 褐灰色土 粘性強、しまり強、黒色土との混土。





SK5198·SK5199

1. 10Y3/2-1 黒色土 粘性強、しまりやや強、黄灰色ブロック微量、炭化物やや多い。
2. 10YR2/1-1 黒色土 粘性強、しまりやや強、黄灰色ブロックかなり多い。
3. 25Y2/1 黒色土 粘性強、しまり強、黄灰色ブロック多い。
4. N1.5/0 黒色土 粘性強、しまり強、
5. N2/0 黒色土 粘性強、しまり強、炭化物ブロック(φ5mm)微量含む。
6. N1.5/0 黒色土 粘性強、しまり強、黄灰色ブロック微量、炭化物少量。
7. N2/0 黒色土 粘性強、しまり強、黄灰色ブロック微量含む。
8. 25Y2/1 黒色土 粘性強、しまり強、黄灰色ブロックかなり多い。
9. 2.5Y5/2 明灰黄色土 地山層色土、明灰黄色土少量混入。
10. 25Y2/1 黒色土 粘性強、しまり強、
(10YR4/1褐灰色)の粘質土ブロックかなり多し。
11. N2/1 黒色土 粘性強、しまりやや強、
(10YR4/1褐灰色)の粘質土ブロック少量。
12. 10YR2/1-1 黒色土 粘性強、しまり強、黄灰色土ブロック少量含む。

SD1125·SD1126

SD1125・1126

1. 10Y2/1 黒色土 粘性やや強、しまりやや強、やや粘質のある土。
2. 10Y3/1 黒色土 粘性やや強、しまりやや強、黄色土多く混入する、
しみ状、炭少やや多い。
3. 10YR1.7/1 黒色土 粘性やや強、しまりやや強、やや粘質のある土。
黄色砂粒状に混入する、土器片含む。
4. 10Y3/1 黒色土 粘性やや強、しまりやや強、黄色砂微量混入する。
土器片含む、炭少少量含む。
5. 10Y3/1 にぶい黄褐色土 粘性強、しまりやや強、地山壁。
6. 10Y3/3 にぶい黄褐色土 粘性強、しまりやや強、地山土ブロック、黒色土少量混入する。
7. 10Y3/2-1 黒色土 粘性強、しまりやや強、粘質の強い土、黄色砂少量混入する。
8. 10Y3/3-2 黒褐色土 粘性やや強、しまりやや強、黄色砂混入する。
9. 10Y3/2-1 黒色土 粘性強、しまりやや強、炭少多く含む、赤味が強い。
10. 10Y3/2-1 黒色土 粘性やや強、しまりやや強、地山土ブロック少量混入する、
土器片含む。

第68図 SI25東側土坑群実測図1（縮尺1/50）

方位N61°Wを測る。中央付近から弥生時代後期の甕形土器が完形に近い状態で、口を斜め上にした状態で横たわっていた。

SK5206（第69図）　C96区に位置する。SI25の外周土坑になるか微妙な位置にある。SD1062の南東に平行しているが、これに連なる土坑は存在しない。長さ約3.9m、幅約1.2m、深さ約0.2m、方位N53°Eを測る。断面は浅皿状で、遺物は南側に破片が散る程度である。

SD1062（第69図）　B・C96・97区に位置する。僅かに弧を描く溝状土坑である。長さ約5.1m、幅0.8～１m、深さ約0.24mである。断面は浅皿状で、自然堆積である。南西壁際で、弥生時代後期の高坏が、完形に近い状態で口を東に向けて横たわっていた。

SK5195（第69図）　C96・97区に位置する。隅丸方形で、一辺は約0.96m、深さ約0.05mを測る。中央に大礫１個と小礫数個が置かれ、西側の肩部には、ほぼ１個体分の弥生時代後期の長頸壺がバラバラになった状態で集積していた。

玉材片集積（第69図）　A95区のⅦb層で、管玉の素材となる緑色凝灰岩片が11点まとまって出土している。最大は約３㎝大で、大半は荒割した１～２㎝大の剥片である。

B．その他の土坑等

SD1085（第70図）　C105・106区に位置し、東はSI26に切られる。長楕円形の溝状土坑で、残存長約4.5m、幅１～1.4m、深さ約0.7m、方位N68°Wを測る。断面はV字状で、上層から綺麗なレンズ状堆積をする。遺物は比較的多く、弥生時代後期の土器片が埋土中に含まれていた。

SD1186・1191（第70図）　C・D105～107区で、東のSI26と北のSI32に挟まれた位置にある。SD1086は、SD1085に北東側を切られ、SD1091を切って北西に延び、南はSI26に切られ、調査区外に延びる。幅は３m前後と考えられ、深さは約0.4mを測る。SD1191は、SD1186に直交する形で重なり、南は調査区外に延びる。南に向かって幅は広がり、深さはSD1186よりやや浅く約0.3mを測る。遺物はSD1186の南壁際に沿って弥生時代後期の土器片が多く出土しているが、SD1191では少ない。

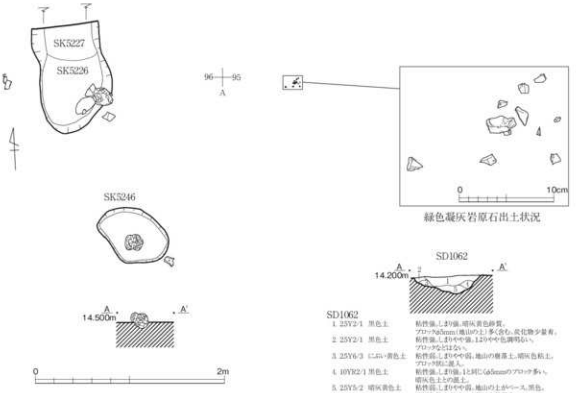
SK5202・5205（第71図）　A95区に位置する。SK5292がSK5205を切る形で南北に連結している。SK5202は、楕円形で、約1.3m×１m、深さ約0.3m、方位N11°Eを測る。断面は浅皿状で、自然堆積である。掘り込みは、SK5205の埋土中で止まる。埋土中から多くの弥生時代後期の土器片が出土し、南側底部近くには、20㎝大の礫が見られた。

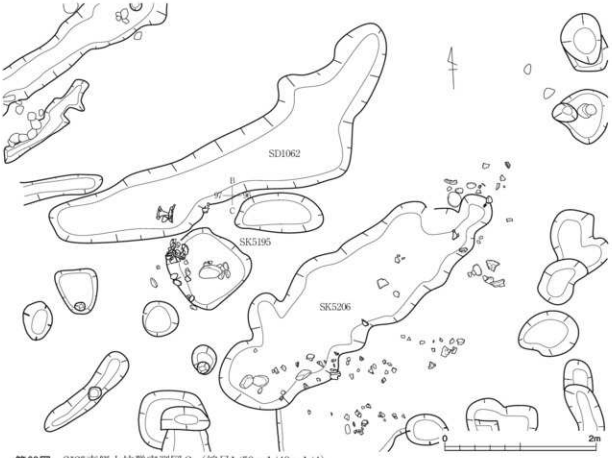
SK5205は推定で約1.65m×0.7m、深さ約0.3m、方位N５°Wを測る。断面は箱形で、埋土は自然堆積である。遺物は少ないが、南で20㎝大の礫が見られた。

SK5203（第71図）　A95区に位置する。円形で約２m×1.8m、深さ0.35m、方位N85°Wを測る。断面はU字状で、埋土は自然堆積である。遺物は東壁際に弥生時代後期の土器片がやや多く出土している。

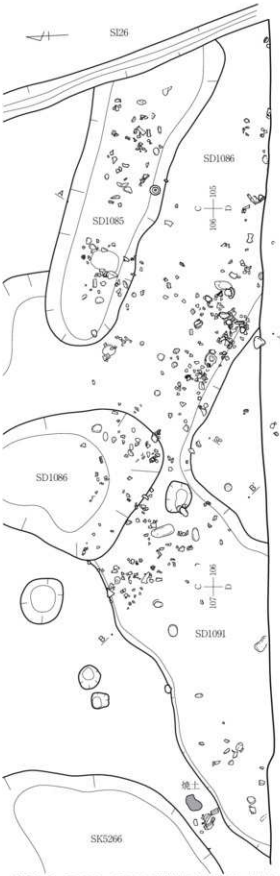
SK5231（第71図）　A92区に位置する。西側はSK5230を切る。楕円形で、約1.9m×0.8m、深さ約0.35m、方位N41°Wを測る。断面は擂り鉢状で、埋土はブロック堆積である。礫が多く見られるが、遺物は弥生時代後期の土器片が少量あるのみである。墓壙の可能性がある。

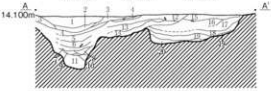
SK5232（第71図）　A92・93区に位置する。北は調査区外で全形は不明である。小判形と考えられ、残存長は約1.38m、幅約1.1m、深さ約4.6m、方位N10°Wを測る。断面は擂り鉢状で、埋土は下層ではブロック堆積、上層は自然堆積と考えられる。底面に20㎝大の礫が３個と小礫が数個見られた。遺物は少ない。





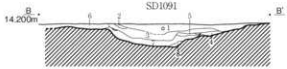
第69図　SI25東側土坑群実測図２（縮尺1/50・1/40・1/4）





SD1085

1.10YR3/2	黒褐色土	粘性弱。しまり強。黄色土をφ2mm大のブロックで多く含む。 炭化物少量含む。
2.7.5YR3/3	黒褐色土	粘性弱。しまりやや強。黄色土少量。炭化物やや少量含む。 焼土粒子。（下層）
3.10YR2/2	黒褐色土	粘性弱。しまりやや強。 黄色土粒子（1mm以下）やや多く、炭化物粒子多い。
4.5YR1/7.1	黒色土	粘性やや強。しまりやや強。 炭化物層。土層で炭化物片多く、分析に土壌化。
5.10YR2/1	黒色土	粘性やや強。しまりやや強。黄色土ブロック状にやや多く含む。 最下部にとどろうすく炭化物層がある。
6.10YR2/1	黒色土	粘性やや強。しまりやや強。5よりも粘性やや強く。 炭化物片少量含む。最下部にとどろうすく炭化物層が入る。
7.7.5YR1.7/1	黒色土	粘性やや強。しまりやや強。砂質土。
8.7.5YR1.7/1	黒色土	粘性やや強。しまりやや強。 黄色土ブロック（φ1cm以下）やや多く含む。
9.10YR1.7/1	黒色土	粘性強。しまりやや強。黄色土ブロック（φ1cm大）多く含む。
10. 10YR3/2	黒褐色土	粘性やや強。しまりやや強。ブロック。
11. 10YR1.7/1	黒色土	粘性強。しまり弱。砂質土。
12. 10YR2/1	黒色土	粘性やや強。しまりやや強。5に似る。黄色土・炭化物少量含む。
13. 10YR2/1	黒色土	粘性やや強。しまりやや強。6に似る。黄色土多く含む。
14. 10YR2/1	黒色土	粘性やや強。しまりやや強。黄色土ブロック状に多く含む。
15. 10YR3/2	黒褐色土	粘性やや強。しまりやや強。 黄色土ブロック状にやや多く含む。砂質。
16. 10YR2/1	黒色土	粘性やや強。しまりやや強。炭化物微量含む。
17. 10YR2/1	黒色土	粘性やや強。しまりやや強。黄色土微量含む。
18. 10YR1.7/1	黒色土	粘性やや強。しまりやや強。炭化物微量。黄色土粒少量含む。
19. 10YR1.7/1	黒色土	粘性やや強。しまりやや強。黄色土ブロック多量。 まだら状を呈し、埋め足しか？
20. 10YR1.7/1	黒色土	粘性強。しまりやや強。黄色土ブロック少量。 まだら状を呈す。19よりも黒色土の割合が高い。

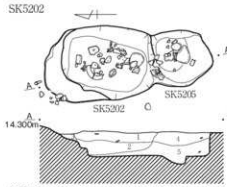


SD1091

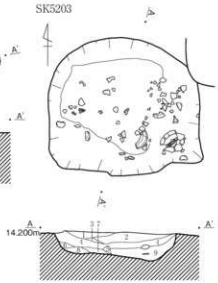
1.7.5YR3/1	黒褐色土	粘性弱。しまり強。炭化物。
2.7.5YR2/1	黒色土	黄色土粒子（φ1mm以下）やや多く含む。やや砂質。
3.7.5YR2/1	黒色土	粘性やや強。しまりやや強。炭化物少量含む。
4.10YR2/1	黒色土	粘性やや強。しまりやや強。 炭化物ブロック（φ1cm以下）やや多く含む。 黄色土粒子少量含む。埋土下のみ微量混入。
5.10YR2/1	黒色土	粘性弱。しまりやや強。黄色土粒子（φ1mm以下）やや多く含む。
6.7.5YR2/1	黒色土	粘性やや強。しまりやや強。 炭化物。黄色土ブロック（φ5mm以下）少量含む。
7.10YR2/1	黒色土	粘性やや強。しまりやや強。炭化物少量。黄色土やや少量含む。
8.10YR2/1	黒色土	粘性やや強。しまりやや強。黄色土ブロック状にやや多く含む。

0　　2m

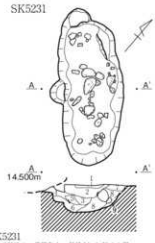
第70図　SD1086・SD1091遺物出土状況図（縮尺1/50）



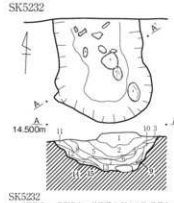
SK5202
1. 25Y2/1 黒色土 粘性強、しまりやや強、炭化物5mm前のブロックや量、黄褐色土粒やや多く混入。
2. N2/0 黒色土 粘性強、しまり強、黄褐色砂がブロックでやや多く混入。
3. 10YR3/1 黒色土 粘性強、しまりやや強、地山の土がやや混じる。
4. 25Y2/1 黒色土 粘性強、しまり強、炭化物やや多く(ブロックで混入)。
5. N1.5/0 黒色土 粘性強、しまり強、炭化物少量、黄褐色土(5mm前)のブロックやや多い。



SK5203
1. 10YR1.7/1 黒色土 粘性やや強、しまり強、黄色砂質土ブロック状に含む。
2. 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや強、しまり強、黄色砂質土ブロック状に含む。
3. 10YR3/4 暗褐色土 粘性やや強、しまり強、黄褐色砂粒多量に含む。
4. 25Y2/1 黒色土 粘性やや強、しまり強。
5. 10YR3/1 黒色土 粘性やや強、しまり強、白色粘質土(A-16)に含む。
6. 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや強、しまり強。
7. 10YR2/1 黒色土 粘性やや強、しまり強、砂粒子若干含む。
8. 10YR2/1 黒色土 粘性やや強、しまり強、黄色砂質土多量に混入。
9. 10YR1.7/1 黒色土 粘性やや強、しまり強。

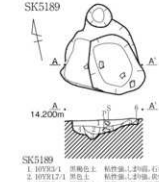


SK5231
1. 25Y5/4 黄褐色土 粘性なし、しまりやや弱、砂質つよく細い。
2. 75YR3/1 黒褐色土 粘性やや強、しまりやや弱、炭化物少量含む。
3. 75YR3/1 黒褐色土 粘性やや強、しまりやや強、黄褐色土ブロック少量混入。
4. 25Y5/4 黄褐色土 粘性なし、しまりやや弱、砂質つよく細い。
5. 75YR3/1 黒褐色土 粘性強、しまりやや強。
6. 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや強、しまりやや強、黄褐色土ブロックかなり多く混入また75.8は生ず、炭化物もやや多い。
7. 25Y5/4 黄褐色土 粘性弱、しまりやや弱、つよく細い砂質。
8. 10YR2/1 黒色土 粘性強、しまりやや強、炭化物やや多く混入。
9. 10YR2/1 黒色土 粘性強、しまりやや強、黄褐色土ブロックやや多くまだら状を生ず。



SK5232
1. 25Y5/3 黄褐色土 粘性弱、しまりやや強、砂質上、炭化物少量含む。
2. 25Y5/4 黄褐色土 粘性弱、しまりやや弱、砂質。
3. 10YR3/1 黒褐色土 粘性強、しまりやや強、暗褐色の流れ込み。
4. 25Y5/4 黄褐色土 粘性やや強、しまりやや強、砂質上。
5. 25Y5/4 黄褐色土 粘性やや強、しまりやや強、炭化物微量。
6. 75YR3/1 黒褐色土 粘性やや強、しまり強、25層ブロック状に少量含む。
7. 10YR2/1 黒色土 粘性強、しまり強、炭化物やや多く含む。
8. 75YR3/1 黒褐色土 粘性強、しまり強、黄色砂微量ブロック状に含む。
9. 10YR2/1 黒色土 粘性やや強、しまり強。
10. 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや強、しまり強、地山のとが多量に混入。
11. 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや強、しまり強、10と同色。
12. 25Y5/4 黄褐色土 粘性やや強、しまり強、(75YR3/1黒褐色)がやや多くブロック状に混入。
13. 10YR17/1 黒色土 粘性強、しまりやや強、炭化物多量に含む。
14. 10YR17/1 黒色土 粘性強、しまりやや強、地山の土少量含む。
15. 25Y7/2 灰黄色土 粘性弱、しまり強。

SK5235
1. 10YR2/1 黒色土 粘性強、しまり弱、粘土質の上。
2. 10YR1.7/1 黒色土 粘性やや強、しまりやや弱、白色粘土質ロが混入。
3. 25Y6/6 明黄褐色土 粘性弱、しまり弱、黄色の砂質土。
4. 10YR2/1 黒褐色土 粘性強、しまりやや強。
5. 10YR4/1 褐灰色土 粘性弱、しまり弱、粘質土、炭化物・黄色砂質土含む。
6. 10YR2/1 黒色土 粘性やや強、しまり弱、炭化物・黄分少量含む。
7. 25Y4/2 暗灰黄色土 粘性弱、しまり弱。
8. 10YR3/1 黒褐色土 粘性強、しまり弱、粘土質の強い土。
9. 25Y5/3 黄褐色土 粘性強、しまりやや強。
10. 25Y4/1 黄灰色土 粘性やや強、しまりやや弱。



SK5189
1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性強、しまり弱、石含む粘質土。
2. 10YR1.7/1 黒色土 粘性強、しまり強、炭を少所所含む。
3. 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや強、しまり弱、鉄分・炭化物多く含む。
4. 10YR2/1 黒色土 粘性やや弱、しまり弱、上層色がザラザラした土。
5. 10YR3/1 黒褐色土 粘性弱、しまり弱、全体に砂っぽい土。
6. 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや強、しまりやや弱。

0 2m

第71図 中地区土坑実測図1 (縮尺1/50)

SK5242･5243（第71図）　B93区に位置する。浅い土坑SK5242を切ってSK5243が掘られている。SK5242は不整形な土坑で、約1.6m×1.1m、深さ約0.1m、方位N73°Eを測る。中央付近に炭化材が見られ、遺物は破片だが全体に多く出土した。

SK5243は、隅丸方形で、約1.1m×0.64m、深さ約0.2m、方位N66°Eを測る。断面は箱形で、中央南西側から、有段口縁鉢のほぼ１個体が潰れた状態で出土した。

SK5235（第71図）　A91区、川４の西岸際に位置する。南は、川４の岸にかかる。楕円形と考えられ、約1.25m×0.85m、深さ約0.2m、方位N12°Wを測る。断面は擂り鉢状で、埋土はブロック堆積で、南の上層面には弥生時代後期土器の集積が見られた。

SD1068（第72図）　C98区に位置する。溝状の土坑で、南側が狭くなる。約2.65m×1.1m、深さ約0.3m、方位N５°Eを測る。断面はV字状で、埋土は綺麗な縞状堆積である。遺物は全体で弥生時代後期土器が出土し、中央西壁際には20cm大の礫が見られた。

SK5263（第72図）　C・D101区に位置する。小判形で、約0.9m×0.56m、深さ0.16m、方位N26°Wを測る。断面は浅皿状で、埋土は自然堆積である。遺物は主として上層から、弥生時代後期土器の破片が出土している。

SK5250（第72図）　C・D100区に位置する。SK5251を切り、南半分は調査区外である。楕円形と考えられ、推定長1.8m、幅約1.05m、深さ0.46m、方位N51°Wを測る。断面は擂り鉢状で、埋土は縞状堆積だが、下層にはブロック土が見られ、埋め戻した可能性がある。遺物量は少ない。

SK5251（第72図）　SK5250に南を切られる。円形と考えられ、直径約1.1m、深さ0.35m、方位N40°Eを測る。断面はU字状で埋土は縞状堆積である。遺物は少量弥生時代後期土器片が出土した。

SK5252（第72図）　C100区に位置し、西でSK5253を不整な円形で、直径約1.55m、深さ0.44mを測る。断面は擂り鉢状を呈し、埋土はブロック堆積が見られ、全体に弥生時代後期土器片が多く含まれていた。

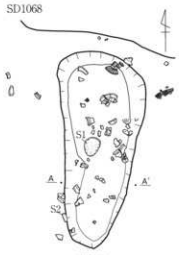
SK5266（第72図）　C107・108区に位置する。楕円形で、約４m×2.３m、深さ約0.48m、方位N55°Eを測る。断面は箱形で、埋土は下層でブロック堆積、上層で縞状堆積となる。遺物は南東側を中心に多量に出土し、25cm大の礫も含まれていた。弥生時代後期土器の破片が中心で、器形を残すようなものはない。

SK5282（第73図）　B・C107区に位置する。崩れた隅丸方形で、約2.1m×1.9m、深さ約5.6m、方位N63°Eを測る。断面はボウル状で、埋土は縞状堆積となる。遺物は中央付近多く出土しているが、弥生時代後期土器の破片が大半である。

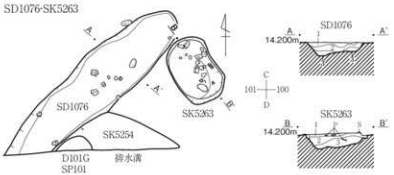
SK5361（第73図）　B・C109・110区に位置する。北側にピットを持つ楕円形で、約2.3m×1.1m、深さ0.2～0.3m、方位N40°Wを測る。断面は浅皿状で、北側ピットは擂り鉢状を呈する。埋土は自然堆積で、北側ピット内も同時に埋まっている。遺物は北側ピットで、弥生時代後期の有段口縁鉢や高坏脚などがみられた。

SK5308･5309（第73図）　B・C109区のSK5361に位置し、SK5361に隣接する。２基で茄子形となるが、SK5309をSK5308が切るように重なっている。全体で約2.98m×1.4m、深さ0.25～0.4m、方位N８°Wを測る。断面は浅皿状で、SK5308の方がやや深い。堆積状況から、SK5308はSK5309の一部を掘り返したものと考えられる。遺物はSK5309側に多く、礫も数点混じる。弥生時代後期だが破片が大半である。

SK5303･SK5398（第74図）　B・C100・101区に位置する。楕円形の２基の土坑が幅0.3～0.4mの溝

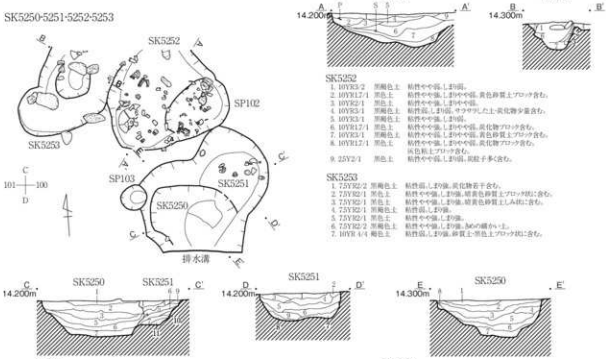


SD1068
1. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや強し,まり弱,砂粒多(含む。
2. 10YR2/1　黒色土　粘性やや強し,まり弱,山に似た土。
3. 10YR2/2　黒褐色土　粘性強し,まり強,保ちがゆるく。
4. 10YR3/1　黒褐色土　粘性強し,まり弱,黄色の砂質土ブロック含む。
5. 10YR2/1　黒色土　粘性やや強し,まり弱。



SD1076
1. 10YR2/1　黒色土　粘性やや強し,まり弱。
2. 10YR4/1　黒色土　粘性やや強し,まり弱。
3. 10YR3/1　黒褐色土　粘性やや強し,まり弱,黄色砂質土ブロック多(含む。炭化物含む。
4. 10YR4/1　褐灰色土　粘性やや強し,まり弱,黄色砂質土ブロック含む。炭化物少量含む。
5. 10YR3/2　黒褐色土　粘性やや強し,まり弱,黄色砂粒少量含む。
6. 10YR3/3　暗褐色土　粘性強し,まり弱。
7. 10YR1.7/1　黒色土　粘性やや強し,まり弱,炭粒子少量含む。
8. 10YR3/1　黒褐色土　粘性やや強し,まり弱,黄色砂質土ブロック多量に含む。
炭化物ブロック含む。

SK5263
1. 10YR3/1　黒褐色土　粘性やや強し,まり弱,鉄分・炭粒子多(含む。
2. 10YR3/2　黒褐色土　粘性やや強し,まり弱,黄色砂粒子(含む。
3. 2.5Y3/3　明オリーブ褐色土　粘性やや強し,まり弱,黄色砂質土ブロック多(含む。



SK5252
1. 10YR3/2　黒褐色土　粘性やや強し,まり弱。
2. 10YR17/1　黒色土　粘性やや強し,まりやや弱,黄色砂質土ブロック含む。
3. 10YR2/1　黒色土　粘性やや強し,まりやや弱。
4. 10YR3/1　黒褐色土　粘性強し,まり弱,サラサラし,たま炭化物少量含む。
5. 10YR3/1　黒褐色土　粘性やや強し,まり弱。
6. 10YR17/1　黒色土　粘性やや強し,まりやや弱,炭化物ブロック含む。
7. 10YR3/1　黒褐色土　粘性やや強し,まりやや弱,黄色砂質土ブロック含む。
8. 10YR12/1　黒色土　粘性やや強し,まりやや弱,炭化物ブロック含む。
灰色粘土ブロック含む。
9. 2.5Y2/1　黒色土　粘性やや強し,まり弱,炭粒子多(含む。

SK5253
1. 7.5YR3/2　黒褐色土　粘性強し,まり強,炭化物若干含む。
2. 7.5YR2/1　黒色土　粘性やや強し,まり強,砂黄色砂質土ブロック少(に含む。
3. 7.5YR2/1　黒色土　粘性やや強し,まり強,砂黄色砂質土しみ出に含む。
4. 7.5YR2/1　黒褐色土　粘性強し,まり強。
5. 7.5YR2/1　黒色土　粘性やや強し,まり強。
6. 7.5YR2/2　黒褐色土　粘性やや強し,まり強,あめの縞がへ上。
7. 10YR 4/4　褐色土　粘性強し,まり強,砂質土・黒色土ブロック(に含む。

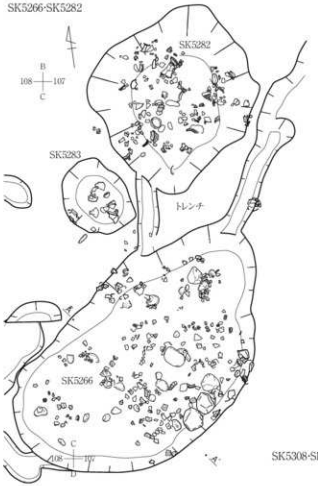
SK5251
1. 10YR3/2　黒褐色土　粘性強し,まり強,黄橙色砂質土多量混入。
2. 10YR1/2　氏褐色土　粘性強し,まり強,黒色ブロック(大)混入。
3. 10YR3/1　黒褐色土　粘性強し,まり強。
4. 10YR3/1　黒褐色土　粘性強し,まり強。
5. 10YR1/1　褐氏色土　粘性強し,まり強,鉄分・炭少量,土器混入。
6. 10YR2/1　黒色土　粘性強し,まり強,鉄分少量混入,炭粒量。
7. 10YR2/1　黒色土　粘性強し,まり強,16(白)色粘土少量混入,炭(小)粒量混入。
8. N2/0　黒色土　粘性強し,まり強,黄橙色砂質土の大きいブロック混入。
9. 7.5YR5/2　氏褐色土　粘性強し,まり強,小の黄橙色砂質土ブロック少量混入。
10. 10YR1/2　黒色土　粘性強し,まり強,中の黄橙色砂質土ブロック少量混入。
11. 10YR1/3　黒褐色土　粘性強し,まりやや強,強小一強大の黄橙砂質土ブロック多量混入。

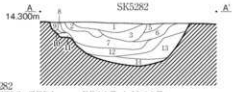
SK5250
1. 7.5Y3/1　黒褐色土　粘質強し,まりやや強,16(白)色土。
ブロック多量混入。
2. 10YR1/1　褐白色土　粘性強し,まり強,16(白)色。
16(白)ブロック多量混入。
3. 2.5Y4/1　黄灰色土　粘性強し,まりやや弱,16(白)色の大きい
ブロック少量混入。
4. 2.5Y5/1　黄灰色土　粘性強し,まり弱,16(白)色の大きいブロック
少量,黒色土多量混入。
5. 2.5Y3/1　黒褐色土　粘性やや強し,まりやや弱。
6. 10YR1/1　褐灰色土　粘性強し,まり弱,黒色土ブロック多量混入。
7. 2.5YR4/2　氏黒色土　粘性やや強し,まり強,褐灰色粘質土。
ブロック(大・小)多量に混入。
8. 10YR6/1　褐灰色土　粘性やや強し,まり弱。

0　2m

第72図　中地区土坑実測図２（縮尺1/50）

SK5266·SK5282





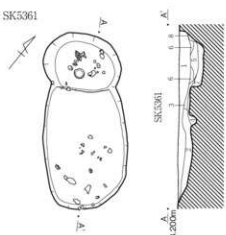
SK5282

1. 10YR2/3	暗褐色土	粘性やや弱。しまりやや弱。
2. 10YR2/3	暗褐色土	粘性やや弱。
3. 10YR3/2	黒褐色土	粘性やや弱。しまりやや強。 全体にブロック状に黄色砂粒が混在する。
4.		粘性やや強。しまりやや強。
5. 10YR2/2	黒褐色土	粘性やや強。しまりやや強。鉄分・炭化物含む。土器片有。
6. 10YR2/2	黒褐色土	粘性やや強。しまりやや強。 全体に炭化物微量含む。土器片有。
7. 10YR2/1	黒色土	粘性やや強。しまりやや強。 全体に炭化物含む。土器一括検出。
8. 10YR2/2	黒褐色土	粘性やや強。しまりやや強。
9. 10YR2/3	黒褐色土	粘性やや強。しまりやや強。
10. 10YR3/3	暗褐色土	粘性やや強。しまりやや強。
11. 10YR3/2	暗褐色土	粘性やや強。しまりやや強。黄色砂粒が全体にスジ状に混合する。
12. 10YR2/3	暗褐色土	粘性やや強。しまりやや強。全体に炭化物有。
13. 10YR1.7/1	黒色土	粘性強。しまり強。粘質土層。全体に炭化物多量に含む。
14. 10YR6/3	にぶい黄褐色土	粘性弱。しまりやや強。地山。

SK5266

1. 7.5YR3/3	暗褐色土	粘性弱。しまりやや強。パサパサしている。
2. 7.5YR3/2	褐色土	粘性やや強。しまり強。
3. 7.5YR3/2	黒褐色土	粘性弱。しまりやや弱。黄色砂粒含んでいる。
4. 7.5YR3/2	黒褐色土	粘性やや強。やや強粘質のみ。
5. 10YR3/2	黒褐色土	粘性やや弱。しまり強。黄色土しみ出に混入。
6. 5YR3/1	黒褐色土	しまり強。粘性やや弱。黄色土しみ出に混入。
7. 10YR2/1	黒色土	粘性やや強。しまり強。砂粒含んでいる。
8. 5YR3/1	黒色土	しまり強。粘性強。粘質土。炭化物多く含む。
9. 7.5YR2/2	黒褐色土	粘性強。しまり強。粘質土。
10. 7.5YR1.7/1	黒色土	粘性強。しまり強。粘質土。炭化物若干含む。
11. 7.5YR3/3	オリーブ褐色土	粘性弱。しまり弱。粘質土。黒褐土ブロック状に含む。
12. 10YR3/2	黒褐色土	粘性弱いし。しまり強。黄色砂粒含む。
13. 7.5YR3/2	黒褐色土	粘性やや弱。しまり強。炭化物が多い。
14. 7.5YR3/1	黒色土	粘性強。しまり強。黄色土しみ出に含む。

SK5361

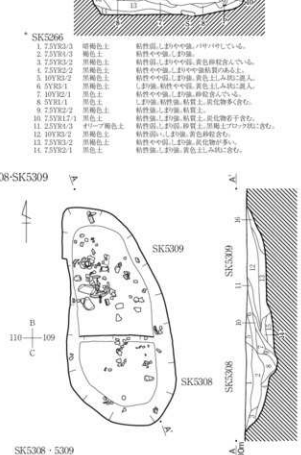


SK5361

1. 10YR2/2	黒褐色土	粘性やや強。しまりやや強。
2. 10YR2/2	黒褐色土	粘性やや強。しまりやや強。 全体に炭化物・鉄分含む。土器片多数有。
3. 10YR3/1	黒色土	粘性強。しまりやや強。弱粘質土。炭化物・土器片含む。
4. 10YR2/2	黒褐色土	粘性やや強。しまり強。土器片含む。
5. 10YR2.7/1	黒色土	粘性強。しまりやや強。 黄色砂粒粒状に含む。炭化物有。
6. 10YR2/2	黒褐色土	粘性やや強。しまりやや強。 全体に黄色砂粒粒状に多量に含む。
7. 2.5Y3/1	黒褐色土	粘性強。しまりやや強。弱粘質土。 全体に黄色砂粒粒状に多量に含む。
8. 10YR3/3	黒褐色土	粘性やや強。しまりやや強。弱粘質土。

0　2m

SK5308·SK5309



SK5308・5309

1. 10YR2/2	黒褐色土	粘性やや強。しまりやや強。
2. 10YR3/1	黒褐色土	粘性やや強。しまりやや強。 全体に炭化物多量に含む。
3. 10YR2/2	黒褐色土	粘性やや強。しまりやや強。
4. 10YR3/1	黒褐色土	粘性やや強。しまりやや強。全体に細片の炭化物多量に含む。
5. 10YR2/2	黒褐色土	粘性やや強。しまりやや強。一部炭色砂粒ブロック状に含む。
6. 10YR3/1	黒褐色土	粘性やや強。しまりやや強。一部炭化物・土器片含む。
7. 10YR3/1	黒褐色土	粘性やや強。しまりやや強。
8. 10YR2/2	黒褐色土	粘性強。しまりやや強。細片の炭化物多量に含む。
9. 10YR1/1	黒色土	粘性強。しまり強。弱粘土層。
10. 10YR2/2	黒褐色土	粘性やや強。しまりやや強。
11. 10YR3/2	黒褐色土	粘性やや強。しまりやや強。一部炭化物・鉄分含む。
12. 10YR2/2	黒褐色土	粘性強。しまりやや強。土器片多量に含む。
13. 10YR2/2	黒褐色土	粘性やや強。しまりやや強。1個体の土器片含む。
14. 10YR2/1	黒色土	粘性やや強。しまりやや強。細片の炭化物含む。
15. 10YR6/3	にぶい黄褐色土	粘性弱。しまり弱。地山？
16. 10YR2/1	黒色土	粘性高。しまりやや強。細片の炭化物含む。
17. 10YR2/2	黒褐色土	粘性やや強。しまりやや強。
18. 10YR2/1	黒色土	粘性やや強。しまり強。弱粘質土。黄色砂粒少量含む。

第73図　中地区土坑実測図３（縮尺1/50）

で連結している。SK5303は約1.6m×１m、深さ約0.38m、方位N０°を測り、SK5298は約1.42m×0.95m、深さ約3.6m、方位N85°Eを測る。２基とも断面はボウル状で、埋土はブロック堆積である。遺物はほとんど出土していない。

SK5315（第74図）　A・B118区に位置する。楕円形で、約2.42m×0.98m、深さ約0.3m、方位N34°Wを測る。断面は擂り鉢状で縞状堆積をしていた。礫が中央やや北にあった以外、遺物は少ない。

SK5313（第74図）　B117に位置する。楕円形で、約1.94m×１m、深さ約0.22m、方位N80°Eを測る。断面は浅皿状で底面は平坦である。遺物は少ない。

SK5267（第74図）　A107区に位置する。楕円形で、約1.46m×0.84m、深さ約0.45m、方位N85°Eを測る。僅かに二段掘り状になり、底部は平坦である。東側上面に30㎝大の礫が置かれていた。遺物は少ない。

SK5314（第74図）　B116区に位置する。甕形土器が口を合わせた状態で出土している。同一個体を縦に半分にし、内面を下にした状態で口縁部を合わせていた。その内部には肉眼で確認できる遺物等はなかった。掘り方は、平面は小判形で、約1.2m×1.06m、深さ約0.45m、方位N40°Wを測る。断面は箱形である。

SK5326（第75図）　A113区に位置する。SI35外周土坑列SD1113･SK5330を切る形で構築されている。崩れてはいるが小判形と考えられ、約2.5m×1.26m、深さ約0.8m、方位N19°Wを測る。断面は、下層は箱形で、上層は浅皿状に開く僅かに二段掘り状になる。底面近くには、板状や棒状のも木製品が出土した。また、礫が多く入っており、中央から南にかけて、下層から出土している。土器は弥生時代後期のもので、中央から北にかけて多く出土している。

SK5383（第75図）　B115区に位置する。不整な楕円形で、約1.06m×0.75m、深さ約0.25m、方位N52°Eを測る。南西はB115SP101に切られる。断面は箱形状になり、下層から弥生時代後期時がまとまって出土している。

SK5386（第75図）　B115区に位置する。東はSK5393を切る。楕円形で、約２m×1.34m、深さ0.2mで、方位N82°Eを測る。断面は箱状で、東に向かって僅かに下がる。北壁際に弥生時代後期土器片が集積しており、南に弧を描くように破片が続いていた。

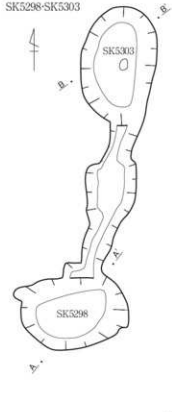
SK5393（第75図）　B115区に位置する。SK5386と連続する。楕円形で、約1.5m×1.08m、深さ約0.12m、方位N45°Eを測る。断面は浅皿状で、遺物は少ない・

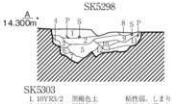
SK5319（第75図）　B119・120区に位置する。楕円形で、約２m×0.9m、深さ約0.38m、方位N63°Eを測る。断面は箱状で、埋土下層はブロック堆積が見られる。遺物は少ない。

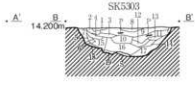
SK5320（第75図）　B119・120区に位置する。楕円形で、約2.26m×1.34m、深さ約0.58m、方位N４°Eを測る。断面は、長軸は擂り鉢状で短軸は箱状である。埋土は縞状堆積だが、ブロック的なものも見られる。遺物は少ない。

SK5351（第76図）　B105区に位置する。隅丸方形で、約2.6m×1.35m、深さ約0.18m、方位N39°Eを測る。断面は箱状で、埋土は縞状である。南側の底面に20～30㎝大の礫が６点と、小礫が数点まとまっていた。中央やや北よりでは、弥生時代後期土器片が少量だが集まった状態で出土した。

SK5336（第76図）　A105区に位置する。楕円形、約2.8m×2.06m、深さ約0.5m、方位N88°Wを測る。断面は、長軸方向はU字状で、短軸方向は浅皿状を呈する。中央やや西側は少し高まりがあり底部はメガネ状になる。遺物は中層から下層に掛けて多量に出土し、特に東から流れ込んだような状況を





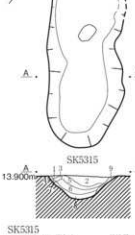


SK5303

1. 10YR3/2	黒褐色土	粘性強。しまりやや強。黄色砂質土混じりの土。
2. 10YR3/2	黒褐色土	粘性やや強。しまりやや強。黄色砂質土粒状（小）に含む。
3. 10YR3/2	黒褐色土	粘性やや強。しまりやや強。黄色砂質土粒状（極小）に含む。
4. 10YR2/1	黒色土	粘性やや強。しまりやや強。粘質土。黄色砂質土ブロック状に含む。
5. 10YR3/2	黒褐色土	粘性やや強。しまりやや強。
6. 2.5Y4/4	オリーブ褐色土	粘性やや強。しまりやや強。砂質土。
7. 10YR3/2	黒褐色土	粘性やや強。しまりやや強。
8. 10YR3/2	黒褐色土	粘性強。しまりやや強。淡黄色土粒状に含む。
9. 10YR3/2	黒褐色土	粘性やや強。しまりやや強。
10. 10YR3/2	黒褐色土	粘性やや強。しまりやや強。
11. 10YR2/1	黒色土	粘性強。しまりやや強。
12. 10YR3/2	黒褐色土	粘性やや強。しまりやや強。淡黄色土粒状（大）に含む。
13. 10YR3/2	黒褐色土	粘性やや強。しまりやや強。粘質土。
14. 10YR3/2	黒褐色土	粘性やや強。しまりやや強。粘質土。淡黄色土30%くらいしみ状に含む。
15. 10YR2/1	黒色土	粘性やや強。しまりやや強。ボソボソとした土。淡黄色土ブロック状に含む。
16. 10YR1.7/1	黒色土	粘性やや強。しまりやや強。灰白色土しみ状に含む。炭化物少量含む。
17. 10YR2/1	黒色土	粘性やや強。しまりやや強。粘質土。下層淡黄色土ブロック状に含む。
18. 2.5Y4/4	オリーブ褐色土	粘性やや強。しまりやや強。黒色土ブロック状に含む。
19. 2.5Y2/1	黒色土	粘性強。しまりやや強。粘質土。灰白色土粒状（小）に含む。

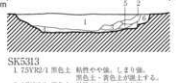
SK5298

1. 10YR2/3	黒褐色土	粘性やや弱。しまりやや強。ボソボソとした土。炭化物多い。
2. 10YR2/2	黒褐色土	粘性やや弱。しまりやや強。淡黄色砂質土粒子状（極少）に含む。炭化物多い。
3. 10YR3/2	黒褐色土	粘性やや強。しまりやや強。淡黄色砂質土しみ状に含む。淡黄色砂質土。
4. 10YR3/2	黒褐色土	粘性やや強。しまりやや強。淡黄色砂粒混じりの土。鉄分・炭化物少量。
5. 10YR2/2	黒褐色土	粘性やや強。しまりやや強。黄色砂質土ブロック状（大）に含む。鉄分・炭化物多い。
6. 10YR2/2	暗褐色土	粘性やや強。しまりやや強。淡黄色土の粒状（大）に含む。鉄分・炭化物少量。
7. 10YR1.7/1	にぶい黄褐色土	粘性やや強。しまりやや強。黒色土ブロック状に含む。
8. 10YR3/2	黒褐色土	粘性強。しまりやや強。炭化物やや少ない。
9. 10YR2/2	黒褐色土	粘性やや強。しまりやや強。淡黄色土粒子状（小）に含む。炭化物やや多い。
10. 10YR3/2	黒褐色土	粘性強。しまりやや強。全体にぼっぱい。炭化物少量。
11. 10YR2/2	黒褐色土	粘性強。しまりやや強。淡黄色砂質土ブロック状に含む。
12. 10YR2/2	黒褐色土	粘性やや強。しまりやや強。淡黄色砂質土しみ状に含む。炭化物少量。



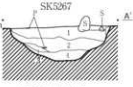
SK5315

1. 10YR1.7/1	黒色土	粘性強。しまりやや弱。
2. 10YR1.7/1	黒色土	粘性強。しまりやや弱。 黄色砂質土が少。炭分わずかに含む。
3. 7.5YR3/2	黒褐色土	粘性強。しまりやや弱。
4. 10YR4/3	にぶい黄褐色土	粘性強。しまりやや強。黒色砂質土含む。
5. 10YR1.7/1	黒色土	粘性強。しまりやや強。黄色砂質土粒状に含む。
6. 10YR2/1	黒色土	粘性強。しまりやや強。黄色砂質土しみ状に含む。
7. 10YR1.7/1	黒色土	粘性強。しまりやや強。黄色砂質土しみ状に含む。
8. 7.5YR3/1	黒色土	粘性強。しまりやや強。黄色砂質土しみ状に含む。
9. 10YR2/1	黒色土	粘性強。しまりやや強。黄色砂質土ブロック状に含む。



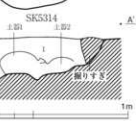
SK5313

1. 7.5YR2/1	黒色土	粘性やや強。しまり強。
2. 10YR2/1	黒色土	粘性やや強。しまり強。 黒色土・黄色土が混じる。
3. 10YR2/1	黒色土	粘性やや強。しまり強。 黄色砂粒混じりの土。
4. 10YR2/1	黒色土	粘性やや強。しまり強。 黄色砂質土しみ状に含む。
5. 2.5Y2/1	黒色土	粘性やや強。しまり強。 黄色砂質土しみ状に含む。
6. 2.5Y2/1	黒色土	粘性やや強。しまり強。 黄色砂質土ブロック状に含む。



SK5267

1. 2.5Y2/1	黒色土	粘性やや強。しまり弱。
2. 10YR1.7/1	黒色土	粘性やや強。しまり弱。 灰色土ブロック含む。
3. 10YR1.7/1	黒色土	粘性強。しまりやや強。 黄色砂粒全体に含む。砂粒子多く含む。
4. 2.5Y4/3	オリーブ褐色土	粘性やや強。しまり弱。サラサラの土。 全体に黄色砂質土が混じる（80%程）。

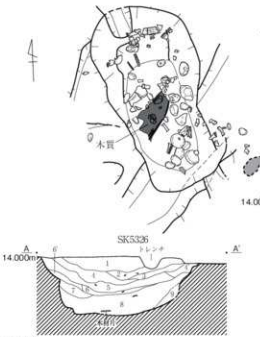


SK5314

1. 10YR3/1	黒褐色粘質土	地山の黄褐色ブロック小65～10cm が詰に混入。 大きいブロックは小ス上に多い。 炭化物粒小3cm 無数混在。鉄分を混ぜるしくは混状に含む。 粘性弱。しまりなし。 カメを設置後、土器胴部の横土を埋め込んだと思われる。 カメ片はのこも1層と同じ。 南のカメの方に地山の上の盛土が多い。 北のカメの設埋まり部地山の粘質土が入っている。 そのうは黄褐色ブロックが混入した土。

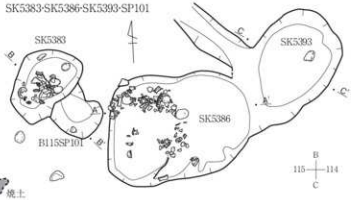
第74図　中地区土坑実測図４（縮尺1/50・1/20）

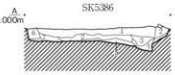
SK5326



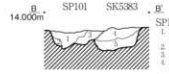
SK5326
1. 10YR2/1　黒色土　粘性弱、しまり弱。
2. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや強、しまり強。
3. 5Y3/1　オリーブ黒色土　粘性やや強、しまりやや強。
4. 25Y3/1　黒褐色土　粘性やや強、しまり強、炭化物粒子少量含む。
4. 10YR2/1　黒色土　粘性やや強、しまりやや強。
5. 10YR2/1　黒色土　粘性やや強、しまりやや強、砂質。
炭化物ブロック（φ5mm程度）多く含む。
6. 10YR1.7/1　黒色土　粘性やや強、しまりやや強、黄色土ブロック多く含む。
6'. 10YR1.7/1　黒色土　粘性やや強、しまりやや強、白土粒・黄色土ブロックは微量。
7. 10YR1.7/1　黒色土　粘性やや強、しまりやや強、炭化物ブロック多く含む。
8. N1.5/0　黒色土　粘性やや強、しまりやや強。
炭化物ブロック（φ5mm）全体に少量含む。
9. 10YR1.7/1　黒色土　粘性やや強、しまりやや強、やや砂質。

SK5383-SK5386-SK5393-SP101

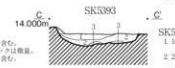




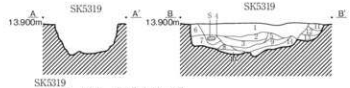
SK5386
1. 10YR3/2　黒褐色粘質土　炭化物少量、土器片あり。
2. 10YR2/1　黒色粘質土　土器片あり。
3. 10YR3/1　黒褐色粘質土　炭化物少量。
4. 10YR3/2　黒褐色粘質土　黄色土φ3～5cm塊中量含む、炭分・炭化物少量。
5. 2.5Y5/3　黄褐色粘質土　黒色粘質土少量含む。
6. 10YR2/1　黒色粘質土
7. 10YR2/2　黒褐色粘質土　黄色土φ2～3cm塊の中量含まれる。



SP101・SK5383
1. 10YR2/1　黒色粘質土　φ0.1～0.5cmの黄色粘土の粒含む、炭化物少量。
2. 2.5Y5/3　黄褐色砂　黒色粘質土少量含む、炭化物少量。
3. 10YR2/2　黒褐色粘質土　炭化物少量。
4. 10YR2/1　黒色粘質土　黄褐色の砂のかたまり少量含む、炭化物少量、土器片含む。
5. 10YR2/1　黒色粘質土　黄褐色の砂がまばらに少量混入。炭化物少量。

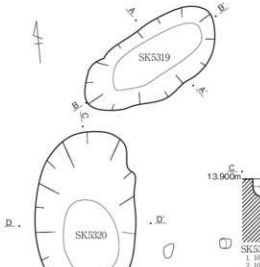


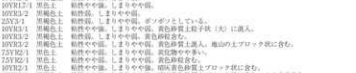
SK5393
1. 10YR2/1　黒色粘質土　黄褐色の砂まざらに少量。
2. 25Y2/1　黒色粘質土　黄褐色の砂まざらに少量。
3. 25Y5/3　黄褐色砂質土　炭分・炭化物少量。



SK5319
1. 10YR2/1　黒色土　粘性弱、しまりやや弱。
2. 10YR2/1　黒色土　粘性弱、しまりやや弱、黄色砂質土しみ状に含む。
3. 10YR2/1　黒色土　粘性弱、しまりやや弱、黄色砂質土しみ状に含む。
4. 10YR3/2　黒褐色土　粘性弱、しまりやや弱、黄色土もしみ状に含む。
5. 10YR3/2　黒褐色土　粘性弱、しまりやや強、5cm黄色砂質土ブロック状に含む。
6. 10YR2/2　黒褐色土　粘性弱、しまりやや強、黄色砂質土ブロック状に含む。
7. 10YR2/1　黒色土　粘性弱、しまりやや強、黄色砂質土ブロック状に含む。
8. 10YR2/1　黒色土　粘性やや強、しまりやや強、黄色砂質土ブロック状に含む。炭分やや多い。
9. 10YR2/1　黒色土　粘性やや強、しまりやや強、黄色砂質土しみ状に含む。
10. 10YR2/2　黒色土　粘性やや強、しまりやや強、黄色砂質土しみ状に含む。
11. 10YR1.7/1　黒色土　粘性やや強、しまりやや強、黄色砂粒含む。
12. 10YR3/2　黒褐色土　粘性やや強、黄色砂質土ブロック状に含む。
13. 10YR3/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強、黄色砂粒含む。鉄分わずかに含む。
14. 2.5Y2/1　黒色土　粘性やや強、しまりやや強、地山の土ブロック状に含む。

SK5319-SK5320





SK5320
1. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや強、しまり弱。
2. 10YR1.7/1　黒色土　粘性やや強、しまりやや弱。
3. 10YR3/2　黒褐色土　粘性弱、しまりやや弱。
4. 2.5Y3/1　黒褐色土　粘性弱、しまりやや弱、ボソボソとしている。
5. 10YR3/1　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強、黄色砂質土粒子状（大）に混入。
6. 10YR3/2　黒褐色土　粘性弱、しまりやや弱、黄色砂粒含む。
7. 10YR3/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強、黄色砂質土混入。地山の土ブロック状に含む。
8. 2.5Y2/1　黒色土　粘性やや強、しまりやや強、炭化物やや多い。
9. 2.5Y1/2　黒色土　粘性やや強、しまりやや強、黄色砂粒含む。
10. 10YR2/1　黒色土　粘性やや強、しまりやや強、10cm黄色砂質土ブロック状に含む。
11. 10YR3/1　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強、10cm黄色砂質土ブロック状に含む、やや水分含む。

第75図　中地区土坑実測図５（縮尺1/50）

呈していた。堆積状況も東から流れ込んだような状況にみえることから、東側から廃棄が行われた結果と考える。弥生時代後期土器の他、礫も含まれていた。

SK5337（第76図）　Ｂ103区に位置する。隅丸方形状で、約1.55m×1.3m、深さ約0.5m、方位Ｎ34°Ｅを測る。断面はＵ字状で、埋土下層は交互堆積だが上層は綺麗な縞状堆積をする。遺物は下層から弥生時代後期土器の破片が、やや多く出土した。東側に直径約0.5mのピットが接する。

SK5342（第76図）　Ｂ103・104区に位置する。長丸形で、約1.9m×1.5m、深さ約0.3m、方位Ｎ57°Ｗを測る。断面は浅皿状で、遺物は下層中央付近にややまとまって出土している。

南西側に直径約0.5mのピットがあり、SK5337と極めて似た状況である。両ピット共に深さ約0.4mで、ピット間の距離は約3.2mを測る。

SK5355（第76図）　Ａ99・100区に位置する。楕円形で、約1.82m×1.15m、深さ約2.4m、方位Ｎ30°Ｗを測る。断面はＵ字状で、埋土は自然堆積を示していた。礫が下層に多く含まれ、最大は長さ約35cmで北東側から出土している。遺物は少量の弥生時代後期土器片が散在していた。

SD1121（第77図）　Ａ105・106に位置する。溝状の土坑で、長さ約2.5m、幅約0.4～0.5mの溝が中央に延び、長さ約３m、幅約1.3mの不整形な土坑が周りを囲む。深さは0.4m、方位はＮ10°Ｅを測る。断面はＶ字状で、中央溝内に遺物は集中する。礫が多く、土器と混在した状態であった。

SD1120（第77図）　Ａ103に位置する。三日月状に曲がった溝状土坑で、長さ約3.8m、幅は最大で約1.2m、深さ約0.32mを測る。断面は浅皿状で、遺物は弥生時代後期土器の破片が中央やや南から主として出土している。

SD1117（第77図）　Ａ102・103区に位置する。長さ約3.85m、幅約6.4mの直線的な溝状土坑である。遺物は、破片で弥生時代後期土器が出土している。

SK5357（第77図）　Ｂ102区に位置する。小判形で、約1.12m×0.8m、深さ0.35m、方位Ｎ70°Ｅを測る。断面はＵ字状で、埋土は自然堆積と考えられる。下層には炭化物を多く含む。

SK5350（第77図）　Ｃ103区に位置する。南はSK5349と切り合い、北東はSD1122と接する。楕円形で、約2.38m×１m、深さ約0.55m、方位Ｎ28°Ｗを測る。断面は短軸が箱状で、長軸では下層が箱状で、上層は緩やかに立ち上がる。遺物は少ないが、構造から墓壙の可能性が高い。

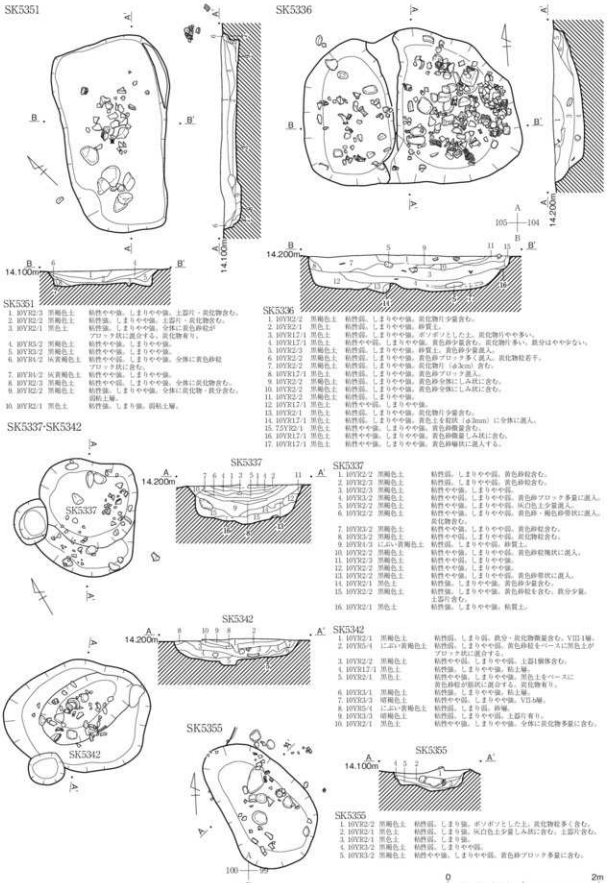
SK5312（第78図）　Ｂ・Ｃ109に位置する。SK5310・SK5311と切り合い、結果的に溝状になる。楕円形で、約3.1m×1.3m、深さ0.42m、方位Ｎ３°Ｗを測る。断面はＵ字状で、埋土は下層にブロック堆積が見られる。遺物は弥生時代後期土器片が少量散在する程度であった。

SK5366（第78図）　Ａ・Ｂ107区に位置する。小判形で、約1.45m×0.92m、深さ約0.3m、方位Ｎ35°Ｅを測る。遺物は下層で少量の弥生時代後期土器片と礫が出土したに止まる。

SK5367（第78図）　Ａ107区でSK5366の東に位置する。円形で直径約1.1m、深さ約0.3m、方位Ｎ30°Ｗを測る。断面は浅皿状で、埋土には地山土ブロックが入る黒色土が主である。南側の底部には20cm大の礫が集まり、北側には弥生時代後期土器片が少量だがまとまっていた。

SK5368（第78図）　Ｂ107区に位置する。隅丸方形土坑が溝状土坑を切っていると考えられる。一辺は約1.3mで、深さ約0.2m、方位Ｎ16°Ｗを測る。断面は浅皿状で、南西側上層から礫と土器がまとまって出土している。

SK5287（第78図）　Ｂ107区でSK5268の南東部に位置する。約1.45m×1.35mの円形で、深さ約0.3m、方位Ｎ88°Ｗを測る。断面は皿状で、底面は平坦である。埋土上層は大半が焼土である。西に近接して



SK5351

1. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強、土器片・炭化物含む。
2. 10YR2/2　黒褐色土　粘性強、しまりやや強、土器片・炭化物含む。
3. 10YR2/1　黒色土　粘性強、しまりやや強、全体に黄色砂粒が ブロック状に混在する。炭化物多う。
4. 10YR3/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強。
5. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強。
6. 10YR3/2　暗褐色土　粘性やや強、しまりやや強、全体に黄色砂粒 ブロック状に含む。
7. 10YR3/2　暗黄褐色土　粘性やや強、しまりやや強。
8. 10YR2/3　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強、全体に炭化物含む。
9. 10YR2/2　黒褐色土　粘性強、しまりやや強、全体に炭化物・鉄分含む。 弱粘土層。
10. 10YR2/1　黒色土　粘性強、しまり強、弱粘土層。

SK5336

1. 10YR2/2　黒褐色土　粘性強、しまりやや強、炭化物片少量含む。
2. 10YR2/1　黒色土　粘性強、しまりやや強、砂質土。
3. 10YR1/2-1　黒色土　粘性強、しまりやや強、ボソボソとした土、炭化物片やや多い。
4. 10YR1/2-1　黒色土　粘性やや強、しまりやや強、黄色砂少量含む。炭化物片多い。鉄分はやや少ない。
5. 10YR2/3　黒褐色土　粘性強、しまりやや強、砂質土。黄色砂少量含む。
6. 10YR2/2　黒褐色土　粘性強、しまりやや強、黄色砂ブロック多く混入。炭化物粒若干。
7. 10YR2/2　黒褐色土　粘性強、しまりやや強、炭化物片（φ3cm）含む。
8. 10YR1/2-1　黒色土　粘性強、しまりやや強、黄色砂ブロック混入。
9. 10YR2/2　黒褐色土　粘性強、しまりやや強、黄色砂全体にムラ状に含む。
10. 10YR2/2　黒褐色土　粘性強、しまりやや強、黄色砂全体にムラ状に含む。
11. 10YR2/2　黒褐色土　粘性強、しまりやや強。
12. 10YR1/2-1　黒色土　粘性やや強、しまりやや強。
13. 10YR2/1　黒色土　粘性強、しまりやや強、炭化物片少量含む。
14. 10YR1/2-1　黒色土　粘性強、しまりやや強、黄色土粒（φ1.0mm）に全体に混入。
15. 7.5YR2/1　黒色土　粘性強、しまりやや強、黄色砂微量含む。
16. 10YR1/2-1　黒色土　粘性やや強、しまりやや強、黄色砂微量にムラ状に含む。
17. 10YR1/2-1　黒色土　粘性強、しまりやや強、黄色砂縞状に混入する。

SK5337

1. 10YR2/2　黒褐色土　粘性強、しまりやや強、黄色砂粒含む。
2. 10YR2/3　黒褐色土　粘性強、しまりやや強、黄色砂粒含む。
3. 10YR2/3　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強。
4. 10YR3/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強、黄色砂ブロック多量に混入。
5. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強、炭化物土少量混入。
6. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強、黄色砂・褐色砂粒状に混入。炭化物含む。
7. 10YR3/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強、黄色砂粒含む。
8. 10YR3/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強、炭化物粒含む。
9. 10YR3/1　にぶい黒褐色土　粘性強、しまりやや強、砂質土。
10. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強、黄色砂粒塊状に混入。
11. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強。
12. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強。
13. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強。
14. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強。
15. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強、黄色砂多量含む。
16. 10YR2/2　黒色土　粘性強、しまりやや強、粘質土。

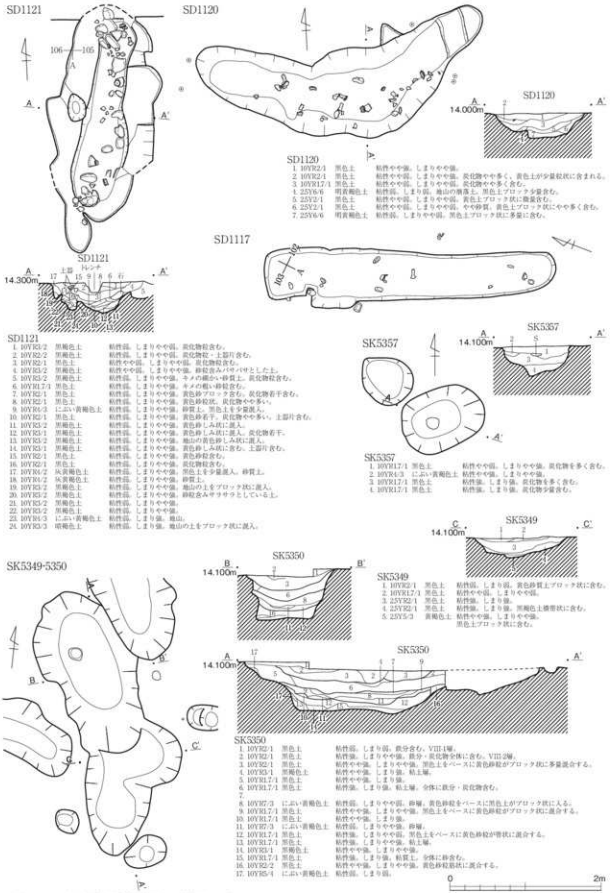
SK5342

1. 10YR2/1　黒褐色土　粘性強、しまり強、鉄分・炭化物微量含む。下辺1層。
2. 10YR5/4　にぶい黄褐色土　粘性強、しまりやや強、黄色砂粒をベースに黒色土が ブロック状に混在する。
3. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強、土器1個体含む。
4. 10YR1/7-1　黒色土　粘性強、しまりやや強、粘土層。
5. 10YR2/1　黒色土　粘性やや強、しまりやや強、黒色土をベースに 黄色砂粒が粒状に混在する。炭化物多う。
6. 10YR3/4　黒褐色土　粘性強、しまりやや強、粘土層。
7. 10YR3/3　暗褐色土　粘性やや強、しまりやや強、下辺1層。
8. 10YR5/4　にぶい黄褐色土　粘性強、しまり弱、砂層。
9. 10YR3/3　暗褐色土　粘性強、しまりやや強、土器片有り。
10. 10YR2/1　黒色土　粘性やや強、しまりやや強、全体に炭化物多量に含む。

SK5355

1. 10YR2/2　黒褐色土　粘性強、しまり強、ボソボソとした土、炭化物粒多く含む。
2. 10YR2/1　黒色土　粘性強、しまり強、灰白色土少量しみ状に含む。土器片含む。
3. 10YR2/1　黒色土　粘性強、しまり強。
4. 10YR3/2　黒褐色土　粘性強、しまりやや強。
5. 10YR3/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強、黄色砂ブロック多量に含む。

第76図　中地区土坑実測図６（縮尺1/50）



SD1120

1. 10YR2/1　黒色土　粘性やや強、しまりやや強。
2. 10YR2/1　黒色土　粘性やや強、しまりやや強。炭化物やや多く、黄色土が少量粒状に含まれる。
3. 10YR1.7/1　黒色土　粘性やや強、しまりやや強。炭化物やや多く含む。
4. 2.5Y6/6　明黄褐色土　粘性強、しまり弱。地山の撹乱土。黒色土ブロック少量含む。
5. 2.5Y2/1　黒色土　粘性やや強、しまりやや強。黄色土ブロック状に微量含む。
6. 2.5Y2/1　黒色土　粘性やや強、しまりやや強。やや砂質。黄色土ブロック状にやや多く含む。
7. 2.5Y6/6　明黄褐色土　粘性強、しまりやや強。黒色土ブロック状に多量に含む。

SD1121

1. 10YR2/2　黒褐色土　粘性強、しまりやや弱。炭化物粒含む。
2. 10YR2/2　黒褐色土　粘性強、しまりやや弱。炭化物粒・土器片含む。
3. 10YR2/1　黒色土　粘性やや強、しまりやや弱。炭化物粒含む。
4. 10YR3/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強。砂粒含んでパサパサとした土。
5. 10YR3/2　黒褐色土　粘性強、しまりやや強。ネバネバ感がいや強く、炭化物粒含む。
6. 10YR1.7/1　黒色土　粘性強、しまりやや強。キメの粗い砂質土。
7. 10YR2/1　黒色土　粘性強、しまりやや強。黄色砂ブロック含む。炭化物若干含む。
8. 10YR2/1　黒色土　粘性強、しまりやや強。黄色砂粒状、炭化物やや多い。
9. 10YR1/3　にぶい黄褐色土　粘性強、しまりやや強。砂質。黒色土を少量混入。
10. 10YR2/1　黒色土　粘性強、しまりやや強。黄色砂若干。炭化物やや多い。土器片含む。
11. 10YR3/2　黒褐色土　粘性強、しまりやや強。黄色砂ブロック状に混入。
12. 10YR3/2　黒褐色土　粘性強、しまりやや強。黄色砂ブロック状に混入。炭化物若干。
13. 10YR3/2　黒褐色土　粘性強、しまりやや強。地山の黄色砂ブロック状に混入。
14. 10YR3/1　黒褐色土　粘性強、しまりやや強。黄色砂ブロック状に多く含む。土器片含む。
15. 10YR2/1　黒色土　粘性強、しまりやや強。黄色砂粒含む。
16. 10YR2/1　黒色土　粘性強、しまりやや強。炭化物粒含む。
17. 10YR6/2　灰黄褐色土　粘性強、しまりやや強。黒色土を少量混入。砂質土。
18. 10YR1/2　灰黄褐色土　粘性強、しまりやや強。砂質土。
19. 10YR3/2　黒褐色土　粘性強、しまりやや強。地山の土をブロック状に混入。
20. 10YR3/2　黒褐色土　粘性強、しまりやや強。砂粒あるサラサラとしている土。
21. 10YR3/2　黒褐色土　粘性強、しまりやや強。
22. 10YR3/2　黒褐色土　粘性強、しまりやや強。
23. 10YR4/3　にぶい黄褐色土　粘性強、しまりやや強。地山。
24. 10YR3/3　暗褐色土　粘性強、しまり強。地山の土をブロック状に混入。

SK5357

1. 10YR2/1　黒色土　粘性やや強、しまりやや強。炭化物を多く含む。
2. 10YR4/3　にぶい黄褐色土　粘性やや強、しまりやや強。
3. 10YR2/1　黒色土　粘性強、しまり強。炭化物を多く含む。
4. 10YR2/1　黒色土　粘性強、しまり強。炭化物少量含む。

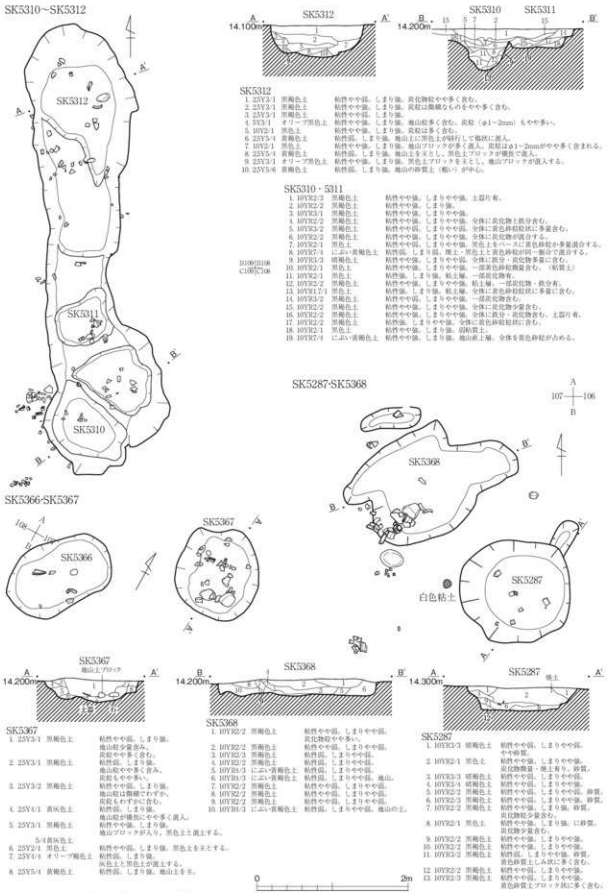
SK5349

1. 10YR2/1　黒色土　粘性強、しまり強。黄色砂質土ブロック状に含む。
2. 10YR2/1　黒色土　粘性やや強、しまりやや強。
3. 2.5Y3/1　黒色土　粘性強、しまり強。
4. 2.5Y3/1　黒色土　粘性強、しまり強。黒褐色土塊状に含む。
5. 2.5Y5/3　黄褐色土　粘性やや強、しまりやや強。
黒色土ブロック状に含む。

SK5350

1. 10YR2/1　黒色土　粘性弱、しまり弱。鉄分含む。VIII層。
2. 10YR2/1　黒色土　粘性強、しまりやや強。鉄分・炭化物少体に含む。VIII2層。
3. 10YR2/1　黒色土　粘性やや強、しまりやや強。黒色土をベースに黄色砂粒がブロック状に多量混合する。
4. 10YR3/1　黒褐色土　粘性やや強、しまり強。粘土層。
5. 10YR1.7/1　黒色土　粘性強、しまり強。
6. 10YR1.7/1　黒色土　粘性強、しまり強。粘土層。全体に鉄分・炭化物含む。
7.
8. 10YR7/3　にぶい黄褐色土　粘性強、しまりやや弱。砂層。黄色砂粒をベースに黒色土がブロック状に入る。
9. 10YR1.7/1　黒色土　粘性やや強、しまりやや強。黒色土をベースに黄色砂粒がブロック状に混合する。
10. 10YR1.7/1　黒色土　粘性やや強、しまり強。
11. 10YR7/3　にぶい黄褐色土　粘性強、しまりやや強。砂層。
12. 10YR1.7/1　黒色土　粘性強、しまりやや強。黒色土をベースに黄色砂粒が帯状に混合する。
13. 10YR1.7/1　黒色土　粘性強、しまりやや強。粘土層。
14. 10YR3/1　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強。
15. 10YR1.7/1　黒色土　粘性強、しまり強。粘質土。全体に砂含む。
16. 10YR2/2　黒色土　粘性やや強、しまりやや強。黄色砂粒状に混合する。
17. 10YR5/4　にぶい黄褐色土　粘性強、しまり弱。

第77図　中地区土坑実測図７（縮尺1/50）



SK5312

1. 25Y3/1　黒褐色土　粘性やや弱。しまり強。炭化物粒やや多く含む。
2. 25Y3/1　黒褐色土　粘性やや強。しまり強。炭粒は微細なものをやや多く含む。
3. 25Y3/1　黒褐色土　粘性やや強。しまり強。
4. 5Y3/1　オリーブ黒色土　粘性やや強。しまり強。地山粒多く含む。炭粒（φ1～2mm）もやや多い。
5. 10Y2/1　黒色土　粘性やや強。しまり強。炭粒は多く含む。
6. 25Y5/4　黄褐色土　粘性弱。しまり強。地山土に黒色土が薄く混入。
7. 10Y2/1　黒色土　粘性やや強。しまり強。地山ブロックが多く混入。炭粒はφ1～2mmがやや多く含まれる。
8. 25Y5/4　黄褐色土　粘性弱。しまり強。地山土をベとし、黒色土ブロックが微量で混入。
9. 25Y3/1　オリーブ黒色土　粘性やや強。しまり強。黒色土ブロックをベとし、地山ブロックが混入する。
10. 25Y5/6　黄褐色土　粘性弱。しまり強。地山の砂質土（軟い）が中心。

SK5310・5311

1. 10YR2/3　黒褐色土　粘性やや強。しまりやや強。土器片有。
2. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや強。しまりやや強。
3. 10YR3/1　黒褐色土　粘性やや強。しまりやや強。
4. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや強。しまりやや強。全体に炭化物と鉄分含む。
5. 10YR3/2　黒褐色土　粘性やや強。しまりやや強。全体に黄色砂粒状に多量含む。
6. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや強。しまりやや強。全体に炭化物が微含む。
7. 10YR2/1　黒色土　粘性やや強。しまりやや強。黒色土をベースに黄色砂粒が多量混合する。
8. 10YR7/4　にぶい黄褐色土　粘性強。しまり弱。黒土・黒色土と黄色砂粒が同一割合で混合する。
9. 10YR3/3　暗褐色土　粘性やや強。しまりやや強。全体に鉄分・炭化物多量に含む。
10. 10YR2/1　黒色土　粘性やや強。しまりやや強。一部黄色砂粒微量有。（軟質土）
11. 10YR2/1　黒色土　粘性強。しまり強。粘土層。一部炭化物有。
12. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや強。しまりやや強。粘土層。一部炭化物・鉄分有。
13. 10YR1.7/1　黒色土　粘性強。しまり強。粘土層。全体に黄色砂粒状に多量に含む。
14. 10YR3/2　黒褐色土　粘性やや強。しまりやや強。一部炭化物含む。
15. 10YR3/2　黒褐色土　粘性やや強。しまりやや強。全体に炭化物少量含む。
16. 10YR3/2　黒褐色土　粘性やや強。しまりやや強。全体に鉄分・炭化物含む。土器片有。
17. 10YR3/2　黒褐色土　粘性強。しまりやや強。全体に黄色砂粒状に含む。
18. 10YR2/1　黒色土　粘性やや強。しまり強。炭粒有。
19. 10YR7/4　にぶい黄褐色土　粘性強。しまり強。地山層上層。全体を黄色砂粒がめる。

D100/D108
C107/C108

SK5367

1. 25Y3/1　黒褐色土　粘性やや弱。しまり強。地山ブロック
2. 25Y3/1　黒褐色土　粘性やや強。しまり強。炭粒やや多く含む。地山少量含み、
3. 25Y3/2　黒褐色土　粘性やや強。しまり強。地山やや多く含む。
4. 25Y1/1　黒色土　粘性やや強。しまり強。炭粒をやや多く。
5. 25Y3/1　黒褐色土　粘性やや強。しまり強。地山は微細でわずか。炭粒をわずかに含む。
6. 25Y1/1　黒色土　粘性弱。しまり強。地山粒が微色にやや多く混入。
7. 25Y3/1　黒褐色土　粘性やや強。しまり強。地山ブロックが入り、黒色土と混ざりあう。
5-4 黄灰色土
6. 25Y2/1　黒色土　粘性やや弱。しまり強。黒色土をベとする。
7. 25Y1/4　オリーブ褐色土　粘性弱。しまり強。地色土と黒色土が混ざりあう。
8. 25Y5/4　黄褐色土　粘性弱。しまり強。地山土をベ。

SK5368

1. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや強。しまりやや弱。炭化物粒やや多く。
2. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや強。しまりやや弱。
3. 10YR2/3　黒褐色土　粘性弱。しまりやや強。
4. 10YR2/2　黒褐色土　粘性弱。しまりやや強。
5. 10YR4/3　にぶい黄褐色土　粘性弱。しまりやや強。
6. 10YR4/3　にぶい黄褐色土　粘性弱。しまりやや強。地山。
7. 10YR2/2　黒褐色土　粘性弱。しまりやや強。
8. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや強。しまりやや強。
9. 10YR2/2　黒褐色土　粘性弱。しまりやや強。
10. 10YR4/3　にぶい黄褐色土　粘性弱。しまりやや強。地山土。

SK5287

1. 10YR3/3　暗褐色土　粘性やや強。しまりやや強。やや砂質。
2. 10YR2/1　黒色土　粘性やや強。しまりやや強。炭化物微量・焼土有り。砂質。
3. 10YR3/3　暗褐色土　粘性やや強。しまりやや強。
4. 10YR3/4　暗褐色土　粘性やや強。しまりやや強。
5. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや強。しまりやや強。砂質。
6. 10YR2/3　黒褐色土　粘性やや強。しまりやや強。砂質。
7. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや強。しまり強。砂質。炭化物粒少量含む。
8. 10YR2/1　黒色土　粘性やや強。しまり強。に砂質。炭化物少量含む。
9. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや強。しまりやや強。
10. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや強。しまりやや強。
11. 10YR3/2　黒褐色土　粘性弱。しまりやや強。砂質。黄色砂質土ユニみに多く含む。
12. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや強。しまりやや強。
13. 10YR2/3　黒褐色土　粘性やや強。しまりやや強。黄色砂質土ブロックに多く含む。

第78図　中地区土坑実測図８（縮尺1/50）

直径10cm程度の白色粘土塊が出土している。遺物は、弥生時代後期土器片が少量含まれる程度である。土器焼成に関わる土坑の可能性も考えられる。

SK5333（第79図）　A111・112区に位置する。不整な楕円形で、約2.2m×1.45m、深さ約0.3m、方位N27°Eを測る。断面は椀状で、埋土は縞状堆積である。遺物は、南側肩部上層に、甕形土器口縁部片の集積が見られた他、北側肩部では長頸壺の口縁部が出土している。

SK5381（第79図）　B111・112区に位置する。浅い隅丸長方形土坑で、約４m×3.3m、深さ約0.3m、方位N33°Wを測る。断面は浅皿状で、中央部付近に礫が散在する。土器は壁際を中心に散在し、南西隅からは脚付き壺の口縁など比較的まとまって出土している。南には直径0.5～0.6mのピット６基が見られる。

SK5396（第79図）　C112に位置する。SD1116と東側で接する。円形で、直径約1.24m、深さ約0.5mを測る。断面はU字状で、埋土は縞状自然堆積を示す。遺物は下層で弥生時代後期土器がややまとまって出土している。

SK5332（第79図）　A112に位置し、北側は調査区外である。楕円形と考えられ、残存長約1.05m、幅約0.94m、深さ約0.45m、方位N20°Wを測る。断面は半円状で、遺物は上層で弥生時代後期土器片が少量出土している。

SK5362（第79図）　A110・111に位置する。楕円形で、約1.24m×1.06m、深さ約0.38m、方位N90°Wを測る。断面はU字状で、埋土は黒色土でほぼ均質だが、上層に焼土ブロックを多く含む。遺物は破片のみで少ない。

（４）溝

85～89区溝列（第80図）　85区付近で確認された谷部と川４との間に、これらと平行する形で南北に延びる溝列で、６条検出した。２条１組と言えそうな状態で、各組間は少し間隔が広い。

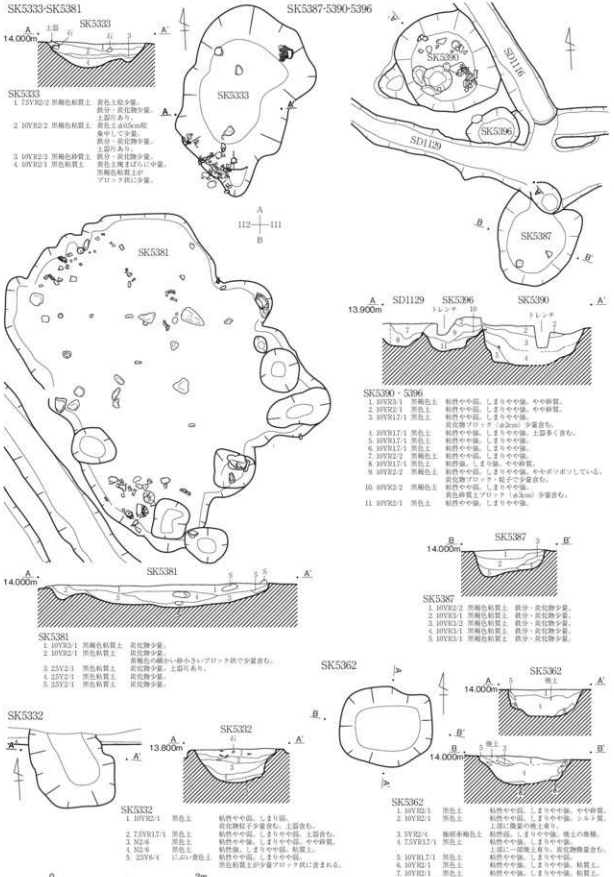
SD1051・1052はほぼ平行し、北半はN10°E方向で延び、C区南付近で西へ屈曲してN40°E方向に変わる。幅は、SD1051が北で0.9m前後、南で0.6m前後を測り、SD1052はそれより各0.1m程度狭い。２条は２m前後の幅に収まるため、必然的に両者間は南にいくほど広がる。断面は半円形で深さは約0.3mを測る。埋土は複雑に入り組む堆積をし、全体に砂・砂質土が多く占め、下層には粗い砂層も見えることから、流水路であったといえる。徐々に堆積したのではなく、短時間で埋まったようである。

遺物は、埋土内からの出土はほとんど無かったが、C87区SD1052の上面で、弥生時代後期の甕形土器・長頸壺のほぼ完形品が潰れた状態で横たわっていた他、有段口縁鉢が口を上にして置かれていた。埋まった後、何らかの祭祀的な意味で置かれた可能性が高い。

SD1053・1054は、後者が前者を切る形で接している。SD1053は幅が１m前後深さ約0.6mで、北半部はN20°E方向で延び、中間付近で屈曲しN30°E方向に変わる。断面はV字状で、埋土は砂・砂質土で層状を呈する。遺物はほとんど出土していない。SD1054は幅が0.5～0.6m前後、深さ約0.9mで、N30°E方向に延び、南で僅かに西へ曲がる。断面はV字状で、埋土は層状をなすが、東側にいくに従って新しい堆積を示す。遺物は、古墳時代初頭の甕形土器や高坏が出土している。

両者とも流水路で、北東から南西方向に流れていたものと考えられる。

SD1060・1061は川４に近接する溝で、南は船着き場状遺構（SF２）に切られるような形で切れている。SD1060は幅約0.9m、深さ約0.3m、SD1061は幅約1.1m、深さ約0.3mを測る。断面は半円状で、SD1051・1051と同様で、遺物はほとんど出土していないが、弥生時代後期の所産と考える。



SK5333

1. 7.5YR2/2 黒褐色粘質土　黄色土粒少量。
　　炭分・炭化物少量。
　　上器片あり。
2. 10YR2/2 黒褐色粘質土　黄色土 φ10cm 程
　　集中して少量。
　　炭分・炭化物少量。
　　上器片あり。
3. 10YR2/3 黒褐色砂質土　炭分・炭化物少量。
4. 10YR2/1 黒色粘質土　黄色土無ばらに中量。
　　黒褐色粘質土が
　　ブロック状に少量。

SK5390・5396

1. 10YR3/1　黒褐色土　粘性やや弱。しまりやや強。やや砂質。
2. 10YR2/1　黒色土　粘性やや弱。しまりやや強。やや砂質。
3. 10YR1.7/1　黒色土　粘性やや弱。しまりやや強。
　　炭化物ブロック（φ2cm）少量含む。
4. 10YR1.7/1　黒色土　粘性やや弱。しまりやや強。土器多く含む。
5. 10YR1.7/1　黒色土　粘性やや弱。しまりやや強。
6. 10YR1.7/1　黒色土　粘性やや弱。しまりやや強。
7. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや弱。しまりやや強。
8. 10YR1.7/1　黒色土　粘性強。しまり強。やや砂質。
9. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや弱。しまりやや強。ややボソボソしている。
　　炭化物ブロック・粒子で少量含む。
10. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや弱。しまりやや強。
　　黄色砂質土ブロック（φ3cm）少量含む。
11. 10YR2/1　黒色土　粘性やや弱。しまりやや強。

SK5387

1. 10YR2/2　黒褐色粘質土　炭分・炭化物少量。
2. 10YR3/1　黒褐色粘質土　炭分・炭化物少量。
3. 10YR3/2　黒褐色粘質土　炭分・炭化物少量。
4. 10YR3/1　黒褐色粘質土　炭分・炭化物少量。
5. 10YR3/1　黒褐色粘質土　炭分・炭化物少量。

SK5381

1. 10YR3/1　黒褐色粘質土　炭化物少量。
2. 10YR2/1　黒色粘質土　炭化物少量。
　　黒褐色の細かい砂小さいブロック状で少量含む。
3. 25Y2/1　黒色粘質土　炭化物少量。上器片あり。
4. 25Y2/1　黒色粘質土　炭化物少量。
5. 25Y2/1　黒色粘質土　炭化物少量。

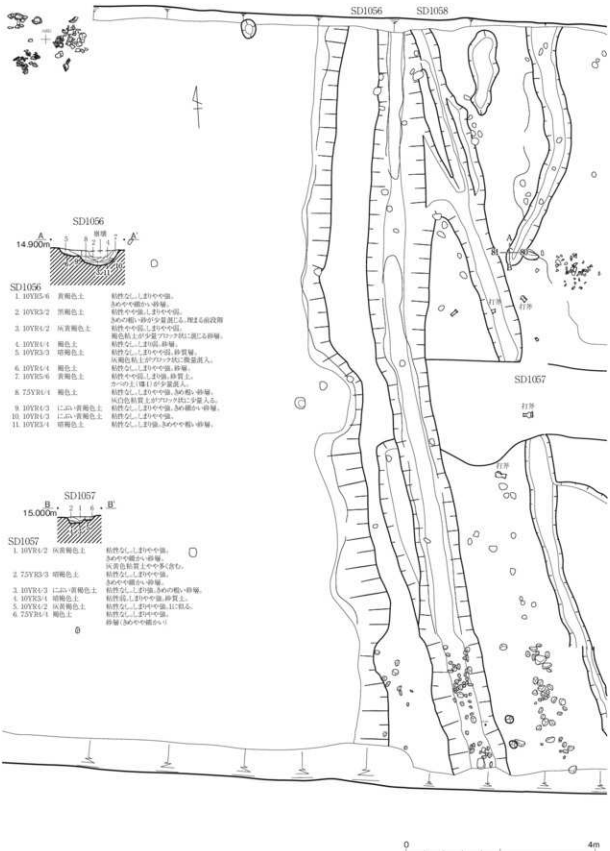
SK5362

1. 10YR2/1　黒色土　粘性やや弱。しまりやや強。やや砂質。
2. 10YR2/1　黒色土　粘性やや弱。しまりやや強。シルト質。
　　上部に微量の地土あり。
3. 5YR2/4　褐頭赤褐色土　粘性弱。しまりやや強。地土の堆積。
4. 7.5YR1.7/1　黒色土　粘性やや弱。しまりやや強。
　　上部に一部地土あり。炭化物微量含む。
5. 10YR1.7/1　黒色土　粘性やや弱。しまりやや強。
6. 10YR2/1　黒色土　粘性やや弱。しまりやや強。粘質土。
7. 10YR2/1　黒色土　粘性やや弱。しまりやや強。粘質土。
8. 10YR1.7/1　黒色土　粘性やや弱。しまりやや強。粘質土。

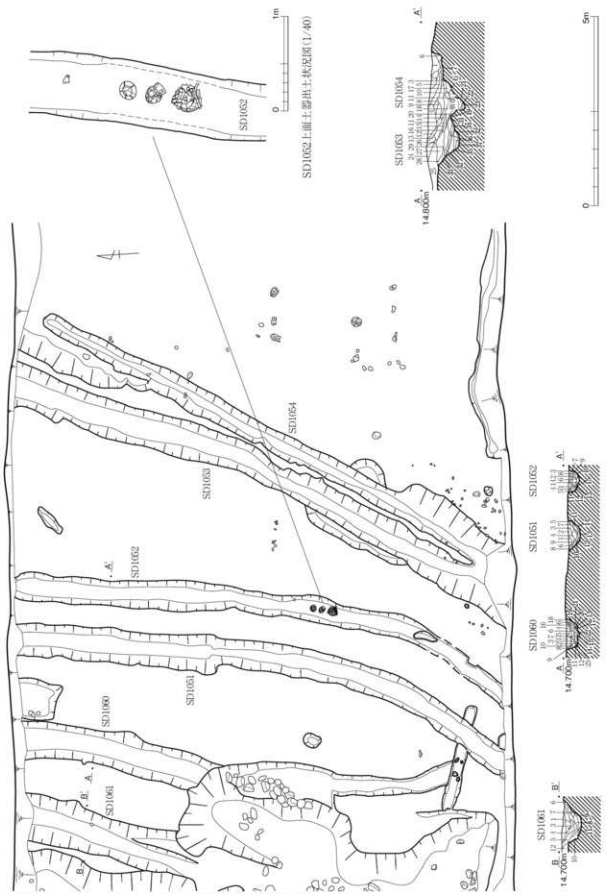
SK5332

1. 10YR2/1　黒色土　粘性やや弱。しまり強。
　　炭化物粒子少量含む。上器含む。
2. 7.5YR1.7/1　黒色土　粘性やや弱。しまりやや強。上器含む。
3. N2/6　黒色土　粘性やや弱。しまりやや強。やや砂質。
4. N2/6　黒色土　粘性強。しまりやや強。粘質土。
5. 25Y6/4　にぶい黄色土　粘性やや弱。しまりやや強。
　　黒色粘質土が少量ブロック状に含まれる。

第79図　中地区土坑実測図９（縮尺1/50）



第80図　SD1056～1058実測図（縮尺1/80）



SD1052上層土層断面図(1/40)

第81図　SD1051～1054・1060・1061実測図（縮尺1/100・1/40）

SD1052

1. 10R4/2	にぶい黄褐色土	粘性やや弱，しまりやや強，砂質．
2. 10R4/4	褐色土	粘性弱，しまりやや強，砂質．
3. 10R4/2	灰褐黄色土	粘性弱，しまりやや強，砂質．
4. 10R4/2	灰褐黄色土	粘性やや弱，しまりやや強．
5. 10R2/3	黒褐色土	粘性やや弱，しまり弱，礫層．
6. 10R4/2	灰黄褐色土	粘性弱，しまりやや強，砂質．
7. 7.5YR4/4	褐色土	粘性やや強，しまり弱，砂質，炭化物少量．
8. 7.5YR4/3	褐色土	粘性やや強，しまりやや強，砂質．
9. 7.5YR4/3	褐色土	粘性弱，しまり弱，砂質．
10. 10R4/6	褐色土	粘性なし，しまりやや強，砂礫．
11. 10R4/2	灰黄褐色土	粘性やや強，しまり弱，砂質．
12. 10R5/4	にぶい黄褐色土	粘性なし，しまり弱，砂質．
13. 10R5/2	灰黄褐色土	粘性やや強，しまりやや強，砂質土．
14. 10R4/1	褐灰色土	粘性なし，しまりやや強，砂質，粒子粗い． 黒褐色土（礫層）ブロック多く含む．
15. 10R3/4	にぶい黄褐色土	粘性なし，しまり強，地山の崩落土．

SD1051

1. 2.5Y4/1	黄灰色土	粘性やや弱，しまりやや強．
2. 5Y4/1	灰色土	粘性弱，しまりやや強，やや砂質．
3. 2.5Y4/2	暗灰黄色土	粘性弱，しまりやや強，やや砂質．
4. 5Y4/1	灰色土	粘性弱，しまりやや強．
		黒褐色ブロック・黄灰色粘土ブロック少量含む．
5. 2.5Y3/1	黒褐色土	粘性やや強，しまり強．
6. 2.5Y4/1	黄灰色土	粘性やや強，しまり強．
7. 2.5Y4/1	黄灰色土	粘性弱，しまりやや強．
8. 5Y3/1	オリーブ黒色土	粘性やや強，しまりやや強．
9. 5Y3/1	オリーブ黒色土	粘性やや強，しまりやや強．
10. 5Y4/1	灰色土	粘性やや強，しまりやや強．
11. 5Y3/2	オリーブ黒色土	粘性強，しまりやや強．
12. 10R5/4	にぶい黄褐色土	粘性弱，しまり強，砂質土．
13. 5Y3/1	オリーブ黒色土	粘性弱，しまり強，黒褐色・黒褐色土ブロックやや多く混入．
14. 2.5Y3/2	黒褐色土	粘性弱，しまりやや強，黄褐色土がブロック状に多く混入．

SD1060

1. 2.5Y3/1	黒褐色土	粘性強，しまり強，やや砂質．
2. 2.5Y3/1	黒褐色土	粘性強，しまり強．
3. 5Y3/1	オリーブ黒色土	粘性弱，しまり強，やや砂質．
4. 2.5Y3/1	黒褐色土	粘性弱，しまり強．
5. 2.5Y3/1	黒褐色土	粘性強，しまりやや強，暗灰色土との混土．
6. 2.5Y3/1	黒褐色土	粘性やや弱，しまり強．
7. 2.5Y3/1	黒褐色土	粘性強，しまりやや強，全体に砂っぽい．
8. 10R3/1	黒褐色土	粘性やや弱，しまりやや強．
9. 10BG1.7/1	黒色土	粘性やや強，しまりやや強，暗褐土（VM20の）．
10. 2.5Y3/2	黒褐色土	粘性やや強，しまりやや強． 4.5mm大の黒色土粒子やや多く混入．
11. 2.5Y3/3	暗オリーブ褐色土	粘性弱，しまりやや強．
12. 5Y4/4	オリーブ褐色土	粘性強，しまりやや強，暗褐土（地山の）．
13. 5Y3/1	黒褐色土	粘性やや強，しまりやや強．
14. 2.5Y3/1	黒褐色土	粘性弱，しまりやや強，やや砂質．
15. 10R3/1	黒褐色土	粘性弱，しまり強，黄色土・灰色土がブロック状に多く混入．
16. 10R4/1	褐灰色土	粘性弱，しまり強．
17. 2.5Y4/1	黄灰色土	粘性弱，しまりやや強．
18. 10BG1.7/1	黒色土	粘性やや強，しまりやや強，VM2層崩落土．
19. 10R3/1	黒褐色土	粘性やや強，しまりやや強．
20. 10R4/1	褐灰色土	粘性弱，しまり強．
21. 2.5Y4/2	暗灰黄色土	粘性弱，しまり強，砂質．
22. 2.5Y3/1	黒褐色土	粘性弱，しまりやや強．
23. 10YR5/4	にぶい黄褐色土	粘性弱，しまり強．

SD1061

1. 10R4/2	灰黄褐色土	粘性やや弱，しまりやや強．
2. 10R4/2	灰黄褐色土	粘性やや強，しまり強．
3. 10R4/2	灰黄褐色土	粘性やや弱，しまりやや強，かなり多く含む．
4. 10R4/2	灰黄褐色土	粘性やや強，しまりやや強．
5. 10R4/2	灰黄褐色土	粘性やや強，しまりやや強．
6. 10R3/2	黒褐色土	粘性やや強，しまりやや強，地山のとやや多く含む．
7. 10R3/1	黒褐色土	粘性強，しまりやや強，地山のと多く含む．
8. 5YR2/1	黒色土	粘性やや強，しまりやや強．
9. 2.5Y5/3	黄褐色土	粘性弱，しまりやや弱，カメやや多い砂層．
10. 2.5Y3/1	黒褐色土	粘性やや強，しまりやや強，地山のと少ブロックで多く含む．
11. 10R4/1	褐灰色土	粘性やや強，しまり強，砂質土．
12. 2.5Y3/1	黒褐色土	粘性強，しまり強，VM-2層．

SD1054

1. 10YR5/4	にぶい黄褐色土	粘性なし，しまり弱，粒子粗い． 黄色土少量混入，黄色土少量混入．
2. 7.5YR4/3	褐色土	粘性なし，しまり弱，砂質，粒子粗い．
3. 10YR5/6	黄褐色土	粘性なし，しまり弱，砂質，粒子はやや粗い．
4. 10YR5/6	黄褐色土	粘性弱，しまりやや弱，砂質土．
5. 10YR4/4	褐色土	粘性弱，しまりやや弱，砂質土，粗砂微量含む．
6. 10YR4/4	褐色土	粘性やや弱，しまりやや弱，やや色調こい．
7. 10YR5/4	にぶい黄褐色土	粘性なし，しまりやや強，砂質，粒子粗い．
8. 7.5YR4/3	褐色土	粘性なし，しまりやや強，砂質，粒子粗い．
9. 10YR4/4	褐色土	粘性なし，しまりやや弱，砂質，シルト状の細かい層が散乱入る．
10. 7.5YR4/3	褐色土	粘性なし，しまりやや弱，砂質，粒子粗い．
11. 10YR5/2	灰黄褐色土	粘性なし，しまりやや強，砂質，シルト状の細かいスジが散乱入る． 17．
12. 10YR5/6	黄褐色土	粘性なし，しまり強，シルト状にきめの細かい砂層．
13. 10YR5/3	にぶい黄褐色土	粘性やや弱，しまりやや強，きめ細かい．
14. 10YR5/2	灰黄褐色土	粘性やや弱，しまり強，シルト質，細砂粒少量混入．
15. 10YR5/1	褐灰色土	粘性強，しまりやや強，シルト層．
16. 10YR5/2	灰黄褐色土	粘性強，しまり強，シルト質，粗砂粒多く混入．
17. 10R4/1	褐灰色土	粘性強，しまり強，粗砂層，シルト質のとが少量混入．
18. 10YR5/2	灰黄褐色土	粘性強，しまり強，粘質土，同色の細砂粒少量混入．
19. 10YR5/2	灰黄褐色土	粘性なし，しまりやや強，細砂粒層．
20. 10R4/1	褐灰色土	粘性弱，しまりやや強，粗砂やや多く含む，炭化物微量混入．
21. 10YR5/2	灰黄褐色土	粘性なし，しまりやや強，細砂粒層，黒褐色粘土ブロック微量混入．
22. 10YR5/4	にぶい黄褐色土	粘性なし，しまり強，21よりやや粗い． 黒褐色粘土ブロック微量混入．
23. 10YR3/2	黒褐色土	粘性強，しまり強，粘土層，22のとがブロックで少量混入．

SD1053

24. 7.5YR3/2	黒褐色土	粘性強，しまり強，黄褐色土少量混入．
25. 7.5YR3/1	黒褐色土	粘性強，しまり強，やや砂質．
26. 10YR4/3	灰黄褐色土	粘性やや強，しまり強，やや砂質．
27. 10YR3/3	暗褐色土	粘性弱，しまり弱，黄色砂． 灰色粘質土が多く（ブロック状・細状に混入，炭化物微量．
28. 10YR3/3	暗褐色土	粘性強，しまりやや強，27に似るが弱少量．
29. 10YR4/4	褐色土	粘性なし，しまりやや強，砂質，粒子やや粗い． シルト質のとがうすくんる．
30. 10YR3/4	黒褐色土	粘性強，しまりやや強，粘土層，褐色の粗砂層多く混入．
31. 10YR5/2	灰黄褐色土	粘性やや強，しまりやや強，粘土層，褐色の粗砂層多く混入．
32. 2.5Y4/2	暗灰黄色土	粘性なし，しまりやや強，細砂粒層．
32'. 5YR3/6	暗赤褐色土	粘性なし，しまりやや強，粗砂層．
33. 10YR2/2	黒褐色土	粘性強，しまり強，無機土，黄褐色土微量混入．
34. 10YR3/2	黒褐色土	粘性強，しまりやや強，黄灰色砂がブロック状に少量混入．
35. 2.5Y5/4	黄褐色土	粘性やや強，しまり強，黄色砂の細状にやや多く混入．
36. 10YR4/1	褐灰色土	粘性やや強，しまり強，黄色砂の細状にやや多く混入．
37. 10YR3/1	黒褐色土	粘性強，しまり強，灰色粘土，黄色砂がブロックで多く混入．

SD1056（第81図）　81区に南北に延びる。幅0.９～1.3m、深さ約0.3mを測る。北ではＮ６°Ｗ方向だったのもが、南では10°Ｗに変わり、少しずつ東向きに曲がっていく。断面は半円形で、埋土は交互堆積を示す。南部で礫が底部に多く見られた。遺物は少ないが、弥生時代後期と考えられる。

SD1057（第81図）　SD1056の北で二股に分かれるように南東に延びる。幅0.4～0.7m、深さ約0.1mで南ほど狭くなる。断面は浅皿状で、遺物は少ない。打製石斧が１点出土している。

SD1082（第82図）　Ｂ～Ｄ114～116に北東から南西方向に延びる。北は、SD1112・SD1113と接続しＡ112付近まで延びる。幅0.7～1.2m、深さ0.2～0.3mを測る。断面は皿状で、埋土は黒色砂質土でレンズ状堆積を呈する。遺物は部分的にまとまった箇所があり、弥生時代後期の高坏・器台・広口壺の他、甕形土器の破片も多く出土している。

（５）入江状遺構と川４（第83図）

SF１　Ｃ・Ｄ92区、川４の西岸に位置する。長さ約６m、幅約2.5mで川岸から西側へ抉り込まれ、川側には30～50㎝大の礫がＬ字状に積まれ、岸との間によどみを作るような構造になっていた。南側は調査区外になるので全容は不明だが、川の流れを緩め、入江状のものが作られていたと考えられる。

SF２　Ｂ・Ｃ88・89区、川４の東岸に位置する。長さ約５m、幅約３mの方形状の掘り込みである。岸側には中断付近に、長さ約３mにわたって礫が直線的に並べられ、その面で狭い平坦部が造られていた。底部は大きな礫がなく、相対的に川より低くなるようになっていた。

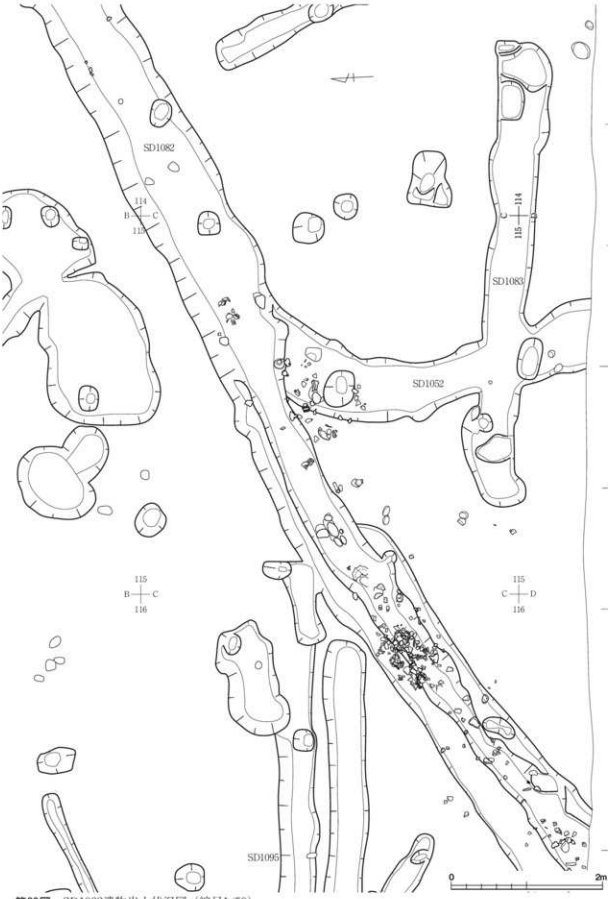
川４　Ａ89・90～Ｄ89～92に位置し、北東から南東に延びる。幅は北で約8.5m、南で約18mを測り、深さは約１mである。川底は地山礫層に達しており、転石と区別がつきにくい状況で礫が広がる。遺物は、西岸に廃棄された状況で多く見られ、中央付近まで点在するが、東岸に行くに従って少なくなり、東岸にはほとんど見られない。川底の比高差から、流れは北東から南東に向かっていたと考えられる。

SF１とSF２は、直線で約20m離れて造られており、小舟の船着き場と考えられる。川は、北東から南西に流れていたと推定され、SF1は、流れを制御する必要があったため、川側に礫を積んだものと考えられる。一方、SF2は、岸に抉り込ませて、自然によどみができるようにしてある。岸の礫は、乗り降りのための足場として護岸したのかもしれない。川は、北東から南西に流れていたことが、川底の比高差から推定でき、川幅が南で広くなることから、流れがやや緩やかになった場所と考えられる。川の流れを利用して、SF２からSF１へものを運んだ可能性が高い。西側に集落があり、東に用水路がある状況を考えれば、おそらく水田が東にあり、そこから米を運ぶために利用した可能性が高いと考える。

（６）川５東岸（第84図）

118～121区付近の集落の西端部分に位置する。川５は北東～南西に延び、その岸はＡ～Ｃ120・121で確認できる。しかし、Ｃ・Ｄ118～121の南側は、極めて不自然に大きく東へ入り込む。その底には、直径４㎝大の枝材が折り重なるように出土している。加工された木製品も含まれ、剣形木製品のように祭祀的な色彩を持つ遺物も含まれていた。南側にその大半があると考えられ、規模や性格は不明だが、かなり直線的に10m以上も入り込み、北側の岸が緩やかな傾斜であるのに対し、急激に落ち込んでいることからなどから、人工的に造られた入り江状の施設、おそらくは船着き場である可能性が高い。

北側の岸からそこに向かって、木製品が見つかっているほか、Ｂ120の川の肩部からは、土器内に煤が納められた、完形の小型台付壺が口を川に向けて倒れ込んだ状態で見つかっている。内部の煤は、いわゆる煙煤で純粋な粉末である。口が下になっていたにも関わらず、外部に漏れた様子がなかったこと



第82図　SD1082遺物出土状況図（縮尺1/50）

第83図　川4および入江伏遺構平面図（縮尺1/100）

第84図　川5東岸遺物出土状況図（縮尺1/80・1/20）

から、木製の蓋があったものと考えられる。

（７）土器集中区

85・86区谷部（第85図）　Ｂ区からＤ区にかけての谷地形の肩部に、幅約４ｍ、長さ約10ｍに広がる遺物集中区である。Ｂ85区では、完形の長頸壺２点と甕形土器１点が潰れた状態で出土している。Ｃ区では、甕形土器・壺形土器の他、高坏・鉢・器台などほとんどの器種が破片で多量に出土し、復元できたものだけでも65個体以上になる。集落から隔絶されている場所で、完形品もあることから、祭祀的な意味合いが強いと考えられる。時期は弥生時代後期で、一括性は高い。

川４西岸（第86図）　川の肩部付近にブロック状の土器集積がみられた。Ａ90区付近、Ｂ91区付近、Ｂ・Ｃ91・92区付近の３ヶ所で、大半が破片となっていた。弥生時代後期土器で、集落からの廃棄と考えられる。

Ａ・Ｂ96・96区（第87図）　Ⅷ層中の弥生時代後期の土器集積で、約４ｍ×３ｍの楕円状のブロックを中心に周囲に広がる。形をとどめるものは少なく大半は破片化し、復元できたものは多くはない。ブロック内には20～30㎝大の礫も多く含まれる。

Ｃ93・94区（第88図）　Ⅷ層中の弥生時代後期末の土器集積で、約２ｍ×２ｍの三角形状ブロックと約3.5ｍ×２ｍの三日月状ブロックがある。前者は、密度が薄いが比較的大きな破片が多く、後者では密度は高いが破片が小さい傾向がある。

Ｃ・Ｄ95・96区（第88図）　Ⅷ層中の弥生時代後期の土器集積で、長さ約６ｍ、幅約２ｍの三日月形で帯状に0.3ｍ程のまとまりが散在する。西側のまとまりから、内面に赤色顔料が付着した片口鉢と手焙形土器が重なって出土している。

Ｃ・Ｄ93区（第88図）　Ⅷ層中で単独出土した弥生時代後期の大型甕形土器である。１個体が潰れた状態で出土している。20㎝大の礫が東側に近接して出土している。

Ｃ100・101区（第89図）　Ⅶb層中の土器集積である。約３ｍ×２ｍ範囲に広がる。破片が小さく、復元できるようなものはなかった。20～30㎝大の礫を多く含む。

Ｂ100・101区（第89図）　Ⅶb層中の土器集積で、約0.7ｍ×0.4ｍ範囲の小さなまとまりで、甕形土器の破片である。

Ｃ105区（第89図）　Ⅶb層中の弥生時代後期の土器集積である。約2.5ｍ×1.7ｍ範囲に広がる。破片が大半で、ほとんど復元できるものなかった。

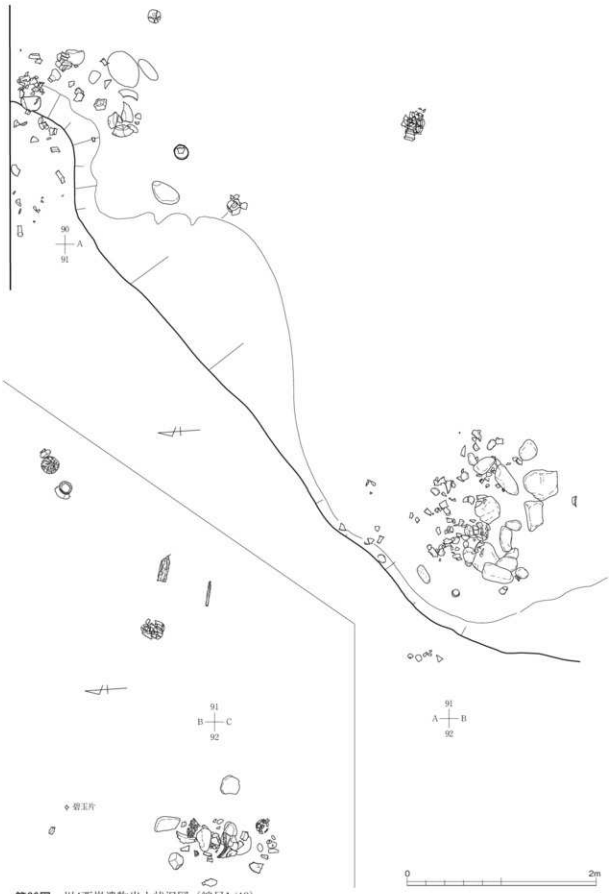
Ａ・Ｂ106区（第90図）　Ⅶb層中の弥生時代後期の土器集積である。約４ｍ×2.5ｍ範囲に破片が散在する。まとまりはなく、復元できるようなものはなかった。

Ａ・Ｂ113・114区（第90図）　Ⅷ層中の弥生時代後期の土器集積で、約６ｍ×２ｍの範囲で、三角形状に広がる。密度は高く、破片も大きなものが多い。甕形土器・器台などが復元できた。20㎝大の礫が東側を中心に含まれている。

土器ブロックの南西約1.6ｍの場所には、約1.4ｍ×0.7ｍの礫の集積が見られる。僅かに土器片も含む。

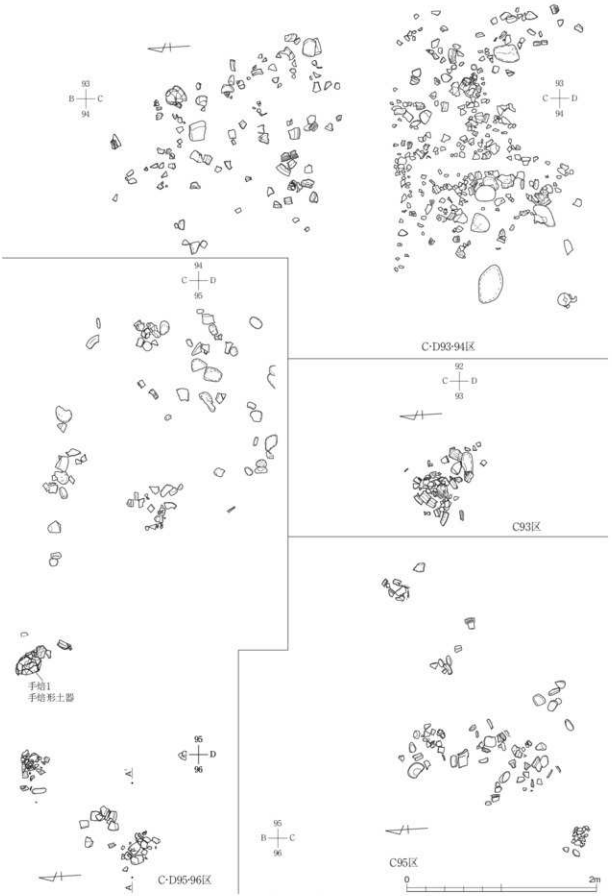
Ｃ・Ｄ116・117区（第90図）　SK5263とSD1082の上に位置するⅧ層中の遺物集積である。約６ｍ×３ｍの範囲に広がり、弥生時代後期土器の他、縄文土器、打製石斧、砥石など様々な遺物が混入する。

第85図　85・86区谷部西肩土器集中地区平面図（縮尺1/40）

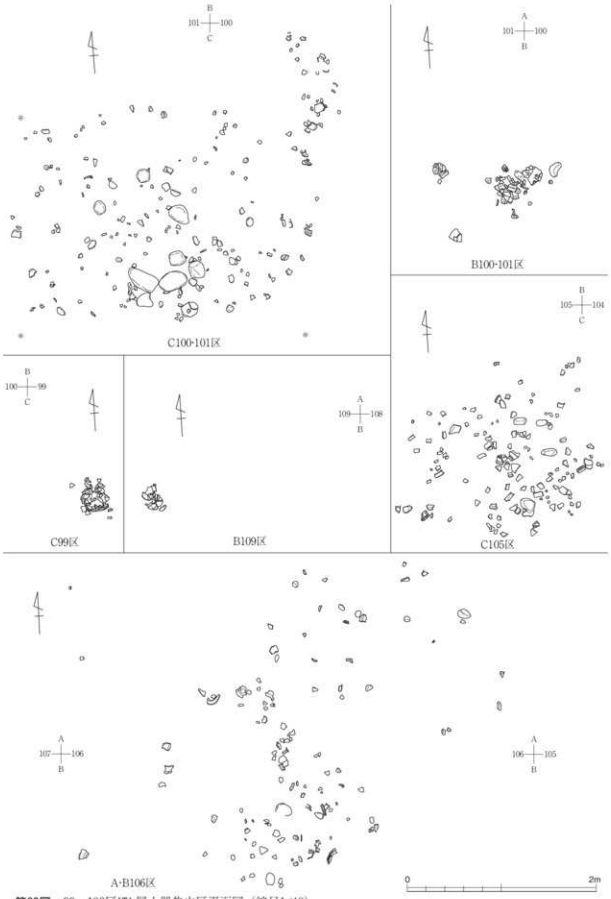


第86図 川4西岸遺物出土状況図（縮尺1/40）

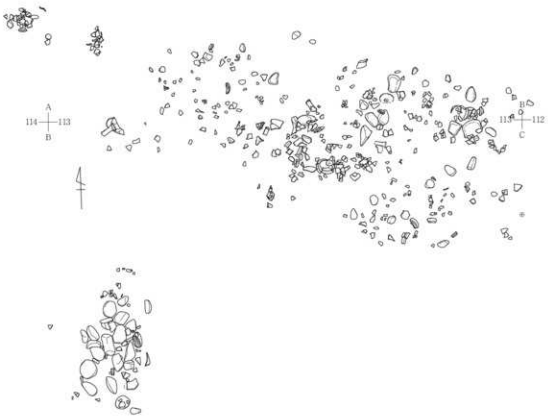
第87図　A・B94～95区Ⅶ層遺物集中区（縮尺1/40）



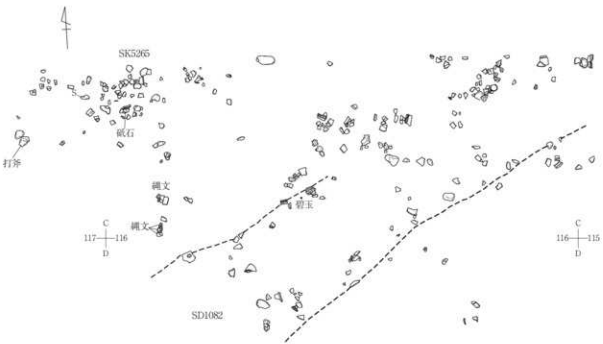
第88図 C・D92～96区Ⅷ層土器集中区平面図（縮尺1/40）



第89図　99～109区Ⅶb層土器集中区平面図（縮尺1/40）



A･B-113～114区Ⅶ層遺物出土状況図



SK5265･SD1082上面遺物出土状況図

第90図　113～117区遺物集中区平面図（縮尺1/40）

３　西地区の遺構

西地区で検出した主な遺構は、竪穴住居７棟、平地住居３棟、土坑85基、溝32条である。川５の西岸に大きなまとまり（128）～134区付近）があり、さらに、川５から延びると考えられるSD1134により区画されるような状況で、西は遺構が散漫に展開する。

（１）竪穴住居

SI39（第91図）　Ａ・Ｂ133・134区に位置し、北側はカクランを受け、南も排水路により一部削平されている。建て替えが行われており、下層からSI43を検出している。SI39六角形と考えられ、直径９ｍ前後、深さ約0.2ｍを測る。貼り床はほぼ全面に見られる。中央には方形の二段掘り土坑がある。外側のものは約1.4×1.08ｍ、深さ約0.2ｍを測り、内側のものは約0.86×0.72ｍ、深さ約0.56ｍを測る。柱は、各角の内側に立てられた可能性が高く、６本になると考えられる。床面に近い遺物は少ないが、弥生時代後期の土器片が出土している。

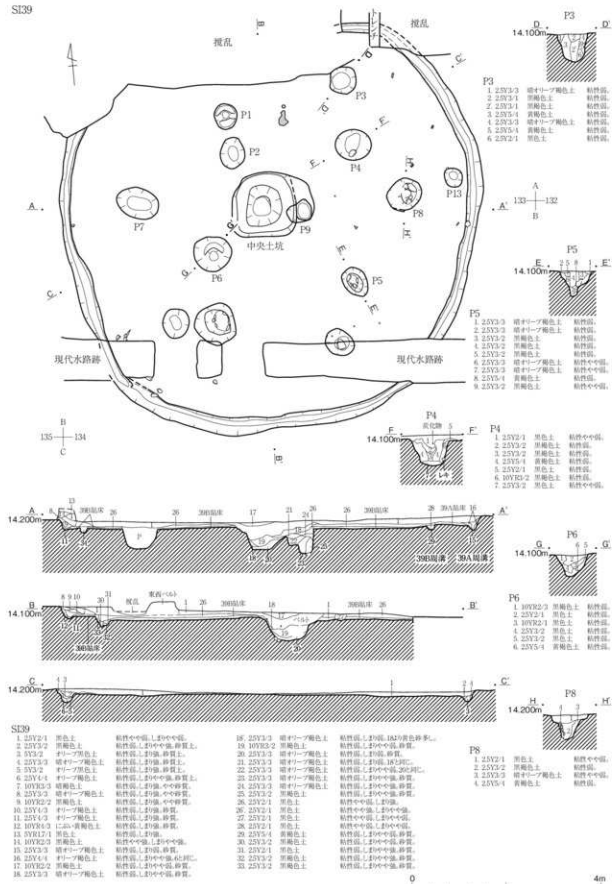
SI43（第92図）　SI39の下層で検出した住居である。五角形で直径は約7.6ｍを測る。床面の高さはSI39とほとんど変わらない。柱は５本と考えられるが、SI39と共用している可能性が高く明確ではない。遺物はほとんど出土していないため時期は分からないが、床面などの共用状況から、ほぼ同時期と考えられる。

SI40（第93図）　Ａ・Ｂ129・130区に位置する。僅かに楕円形を呈し、約6.35ｍ×5.55ｍ、深さ0.4ｍを測る。壁周溝は内側の立ち上がりがだらけていて、深さもあまりない。貼り床は全面にあり、北西壁際には白色粘土塊が２ヶ所で見られた。柱は２本で、短軸方向に、柱間約1.8ｍで造られている。その深さは0.2ｍで浅く、主柱穴としては頼りない。遺物は、床面近くでの出土はほとんど無く、正確な期は不明だが、弥生時代後期と考えられる。覆土上面では古墳時代前期の遺物が出土しているが、住居の床面とは大きな隔たりがある。

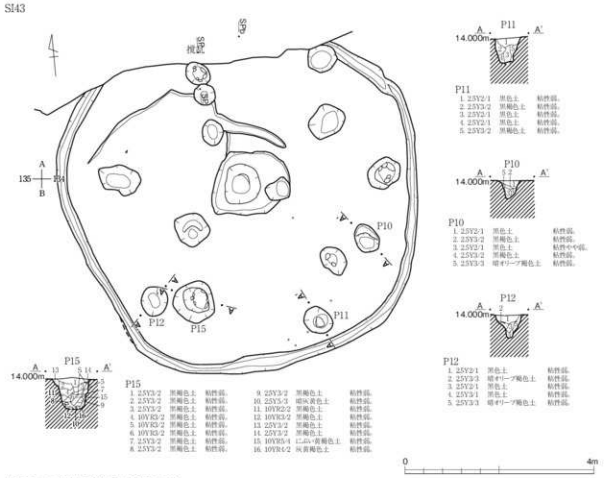
SI41（第94図）　Ｂ・Ｃ128・129区に位置し、東は川５の肩部に接している。楕円形で約6.6ｍ×4.55ｍ、深さ約0.4ｍを測る。壁周溝が明瞭で、立ち上がりが顕著である。柱は、長軸上に配置された２本柱で、深さは約0.5ｍを測る。南東壁際中央には二段掘りの方形土坑があり、外側の大きさは約１ｍ×0.7ｍ、深さ約0.15ｍを測り、内側は直径約0.3ｍ、深さ0.35ｍを測る。土坑と壁との間には60㎝×50㎝程の白色粘土塊が見られた。貼り床は全面にみられ、中央付近では、約0.8ｍ×0.6ｍの範囲で炭化物が集中していた。遺物は、床面に近い付近での出土はあまりないが、弥生時代後期の土器片が僅かに出土している。

SI42（第95図）　Ｂ～Ｄ132･133区に位置する。南側は、SD1145に切られている。不整形な五角形で、１回建て替えが行われ、東側の壁周溝はほぼ同じ位置で、西側へ拡張されている。そのため、角部分はずれている。大きさは拡張前が角から対辺への長さ約7.8ｍ、拡張後は約8.4ｍで、深さ約7.6ｍを測る。壁周溝は幅がやや広く0.3～0.4ｍを測り、掘り込みは浅い。中央に二段掘り状の土坑が見られる。外側は隅丸方形で約1.2×約1.4ｍを測る。内側は楕円形で、約1.2ｍ×0.9ｍを測る。内部からは礫がまとって出土している。貼り床はほぼ全面に明瞭に見られる。柱は、拡張前は４本、拡張後は５本で深さは0.5～0.6ｍを測る。遺物は床面に近いものはほとんど無いが、弥生時代後期土器の破片が少量出土している。

SI48（第96図）　Ｑ・Ｒ150区に位置し、東約1/3は調査区外となる。隅丸方形と考えられ、一辺約4.9ｍ、深さ0.1ｍを測る。柱は４本と考えられ、３本を検出している。柱穴の大きさはバラバラだが、底部の直径は0.2ｍ前後、深さ0.45ｍ前後を測る。中央に直径約0.5ｍ、深さ約0.35ｍのピットを持つ。遺物



第91図 SI39実測図（縮尺1/80）



第92図　SI43実測図（縮尺1/80）

は少ないが、弥生時代後期土器片が床面付近で出土している。

なお、SI48の北と西には、平行する形でSD1159とSD1157があり、SI48と一連のものである可能性も考えられる。

SI46（第97図）　K・L147・148区に位置し、南側は調査区外である。隅丸長方形で残存長軸長約6.5m、短軸長約3.6m、深さ約0.1m、方位N29°Wを測る。貼り床は全面に顕著にみられ、中央やや東側で炭化物付着していた。壁周溝は無く、壁の立ち上がりは緩やかである。柱穴は全く検出できず、壁建ちであった可能性が高い。遺物は、床面に弥生時代中期土器破片が多く散在していたが、復元できたものは少ない。

SI47（第97図）　N・O151・152に位置する。隅丸方形で約6.4m×4.1m、深さ約0.1m、方位N26°Wを測る。貼り床は全面に見られ、壁周溝は幅約0.3～0.4m、深さ約0.15mで巡り、立ち上がりはやや緩やかである。柱穴は無く、SI46と同様、壁建ちであった可能性が高い。遺物は床面付近では、中央やや南東側と西側に若干弥生時代中期の土器片がまとまって出土している。

（２）平地住居

SI44（第96図）　B・C131・132区に位置する。中央やや北をSD1136が、東をSK5431が南をSK5430がそれぞれ切っているため、かろうじて全容が掴める程度でしかない。一辺が4.2～4.3mの隅丸方形状に溝が巡り、その内側に貼り床が残っている。その直上に炭化材がやや多く見られることから、焼失住居と考えられる。約0.8m×0.7m、深さ約0.4mの楕円形中央土坑がある。柱は４本で、１本はSK5430と

重なっている。

SI45（第98・99図）　調査区の西南端、Ｓ～Ｖ151～154区に位置する。北西側に開口部を持つ溝が周囲を巡る住居で、中心部分は７角形である。中心部分は、直径が約8.3m で、幅0.15m 前後の狭い壁周溝が巡り、深いところで約0.1m の掘り込みが見られる。貼り床が全面に見られ、全体に炭化材が広がる焼失住居である。また、中央付近には焼土も広い範囲で確認できた。炭化材は、中央に向かって倒れ込んだ状況を示していた。柱は、基本的には各角の内側に１本の計７本で構成されるが、南側だけ、間にもう１本置かれているため、計８本となっている。南の２本（Ｐ４・Ｐ５）と東のＰ３には柱根が良好な状態で残されていた。遺物は、南東壁際でほぼ１個体分の弥生時代後期の甕形土器が潰れた状態で、そこから約1.5m 南西側の壁際で40㎝大の白色粘土塊が出土している。北側壁際では、石杵が１個出土した他、中央付近では玉作関連遺物が少量ではあるが出土している。

SI45は、その外周を含めると、直径約15m となる。溝は、北半部では幅約１～1.2m を測るが、南半部では0.3～0.5m と狭くなる。また、南は、外側へ逃げるようになり、住居本体と一致しない不自然なあり方を示す。北側の開口部は、その中央が土坑（SK5454と5453）で封鎖された状況で、その両端に１m 程の陸橋ができている形となる。

遺存していた柱のうち、Ｐ３とＰ５について樹種鑑定と年代測定を実施した。樹種鑑定の結果、いずれもサクラ属であることが判明した。２本のみなので断定はできないが、柱など主構造材には、選択的にサクラ属を用いた可能性が高い。これとは別に、当時の周辺環境を把握するために実施した土壌の花粉分析によれば、弥生時代の土壌には、草本花粉特にイネ科やヨモギ属が多く含まれ、周辺は樹木の少ない開けた草原地帯であったことが明らかにされている。この点からすればこの柱は近辺ではなく、背後の丘陵地帯から運んだ可能性が高い。

C^{14}法による年代測定の結果では、Ｐ３がcalBC396-calAD21、Ｐ５がcalBC395-AD16という結果が得られている。出土土器からSI45が弥生時代後期に属することから考えると、新しい部分を取り上げてもやや古い年代が与えられたことになる。近年、C^{14}法のデータ蓄積により、弥生時代の年代観が古くなる可能性が指摘され、今回の結果もその点では矛盾しないとは言えるが、分析資料が限られているため、今後の資料の蓄積に結論は委ねざるをえない。

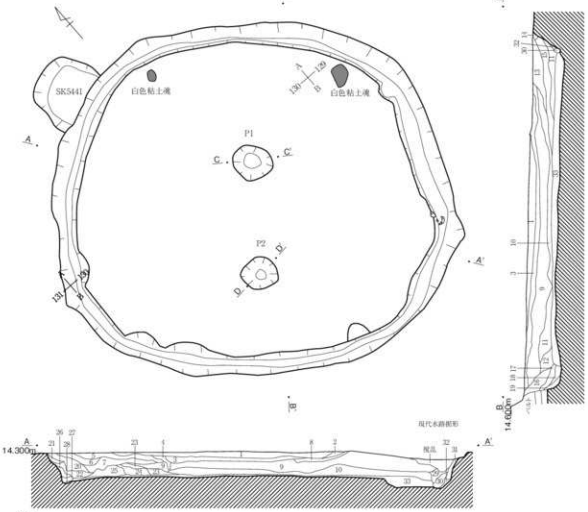
SI49（第100図）　SI45の下層から検出した住居で、SI45の拡張前の住居と考えられる。円形で、直径約5.6m、深さ約0.1m を測る。幅約0.2m の溝が巡り、貼り床はやや北に偏った形で検出した。柱は２本（Ｐ１・Ｐ２）で、深さは約0.4m を測る。中央には直径約0.8m、深さ約20㎝の円形土坑を持っている。遺物は北壁際に甕形土器と、北東側床面で土器片が出土している。弥生時代後期ではあるが受け口状の口縁を持つ近江系の土器が主体を占める。

住居本体の南半分を溝状土坑が囲っている。その両端を含めると直径は約11m になる。西側の溝（SD1164）は、幅１m 前後、深さ約0.4m を測る。底の起伏は大きく、複数の土坑が連結したような形状を示す。東側の溝（SD1165）は、幅約1.7m、深さ約0.4m を測り、全長は３m 程度で短い。南側に土器片が若干まとまって出土している。土器は、住居本体と同様受け口状の甕形土器である。南の溝（SD1163）は北に向かって狭くなる三角形状で、広いところで約1.4m、狭いところで約0.6m を測る。底の起伏はやはり大きい。遺物は少ない。

（３）土坑

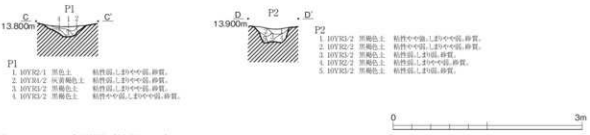
SK5404（第101図）　A128区に位置し、南東側は、SD1136に切られる。円形で、直径約１m、深さ

SI40



SI40

1. 10YR1.7/1 黒色土　　粘性やや強しまり強、炭化物微量含む。上面がやはり流れ込んだ古墳時代初頭の土器が混在している。(Ⅴ)に相当。
2. 10YR2/1 黒色土　　粘性やや強しまりやや強、シルト質。
3. 10YR2/2 黒褐色土　　粘性やや強しまりやや弱。
4. 10YR2/1 黒色土　　粘性強しまりやや強、褐色土との混土。
5. 2.5Y3/2 黒褐色土　　粘性やや強しまり強。
6. 2.5Y3/2 黒褐色土　　粘性弱しまりやや強、砂質。
7. 2.5Y6/2 暗灰黄色土　　粘性弱しまりやや強、砂質。
8. 2.5Y3/2 黒褐色土　　粘性やや強しまりやや強、5に似る。
9. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土　　粘性弱しまりやや弱、砂質。
10. 2.5Y3/2 黒褐色土　　粘性弱しまりやや強、砂質。
11. 2.5Y3/3 オリーブ褐色土　　粘性弱しまりやや強、砂質。黄色砂ブロック状に多量含む。
12. 2.5Y3/2 黒褐色土　　壁土又は土堤の流れ込み?粘性弱しまり強、砂質。黄色砂ブロック状に多量含む。
13. 10YR6/3 オリーブ黄褐色土　　粘性弱しまりやや弱、砂質。
14. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土　　粘性弱しまりやや弱、砂質。
15. 2.5Y3/2 黒褐色土　　粘性弱しまりやや弱、砂質。
16. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土　　粘性弱しまり強、砂質。
17. 2.5Y3/2 黒褐色土　　粘性弱しまり強、砂質。
18. 2.5Y4/4 オリーブ褐色土　　粘性弱しまり強、砂質。
19. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土　　粘性弱しまり強、砂質。
20. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土　　粘性弱しまり強、砂質。16に同じ。
21. 10YR3/2 黒褐色土　　粘性弱しまり強、砂質。
22. 2.5Y3/2 黒褐色土　　粘性弱しまりやや弱、砂質。黄色砂ブロック多量含み、まだら状を呈す。
23. 2.5Y6/4 オリーブ褐色土　　粘性弱しまりやや強、砂質。
24. 2.5Y6/4 オリーブ褐色土　　粘性弱しまりやや強、砂質。
25. 2.5Y3/2 黒褐色土　　粘性弱しまり強、砂質。
26. 2.5Y4/3 オリーブ褐色土　　粘性弱しまり強、砂質。
27. 2.5Y3/2 黒褐色土　　粘性やや弱しまり強。
28. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土　　粘性やや弱しまり強、砂質。
29. 2.5Y3/2 黒褐色土　　粘性弱しまり強、砂質。
30. 5Y2/1 黒色土　　粘性弱しまり強。
31. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土　　粘性弱しまり強。黄色砂ブロック多量含む。まだら状を呈す。
32. 2.5Y3/2 黒褐色土　　粘性弱しまり強。黄色砂ブロック多量に含まれ、まだら状を呈す。
33. 2.5Y3/3 黒褐色土　　粘性やや弱しまり強、砂質、粘保。

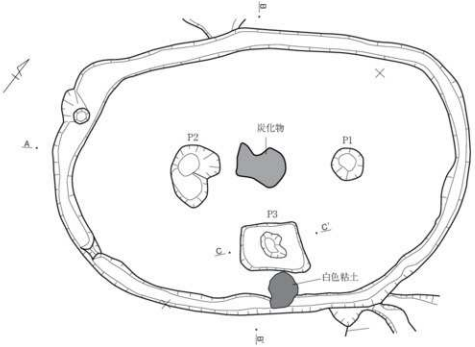


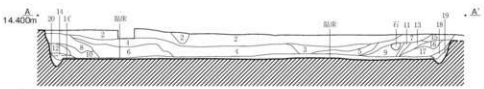
P1
1. 10YR2/1 黒色土　　粘性弱しまりやや弱、砂質。
2. 10YR1/2 灰黄褐色土　粘性弱しまりやや弱、砂質。
3. 10YR3/2 黒褐色土　　粘性弱しまりやや弱、砂質。
4. 10YR3/2 黒褐色土　　粘性やや弱しまりやや弱、砂質。

P2
1. 10YR3/2 黒褐色土　　粘性やや強しまりやや弱、砂質。
2. 10YR3/2 黒褐色土　　粘性やや弱しまりやや弱、砂質。
3. 10YR3/2 黒褐色土　　粘性弱しまり弱、砂質。
4. 10YR3/2 黒褐色土　　粘性弱しまりやや弱、砂質。
5. 10YR3/2 黒褐色土　　粘性弱しまり弱、砂質。

第93図　SI40実測図（縮尺1/60）

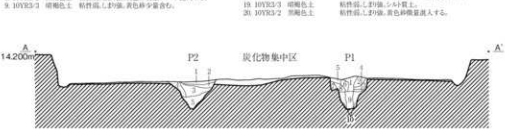
SI41

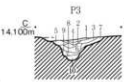




SI41

1. 10YR2/2　黒褐色土　粘性弱しまり強、砂粒混じりの土。
2. 10YR2/2　黒褐色土　粘性弱しまり強、黄色砂少量含む。
　　炭化物粒少量含む。上層ほど多く。
3. 10YR3/2　黒褐色土　粘性弱しまり強、パサパサした土。
　　炭化物粒少量含む。灰黄色土少量混入。
4. 10YR3/2　黒褐色土　粘性弱しまり強、炭化物粒微量含む。
　　パサパサした土。
5. 10YR3/2　黒褐色土　粘性弱しまり強、黄色砂混入する。
6. 10YR3/2　黒褐色土　粘性弱しまり強、黄色砂質土ブロック混入する。
7. 10YR3/2　黒褐色土　粘性弱しまり強、6に似る。
8. 10YR3/2　黒褐色土　粘性弱しまり強、黄色砂質土ブロック混入する。
9. 10YR3/3　暗褐色土　粘性弱しまり強、黄色砂少量含む。
10. 10YR5/4　にぶい黄橙色土　粘性弱しまり強、砂質土。
11. 10YR2/2　黒褐色土　粘性弱しまり強、シルト質土。
　　黄色砂ブロック少量混入する。
12. 10YR3/2　黒褐色土　粘性弱しまり強、黄色砂ブロック混入する。
13. 10YR2/2　黒褐色土　粘性弱しまり強、やや窪りのみられる。
　　黄色砂ブロック混入する。
14. 10YR2/2　黒褐色土　粘性弱しまり強、黄色砂ブロック混入する。
15. 10YR3/3　暗褐色土　粘性弱しまり強、黄色砂少量混入する。
16. 10YR2/3　暗褐色土　粘性弱しまり強、黄色砂ブロックやや多い。
17. 10YR4/3　にぶい黄褐色土　粘性弱しまり強、シルト質土。
18. 10YR3/3　暗褐色土　粘性弱しまり強、黄色砂ブロック多く混入する。
19. 10YR3/3　暗褐色土　粘性弱しまり強、シルト質土。
20. 10YR3/2　黒褐色土　粘性弱しまり強、黄色砂微量混入する。





P3

1. 10YR3/2　黒褐色土　粘性弱しまり強。
2. 10YR3/2　黒褐色土　粘性弱しまり強。
3. 10YR3/2　黒褐色土　粘性弱しまり強。
4. 10YR3/3　暗褐色土　粘性弱しまり強。
5. 10YR3/3　暗褐色土　粘性弱しまり やや強。
6. 10YR3/2　黒褐色土　粘性弱しまり強。
7. 10YR3/3　暗褐色土　粘性弱しまりやや強。
8. 10YR3/2　黒褐色土　粘性弱しまりやや強。シルト質土。
9. 10YR4/2　灰黄褐色土　粘性弱しまりやや強。

P1

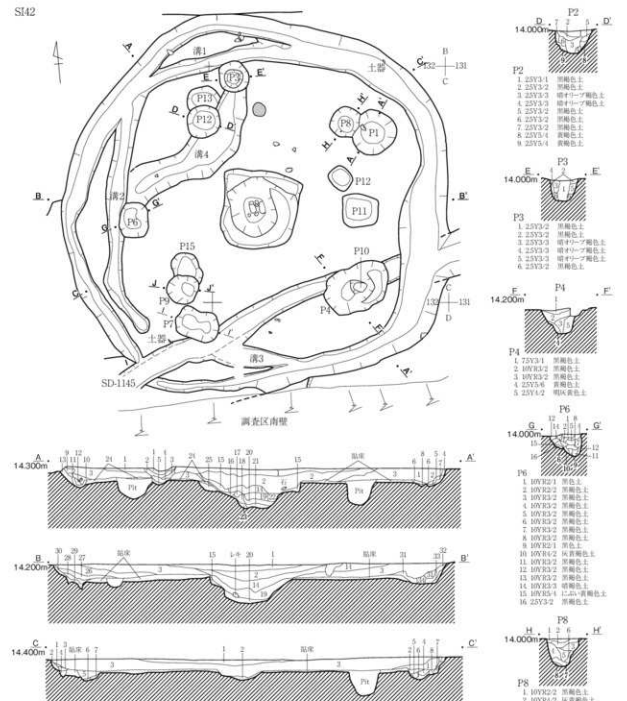
1. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや強しまりやや強。砂質。
2. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや強しまりやや強。砂質。
3. 10YR3/2　黒褐色土　粘性やや強しまりやや強。砂質。
4. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや強しまりやや強。砂質。
5. 10YR2/2　黒褐色土　軟2層と同一。
6. 10YR2/2　黒褐色土　軟3層と同一。
7. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや強しまりやや強。砂質。
8. 10YR3/2　黒褐色土　粘性やや強しまりやや強。砂質。
9. 10YR2/1　黒色土　粘性やや強しまりやや強。砂質。
10. 10YR3/2　黒褐色土　粘性やや強しまりやや強。砂質。

P2

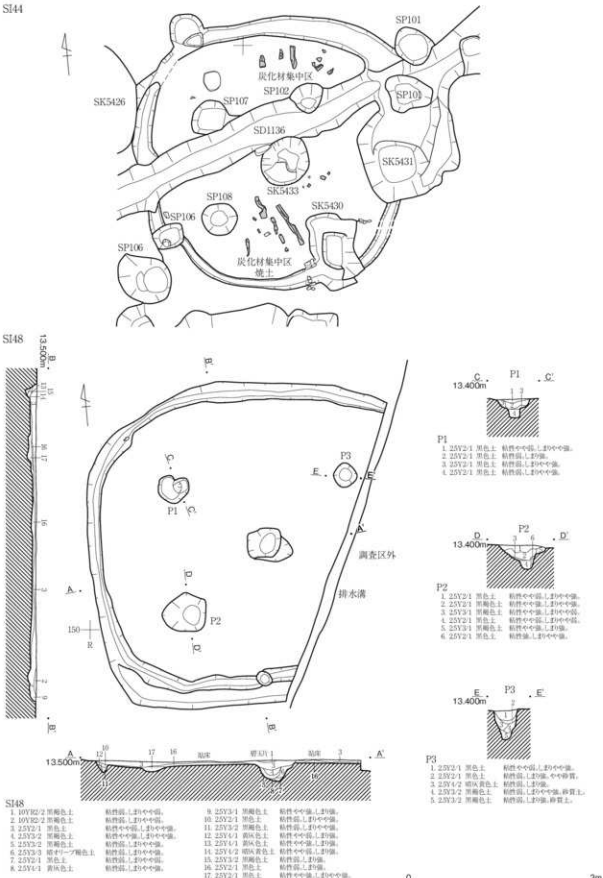
1. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや強しまりやや強。砂質。
2. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや強しまりやや強。砂質。
3. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや強しまりやや強。砂質。
4. 10YR2/1　黒色土　粘性やや強しまりやや強。砂質。
5. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや強しまりやや強。砂質。

0　3m

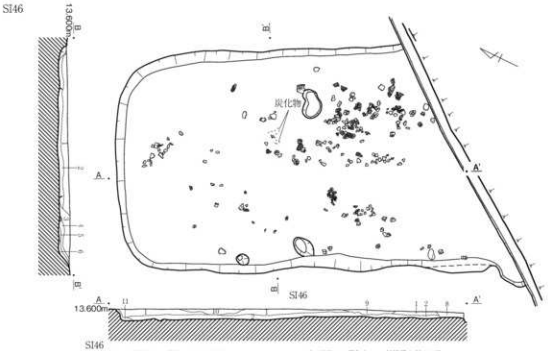
第94図　SI41実測図（縮尺1/60）

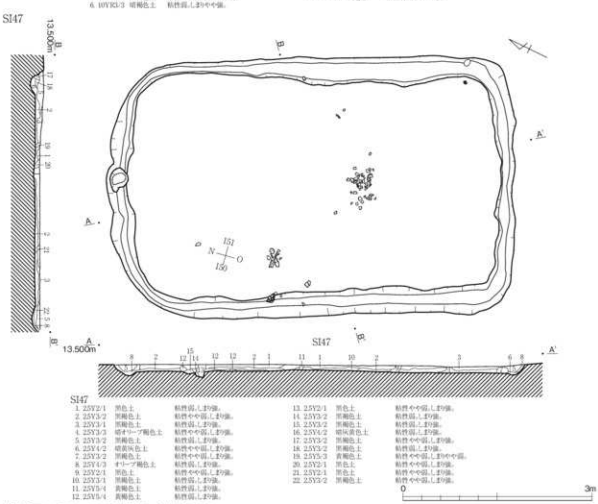


第95図　SI42実測図（縮尺1/80）



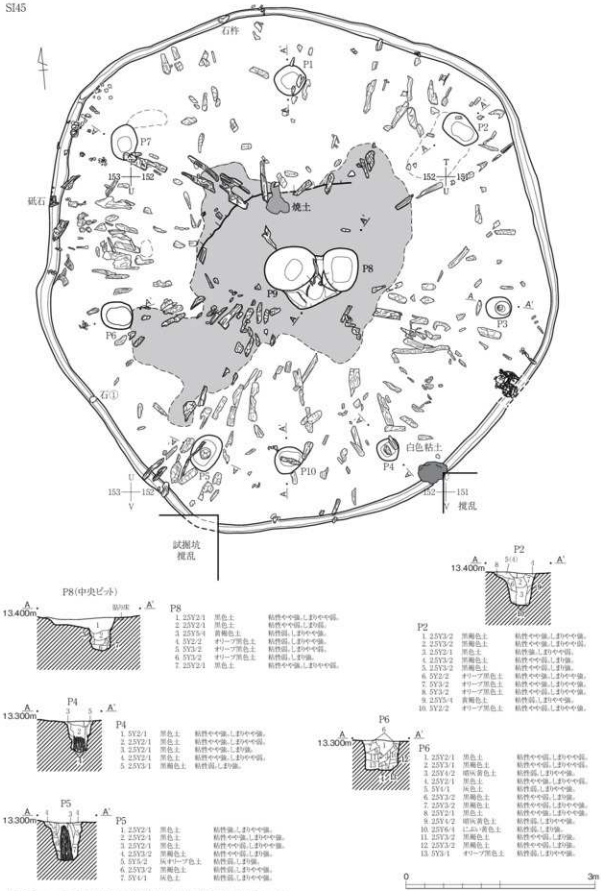
第96図　SI44・SI48実測図（縮尺1/60）



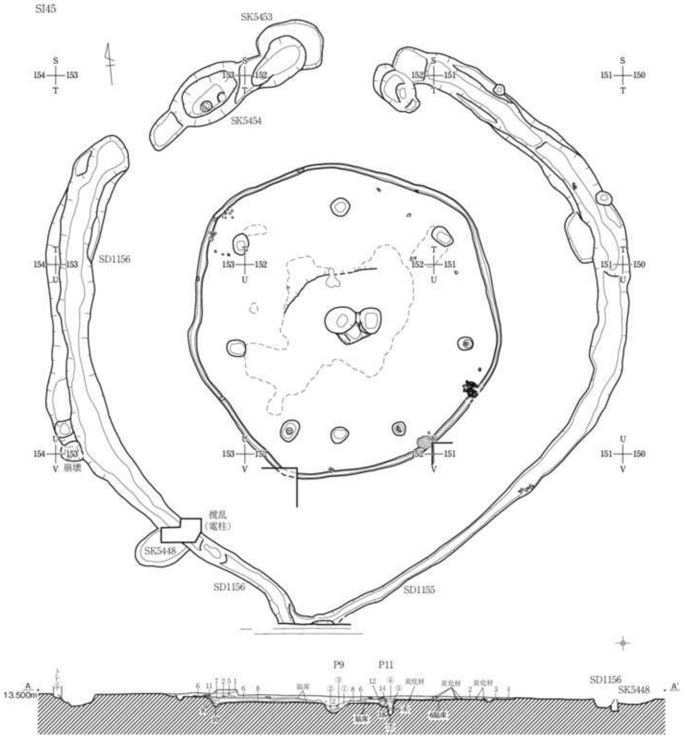


第97図　SI46・SI47実測図（縮尺1/60）

SI45



第98図　SI45居住部と炭化材検出状況図（縮尺1/60）



SI45

1. 2.5Y4/3	オリーブ褐色土	粘性弱、しまり強、炭化物、焼土微量含む。
2. 5Y2/1	黒色土	粘性弱、しまり強、炭化材、炭化ブロック、焼土多量含む、灰ブロック少量含む。
3. 10YR2/2	黒褐色土	粘性弱、しまりやや強、炭化物粒子微量、灰微量含む。
4. 2.5Y2/1	黒色土	粘性弱、しまり強、やや砂質、VIII層にあたる。
5. 5Y2/1	黒色土	粘性弱、しまり弱、黄色砂質土ブロック多量含む、焼土少量含む。
6. 2.5Y2/1	黒色土	粘性弱、しまり強、住居中央では黄色土ブロック部分的に少量含み、貼床。
7. 2.5Y3/2	黒褐色土	粘性弱、しまりやや強、黄色砂ブロック部分的に少量含む。
8. 2.5Y3/2	黒褐色土	粘性弱、しまり強、全体に炭化物粒少量含む。
9. 2.5Y3/1	黒褐色土	粘性弱、しまり強、黄色土粒、炭化物粒微量含む。
10. 2.5Y2/1	黒色土	粘性やや弱、しまりやや強、黄色土ブロック多く含み、ややまだら状を呈す。
11. 2.5Y3/3	暗オリーブ褐色土	粘性やや弱、しまり強、黄色土との混土。
12. 2.5Y3/1	黒褐色土	粘性弱、しまり強、黄色砂粒微量含む。
13. 2.5Y3/3	暗オリーブ褐色土	粘性弱、しまり強、黄色砂粒全体に多量含む。
14. 2.5Y3/3	暗オリーブ褐色土	粘性やや弱、しまり強、黄色砂質ブロック全体に多量含む。

P9

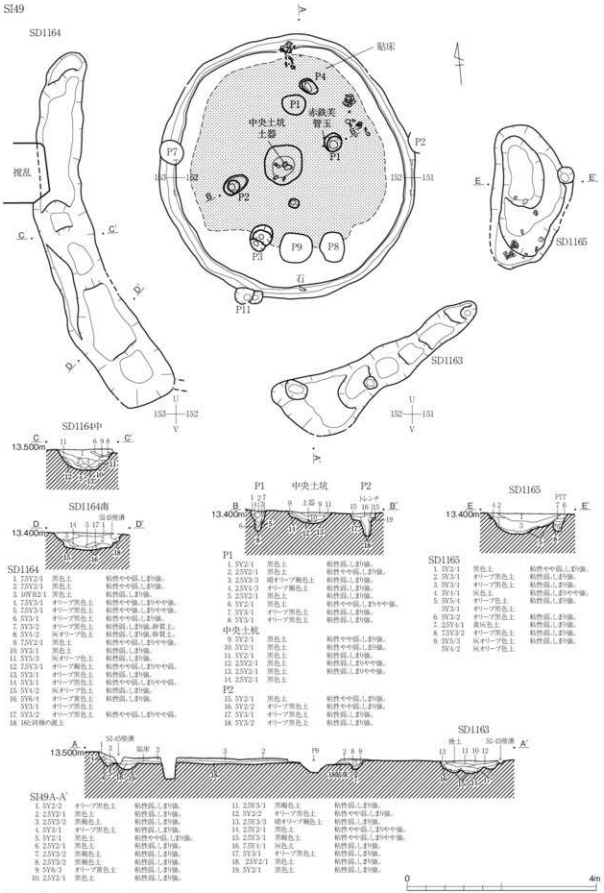
①. 10YR1.7/1	黒色土	粘性弱、しまり弱。
②. 2.5Y2/1	黒色土	粘性弱、しまり弱。
③. 2.5Y2/1	黒色土	粘性弱、しまりやや弱。

P11

④. 5Y2/1	黒色土	粘性弱、しまり強。
⑤. 2.5Y6/3	にぶい黄色土	粘性弱、しまり強。
⑥. 2.5Y4/3	オリーブ褐色土	粘性弱、しまり強。
⑦. 5Y4/1	灰色土	粘性弱、しまり強。

0　4m

第99図　SI45実測図（縮尺1/100）



第100図　SI49実測図（縮尺1/80）

約0.25mを測る。断面は皿形で、埋土はブロック堆積をしていた。遺物は少ない。

SK5405（第101図）　A128区に位置する。円形で、直径約1.6m、深さ約0.46mを測る。断面は、北側は急角度で立ち上がるが、南は緩やかに立ち上がる。底部はやや起伏が多い。埋土は、ブロック堆積で、埋め戻された状況を示している。遺物は弥生時代後期土器が少量出土した。

SK5406（第101図）　A128・129区に位置し、西でSD1141と接する。不整形で、約2.1m×1.9m、深さ約0.42m、方位N68°Wを測る。断面は皿形で、埋土はレンズ堆積である。中央に約35×20cmの礫が１個出土しているが、遺物は少ない。

SK5408（第101図）　A129区に位置し、北側は調査区外である。長楕円形と考えられ、南には小ピットを切っている。検出長約1.3m、幅0.9m、深さ約0.4m、方位N31°Wを測る。埋土は下層がブロック堆積である。遺物は弥生時代後期土器片が僅かに出土したのみである。

SK5409（第101図）　A129区に位置する。楕円形で、約1.72m×1.18m、深さ約0.46m、方位N62°Eを測る。断面は椀形だが、底面や壁面は起伏が多い。埋土はレンズ堆積だが、下層はブロック状になる部分もある。遺物は、弥生時代後期土器片が小量出土したのみである。

SK5412（第102図）　A・B132区に位置し、東でSK5416を切る。楕円形で、約2.18m×1.76m、深さ約0.48m、方位N70°Eを測る。断面は椀形で、東側が少し深くなる。埋土は黒褐色土で単一層に近い。遺物は埋土からやや大きな弥生時代後期土器片が少量出土している。

SK5416（第102図）　A・B132区に位置する。洋梨形で約2.5m×1.5m、深さ約2.5m、方位N６°Eを測る。断面は浅皿形で、埋土は黒褐色土の単一層に近い。遺物は、弥生時代後期土器片が中央やや東側にまとまって出土している。

SK5413･5414（第102図）　B131区に位置する。２基とも楕円形で、SK5413は約1.36m×１m、深さ約0.3m、方位N72°Wを測り、SK5414は約1.1m×0.7m、深さ約0.26m、方位N21°Eを測る。断面は前者が浅皿状、後者が椀形である。

SK5422（第102図）　C・D130・131区に位置し、南はSK5423と東はSK5424と接する。不整形で西側が少し突出する形となっている。約2.5m×1.3m、深さ約3.2m。方位N87°Eを測る。断面は箱形状で、埋土はレンズ堆積である。中央付近に弥生時代後期土器がややまとまって出土している。

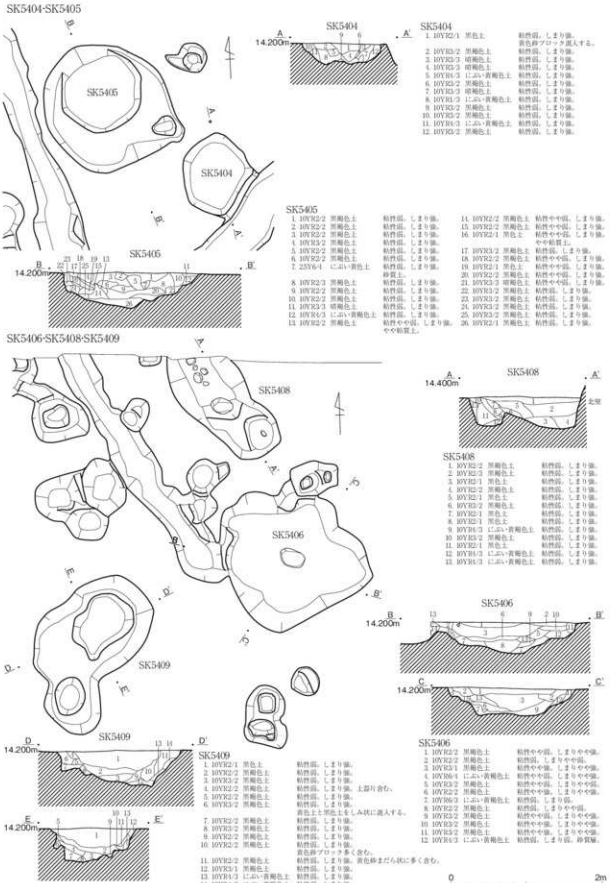
SK5423（第102図）　D131区に位置し、南は調査区外である。楕円形と考えられ、幅約1.2m、深さ約0.4m、方位N７°Wを測る。断面は椀形状で埋土はレンズ堆積である。遺物は少ない。

SK5424（第102図）　C130区に位置する。不整な円形で直径約0.8m、深さ約0.3m、方位N90°を測る。断面はU字状で、埋土はブロック堆積である。遺物は弥生時代後期土器片が底部付近から少量出土している。

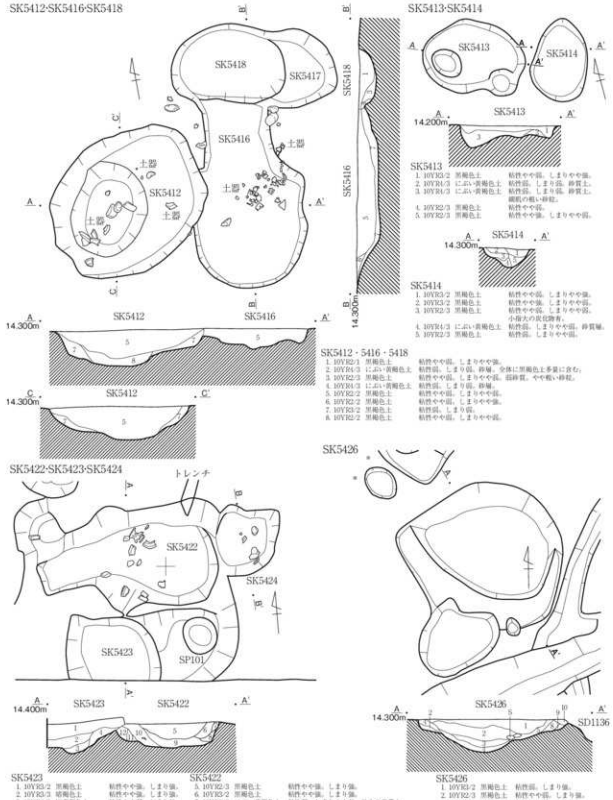
SK5421（第103図）　C129区に位置し、東はSI41と接する。西側には、幅約0.28m、深さ約0.1mの溝でSD1136と繋がる。不整形で約1.16m×1.06m、深さ約0.28mを測る。断面は皿状で、埋土はレンズ堆積である。遺物は僅かに弥生時代後期土器片が埋土に含まれていた。SD1136と連結していることから、水路から水を引き込んでいた施設である可能性が高い。

SK5432（第103図）　C129・130区に位置する。楕円形で約1.7m×1.38m、深さ0.5m、方位N75°Eを測る。断面は椀形状で、埋土はレンズ堆積である。遺物は埋土中に弥生時代後期土器片が少量含まれる。

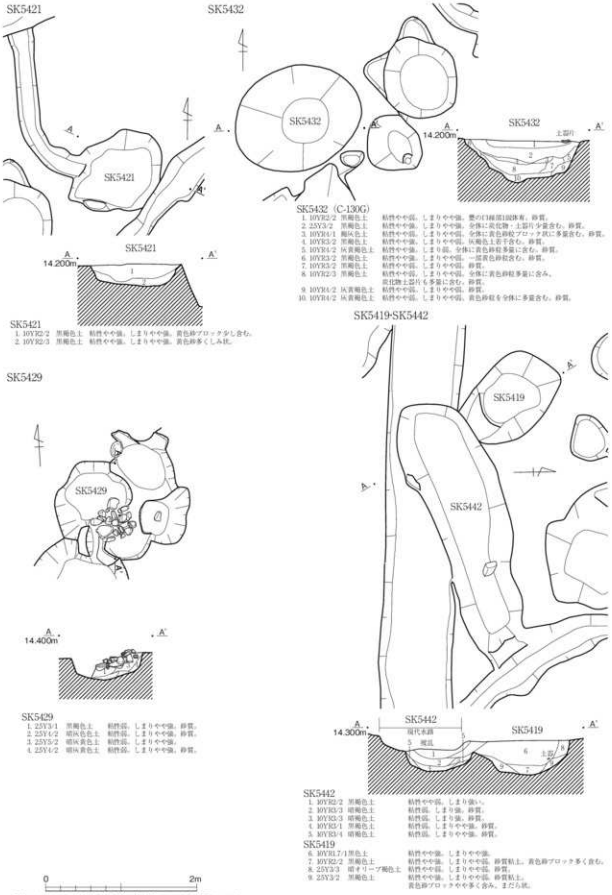
SK5429（第103図）　C・D131区に位置する。南はSK5428と接し、北東は２基のピットに切られる。



第101図 西地区土坑実測図1（縮尺1/50）



第102図　西地区土坑実測図２（縮尺1/50）



SK5421
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや強、しまりやや強、黄色粒ブロック少し含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや強、しまりやや強、黄色粒多くしみ状。

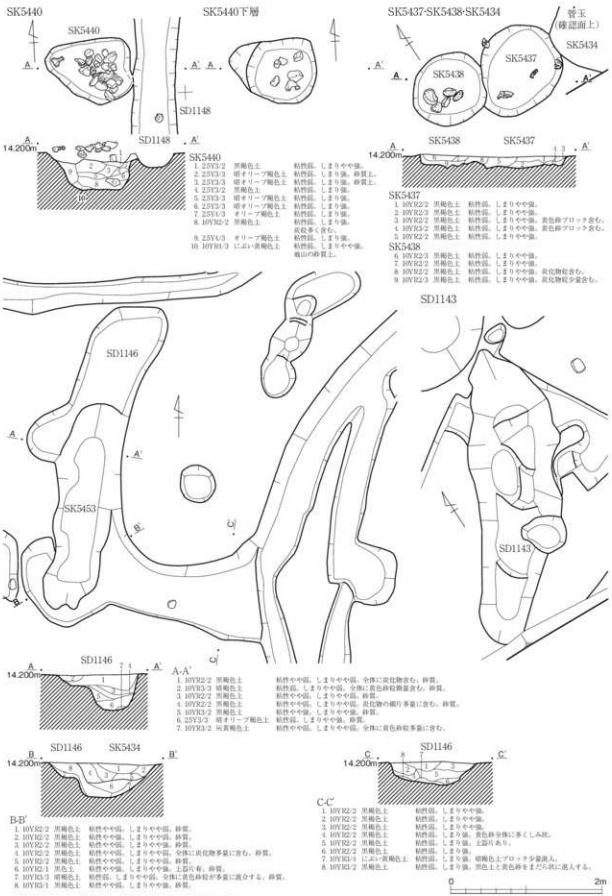
SK5432 (C-130G)
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや弱、しまりやや強、礫の口縁部は破砕有。砂質。
2. 25Y3/2 黒褐色土 粘性やや強、しまりやや強、全体に炭化物・土器片少量含む。砂質。
3. 10YR4/1 褐灰色土 粘性やや強、しまりやや強、全体に黄色砂粒ブロック状に多量含む。砂質。
4. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや強、しまりやや弱、灰褐色土粒子含む。砂質。
5. 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性やや強、しまりは、全体に黄色砂粒多量に含む。砂質。
6. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや強、しまりやや強、一部黄色砂粒含む。砂質。
7. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや強、しまりやや強。砂質。
8. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや弱、しまりやや強、全体に黄色砂粒多量に含み、炭化物・土器片も多量に含む。砂質。
9. 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性やや強、しまりやや強。砂質。
10. 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性やや強、しまりやや強、黄色砂粒を全体に多量含む。砂質。

SK5429
1. 25Y3/1 黒褐色土 粘性弱、しまりやや強。砂質。
2. 25Y4/2 暗灰色土 粘性弱、しまりやや強。砂質。
3. 25Y5/2 暗灰黄色土 粘性弱、しまりやや強。
4. 25Y4/2 暗灰黄色土 粘性弱、しまりやや強。砂質。

SK5442
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや弱、しまり強。
2. 10YR3/3 暗褐色土 粘性弱、しまりやや強。砂質。
3. 10YR3/3 暗褐色土 粘性弱、しまりやや強。砂質。
4. 10YR3/1 黒褐色土 粘性弱、しまりやや強。砂質。
5. 10YR3/4 暗褐色土 粘性弱、しまりやや強。砂質。

SK5419
6. 10YR1.7/1黒色土 粘性やや強、しまりやや強。
7. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや強、しまりやや弱。砂質粘土。黄色砂ブロック多く含む。
8. 25Y3/3 暗オリーブ褐色土 粘性やや強、しまりやや弱。砂質。
9. 25Y3/2 黒褐色土 粘性やや強、しまりやや弱。砂質粘土。黄色砂ブロックやや多く含み、まだら状。

第103図 西地区土坑実測図3（縮尺1/50）



第104図　西地区土坑実測図４（縮尺1/50）

北東付近に肩部から落ち込むような形で礫がまとまって入りこむ。断面は、椀形状を呈する。

SK5419（第103図）　B131区に位置し、SK5442に南側を一部切られる。楕円形で約1.4m×9.2m、深さ約0.45m、方位N46°Wを測る。断面はU字状で、埋土は下層にブロックがある以外は黒色土の単一層である。遺物は少ないが弥生時代後期の甕形土器の口縁部が出土している。

SK5442（第103図）　B131区に位置し、南西側は排水路で上部が削平されている。東はSI40に接し、北東部ではSK5419を切る。長楕円形で、約3.4m×１m、深さ約0.4m、方位N73°Eを測る。断面はU字状で、埋土はレンズ堆積をする。遺物は少ないが、弥生時代後期の受け口状の甕形土器が出土している。

SK5440（第104）　C136に位置する。東側はSD1148に接する。隅丸三角形で約1.14m×0.9m、深さ約0.5m、方位N82°Wを測る。断面は箱形状で、埋土はブロック堆積である。上面に集石と打製石斧１点があり、その下で検出した土坑である。土坑内にも礫が入っていた。土坑内の遺物は無い。

SK5437･5438（第104図）　C134区に位置する。２基は接しているが、切り合い関係は無く同時に存在したと考えられる。SK5437は楕円形で約1.2m×1.06m、深さ約0.15mを測る。SK5438は円形で直径約0.95m、深さ約0.12mを測る。断面は浅皿状で壁は比較的直線的に立ち上がる。遺物は少ないが、SK5437では弥生時代後期の甕形土器口縁部が出土し、SK5438では礫が５個まとまって出土している。

SK5434（第104図）　C134区に位置する。長楕円形で約2.7m×0.8m、深さ約0.45m、方位N10°Eを測る。上層はSD1146に切られている。断面はU字状である。

SD1146（第104図）　C133･134区に位置する。北はSI39に接し、東はSI42に繋がるＬ字状の溝である。幅約0.8m、深さ約0.3mを測る。

SD1143（第104図）　C・D130区に位置する。不整形な溝状土坑である。長さ約3.8m、幅約1.1m、深さ約約0.2～0.4mを測る。僅かに南西方向に湾曲する。北側は一段深くなり緩やかに立ち上がる。遺物は弥生時代後期土器片が少量出土したに過ぎない。

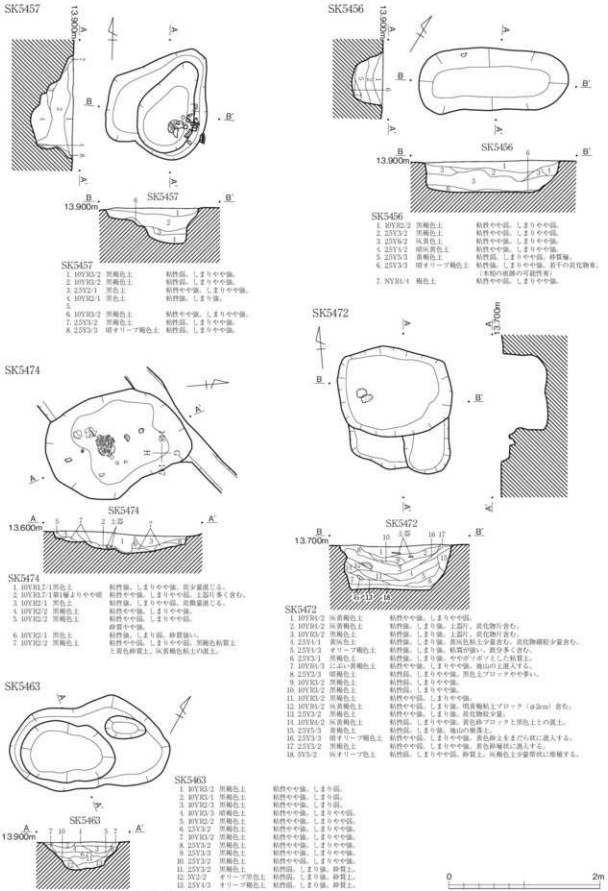
SK5457（第105図）　E143区に位置する。不整形な土坑で、東側が一段低くなる。約1.3m×1.46m、深さ約0.56mを測る。断面は、西側は緩やかで東側は急激に立ち上がる形状となる。埋土は水平堆積をしている。東肩部から中央に向かって、弥生時代後期土器がまとまった形で出土している。

SK5456（第105図）　D・E143区に位置する。小判形で約1.95m×0.84m、深さ約0.4m、方位N59°Eを測る。断面は箱形に近く、底面は平坦である。埋土は水平堆積状を呈する。遺物は破片のみで少ない。墓壙の可能性がある。

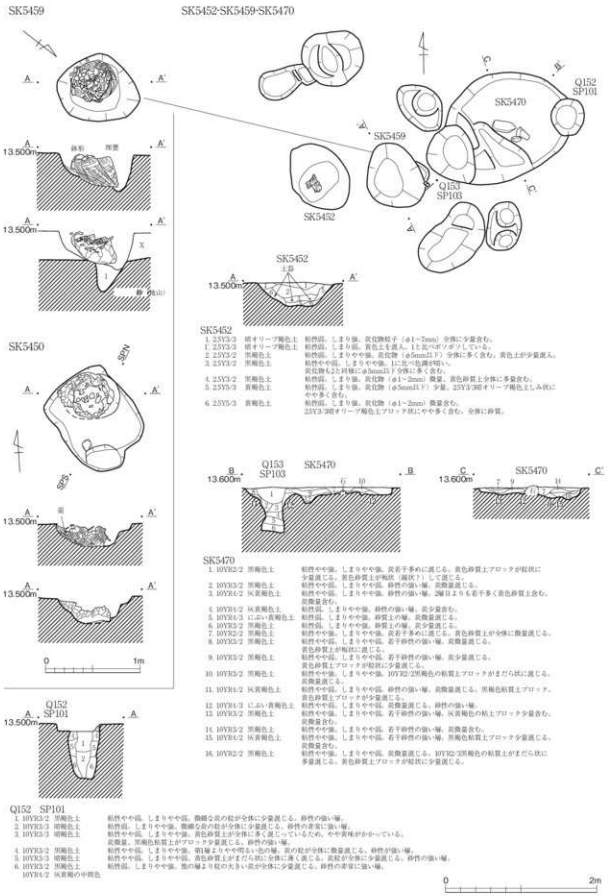
SK5474（第105図）　G・H147・148に位置する。不整な楕円形で、約1.84m×1.4m、深さ約0.25m、方位N13°Wを測る。断面は浅皿状で、埋土はブロック堆積である。中央やや南の底面付近で弥生時代中期の甕形土器がまとまって出土している。

SK5472（第105図）　I146区に位置する。隅丸長方形状で、約1.5m×1.2m、深さ約0.56m、方位N85°Wを測る。南側は浅い落ち込み約0.4m見られる。断面は箱形状で、埋土はレンズ状堆積だが、下層は流れ込んだような堆積を示す。遺物は埋土中に破片で弥生時代後期土器がやや多く含まれるが、復元可能なものはなかった。

SK5463（第105図）　F143・144区に位置する。やや不整な楕円形で、約2.1m×1.1～1.2m、深さ約3.6m、方位N63°Eを測る。横断面はV字形で、埋土はブロック堆積である。遺物は破片のみで少ない。



第105図　西地区土坑実測図５（縮尺1/50）



SK5452

1. 2.5Y5/3　明オリーブ褐色土　粘性弱、しまり強、炭化微粒子（φ1~2mm）少無に少量含む。
1. 2.5Y5/3　明オリーブ褐色土　粘性弱、しまり弱、黄色土を混入。1土光ベボノボがしている。
2. 2.5Y5/2　黒褐色土　粘性弱、しまりやや強、炭化物（φ5mm以下）少無に多く含む。黄色土が少量混入。
3. 2.5Y5/2　黒褐色土　粘性やや弱、しまりやや強、1に比べ色調明るい。
炭化物も2と同様に（φ5mm以下）少無に多く含む。
4. 2.5Y5/3　黒褐色土　粘性弱、しまり強、炭化物（φ1~2mm）微量、黄色砂質土少無に多量含む。
5. 2.5Y5/3　黄褐色土　粘性弱、しまり強、炭化物（φ5mm以下）少量、2.5Y3/3明オリーブ褐色土ブロック状にやや多く含む。
6. 2.5Y5/3　黄褐色土　粘性弱、しまり強、炭化物（φ1~2mm）微量含む。
2.5Y3/3明オリーブ褐色土ブロック状にやや多く含む。全体に砂質。

SK5470

1. 10YR2/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強、炭若干多めに混じる。黄色砂質土ブロックが粒状に少量混じる。黄色砂質土が敷状（層状？）して混じる。
2. 10YR3/2　黒褐色土　粘性やや弱、しまりやや弱、砂性の強い層、炭微量混じる。
3. 10YR2/2　灰黄褐色土　粘性やや強、しまりやや強、砂性の強い層、2層目よりも若干多く黄色砂質土含む。炭微量含む。
4. 10YR5/2　灰黄褐色土　粘性弱、しまりやや強、砂性の強い層、炭少量含む。
5. 10YR3/3　にぶい黄褐色土　粘性弱、しまりやや強、砂質土の層、炭微量混じる。
6. 10YR3/2　黒褐色土　粘性弱、しまりやや強、砂質土の層、炭少量混じる。
7. 10YR3/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強、炭若干多めに混じる。黄色砂質土が全体に微量混じる。
8. 10YR3/2　黒褐色土　粘性やや強、炭若干砂性の強い層、炭微量混じる。
黄色砂質土が粒状に混じる。
9. 10YR3/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強、若干砂性の強い層、炭少量混じる。
黄色砂質土ブロックが粒状に少量混じる。
10. 10YR3/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強、10YR2/2黒褐色の粘質土ブロックがまだら状に混じる。
炭微量混じる。
11. 10YR5/2　灰黄褐色土　粘性やや強、しまりやや強、砂性の強い層、炭微量混じる。黒褐色粘質土ブロック、黄色砂質土ブロックが少量混じる。
12. 10YR4/3　にぶい黄褐色土　粘性やや強、しまりやや強、炭微量混じる。砂性の強い層。
13. 10YR5/2　灰黄褐色土　粘性やや強、しまりやや強、若干砂性の強い層、灰黄褐色の粘土ブロック少量含む。
炭微量含む。
14. 10YR3/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強、若干砂性の強い層、炭微量含む。
15. 10YR5/2　灰黄褐色土　粘性やや強、しまりやや強、若干砂性の強い層、黒褐色粘質土ブロック少量混じる。
炭微量含む。
16. 10YR3/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強、炭微量混じる。10YR2/2黒褐色の粘質土がまだら状に多量混じる。黄色砂質土ブロックが粒状に少量混じる。

Q152　SP101

1. 10YR3/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや強、微細な炭の粒が全体に少量混じる。砂性の強い層。
2. 10YR3/3　暗褐色土　粘性弱、しまりやや強、微細な炭の粒が少量混じる。砂性の非常に強い層。
3. 10YR3/3　暗褐色土　粘性やや強、しまりやや強、黄色砂質土が全体に多く混じっているため、やや黄味がかっている。
炭微量、黒褐色粘質土がブロック少量混じる。砂性の強い層。
4. 10YR3/2　黒褐色土　粘性やや強、しまりやや弱。第1層よりやや明るい色の層、炭の粒が少量に微量混じる。砂性が強い層。
5. 10YR3/3　暗褐色土　粘性やや強、しまりやや強、黄色砂質土がまだら状に全体に薄く混じる。炭粒が全体に少量混じる。砂性の強い層。
6. 10YR3/2　黒褐色土　粘性弱、しまりやや強、他の層より粒の大きい炭が全体に少量混じる。砂性の非常に強い層。
10YR4/2　灰黄褐の中間色

第106図　西地区縄文時代の遺構実測図（縮尺1/50・1/40）

SK5470（第106図）　Ｑ152・153に位置する。東西をピットで切られる楕円形で、推定約1.7m×1.4m、深さ約0.15m、方位Ｎ66°Ｅを測る。中央付近に礫が出土している。断面は浅皿状である。遺物は 縄文晩期、弥生中期土器小片が僅かに出土している。ピットはＱ152SP101が、直径約0.4m、深さ約0.7 mを測り、約0.2mの柱の痕跡が見られた。Ｑ153SP103は、直径約0.3m、深さ約0.6mを測る。柱の痕跡は見られず、上端径は約0.6mに広がっている。

SK5452（第106図）　Ｑ153区に位置する。楕円形で、約１m×0.7m、深さ約0.3m、方位Ｎ30°Ｗを測る。断面は椀状で、埋土はブロック堆積である。遺物は下層から、縄文晩期の土器小片が僅かに出土している。

SK5459（第106図）　Ｑ153区に位置する。遺構密度が低い中で、やや遺構が群を成す場所の一角を占め、SK5470と近接する。縄文時代晩期の土器棺が埋設された掘り方である。約0.8m×0.7mの不整な円形で深さは約0.4mを測り、北よりの底部はさらに約0.3m深く掘られていた。

土器棺は粗製の条痕文壺形土器で、蓋として有文浅鉢と条痕文鉢が使用されていた。蓋の鉢は完形品ではなく、破片の再利用である。口を南東方向に向け、土坑の壁にもたれかかせるように傾けた状態で置かれていた。土圧により、土器は潰れていたが、形状はほぼ保った形で遺っていた。

SK5450（第106図）　Ｒ151区に位置する。約9.6m×8.6mの隅丸方形で、断面は鉢状で深さ約2.5mを測る。北寄り部分に、縄文時代晩期条痕文の壺形土器が潰れた状態で出土した。底部は土器の置かれていた北側の部分はやや深く掘り込まれていたが、南側はほぼ平坦な状態であった。

SK5459と同様土器棺で、口を西側に向けてやや壁にもたれ掛けるように横たえて、口部分は条痕文の小型鉢の一部で蓋がされた状態であった。SK5459に比べ土圧による潰れ形は大きく、原型は保っていなかった。他に遺物などは出土していない。

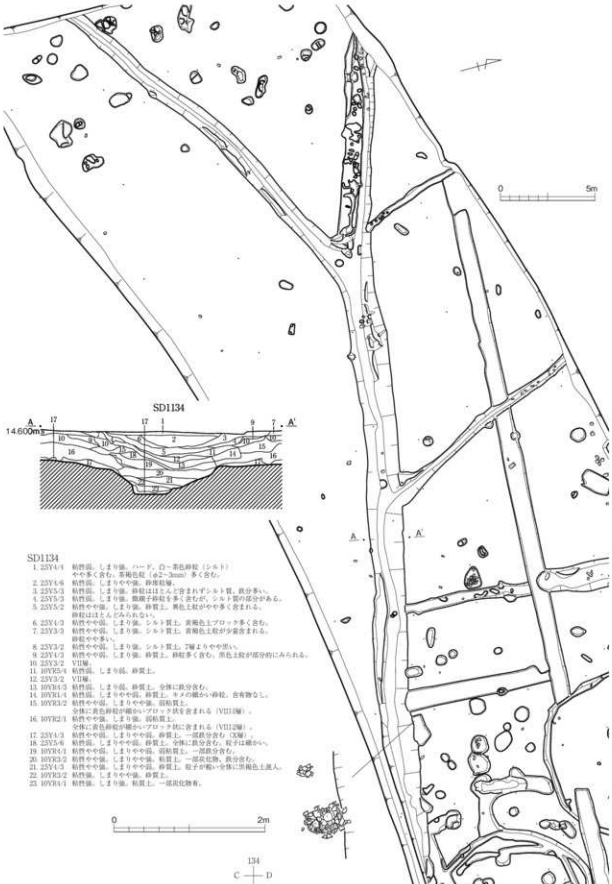
（４）溝

SD1134（第107図）　Ｄ133～Ｂ141の間で検出された東西溝で、途中北へ２条（SD1137・SD1149）、南へ１条（SD1133）枝分かれする。幅約1.6m で、南への分岐以西は若干狭くなる。断面はＶ字状で、深さは弥生時代の確認面から約0.4mを測る。土層断面観察では、流れを示す砂層が見られ、それが弥生時代以降も続いていたことが確認できる。古墳時代後期の水田が営まれた段階でも、水路として機能していた可能性が高く、同じ場所で溝が確認されている。溝内部にはほとんど遺物を含まないが、Ｄ134区川岸で土器がまとまって出土している。

川５との分流点は調査区外のため明らかではないが、方向から考えて川５から水を取り入れた水路であると考えられる。川５からは堰状遺構が検出されており、位置から判断すると、その堰で流れを調整して取り入れた可能性もある。分岐する溝は細いが、ほぼ平行しており、計画的に水を流した灌漑施設であると考えられる。集落も、この水路を境に途切れていることから、西側には水田が広がっていた可能性が高い。調査区が曲がってしまうため水田の確認はできなかった。

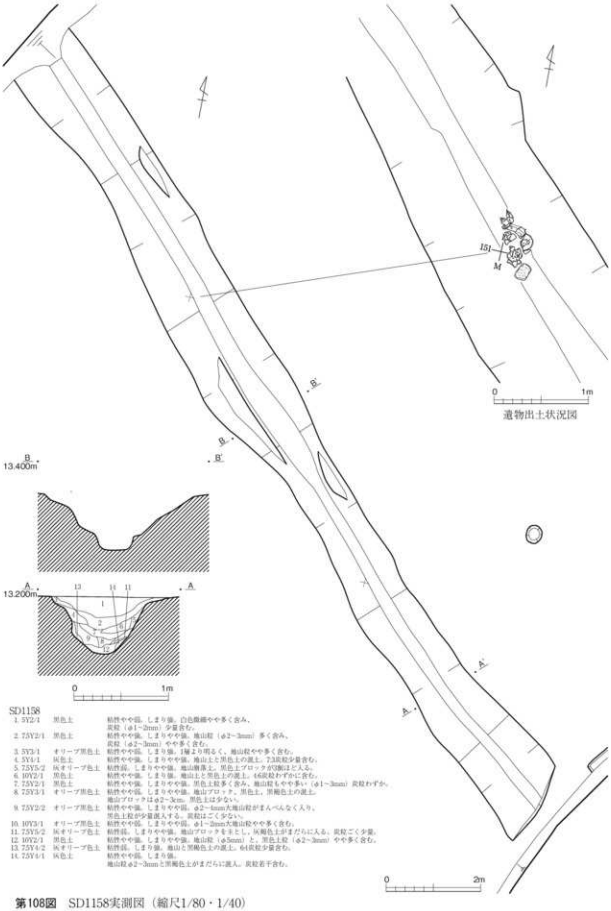
SD1158（第108図）　Ｎ149～Ｌ151区に延びる溝で、幅１～1.6m、深さ約0.6mを測る。断面はＶ字状で、底には幅約0.3mの箱掘り状の溝が見られる箇所もある。遺物は少ないが、Ｎ・M150区付近の下層で、弥生時代中期の甕形土器片が出土している。埋土には砂層は見られず、常時水が流れていたものではないと考えられ、SD1158は谷状地形の底に当たる部分に造られていることから、排水路的な役割を持つ溝であったといえる。

SD1157（第109図）　Ｑ・Ｒ151区、SI48の西側に位置する。南は広がりSK5471と重なる。幅0.6m前



SD1134
1. 25Y4/4　粘性弱、しまり強、ハード。白～黒色砂粒（シルト）
やや多く含む。茶褐色粒（φ2～3mm）多く含む。
2. 25Y4/6　粘性弱、しまりやや強、静電粘層。
3. 25Y5/3　粘性弱、しまり強、砂粒はほとんど含まれずシルト質、鉄分多い。
4. 25Y5/3　粘性弱、しまり強、鉄錆子砂粒を多く含むが、シルト質の部分がある。
5. 25Y5/2　粘性やや強、しまり強、砂質土。黒色土紋がやや多く含まれる。
砂粒はほとんどみられない。
6. 25Y4/3　粘性やや強、しまり強、シルト質土。黄褐色土ブロック多く含む。
7. 25Y3/3　粘性やや強、しまり強、シルト質土。黄褐色土紋が少量含まれる。
砂粒やや多い。
8. 25Y3/2　粘性やや強、しまり強、シルト質土。7層よりやや黒い。
9. 25Y4/3　粘性やや強、しまり強、砂質土。鉄粒多く含む。黒色土紋が部分的にみられる。
10. 25Y3/2　VII層。
11. 10YR5/4　粘性弱、しまり弱、砂質土。
12. 25Y3/2　VII層。
13. 10YR4/3　粘性弱、しまり弱、砂質土。全体に鉄分含む。
14. 10YR1/4　粘性弱、しまりやや弱、砂質土。キメの細かい砂粒、炭化物なし。
15. 10YR3/2　粘性やや強、しまりやや強、弱粘質土。
全体に鉄色砂粒子細かいブロック状を含まれる（VIII層）。
16. 10YR2/1　粘性やや強、しまり強、弱粘質土。
全体に鉄色砂粒子細かいブロック状に含まれる（VIII2層）。
17. 25Y4/3　粘性やや強、しまりやや弱、砂質土。一部鉄分含む（X層）。
18. 25Y5/6　粘性弱、しまりやや弱、砂質土。全体に鉄分含む。粒子は細かい。
19. 10YR4/3　粘性やや弱、しまりやや弱、弱粘質土。一部鉄分含む。
20. 10YR3/2　粘性やや強、しまりやや強、粘質土。一部炭化物、鉄分含む。
21. 25Y4/3　粘性やや強、しまりやや強、砂質土。粒子が細かい。全体に黒褐色土混入。
22. 10YR3/2　粘性強、しまりやや強、砂質土。
23. 10YR4/4　粘性強、しまり強、粘質土。一部炭化物有。

第107図　SD1134実測図（縮尺1/200・1/50）



SD1158

1. 5Y2/1	黒色土	粘性やや強。しまり強。白色微細やや多く含み、炭粒（φ1~2mm）少量含む。
2. 75Y2/1	黒色土	粘性やや強。しまりやや強。地山粒（φ2~3mm）多く含み、炭粒（φ2~3mm）やや多く含む。
3. 5Y3/1	オリーブ黒色土	粘性やや強。しまり強。1層より明るく、地山粒やや多く含む。
4. 5Y4/1	灰色土	粘性やや強。しまりやや強。地山土と黒色土の混土。7炭粒少量含む。
5. 75Y5/2	16オリーブ色土	粘性強。しまりやや強。地山微像土。黒色土ブロックが点在ほどこんる。
6. 10Y2/1	黒色土	粘性やや強。しまり強。地山と黒色土の混土。4炭粒わずかに含む。
7. 75Y2/1	黒色土	粘性やや強。しまりやや強。黒色土粒多く含み、地山粒もやや多い（φ1~3mm）炭粒わずか。
8. 75Y3/1	オリーブ黒色土	粘性やや強。しまりやや強。地山ブロック、黒色土、黒褐色土の混土。地山ブロックはφ2~3cm、黒色土は少ない。
9. 75Y2/2	オリーブ黒色土	粘性やや強。しまりやや弱。φ2~4mm大地山粒がまんべんなく入り、黒色土粒が少量混入する。炭粒はごく少ない。
10. 10Y3/1	オリーブ黒色土	粘性やや強。しまりやや弱。φ1~2mm大地山粒やや多く含む。
11. 75Y5/2	16オリーブ色土	粘性弱。しまりやや強。地山ブロックをきとし、灰褐色土がまだらに入る。炭粒ごく少量。
12. 10Y2/1	黒色土	粘性やや強。しまりやや強。地山粒（φ5mm）と、黒色土粒（φ2~3mm）やや多く含む。
13. 75Y4/2	16オリーブ色土	粘性弱。しまり強。地山と黒褐色土の混土。6炭粒少量含む。
14. 75Y4/1	16色土	粘性やや強。しまり強。地山粒φ2~3mmと黒褐色土がまだらに混入。炭粒若干含む。

第108図　SD1158実測図（縮尺1/80・1/40）

後で、長さはSK5471の端までで約5.55mを測る。深さは0.08mと浅く断面は浅皿状となる。北側で土器が集中して出土しており、甕形土器２点と高坏１点がそれぞれ一個体分、潰れた状態で出土した。弥生時代後期の古い段階に属すると考えられる。

SD1159（第109図）　Ｐ149～151区、SI48の北側に位置する。幅0.5～0.8mで深さ約0.22m、長さ約6.3mを測る。断面はＶ字状となる。遺物は中央付近に破片で散在していた。弥生時代後期土器で、SD1157とほぼ同時期と考えられる。

（５）川５と堰状遺構

川５　川５はＡ120～Ｄ128区に位置する、中地区と東地区の境に位置する。幅30m以上、深さは深いとことで集落地山面から約２mに達する。調査区を北東から南東に横切り、底の高低差から北東（九頭竜川方向）から南東方向へ流れていたものと考えられる。堆積土の大半は砂で、流水作用によって堆積したものである。底は砂礫層に達し、川の堆積物と地山との区別は付きにくい状況となっていた。川岸は緩やかに立ち上がるが、浸食によって、一部の遺構が削られていた。水位が高いときは集落面まで達した可能性は高いが、集落が洪水で水を被ったような痕跡は認められていない。

川５は、本遺跡で確認された川の中では最大のもので、特に深さがある点は重要である。水量が一定量確保されていたと考えられ、西岸から５～10mの地点、最深部から約10mの地点で堰状遺構が残されていたことからも裏付けられる。

東対岸には大きく入江状に意図的に整形された箇所が確認されていることから、舟を利用していた可能性が高い。九頭竜川から分岐したと考えられることから、水運に利用された可能性も考えられる。

遺物は、集中している箇所こそ無かったが、万遍なく多量に出土している。時期は弥生時代後期が大半であるが、縄文晩期も少量ながら含まれていることから、弥生時代の集落が営まれる以前から存在していたと考えられる。遺物には磨滅がほとんど見られず、水流により流されて来たものではなく、周辺の集落から廃棄・流れ込んだものであることが分かる。

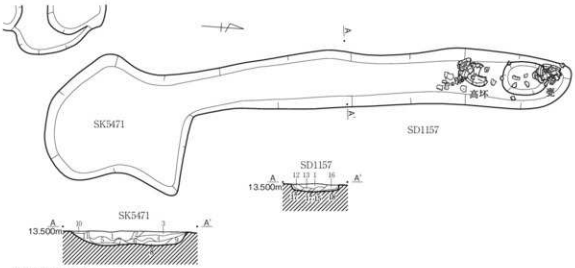
堰状遺構（第110図）　川５の南東側、Ｃ125・126区付近に位置する。本体は3.5m×４mの範囲に広がる。長さ約2.7mの横木が２本東西に横たわり、その上に２m前後の枝木の端を被せるような形で直交させている。その、北側には網代も見つかっている。当時の構造は、２本の横木と足となる木を組み合わせて切り妻状に組み上げ、その棟に当たる部分に斜めに２m程の木を立てかけて、切り妻屋根状の骨格を造り、その上に網代を貼って、水の流れを受けたものと考えられる。網代が南東側でも出土しているが、水流で流された結果と考えられる。この堰の対岸は、大きく抉り込まれた入江状となり、木製品や枝材などが出土した場所となることから、この辺りから南にかけて、何らかの施設が集まっている可能性が高い。

網代は、幅４～５㎜の繊維６本を１つの帯として、網代編みで編み込んだものである。欄内のものは50㎝四方の広がりを持つ。南側のものは幅30～40㎝で重なりながら調査区外へ続いており、大きさは不明である。

堰状遺構と関係があるかは不明だが、網代から東へ1.5m程離れた位置から、幅約１㎝の草の繊維で作られた網籠が出土している。出土状況では、長さ37㎝、胴部幅17㎝、口幅18㎝を測る。残存状況は良くはないが、繊維の編み上げ方は明瞭に観察できる。口部の残りは悪く、構造は不明である。六ツ目編みと呼ばれる編み方で作られ、間隔が広く３㎝位の隙間が空く。対象物は比較的大きなものと考えられる。

樹種は、網代と網籠共にイネ属タケ亜科であった。土壌の花粉分析の結果でも、周辺にはタケ亜科の

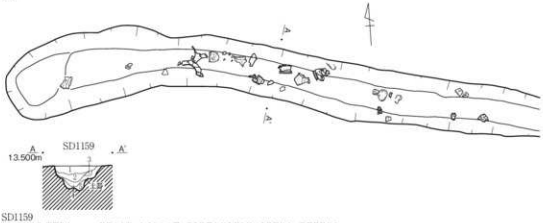
SK5471·SD1157



SK5471・SD1157

1. 10YR2/1　黑色土　　粘性やや強。しまりやや強。黄色砂質土ブロックが粒状に少量混じる。炭微量混じる。
2. 10YR2/2　黑褐色土　　粘性やや強。しまりやや弱。黄色砂質土まだら状に少量含む。炭微量混じる。
3. 10YR2/2　黑褐色土　　粘性やや強。しまりやや強。黄色砂質土ブロックが φ10mm程の混ぜ込入る。炭微量含む。
4. 10YR2/1　黑色土　　粘性やや強。しまりやや弱。炭微量混じる。黄色砂質土ブロックが粒状に少量混じる。
5. 10YR3/2　黑褐色土　　粘性やや強。しまりやや強。やや多目の黄色砂質土がまだら状に混じる。
6. 10YR3/2　黑褐色土　　粘性やや強。しまりやや強。やや多目の黄色砂質土がまだら状に混じる。
7. 10YR3/2　黑褐色土　　粘性やや強。しまりやや強。多量の黄色砂質土と黑褐色粘質土がまだら状に入り混じる層。砂性が強い。炭微量含む。
8. 10YR3/2　黑褐色土　　粘性やや強。しまりやや強。多量の黄色砂質土と黑褐色粘質土がまだら状に入り混じる層。砂性が強い。炭微量含む。
9. 2.5Y3/3　暗オリーブ褐色土　粘性強。しまりやや強。黄色砂質土、黑褐色粘質土がまだら状に少量混じる。砂性の非常に強い層。
10. 10YR2/2　黑褐色土　　粘性やや強。しまりやや強。黄色砂質土のブロック少量混じる。
11. 10YR4/3　にぶい黄褐色土　粘性強。しまり強。砂質土の層。黑褐色粘質土ブロックが少量混じる。
12. 10YR2/2　黑褐色土　　粘性やや強。しまりやや強。黄色砂質土がまだら状に少量混じる。若干砂性の強い層。炭微量混じる。
13. 10YR4/4　オリーブ褐色土　粘性強。しまりやや強。砂質土の層。12～14層に落ち込んだ砂質土ブロック？
14. 第12層と同一層
15. 10YR3/2　黑褐色土　　粘性やや強。しまりやや強。砂性の強い層。黑褐色（10YR2/2）粘質土と多量の黄色砂質土がまだら状に入り混じる。炭微量混じる。
16. 10YR3/2　黑褐色土　　粘性やや強。しまりやや強。若干砂性の強い層。少量の黄色砂質土と黑褐色粘質土（粘度強）がまだら状に混じる。
17. 10YR2/3　にぶい黄褐色土　粘性強。しまりやや強。砂質土の層。黑褐色粘質土ブロックが少量混じる。
18. 10YR3/3　暗オリーブ褐色土　粘性強。しまりやや強。砂質土の層。黑褐色粘質土ブロックが少量混じる。

SD1159

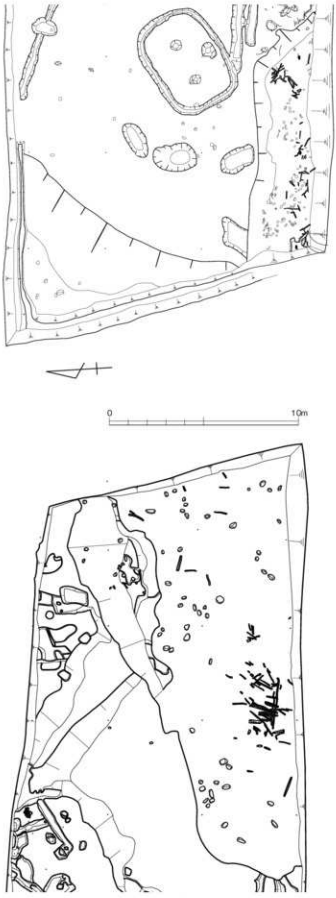


SD1159

1. 10YR2/2　黑褐色土　　粘性やや強。しまりやや弱。黄色砂質土がまだら状に少量混じる。炭微量混じる。
2. 10YR2/1　黑色土　　粘性やや強。しまりやや弱。黄色砂質土がまだら状に少量混じる。炭微量混じる。
3. 10YR4/3　にぶい黄褐色土　粘性強。しまりやや弱。第4層に落ち込んだ砂質土のブロック。黑褐色粘質土が少量まだら状に混じる。
4. 10YR2/1　黑色土　　粘性やや強。しまりやや弱。黄色砂質土ブロックの粒が少物に赤手多く混じる。炭微量混じる。
5. 10YR3/2　黑褐色土　　粘性やや強。しまりやや強。黑褐色粘質土と多量の黄色砂質土がまだら状に入り混じる。土器片含む。

0　　2m

第109図　SD1157・SD1159・SK5471実測図（縮尺1/40）



第110図　川５平面図（縮尺1/200）

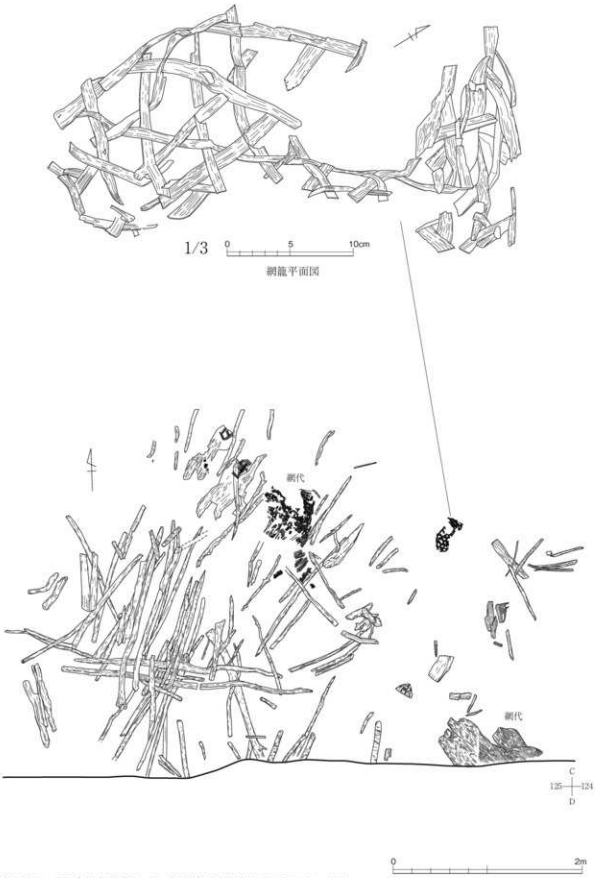
クマザサやネザサが比較多く存在していたことが指摘されている。周辺に生えていたササ類の茎を利用して作製されたもので、かなり丈夫なものであったことが窺える。

（６）土器集中区

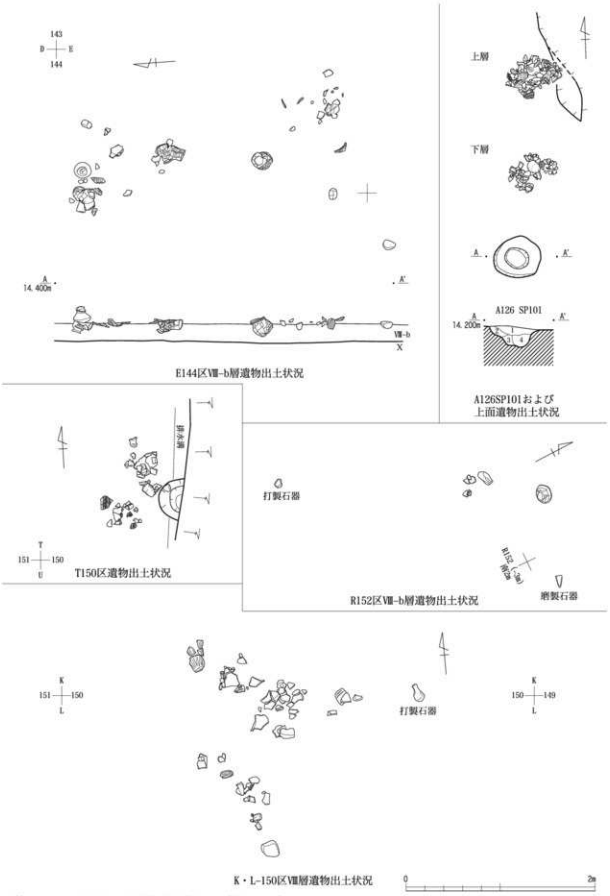
E144区（第111図）　E114区北東側のⅦb層中で検出した土器集中区である。長さ約３m、幅約0.7mの帯状にほぼ完形の土器が点在していた。北から広口壺、長頸壺、甕の３点がみられ、その内両側の２点は、正立した状態で出土し、中央の長頸壺は南に口を向けて横たわっていた。他に破片で、広口壺が１点出土している。出土状況からⅦｂ層の上層段階で置かれたものであることが分かる。この付近が生活面であったことを示すと考えられる。土器が正立して置かれていたことから、なんらかの祭祀的行為がこの場所で行われたと考えてよいだろう。すべて弥生時代後期に属するが、川５付近の集落で出土したものより若干古い様相があり、むしろ、SI45などの住居に近い。

A126SP101上面（第111図）　川５に隣接する、A126SP101の埋土上面で壺形土器のほぼ１個体分が潰れた状態で出土している。

K・L150区（第111図）　Ⅶb層中で、壺形土器の破片が散在する状態で出土した。口縁部と肩から胴部にかけての破片で、全周の1/4程度に止まった。その他、１点打製石斧も出土している。



第111図　川5内堰状遺構および網籠出土状況図（縮尺1/40・1/3）



第112図　西地区Ⅷb層遺物出土状況図（縮尺1/40）

第２節　中層（古墳時代後期）の遺構

古墳時代後期と考えられる遺構には、溝と水田がある。遺物がほとんど出土していないので、正確な時期を決めることは難しいが、水田面から僅かに出土した須恵器と土師器から６世紀～７世紀前半頃に営まれていたと考えた。水田は洪水砂で覆われており、下層の黒色土の上面に位置していたことから検出を比較的容易にしたと言える。調査区ほぼ全域に広がり、約90区画を数える、県内では最大の水田遺構である。また、水田表面には、東側で馬の蹄跡、西側で人間の足跡が多数残されていた。

１　81～88区溝　（第113図）

弥生時代後期での谷状地形と一致する箇所で、弥生～古墳時代に溝が集中する地区である。水田遺構に伴う溝を３条、その下層から３条の溝を検出した。下層の溝は、水田面を形成するⅥ層が薄く覆い、Ⅶ層中で構築されている。すべて、北東から南西に流れており、下流側に導水した用水路と考えられる。

SD501　84～86区に延びる。幅約0.7m、深さ約0.55mで断面は、箱形だが、下層が若干袋状に外側に張り出すような形である。埋土は砂で、遺物は出土していない。ここで検出した溝の中で最大で、中心となるものと考えられる。

SD504　86～88区に位置し、他の溝より西寄りに開くように延びる。幅約0.6m、深さ約0.4mで断面は箱形を呈する。埋土は砂質土で、層状に整然と堆積する。遺物は出土していない。

SD506　81区に位置し、やや南西方向から南東方向に向きを変えている。上端幅約0.7m、深さ約0.8mで、断面は箱形である。埋土は砂～砂質土で層状の堆積となり、水流があったことを窺わせる。上層は、南西方向に延びる幅約1.3m、深さ約0.2mの浅い溝が切っていた。

SD507　85～86区に位置する。SD503とほぼ同じ位置で北側ではほとんど重なる。Ｓ字状に蛇行して南西に延びる。幅約0.4m、深さ約0.3mで、断面は箱形となるが、蛇行しているせいか若干歪んでいる。埋土は砂質土で、遺物は出土していない。

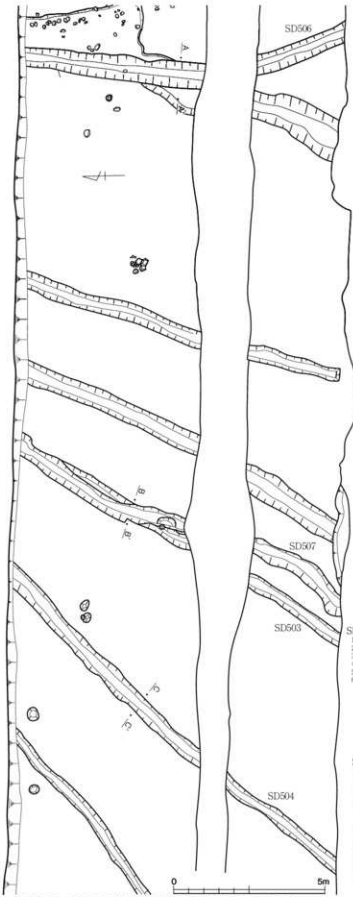
２　水田遺構（第114～120図）

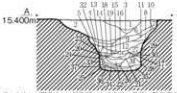
水田遺構は、洪水砂であるⅤ層の直下Ⅵ層上面で検出した。Ⅴ層が灰黄色の砂質土に対しⅥ層下は黒色であるため。最初は黒色の帯として畦畔を確認した。Ⅴ層は無遺物層、Ⅵ層以下は遺物包含層という認識であったため、Ⅵ層上面での遺構精査はする予定は無かったが、前年度の調査で、包含層の遺物が豊富で、玉作り関連遺物も多く出土したため、黒色土の直上から薄く剥ぎとるようにして掘り下げ始めた結果、畦畔の認識にいたることができた。同時に、黒色土面に直径10cm大の丸い穴が無数に散在していることも判明し、すぐに動物の足跡ではないかと考えて、これらの検出にもあたった。

畦畔はその後、調査区全域に拡がっていることが判明し、ある時期、一体が水田地帯であったことを示すこととなった。なお、初年度調査区においては、当初から認識が無かったため、一気に包含層の掘削に着手していたため、当然のことながら確認できていない。調査区の土層断面では、その起伏が大きいため、畦畔を確実に捉えることはできていない。しかし、全体の拡がりから考えて、東側へも拡がっていたと考える。

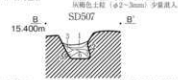
水田の区画は、地区によって実に様々なあり方を示している。おそらく、地形的な条件や灌漑水路との関係などで、最適な形を造り出したものと考えられる。

31～40区付近では、幅約５m、長さ約10m～20mの長方形で、方位はN75°Wを測る。１枚の大きさは一定では無く、畦畔の配置にも規則性はない。水田面には馬の蹄跡を多数確認したが、水田によりその密度にばらつきが見られる。40区では水田の向きと異なる南北方向で畦畔が造られ、区画が一旦途切





1. 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 粘性弱、しまり強、砂粒・鉄分多く含む。砂質土。
2. 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性弱、しまり強、炭粒わずかに含む。砂質土。
3. 2.5Y4/3 明オリーブ褐色土 粘性弱、しまり強、砂質土。
4. 2.5Y4/2 明暗黄色土 粘性やや弱、しまり強、砂質土。
5. 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性やや弱、しまり強。黄色砂質土ブロック多く含む。砂質土。
6. 2.5Y3/3 明オリーブ褐色土 粘性弱、しまり強、砂質土。
7. 10YR3/3 明褐色土 粘性弱、しまり強、褐色砂質土がる。
IA白色砂質土ブロックが混入。砂質土。
8. 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 粘性弱、しまり強、黄色砂質土粒が多量含まれる。
炭粒がわずかに見られる。砂質土。
9. 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性弱、しまり強、黄色と褐色砂質土粒（φ5mm）が少量含まれる。砂質土。
10. 2.5Y4/6 オリーブ褐色土 粘性弱、しまり強、褐色砂質土が少量含まれる。
堅の痕跡と、砂質土。
11. 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性弱、しまり強。
黄色粒粒が少量みられる。砂質土。
12. 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性やや弱、しまり強。
黄色土・黒色土・褐色土の混土。砂質土。
13. 2.5Y2/2 黒褐色土 粘性弱、しまりやや強、黄色土粒（φ2~3mm）少量含む。砂質土。
14. 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性弱、しまり強、砂粒多く含む。
15. 2.5Y5/4 黄褐色土 粘性弱、しまり強、黄色砂質ブロック。
16. 10YR4/4 褐色土 粘性弱、しまり強。
砂粒多く黄色砂質土粒が少量含まれる。
17. 2.5Y3/3 明オリーブ褐色土 粘性やや強、しまりやや強。
18. 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性弱、しまりやや弱。
19. 2.5Y4/4 オリーブ褐色土 粘性弱、しまりやや弱、粗い砂。
20. 2.5Y5/4 黄褐色土 粘性弱、しまり強、細い砂の層。
21. 2.5Y5/3 黄褐色土 粘性弱、しまり強。
22. 2.5Y4/4 オリーブ褐色土 粘性弱、しまり強。
砂と黒色土がうすく互層をなす。
23. 2.5Y4/2 明暗黄土＋2 粘性やや弱、しまりやや強。
黄色粒（φ1~2mm）少量含む。（上部）
2.5Y4/2 粘性弱、しまりやや強、砂粒多く含む。
黄色粒（φ2~3mm）が少量。（下部）
24. 2.5Y4/6 オリーブ褐色土 粘性弱、しまりやや弱、黄色土と黒色土の混土。
25. 2.5Y5/4 黄褐色土 粘性弱、しまり強、細かい砂粒の層。
黒色土が少量含まれる。
26. 2.5Y4/2 明暗黄色土 粘性弱、しまり強、細かい砂層。
27. 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 粘性弱、しまり強、黄色砂質土粒多く含む。
28. 2.5Y4/4 オリーブ褐色土 粘性弱、しまり強、炭粒がすこし含む。
29. 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 粘性弱、しまりやや強、粗い砂の層。
30. 2.5Y5/4 黄褐色土 粘性弱、しまり強、細かい砂の層。
31. 2.5Y4/4 オリーブ褐色土 粘性弱、しまり強、黄色砂質土・黒色土・
灰褐色土との混土（SZ3）。
32. 2.5Y4/6 オリーブ褐色土 粘性弱、しまり強。
黄色砂質土と灰褐色土との混土（SS）。
33. 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性弱、しまり強。
黄色土ブロック（φ1~15cm）多く含む
34. 2.5Y4/1 黄灰色土 粘性やや強、粘質土。
鉄分粒子黄土灰白色砂が薄く縞状に入る。
35. 2.5Y4/1 黄灰色土 粘性やや強、しまりやや強、粘質土。黄色砂質土
・灰色粘質土との混土。縞状になる部分もあり。
36. 2.5Y2/1 黒色土 粘性やや強、しまりやや強、黒色土ブロックを
主体とし灰色粘質土が混入する。
37. 2.5Y5/6 黄褐色土 粘性やや強、しまりやや強。
灰褐色土粒（φ2~3mm）少量混入。



SD507
1. 10YR3/3 暗褐色土 粘性弱、しまりやや弱、黄色砂が下部にうすく混様。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色土 粘性弱、しまりやや強、褐褐色土多く混入。
3. 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性弱、しまりやや強、砂質土。
4. 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性弱、しまりやや弱、砂質土。
5. 10YR4/4 褐色土 粘性弱、しまりやや弱、砂質土。
6. 10YR3/4 暗褐色土 粘性弱、しまりやや弱、黄色土との混土。

SD504
1. 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや弱、しまり強、水田耕作土。
2. 2.5Y5/3 黄褐色土 粘性弱、しまりやや強、粒やや粗い、砂層。
3. 10YR3/2 黒褐色土 粘性弱、しまりやや強、黄灰色土少量含む。
4. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや強、しまりやや強、炭化物少量含む。
5. 2.5YR3/3 暗オリーブ褐色土 粘性やや強、しまりやや弱。
6. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや強、しまりやや弱。
7. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 粘性やや強、しまりやや弱。
8. 10YR4/1 褐灰色土 粘性弱、しまりやや強、粘質土。
9. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 粘性弱、しまりやや強、シルト質。
10. 2.5Y4/2 暗灰黄色土 粘性やや強、しまりやや弱、シルト質。
11. 2.5Y4/2 暗灰黄色土 粘性やや強、しまりやや弱。
12. 10YR4/1 褐灰色土 粘性やや強、しまりやや強、黄灰色粘土。
13. 10YR4/1 褐灰色土 粘性弱、しまりやや強。12と9粘性は強い。

第113図 Ⅶ層上面検出溝実測図（縮尺1/150・1/50）

れる。

41～46区付近は畦畔無く、地表面に大きく乱れた跡を確認した。人為的に土が攪乱された状況で、荒耕しした跡と考えられる。

46～60区付近では、方向が北よりに変わり、幅６～７ｍの長方形で、僅かに弧を描くような形となり、方位はＮ25°Ｗを測る。48～51区付近では、畦畔にしている土が砂で、その検出が困難であった。僅かな色調の違いで判断するものもあり、一部削平してしまった箇所もある。本来は、もう少し畦畔があったものと考える。54～56区には、古代の川跡（川２）が流れ、水田区画を切っている。57～58区には南北に走る幅約２ｍの溝があり、Ａ58区付近で南西方向へ枝分かれした幅約１ｍ溝と平行した畦畔がＡ58～60区に見られる。溝内の埋土は砂と黒色土の混土であることから、水路であったと考えられる。区画の内部には、踏跡が多く見られるが、外側にはほとんど見られない。川２内からは、９世紀代の須恵器が出土しており、少なくともこの時期までは流れていたと考えられる。

61区から西は再び落ち込み、畦畔は見られなくなり、63区付近からは急激に落ち込み中世の遺物が若干出土する。65～69区は近世～現代の川跡（川３）であることから、中世以降、若干川筋は変えつつも、この付近が川であったことを示している。

70～80区では、70区で南北方向の大きな畦畔とその東に平行した幅約0.7ｍの溝が南北に１条のびていた。この畦畔を境に西側で畦畔が確認できた。方向が46～60区の対称に近く反転し、Ｎ16°Ｅを向く。畦畔は701～72区では明瞭に確認できたが、74～76区では確認できていない。77～80区で再び確認でき、幅約４ｍで北から南にかけてＮ33°Ｅ～Ｎ14°Ｅと弧を描く。78区の南では畦畔は確認できず、Ａ・Ｂ78～80区付近では、幅約６ｍとなり、南北の畦畔はＮ７°Ｅと西側に戻る。畦畔は不明瞭であったが、踏跡はかなり密集した状態で検出している。

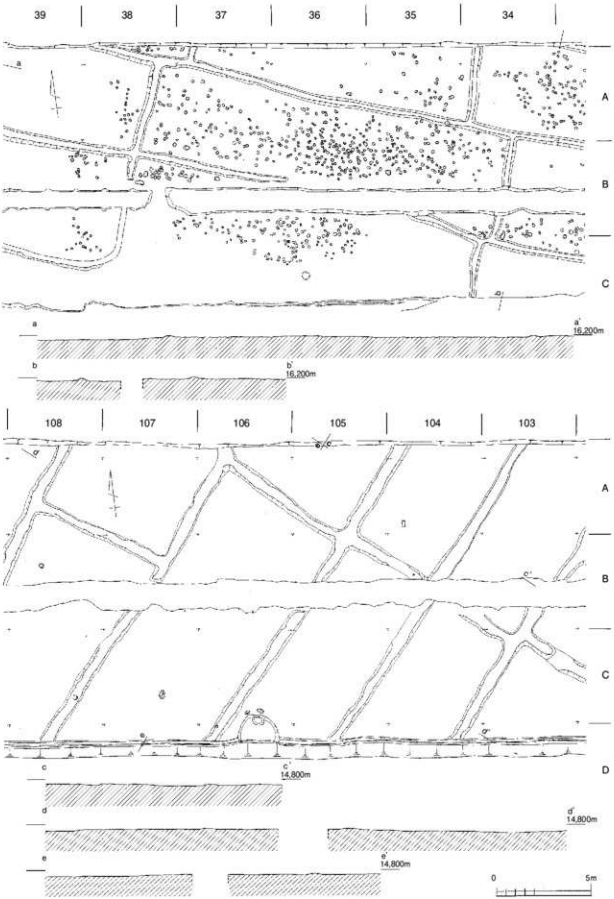
80区～87区には、全く畦畔は無く、踏跡も検出していない。しかし、84～86区で、３条の溝を検出している。真ん中（SD501）が最も広く幅約0.9ｍ前後、深さ約0.5ｍで、断面はＵ字状になる。埋土は砂で水流があったことを示す。両脇（SD502・SD503）は幅約0.6ｍ前後、深さ約0.2ｍ前後である。埋土は砂でSD501と同様水流を窺わせる。砂の堆積量から考えて、用水であったと考えられる。しかし、付近は僅かながら谷状となっており、すぐ横への配水は無理で、上流から流し込み、水田から水田へ落とす方法が用いられたと考えられる。

88～98区では畦畔が北東に向かって弧を描くような区画となる。方位はＮ15°Ｗ～Ｎ60°Ｗである。88～91区付近では、約８ｍ×10ｍで方形に近いが、92～98区では５～６ｍ×１４～15ｍと細長くなる。畦畔の幅は0.5ｍ前後である。踏跡の密集度はかなり高い。Ａ97区では、人間の足跡と考えられるものも検出している。

99～109区は、長方形区画が主となり、幅５～７ｍ、長さ10数ｍの区画で、方位はＮ35°Ｅである。ここから踏跡が全く消えてしまう。畦畔の幅は広く、裾で0.7～１ｍを測る。

110～121区は、畦畔の高さが低いため、確認が非常に困難で、区画も不明瞭である。しかし、僅かに確認できた畦畔から、方向は99～109区に類似するようである。119～120区では、畦畔に挟まれた幅約１ｍの溝を検出している。

122～127区は谷状になっており、水田は営まれていない。ここは川５の上層であり、この段階でも一部は川であった可能性がある。そのことを示すかのように、Ｄ128区～Ｃ143区に延びる溝を検出している。



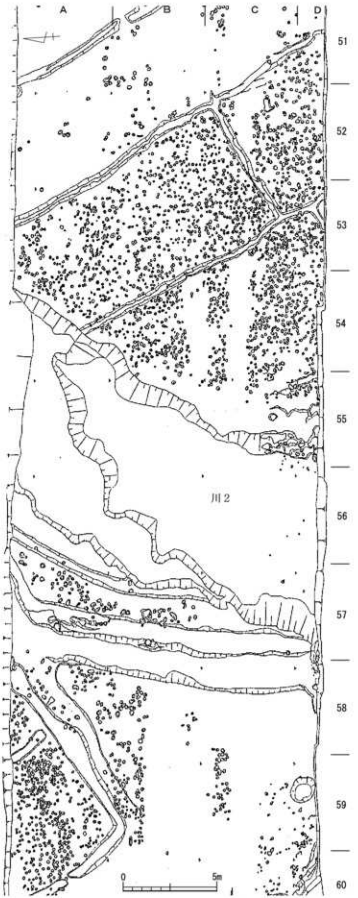
第114図　水田平面図1（34～39区・103～108区）（縮尺1/200）

127～143区北は、畦畔が非常に散漫で、谷に平行して直線的に造られた畦畔と、谷に向かって弧を描く畦畔がある。後者がこの地区の基本的は形と考えられ、方位はN31°Eを測る。幅は約10mで３本あるが、それぞれを結ぶものはほとんどなく、唯一、谷と平行する畦畔から延びたものが北西方向に延び、南北畦畔を結ぶ形になっているが、全体像は把握しにくい。畦畔の幅は、概で0.6m前後である。

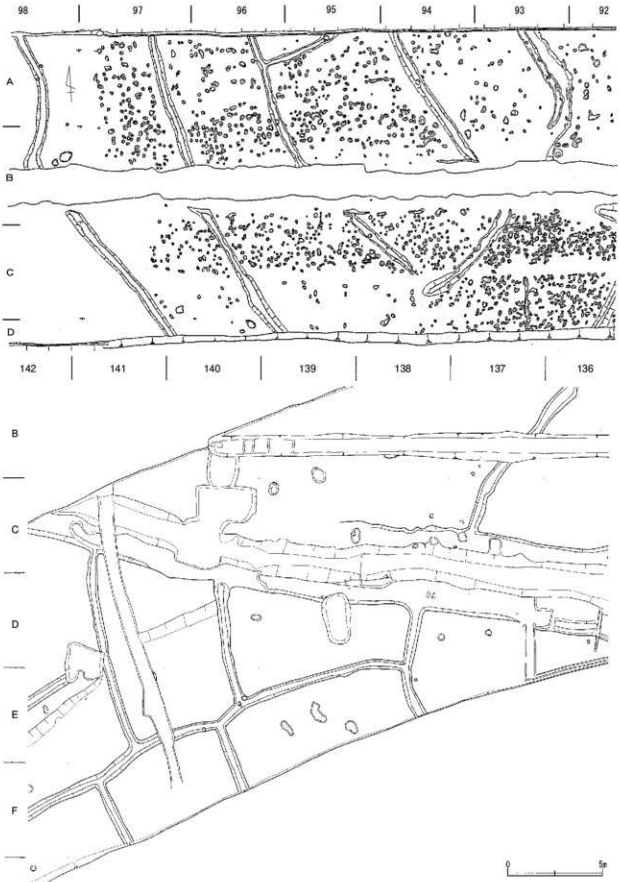
溝はSD1134の上層に当たり、上端幅が約２mで、両側に約１mの土手を有する。断面はU字状で、深さは約0.5mを測り、砂の堆積が顕著に見られる。C137区北岸には６世紀代と考えられる土師器甕１個体が破損して出土している。その他、遺物は全く出土していないが、水田に伴う用水路であったと考えられる。積極的に取水口と言えるものは無いが、１箇所、円礫を土手の上に平行に並べているものがあり、その名残である可能性がある。

137～153区は、方形区画を主とするが、畦畔は曲線的で、区画が丸味を帯びた形となる。137～147区付近では、方位はN65°Eで、約５m区画を主とし、10m前後の長さになるものもある。I145～M150区付近は、やや南寄りになり、N73°Eとなり約５×12mの長方形区画となる。H～J148～150区では、三角形状に収束するような形状となる。

151～153区およびN150～W154区付近は、畦畔がほとんど無く、地形もやや谷状となる。この付近には、人間の足跡が大量残されていた。F～Mの水田区画内にも見られるが、この付近のそれは圧倒的に多い。歩行の分かるものも多く、歩き回った様子が確認できる。大きさは



第115図　水田平面図２（51～60区）（縮尺1/200）

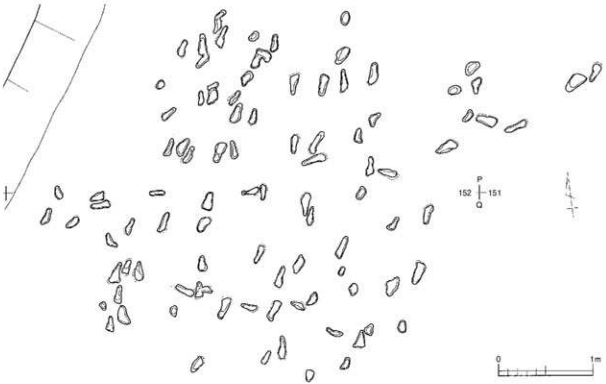


第116図 水田平面図3（93～99区・136～142区）（縮尺1/200）

第117図　水田平面図４（144～150区）（縮尺1/200）

第118図 馬蹄跡平面図（52・53・96・97区）（縮尺1/40）

第119図　足跡平面図（縮尺1/200）



第120図　足跡拡大平面図（縮尺1/40）

様々で、小さいもので12～13㎝、大きなもので25㎝前後を測るが、23～24㎝大のものが大半を占める。つま先が深く入り、指の跡が明瞭に確認できるのもある。深いものでは10㎝程度入り込んでいることから、かなりぬかるんだ状態であったと考えられる。大きさがやや小さいのは、ぬかるみのため土圧で縮められたことも関係しているかもしれない。

第３節　上層（中世）の遺構

中世の遺構は、散漫な分布状況をしており、比較的東側に遺構が集まる。145区以西は、基盤整備による削平のため、遺構がほとんどなくなっていた。主な遺構は、掘立柱建物11棟、井戸５基、土坑67基、溝137条、ピットなどである。浅い溝が多く、水田や畑などに伴う溝がその大半を占めていると考えられる。

１　掘立柱建物

SB01（第121図）　Ｃ・Ｄ19区に位置する。２間×２間で、桁行約4.15m、梁行約3.3m、方位Ｎ90°を測る。柱間は、北側は1.3mに対し南側は約２mで開きがある。柱穴は、直径0.25～0.3m、深さ0.5～0.6mを測る。北西約2.5m離れて、井戸（SE01）が検出されており、SB01と一体のものと捉えることができる。周辺には多数のピットが密集し、建て替えなども考えられるが、積極的に建物とする根拠が乏しかったため、建物とはしなかった。

SB03（第121図）　Ｄ18・19区に位置し、SB01に南接する。本体は南調査区外になり、詳細は不明である。４間幅で検出した長さは約６m、方位Ｎ88°Ｅを測る。柱穴は直径0.3m前後で深さ約0.5～0.6mを測る。柱間は約２mである。

SB04（第122図）　Ｂ22～24区に位置する。１間×３間で、東西両脇と南に半間の庇が付く。桁行約8.1m、約2.25m、方位Ｎ85°Ｗを測る。東西の庇は各約0.9mで張り出し、南の庇は、中央は約0.9m、両脇が各0.7mの張り出しである。柱間から考えると、北調査区外に柱が位置することから、さらに北側へ広がる可能性も否定できない。柱穴は直径0.3m前後、深さ0.4m前後である。南には平行するように幅約0.5m、深さ約0.05～0.1mの溝（SD38）が延びる。

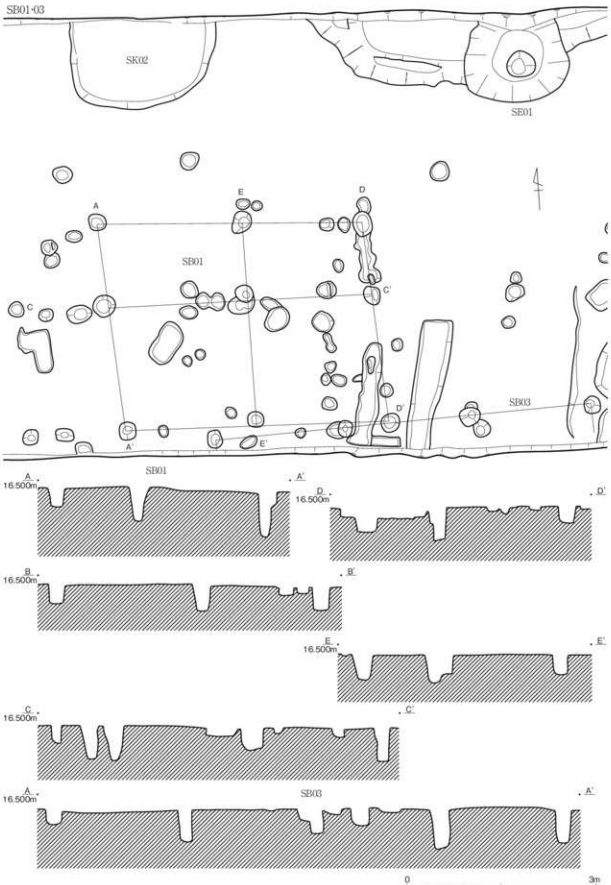
SB05（第123図）　Ａ19・20区に位置する。１間×２間で桁行約4.4m、梁行約2.4m、方位Ｎ85°Ｗを測る。柱穴は、直径0.3～0.4m、深さ0.4m前後である。SB04同様、北調査区外に柱が位置する可能性があることから、さらに北側へ広がることも考えられる。

SB06（第123図）　Ａ８・９区に位置する。２間×２間で西側に庇が付く。桁行約4.5m、梁行4.5m、方位Ｎ86°Ｗを測る。庇部は約0.6m張り出す。柱穴は直径約0.3m前後、深さ約0.5m前後である。周辺には土坑などが近接して見つかっている。

SB07（第124図）　Ｃ56～58区に位置する。１間×４間で北側に庇が付く建物と考えられるが、柱は直線的に並ばず、かなり出入がある。桁行約8.8～９m、梁行約2.3m、方位Ｎ83°Ｗを測る。柱穴は、南側８本は直径約0.4m前後、深さ約0.3m前後、外周では直径約0.25m前後、深さ0.3m前後となり、庇と考えられる部分の柱は一回り小さい。西側も小さいことから、幅は広いが庇になる可能性もある。建物の西、約2.2mには井戸（SE02）があり、SB07に付属するものと考えられる。

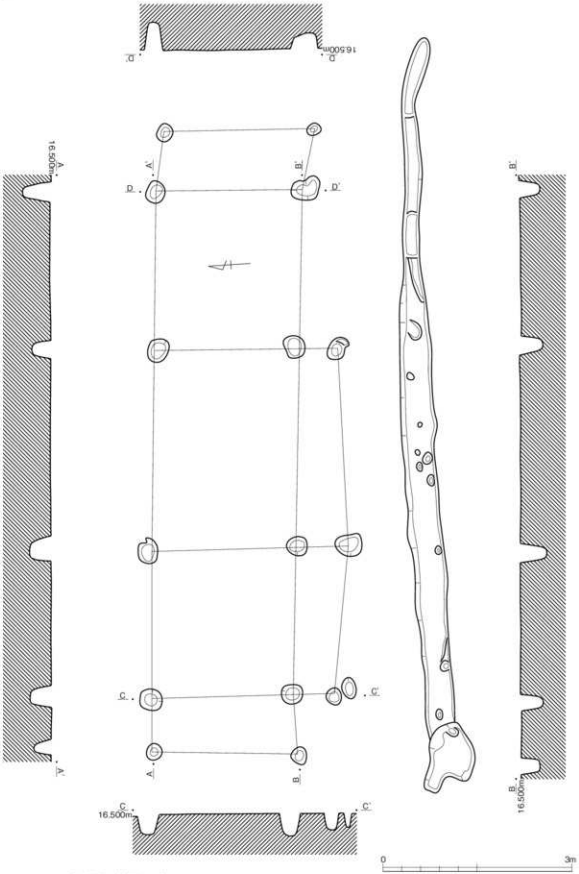
SB08（第125図）　ＡＢ99･100区に位置する。２間×２間の方形総柱建物である。桁行約4.7m、梁行約4.2m、方位Ｎ０°を測る。柱間は、北側は2.1～2.2mであるのに対し、南側では約2.5mと広くなっている。柱穴は直径0.25m前後、深さ約0.2～0.3mで、切り合う遺構もなく整然としている。しかし、周辺には遺物がほとんど無く、詳細な時期は不明である。

SB09（第125図）　Ｃ・Ｅ144・145区に位置する。２間×３間の総柱建物であるが、北側が0.9m～１m程度狭く、２間×２間に庇が付いた建物と考えることもできる。桁行約7.7m、梁行４m、方位Ｎ10°Ｗを測る。柱間は、桁行で約３mで北では２m、梁行は約２mである。柱穴は、南西６本は直径約

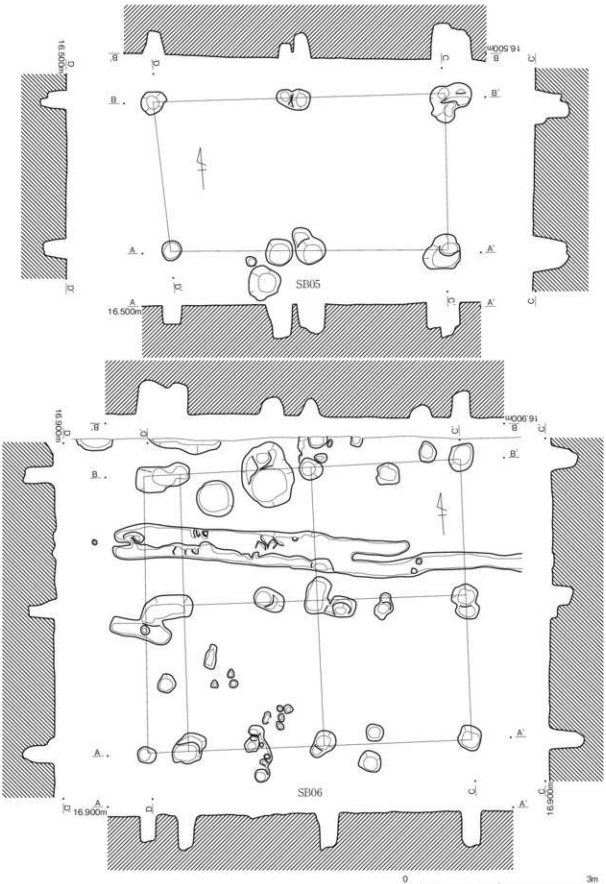


第121図　SB01・03実測図（縮尺1/60）

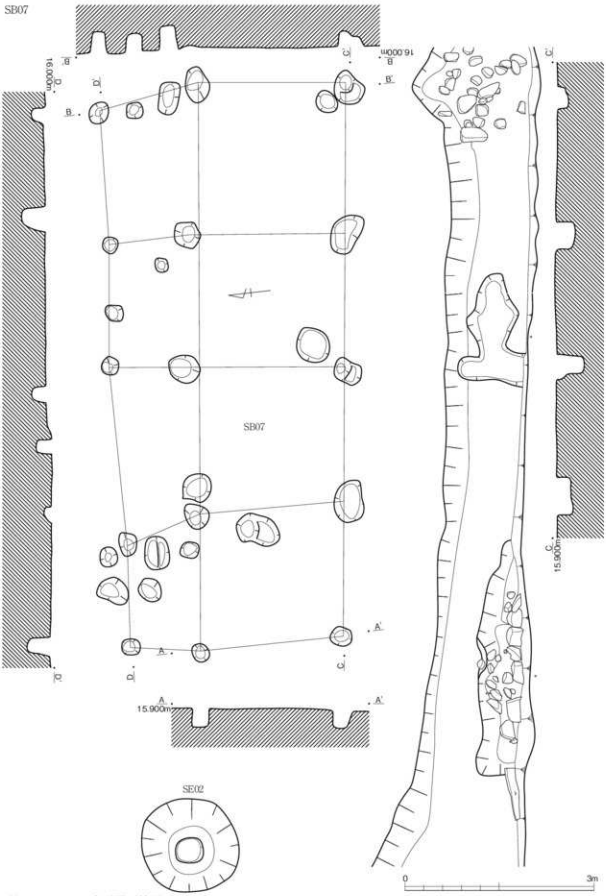
SB04



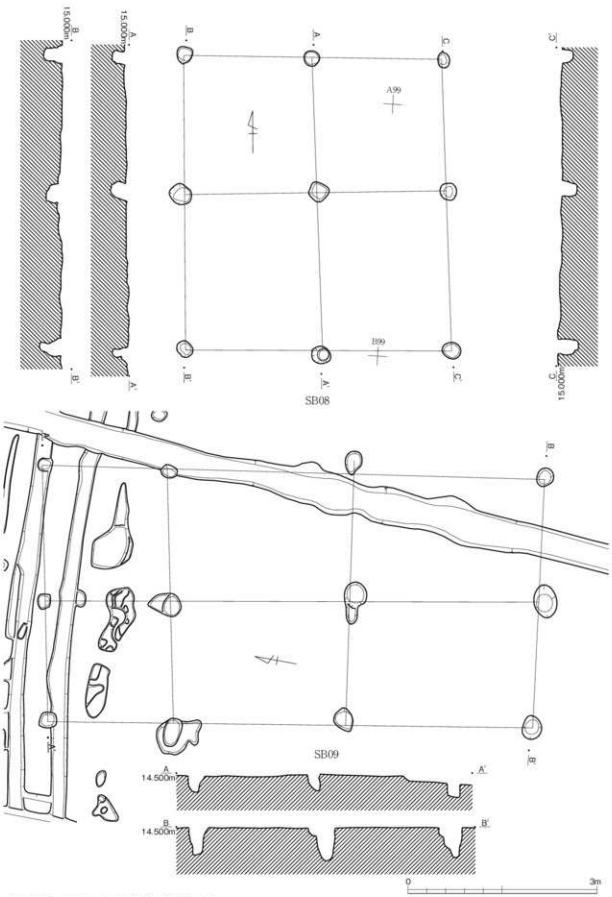
第122図　SB04実測図（縮尺1/60）



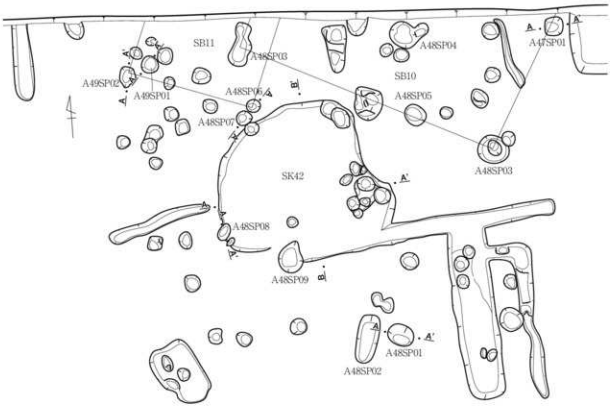
第123図　SB05・06実測図（縮尺1/60）

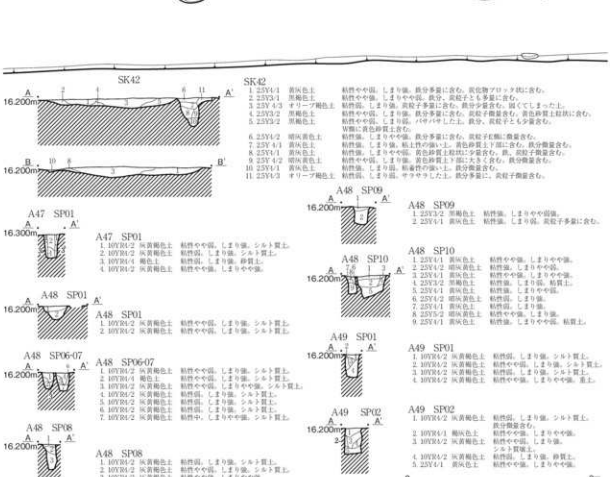


第124図　SB07実測図（縮尺1/60）



第125図　SB08・09実測図（縮尺1/60）





第126図　SB10・11およびA48・49区ピット集中区実測図（縮尺1/60）

0.3前後、深さ約0.5m前後、他は直径0.2～0.25m、深さ約0.3m前後である。この北には、溝で区画され、溝を中心とした遺構が密集する地区が広がるが、東西と南にはほとんど遺構が見られない。北側のなお、西側は、削平されているため、その状況は確認できない。なお、周辺ではほとんど遺物が出土していない。

SB10（第126図）　A47・48区に位置する。大半が調査区外に掛かる。１間×２間を検出したが、全体は不明である。柱間は約２mで、柱穴は直径約0.3m前後、深さ0.3m前後である。

SB11（第126図）　A48・49区に位置する。SB10と一部重なり、方位はほぼ同じである。１間分のみしか明確ではなく、主は調査外に延びる。柱間は約２mで、柱穴直径約0.2m前後、深さ0.3m前後である。

２　井戸

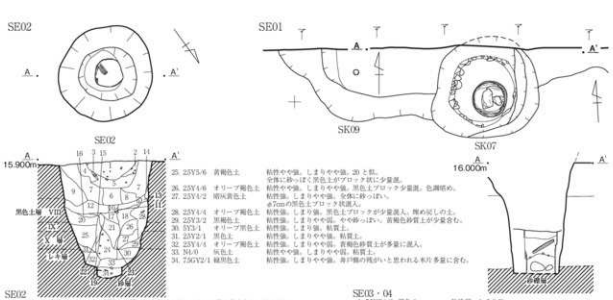
SE01（第127図）　B・C18区、SB01の北東に位置する。円形の素掘り井戸で、直径は上端で約1.6m、中間部で約１m、下部で約0.7mを測る。深さは、約1.8mで、礫層を掘り抜き砂礫層に達している。現在は全く出水していない。下半部には曲げ物枠が設置され、底には礫が落とし込まれていた。
遺物は、15世紀代の土師質皿が３点出土している。口径11cm～12cmのものが２点あり、表面が燻されたように黒変していた。もう１点は口径7.5cmの小型品である。

SE02（第127図）　C58区、SB07の西に位置する。円形の素掘り井戸で、直径は上端で約1.45m、下部で約0.7m、最底部は約0.4mの掘り込みを持つ。深さは約1.8mで、砂層に達していた。最底部の掘り込みは深さ約0.2mだが、曲げ物などの枠があった可能性もある。廃棄後は、2/3程度は一気に埋め戻されているが、上層は再度埋め戻したようで、堆積が異なる。遺物はほとんど出土していないが、13世紀代と考えられる越前焼片口鉢片が出土している。

SE03･04（第127図）　A・B46区に位置する。２基の井戸がメガネ状に重なって検出された。土層観察から、SE04を埋めてSE03を掘り直していることが分かる。SE03は底部に石組を持つ円形の素掘り井戸で、直径は掘り方上端で約２m、下端で約1.2m、本体底部は約0.5mを測る。深さは、掘り方下部まで約1.3mで本体底部まではさらに0.3m下がる。石組は、大きさの異なる円礫を２～３段組み上げた程度の、比較的簡易なものである。遺物はほとんど出土していないが、13世紀代と考えられるカワラケの小片が出土している。

SE04は、底に曲げ物枠を持つ円形素掘り井戸で、直径は上端では推定で約２m、下部は約１m、底部は約0.4を測る。深さは下部までが約1.8mで、底はさらに約0.5m下がる。枠は、下部から約0.5m上までで、二段重ねていた。埋め戻す際は井戸枠を外さず、そのまま埋め戻したようである。遺物は少量だが、13世紀前半台のカワラケ数点の他、土錘が１点出土している。

SE06（第128図）　C・D102区に位置する。縦板横木組みの方形井戸である。掘り方は直径約4.1mの円形で、深さは約4.8mを測る。本体は、掘り方の南側に寄せて造られていた。縦板で組まれた外枠は一辺が約1.1mで、掘り方底面から約0.6m下がる。四隅は直径約10cmの丸太材を刺し、そこに幅約８cm厚さ約４cmの角材をほぞで噛ませ方形枠が組まれている。ほぞは丸太側に約８×５cm深さ３cmの穴を切り、横板は、両端を僅かに削って幅を狭くしてはめ込んでいるもので、構造的に完全に一体化しているものではない。縦板は、幅約10～12cm、長さ約0.9mの板材を一面につき10枚を重ねずに縦に並べて差し込んでいる。板材のほとんどは、４cm角のほぞ穴を持つもので、穴のある方を下にして並べられている。西側は、土圧で横木が折れ、外枠が内側に張り出している。その拡大を防ぐため、杭が内

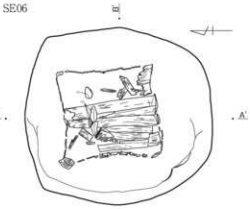


第127図　井戸（SE01・SE02・SE03・SE04）実測図（縮尺1/60）

上層砂利検出状況図

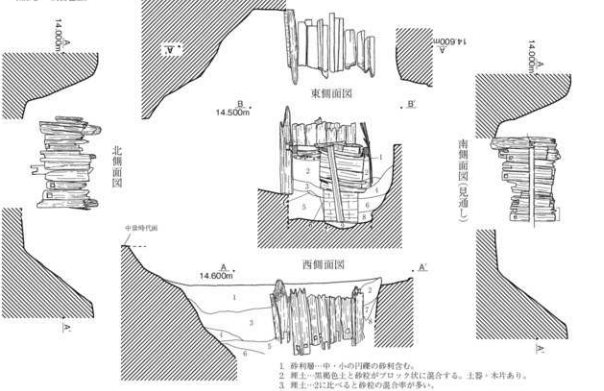
下層遺物出土状況図

下層曲物枠内礫出土状況図



SE06

1. 10YR3/2 黒褐色土　しまり強。10YR4/4褐色土小ブロック・炭粒少量混入。やや細砂質。
2. 7.5YR3/1 黒褐色土　しまり強。やや粘質。
3. 7.5YR2/2 黒褐色土　しまり強。鉄分層全体に広がるように少量混入。やや細砂質。
4. 2.5Y2/1　黒色土　しまり強。オリーブ灰色細砂質粘土ブロック。炭粒多量混入。やや細砂質。
5. 2.5Y2/1　黒色土　しまりやや弱。粘土。木片多量含む。
6. 5Y2/1　黒色土　しまりやや弱。粘土。5より大きめの木片・石・土器片・井戸枠含む。4のブロックが4より多く混入。炭粒多量に混入。
7. 10G5/1　緑灰色土　しまり良。粘土。木片多く含む。（種も出土）下方に砂粒少量含む。
8. N5　灰色土　しまり強。N7N灰色土小ブロック含む。木片・土器少量含む。炭化物無。
9. N5　灰色土　しまり強。N5Y2/1黒色土小ブロック混合。炭化物・土器無。
10. N4　灰色土　しまり良。粘土。木片多量に含む。N5N灰色土、中ブロックで混合。炭化物無。
11. N3　暗灰色土　やや しまり弱。粘土。上層に木片が集中するが、下層は無。炭化物無。
12. N6　灰色土　やや細砂質。含有物無。
13. N4　灰色土　やや しまり弱。粘土。含有物無。
1'. 10YR4/1 粘土褐色土　しまり良。砂ブロック3%に混合する。土器片多量（弥生土器含む）一部炭化物含む。※井戸の掘り方の裡もどし土。
N5/2　灰白色土。



1. 砂利層…中・小の円礫の砂利含む。
2. 粘土…黒褐色土と砂粒がブロック状に混合する。土器・木片あり。
3. 粘土…2に比べると砂粒の混合率が多い。
4. 砂層…5の単体土。
5. 砂層…X層。しまり強く含有物を含まない。
6. 掘り方…曲物の掘り方。黒褐色粘土多く含む。
7. 礫層…地山の礫層。
8. 掘り方…掘り方下層。

0　2m

第128図　SE06実測図（縮尺1/50）

側に打ち込まれていた。また、内枠との間は小砂利が敷き詰められている。

内枠は曲げ物で、内径約0.5mを測りさらに約0.4m下に掘り下げた中にはめ込まれている。曲げ物は二段で、外枠底部から上に約0.1m飛び出す形で据えられていた。

遺物は、外枠と内枠との間から、漆椀１点と須恵器様陶器の底部が、内枠底部付近からは、13世紀代前半の越前焼鉢の底部１点が出土している。

３　土坑

SK01（第129図）　Ｃ・Ｄ19区、SB01の西に位置する。方形で、約2.8m×1.5m、深さ約0.25m、方位Ｎ７°Ｅを測る。断面は箱形で埋土は単一層である。

SK04（第129図）　Ｂ・Ｃ10区に位置する。北は排水路で削平され、東でSD06と接する。隅丸長方形を考えられ、幅約1.4m、深さ約0.15m、方位Ｎ10°Ｅを測る。断面は浅皿状である。

SK06（第129図）　Ｂ・Ｃ18区に位置する。北は排水路で削平されている。隅丸長方形と考えられるが確かではない。幅約2.3m、深さ約0.34mで、断面は箱形で立ち上がりは垂直に近い。埋土はブロックたいせきで、人為的に埋め戻されている。遺物は13世紀代の土師質皿がほぼ完形で１点出土した他、礫が西側底面近くで出土している。

SK08（第129図）　Ｂ・Ｃ20区に位置する。北は排水路で削平されている。楕円形で、幅約0.84m、深さ約0.18m、方位Ｎ０°を測る。断面は浅皿状で、埋土は単一の灰褐色土である。

SK19･20（第129図）　Ｃ・Ｄ63区に位置する。SK19がSK20を切って構築されている。SK19は楕円形で、約1.2m×0.86m、深さ約0.86m、方位Ｎ61°Ｗを測る。断面はＵ字形で、埋土はレンズ堆積である。底部付近には、礫と共に五輪塔の地輪があり、その中央部の窪みには骨片が入れられていた。

SK20は楕円形で、長軸はSK19に切られているため不明だが、幅約1.25m、深さ約0.56m、方位Ｎ56°Ｗを測る。遺物は15世紀代の土師質皿が破片で出土している。また、底部付近に礫が多く見られた。

SK30（第129図）　Ａ42・43区に位置する。SD45に北で接し、それを挟んでSK42と平行する。と小判形で約1.8m×0.7m、深さ約0.46m、方位Ｎ80°Ｅを測る。断面は椀形で、埋土はレンズ堆積をし、遺物はほとんど出土していないが、墓壙の可能性がある。

SK25（第130図）　Ｃ・Ｄ48・49区に位置する。小判形で、約2.5m×1.86m、深さ約3.4m、方位Ｎ６°Ｅを測る。断面は箱形で、埋土は黒色土と黄色土の混土で埋め戻されている。

SK32（第130図）　Ａ44・45区に位置し、北は調査区外となる。長方形で、長さ約2.98m、幅は推定で約1.8m、深さ0.35m、方位Ｎ90°を測る。断面は箱形で、埋土は混土が主体をなす。

SK33（第130図）　Ａ45区に位置する。SK32と東で接する。円形で直径約１m、深さ約0.26mを測る。断面は皿状で、埋土はブロック土が入るほぼ単一層である。

SK38（第130図）　Ａ47区に位置し、北は調査区外となる。東はSK35～SK37の土坑、西はSB10・11のあるピット群である。隅丸長方形で、長さ約1.94m、深さ約3.5m、方位Ｎ85°Ｗを測る。断面は皿状で、埋土はブロック土の入る混土である。

SK39（第130図）　Ｂ46・47区に位置する。SD42の途中を同方向で切る形で構築されている。隅丸方形で、約2.9m×1.45m、深さ約0.6m、方位Ｎ76°Ｅを測る。断面は箱形で、埋土は炭化物が多く含まれ、上層には小石が多い。ブロック土を多く含む。

SK31（第130図）　Ａ43・44区に位置する。SK41の東で近接する。楕円形で約1.7m×1.14m、深

さ約0.5m、方位N85°Wを測る。断面は椀形である。

SK41（第130図）　A44区 に位置する。SD45の南で平行している。やや丸味を帯びる長方形で、約1.9m×0.95m、深さ約0.3mを測る。断面は皿状で、埋土は、西から順に埋まっていったような堆積状況となる。

SK42（第130図）　A48区に位置する。周辺はピット群を成し、SB10、SB11の南に位置する。南はSD64と直交する溝と重なる。不整形で、約2.35m×2.2m深さ約0.15mを測る浅皿状の土坑である。北西部と南東部、南西部に深さ約0.4mの細いピットが存在しており、SK42に伴う可能性がある。遺物はほとんど出土していない。

SK35・SK36・SK37（第131図）　A46・47区に位置し、北は調査区外となる。３基の土坑が東西に切り合い、結果として長さ約5.7mの大きな土坑になっている。真ん中のSK36が最も新しく、SK35とSK37はそれに切られ、大きさ等は不明である。SK36は、平面形は不明だが長さ約３m、深さ約0.4を測る。SK37からSK35に向かって浅くなり、それぞれ0.45mと0.28mを測る。

SK45（第132図）　C78区に位置し、西は攪乱のため削平されている。不整形で約2.35m×1.55m、深さ0.18m、方位N80°Eを測る。断面は浅皿状で、底部中央から東寄りに焼土が広がっていた。

SK52（第132図）　C・D106区に位置し、南は調査区外となる。隅丸長方形と考えられ、幅約2.9m、深さ約0.65m、方位N11°Eを測る。断面は皿状で、埋土は下層では埋め戻しによるブロック状の土が多く見られる。遺物は、南の中央付近で、13世紀代の完形土師質皿と硯が１点ずつ出土している他、13世紀代の土師質皿の破片数点が埋土から出土している。硯は、表面の磨滅が進んで使用に耐えられないようなものの裏面を硯として転用したもので、原型は保ってはいない。

SK53（第132図）　C・D107区に位置する。菱形に近い形状を呈し、約3.1m×2.4m、深さ約0.2m、方位N90°を測る。断面は浅皿状で、埋土上面と底部に焼土が見られた。

SK49（第133図）　C101区に位置する。SD83と東で接し、北は排水路により削平されている。楕円形と考えられ、幅約2.45m、深さ約0.1m、方位N８°Wを測る。断面は浅皿状である。

SK54（第133図）　C・D109区に位置し、南は調査区外になる。隅丸方形あるいは隅丸長方形になると考えられ、幅約3.65m、深さ0.46mを測る。断面は皿状で底面は平坦で、緩やかに立ち上がる。埋土は、水平に近いレンズ堆積となるが、土は混入土が多い。

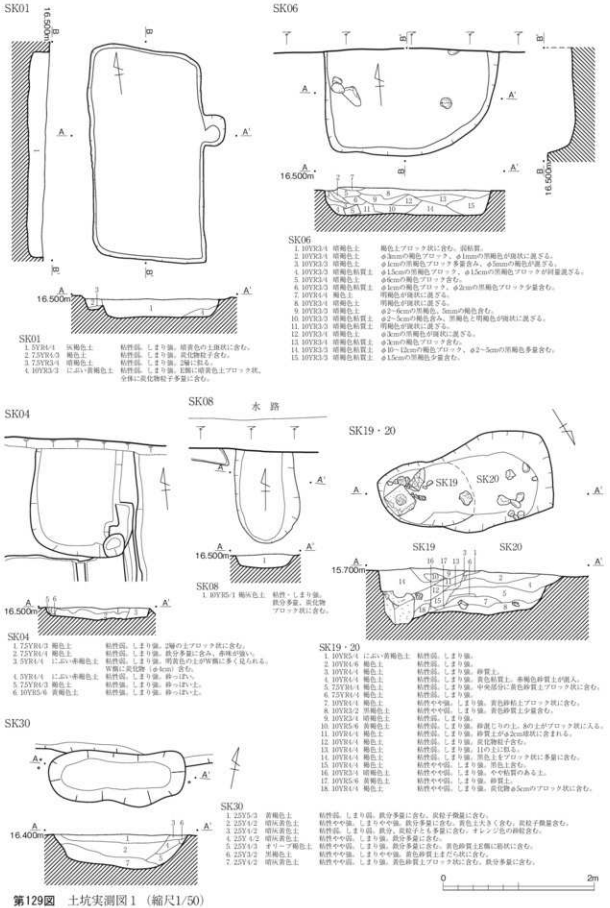
SK50（第133図）　C・D101・102区に位置する。東側は近接してSE06がある。楕円形で、南は別な土坑と切り合う。約1.3m×1.3m、深さ0.14mを測り、断面は浅皿状となる。

SK56（第133図）　C・D103区に位置する。SD87と一体化して浅いため切り合いは不明である。楕円形で、約1.35m×0.56m、深さ0.05m、方位N45°Eを測る。13世紀代の土師質皿がややまとまって出土し、SD87も同様で、接合関係もある。

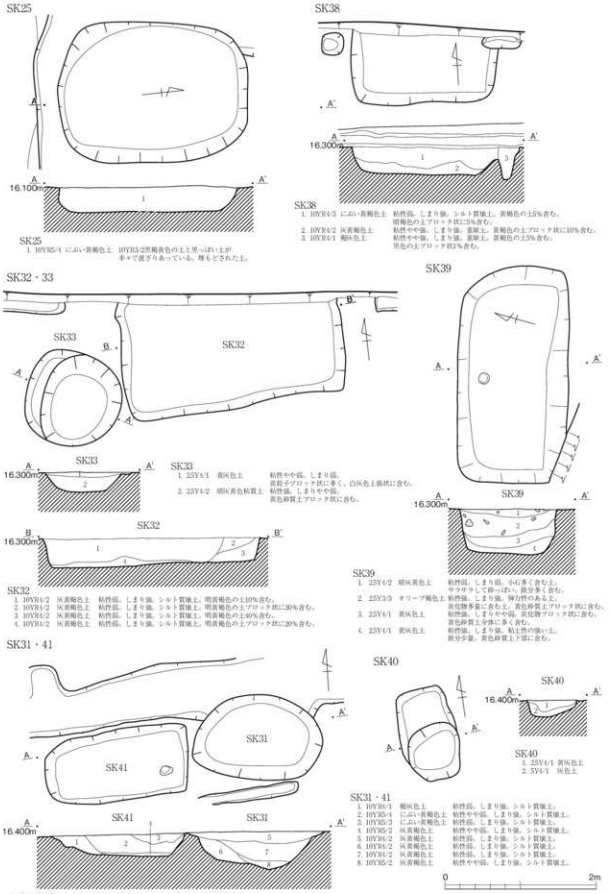
SK57（第133図）　D104区に位置する。不整形で浅い土坑で、約0.85m×0.35～0.55m、深さ約0.05m、方位N15°Eを測る。13世紀代の土師質皿が比較まとまって出土している。

４　畝状遺構（第134図）

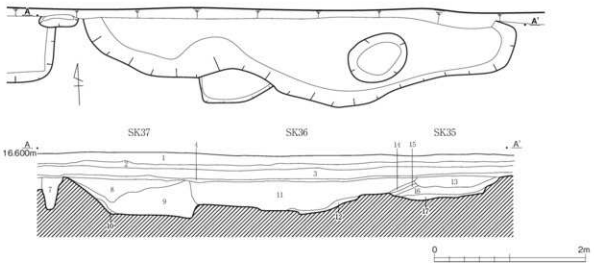
A・B51～53区で検出した溝列である。平行した５条の溝と、直交する１条の溝で構成される。６条はほぼ南北に向き（N５°W）、約1.2m間隔で並ぶ。溝は幅0.5～0.6m、深さ0.2m前後である。直交する溝は、東の３条（SD50～52）と北端で繋がる。幅はやや狭く0.4m前後である。排水路により南は削平されるが、C区には繋がらないため、７～８mの長さに収まるといえる。畝の盛り上がりは確認



第129図　土坑実測図１（縮尺1/50）



第130図 上層土坑実測図２（縮尺1/50）



1. 2.5Y4/2　暗灰黄色土　粘性弱、しまり強、砂壌土、褐色の土1%含む、黒色炭化物微量含む、鉄分多く含む。
2. 10Y3/1-2　灰黄褐色土　粘性弱、しまり強、砂壌土、黒色炭化物の粒ごく微量含む、鉄分微量含む。
3. 10YR3/3　にぶい黄褐色土　粘性弱、しまり強、シルト質壌土、明黄褐色の土ごく微量含む、黒色炭化物ごく微量含む、鉄分少量含む。
4. 10YR5/4　褐色土　粘性弱、しまり強、シルト質壌土、黄褐色の土1%含む、黒色炭化物ごく微量含む、鉄分多く含む。
5. 10YR3/3　にぶい黄褐色土　粘性弱、しまり強、シルト質壌土、黄褐色の2.5%含む、褐褐色のブロック状に5%含む、黒色炭化物少量含む、鉄分少量含む。
6. 10YR3/2　灰黄褐色土　粘性やや強、しまり強、重壌土、黄褐色のブロック状に10%含む、黒色炭化物ごく微量含む、鉄分少量含む。
7. 10YR5/4　褐色土　粘性やや強、しまり強、重壌土、黄褐色の2.5%含む、黒色の土ブロック状3%含む、黒色炭化物ごく微量含む、鉄分少量含む。
8. 10YR3/2　灰黄褐色土　粘性弱、しまり強、シルト質壌土、明黄褐色の土ごく微量含む、黒色炭化物ごく微量含む、鉄分少量含む。
9. 10YR3/2　灰黄褐色土　粘性弱、しまり強、砂壌土、明黄褐色の土50%含む、褐色の土ブロック状15%含む、黒色炭化物微量含む、鉄分少量含む。
10. 10YR3/2　灰黄褐色土　粘性やや強、しまり強、重壌土、明黄褐色の土微量含む、黒色炭化物の粒ごく微量含む、鉄分微量含む。
11. 10YR5/3　褐褐色土　粘性やや強、しまり強、シルト質壌土、明黄褐色の土1%含む、黒色炭化物微量含む、鉄分微量含む。
12. 10YR3/2　灰黄褐色土　粘性やや強、しまり強、重壌土、明黄褐色の土ブロック状に10%含む、黒色炭化物の粒ごく微量含む、鉄分ごく微量含む。
13. 10YR3/2　灰黄褐色土　粘性弱、しまり強、シルト質壌土、明黄褐色の土1%含む、黒色炭化物微量含む、鉄分微量含む。
14. 10YR5/3　にぶい黄褐色土　粘性やや強、しまり強、シルト質壌土、明黄褐色の土20%含む、黒色炭化物の粒ごく微量含む。
15. 10YR3/2　灰黄褐色土　粘性弱、しまり強、シルト質壌土、明黄褐色の土ごく微量含む、炭化色のごく微量含む、黒色炭化物微量含む、鉄分微量含む。
16. 10YR5/3　にぶい黄褐色土　粘性弱、しまり強、シルト質壌土、明黄褐色の20%含む、炭化色の土微量含む、黒色炭化物の粒微量含む、鉄分微量含む。
17. 10YR3/2　灰黄褐色土　粘性やや強、しまり強、シルト質壌土、明黄褐色の土1%含む、黒色炭化物微量含む、鉄分微量含む。

第131図　上層土坑実測図３（縮尺1/50）

できてはいないが、畑であった可能性が高い。

同様の溝列がＣ83・84区でも検出している。SD67と切り合い４条が東西方向に平行して並ぶ。北側の１条のみが長さ約２ｍで、残り３条は約３ｍである。深さは0.08～0.15ｍと浅く、間隔は約0.4ｍでほぼ等間隔である。

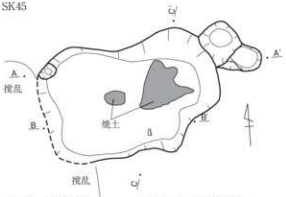
５　溝

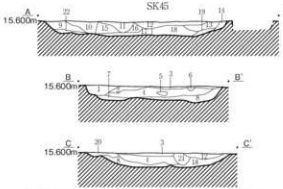
SD42（第135図）　Ａ42～Ｄ54区にまたがり、延長約60ｍを検出している。途中、SK39の南で排水路による削平のため途絶えるように見えるが、49区からSD43に至るまではより明瞭に確認できている。幅は北側では0.6ｍ前後だが、南に行くに従って広くなり、１～1.1ｍ前後になる。深さも0.2ｍ前後であったものが0.4ｍ前後に深くなる。それに伴い、断面も浅皿状からＵ字状になる。北側の上層が削平された可能性は高く、残りの良い南側の形状が本来の姿であったと言える。埋土の下層には砂が多く含まれ、水流があったことを示し、北東から南西に向かって流れていたと考えられる。南はSD44と合流しており、54区付近から方向が西から北へ変えている。川２が北流していたことと関係があるといえる。

南半では、底に砂利層が見られた。敷き詰められた感じではないが、比較的きれいに面を成し、埋土中に砂利が含まれてはいなかったことから、人為的に敷かれたものであると考えた。その中や上面からは、17世紀代の陶磁器、紅皿、中世後期の白磁、砥石などが少量ではあるが出土している。そのことから、SD42は中世後期から近世前半にかけて利用された水路であったといえる。

SD45（第136図）　Ａ41～Ｂ46に位置する。SD42の南に平行して走る。しかし、排水路付近で不明瞭になり、南へは続かないことから、SD42と合流している可能性が高い。幅は、北側では約１ｍあるが南では0.5ｍ前後に狭くなっている。断面は浅皿状で、砂層は認められない。遺物はほとんど出土していない。

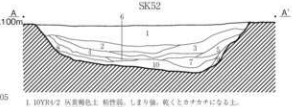
SK45





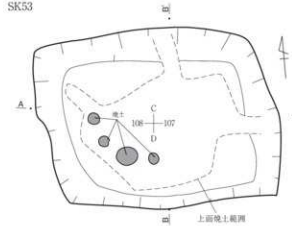
1. 25Y4/2　暗灰褐色の砂礫土　粘性弱、しまり強、明黄褐色土含む。
2. 10YR3/3　暗褐色のシルト質埋土　粘性弱、しまり強、明黄褐色土・炭少量含む。
3. 10YR3/2　灰黄褐色のシルト質埋土　粘性弱、しまり強、明黄褐色土少量含む。
4. 10YR3/3　暗褐色のシルト質埋土　粘性やや強、しまりやや強、明黄褐色土・黒褐色土微量含む。
5. 10YR4/4　褐色のシルト質埋土　粘性弱、しまりやや強、暗褐色土含む。
6. 10YR4/4　褐色の砂礫土　粘性弱、しまり強、暗褐色土含む。
7. 10YR3/3　にぶい黄褐色のシルト質埋土　粘性弱、しまりやや強、灰黄褐色土多く含む。
8. 10YR3/2　黒褐色のシルト質埋土　粘性弱、しまりやや強、灰黄褐色土・明黄褐色土多く含む。
9. 25Y4/2　暗灰褐色の砂礫土　粘性弱、しまり強、明黄褐色土少量、黒褐色土少量含む。
10. 10YR4/3　にぶい黄褐色のシルト質埋土　粘性弱、しまりやや強、灰黄褐色土多く、黒褐色土含む。
11. 10YR3/3　暗褐色のシルト質埋土　粘性弱、しまり強、明黄褐色土少量、炭少し含む。
12. 10YR3/2　黒褐色のシルト質埋土　粘性弱、しまり強、灰黄褐色土含む。
13. 10YR3/3　暗褐色のシルト質埋土　粘性弱、しまり強、明黄褐色土多く。
14. 10YR3/3　暗褐色のシルト質埋土　粘性弱、しまり強、明黄褐色土少量含む。
15. 10YR4/4　褐色のシルト質埋土　粘性やや強、しまり強、暗褐色土やや多く。
16. 10YR4/4　褐色のシルト質埋土　粘性やや強、しまり強、暗褐色土やや多く。
17. 10YR3/2　黒褐色のシルト質埋土　粘性やー、しまりやや強、明黄褐色土少量。
18. 10YR3/2　黒褐色のシルト質埋土　粘性やや強、しまりやや強。
19. 10YR3/2　黒褐色のシルト質埋土　粘性やや強、しまりやや強、明黄褐色土含む。
20. 10YR3/3　暗褐色のシルト質埋土　粘性弱、しまり強、明黄褐色土少量含む。
21. 10YR4/4　褐色の砂礫土　粘性弱、しまり強、暗褐色土含む。
22. 10YR4/2　灰黄褐色のシルト質埋土　粘性やや強、しまりやや強、明黄褐色土少量含む。

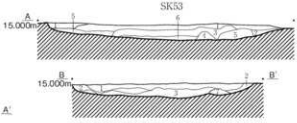
SK52



1. 10YR4/2　灰黄褐色土　粘性弱、しまり強、乾くとカチカチになる土。
2. 10YR3/2　黒褐色土　粘性弱、しまり強、ボソボソしている土。
3. 10YR4/4　褐色土　粘性やや強、しまり強、やや粘質のあるとで黄色土混入。
4. 10YR2/2　黒褐色土　粘性弱、しまり強、ボソボソしているとで黄色土混入。
5. 10YR3/2　黒褐色土　粘性やや強、しまり強、柳樹ごちの土。
6. 10YR3/3　暗褐色土　粘性やや強、しまり強、黄色土ブロック状に含む。
7. 10YR3/1　黒褐色土　粘性やや強、しまり強、黄色土ブロック状に含む。
8. 10YR3/2　黒褐色土　粘性やや強、しまり強、
平面に黄色土多量にブロック状に含む。
9. 10YR4/2　灰黄褐色土　粘性やや強、しまり強、黄白色土と混合している。
10. 25YR3/1　黒褐色土　粘性やや強、しまり強、黄白色土少量含む。

SK53

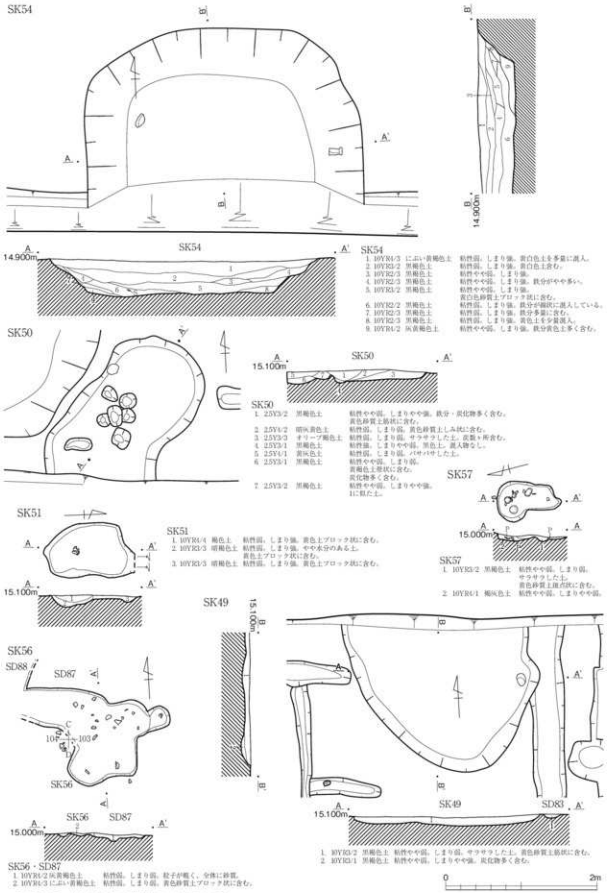




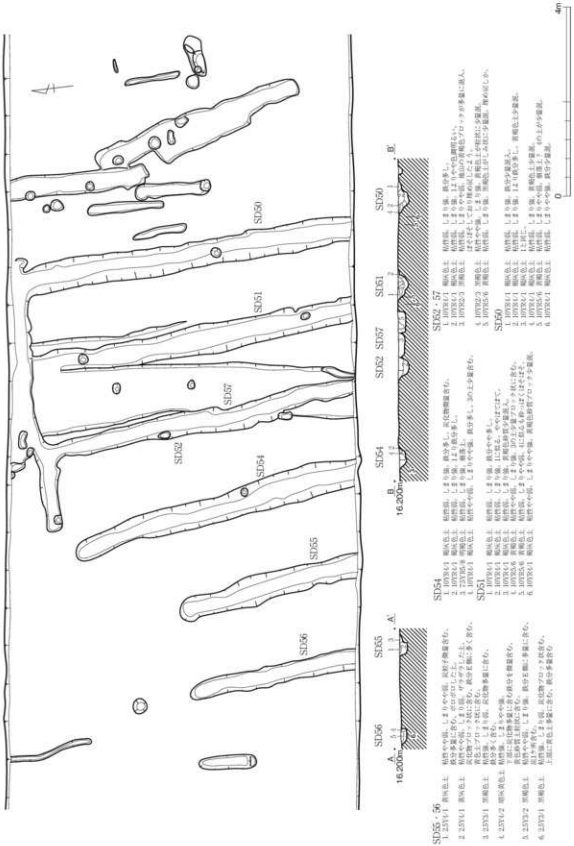
1. 10YR2/1　黒色土　粘性弱、しまり強、ボソボソとしている土。
2. 10YR3/3　暗褐色土　粘性やや強、しまり強、粘質のある土。
3. 10YR3/2　黒褐色土　粘性弱、しまり強、黄色土と混合。
4. 10YR2/1　黒色土　粘性やや強、しまり強、粘質のある土。
5. 10YR4/4　褐色土　粘性弱、しまり強、黄色砂質土混合。
6. 10YR3/2　黒褐色土　粘性弱、しまり強、
やや粘質のある土で黄色砂質土がすがに含む。
7. 10YR3/2　黒褐色土　粘性弱、しまり強、炭化した土をブロック状に含む。

0　2m

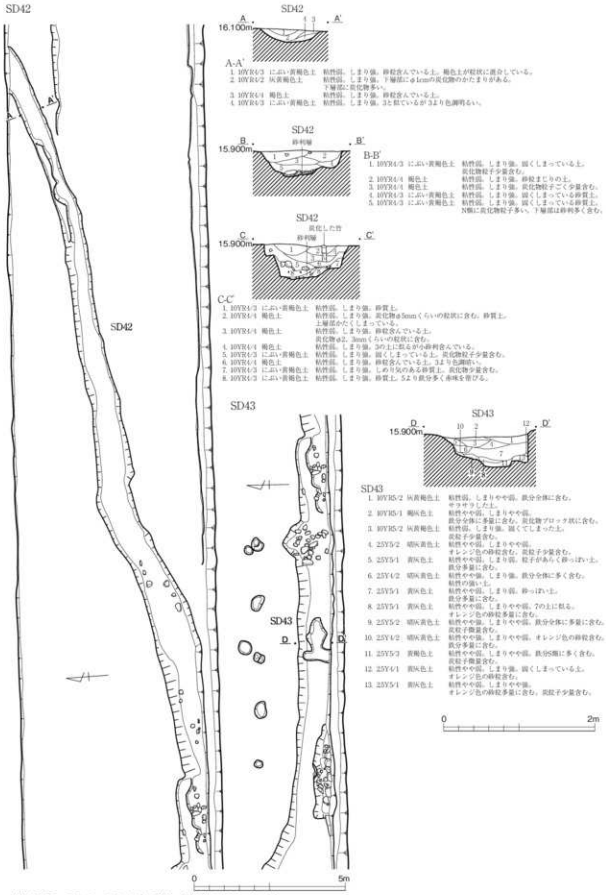
第132図　上層土坑実測図４（縮尺1/50）



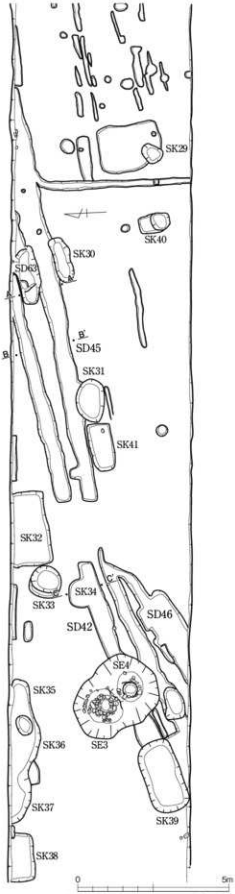
第133図　上層土坑実測図5（縮尺1/50）

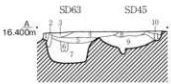


第134図　畝状遺構実測図（縮尺1/80）

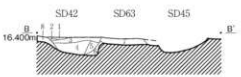


第135図　SD42・SD43実測図（縮尺1/150・1/50）

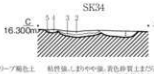




1. 25Y4/2　暗灰黄色土　粘性弱、しまり弱、パサパサした上、黄色砂質土まだら状に含む。
　　炭粒子微量含む。
2. 25Y4/2　暗灰黄色土　粘性弱、しまり弱、サラサラした上、鉄分多量に含み、明るい色調の土。
　　炭粒子微量含む。
3. 25Y5/1　黄灰色土　粘性弱、しまり弱、パサパサした上、炭粒子下部に多く含む。
　　鉄分少量含む。
4. 25Y4/1　黄灰色土　粘性やや弱、しまり強、固くしまった上、炭粒子少無。
　　5層に多量に含む。
5. 25Y5/1　黄灰色土　粘性弱、しまり強、固くしまった上、炭2ヵ所含む。
　　鉄分多量に含む。
6. 25Y4/2　暗灰黄色土　粘性強、しまりやや強、弾力があるも、鉄分粘状に含む。
　　黄色砂質土まだら状に含む。
7. 25Y5/3　黄褐色土　粘性強、しまり強、弾力性があり全体に黄色味を帯びる。
　　オレンジ色の砂粒含む、鉄分多量に含む。
8. 25Y4/2　暗灰黄色土　粘性弱、しまり弱、パサパサした上、鉄分多量に含む。
　　炭粒子下部に多く含む。
9. 25Y4/2　暗灰黄色土　粘性強、しまり弱、黄色土多量に含む、5層にオレンジ色の砂粒含む。
　　下部に炭3ヵ所含む。
10. 25Y5/2　暗灰黄色土　粘性弱、しまり弱、鉄分多く含む。パサパサした土。
　　5層に黄色砂質土含む。
11. 25Y4/1　黄灰色土　粘性やや弱、しまり強、鉄分多量に含む、黄色砂質土ブロック状に含む。
　　炭粒子微量含む。



1. 25Y4/1　黄灰色土　粘性やや弱、しまり強、鉄分多量に含む、固くしまった土。
　　オレンジ色の砂粒含む。
2. 5Y3/1　オリーブ褐色土　粘性やや弱、しまり強、鉄分粘状に多く含む。
　　炭化物ブロック状に含む。
3. 25Y4/1　黄灰色土　粘性やや弱、しまり強、砂っぽくサラサラした土。
　　黄色砂質土ブロック状に含む、鉄分多量に含む。
　　炭化物ブロック状に含む。
4. 25Y4/2　暗灰黄色土　粘性強、しまり弱、黄色土全体に多量に含む、鉄分多量に含む。
　　炭化物少量含む。
5. 25Y4/1　黄灰色土　粘性やや強、しまり弱、黄色土まだら状に含む。
　　炭化物少量含む。
6. 25Y5/2　暗灰黄色土　粘性強、しまり弱、粘性の強い土、黄色土多量に含む。
　　鉄分多量に含む。
7. 25Y5/1　黄灰色土　粘性弱、しまり弱、パサパサした上、鉄分多量に含み砂っぽい。
　　5層に炭化物大量含む。
8. 25Y4/1　黄灰色土　粘性やや強、しまりやや強、鉄分粘状に含む。
　　黄色砂質土上部に含む、炭化物多量に含む。



1. 25Y4/3　オリーブ褐色土　粘性強、しまりやや強、黄色砂質土まだら状に含む。
　　炭化物ブロック状に含む、鉄分多く含む。
2. 25Y4/2　暗灰黄色土　粘性弱、サラサラした上、黄色砂質土ブロック状に含む。
　　炭化物ブロック状に含む、鉄分多量に含む。
3. 25Y4/2　暗灰黄色土　粘性やや弱、しまり強、黄色砂質土多量に含み、黄色味を帯びる。
　　鉄分多量に含む。
4. 5Y4/1　灰色土　粘性弱、しまり弱、明るい色調の土、鉄分、炭化物5も多量に含む。
　　黄色砂質土ブロック状に含む。
5. 25Y3/2　黒褐色土　粘性弱、しまり弱、黄色砂質土多量に含み、黄色味を帯びる。
　　鉄分少量含む。

0　　2m

第136図　SD42北・SD45・SD46・SD63実測図（縮尺1/150・1/50）

第５章　遺　物

第１節　弥生～古墳時代前期の土器

１　分類

本遺跡の東・中・西地区の遺構・包含層からは多量の弥生土器・土師器が出土している。これらの土器についてはまず、器種による分類をおこない、主として口縁部形態により次のように細分類をおこなった。

甕形土器（第137図）

Ａ類　頸部は緩く「く」の字に屈曲し、口縁は短く外傾、外反する。口～頸部および胴部外面にハケ調整、内面は口縁をヨコ、胴部をタテ、ナナメにハケ調整するものが多い。肩部にはヨコ方向のハケ調整を施すものも多くみられる。弥生時代中期に属するもの。

Ａ１類　口縁端部にナデを施すもの。端部に面をもつもの、丸くおさめるもの、先細りとなるものがある。

Ａ２類　口縁端部に刺突を施すもの。頸部の屈曲には緩いものが多いが、鋭く屈曲し底部穿孔されるものもある。

Ａ３類　頸部に突帯をもち、口縁端面に凹線を施すもの。口径25cm前後の大型のものがある。

Ｂ類　頸部は「く」の字に屈曲し、端部に幅狭の面を形成する。端面は上方、下方につまみだされ断面は三角形状となる。

Ｂ１類　幅狭の端面に凹線を施すもの。

Ｂ２類　ナデが施されるもの。

Ｃ類　有段口縁を呈するもの。擬凹線を施す。調整不明も便宜的に含む。口縁内面には指頭圧痕がみられるもの、肩部に刺突を施すものもある。口径30cm前後の特大型、20～25cmの大型、15～20cmの中型、13cm前後以下の小型のものがある。頸部の屈曲により細分が可能と考えられる。

Ｃ１類　Ｂ類よりも端面の幅が広がり有段状となる。内面の段は不明瞭で、端面は直立・外傾または中央がややくぼみ、断面が三角形状となる。頸部内面の屈曲が強く鋭角であるが、厚手で曲面を有するものもある。肩部に刺突を施すものがある。

Ｃ２類　口縁内面に明瞭な段をもつ有段口縁のもので、口縁が内傾して立ち上がるもの。内面有段部が明瞭なもの。

Ｃ３類　口縁が直立、または直立ぎみにたちあがるもの。

Ｃ４類　口縁が外傾、外反してたちあがるもの、内面段部が明瞭なもの。

Ｃ５類　口縁内外面の段が弱くなるもの。口縁は外反し、端部は先細りする。頸部内面に面をもつものがある。

Ｄ類　有段口縁を呈し、擬凹線が施されない無文のもの。口縁部のナデにより下端が突出するものがある。中型のみ確認している。分類はＣ類に準ずる。

Ｅ類　口縁が受口状となるもの。近江地方に系譜をもつと考えられるものを含む。

Ｅ１類　口縁内外面にハケ調整を施すもの。

Ｅ２類　口縁外面に刺突を施すもの。主に下端に施される。端部は平坦となるもの、外傾、やや内

傾およびまるくおさめるものがある。頸部下に直線文、刺突文を施す。

E３類　口縁部に擬凹線を施すもの。頸部下に刺突を施す。

E４類　口縁部が無文のもの。端部は平坦となるもの、外傾、内傾および丸くおさめるものがある。

F類　「く」の字口縁を呈するもので、調整は、部位による規定が希薄なのか、個体による組み合わせの違いが認められる。口縁端部を先細りさせるものを（a）、丸くおよびわずかにつまみ出すものを（b）、面取りするものを（c）とする。

F１類　口縁が内湾気味となるもの。

F２類　口縁が外傾するもの。

F３類　口縁が外反するもの。

G類　口縁端部を肥厚させたいわゆる布留系のもの。

G１類　口縁端部をわずかにつまみあげたもの。

G２類　やや肥厚させた口縁端部が上端に平坦面をもつもの。

G３類　口縁端部を明瞭に肥厚させたもの。口縁端部が内上方に傾斜する。

H類　口縁下端に突出した稜をもつ、いわゆる山陰系のもの。口径が20cmを超える大型、10～15cm程度の中型のものがある。口縁端部をまるくおさめるもの、面をもつものがある。肩部に波状文、刺突文をもつものがある。

I類　緩やかに屈曲する頸部から口縁が内傾する。端部を先細りさせるもの、平坦面をもつものがある。

壺形土器（第138図）

A類　頸部から大きく開口するもの。口縁端部および内面に刺突を施すもの、端部に凹線を施すものがある。弥生時代中期に属する。

B類　外傾する口縁が端部でわずかに内湾する。口縁端部には凹線を施す。大型と小型のものがある。大型のものには頸部にも凹線を施す。A類と同様弥生時代中期に属する。

C類　有段口縁を呈するもの。胴部は球形を呈するものが多い。C１類、C２類については、口縁部に擬凹線を施すものを（a）、無文のものを（b）とする。

C１類　口縁部が直立ぎみに立ち上がるもの。

C２類　口縁部が外傾、外反するもの。

C３類　脚を有するものの中で、体部外面をミガキ調整または赤彩されたもの。

C４類　小型の精製品をまとめる。胴部がソロバン玉状を呈し、直線文、スタンプ文、貼付け突帯などで加飾されたものやミガキ調整のみのもの、脚を有すもの、平底のものがある。

D類　口縁が外反・外傾する広口壺をまとめる。上方、下方に拡張する口縁帯をもつものが多い。口径が20cmを超える大型のもの、15cm前後の中型のものがある。

D１類　筒状の頸部を持つ。やや長頸のもの。擬凹線、円形浮文、スタンプ文などを施し、胴部と頸部の境に突帯を貼付けて加飾するものもある。

D２類　短頸となるもの。ナデ調整され、加飾されない中型のもの。

E類　長頸壺をまとめる。口頸部が胴部高の３分の１以上のものを目安とする。肩の張らない倒卵形の胴部のものがほとんどであるが、胴部が張るものもある。

E１類　口縁端部が丸く、または先細りとなるもの。

E２類　口頸端部が面取りされるもの。面が内傾、外傾、やや拡張するものもある。

Ｅ３類　口縁端部のヨコナデ調整により、屈曲、弱い段ができるもの。

Ｅ４類　口縁部が有段状となるもの。

Ｆ類　短頸壺をまとめる。口頸部が胴部高の３分の１以上のものを目安とする。肩の張らない倒卵形の胴部のものがほとんどであるが、胴部が張るものもある。

Ｆ１類　口縁端部が丸く、または先細りとなるもの。口頸部が直立ぎみのもの。

Ｆ２類　口頸端部が面取りされるもの。面が内傾、外傾、やや拡張するものもある。

Ｆ３類　口縁端部のヨコナデ調整により屈曲し、弱い段ができるもの。口頸部は緩く外反ぎみに開く。

Ｇ類　無頸壺をまとめる。

Ｇ１類　胴部最大径からやや内傾し、口縁となるもの。把手がつくものもある。

Ｇ２類　胴部から短い口縁が屈曲するもの。胴部は偏球形を呈する。櫛描き直線文、爪形スタンプ文等で加飾するものがある。口径６㎝前後、器高10㎝以下の小型で精製のものが多い。

Ｇ３類　把手・脚部が付く小型のもの。

Ｈ類　脚付となるもの。

Ｈ１類　長頸を呈する。

Ｈ２類　短頸・無頸を呈する。

Ｉ類　細頸壺をまとめる。出土点数は少なく、口縁部片、体部のみの確認である。

Ｊ類　胴部が扁球状を呈す細頸短頸壺。

Ｋ類　球形の胴部から口縁が外方に開くもの。口縁は内湾ぎみ、外傾、外反するものがある。ミガキを施す精製品が多い。

Ｋ１類　頸部が細くすぼまるもの。

Ｋ２類　球形の体部から口縁が外反するもの。

Ｋ３類　頸部がやや広がるもの。

Ｌ類　口縁が「く」の字を呈する主に広口となるものをまとめる。体部は球形、または肩部がやや張る。

Ｌ１類　口縁が内湾ぎみに立ち上がるもの。

Ｌ２類　口縁が外傾するもの。

Ｌ３類　口縁が外反するもの。

Ｍ類　口縁部が受口状となるもの。近江地方に系譜をもつものを含む。

Ｎ類　付加状口縁のもの。口縁の断面は三角形を呈す。頸部は「く」の字状となるもの、緩やかに屈曲するものがある。

Ｎ１類　口縁に擬凹線を施すもの。

Ｎ２類　口縁が無文のもの。

Ｏ類　二重口縁となるものをまとめる。

Ｐ類　口縁下端に稜をもつもの。山陰地方に系譜をもつものを含む。

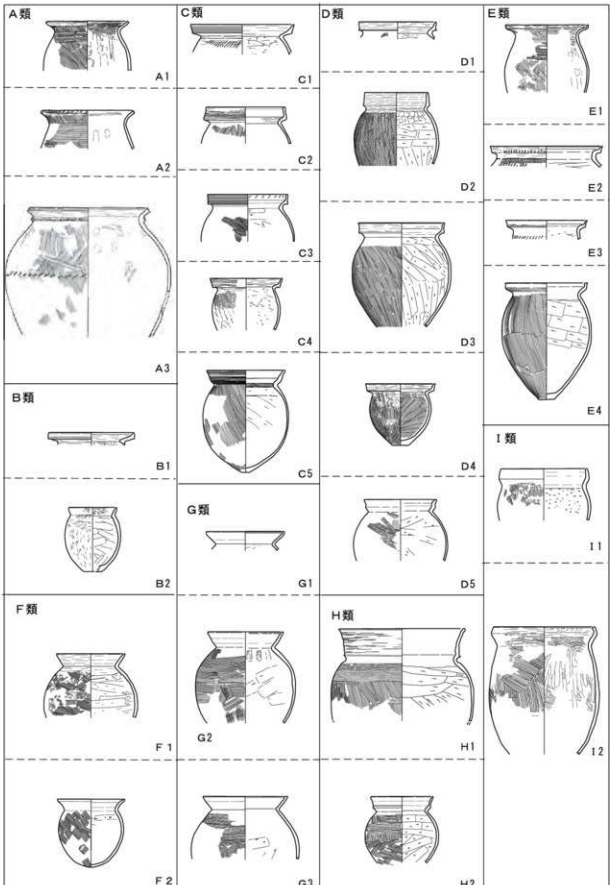
Ｑ類　口縁端部を上下に拡張し、下膨れの胴部を持つ東海地方に系譜をもつ加飾されたもの。

Ｒ類　小型丸底のもの。

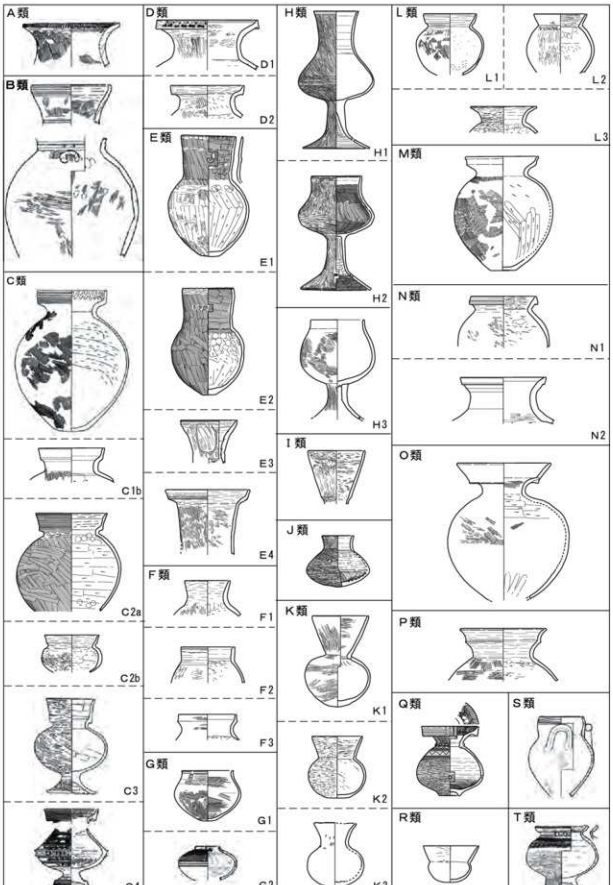
Ｓ類　把手がつくものをまとめる。

Ｔ類　口縁は粘土帯を貼り付けた形状を呈す、台形状の台部をもつ小型の加飾された壺。

高坏形土器（第139図）



第137図 甕形土器分類図（縮尺 1/8）



第138図　壷形土器分類図（縮尺 1/8）

Ａ類　坏部が有段口縁を呈する鉢状のもの。

Ａ１類　幅広の受部から口縁端部が上下に拡張し、断面Ｔ字状となるもの。端面はミガキ調整される。

Ａ２類　有段口縁が幅広の面をもち、外傾する。口縁部には擬凹線が施される。

Ａ３類　Ａ２類と同様であるが、口縁帯が無文のもの。

Ａ４類　Ａ２類より口縁帯の幅が広く、口縁帯が受部の1／2近くをしめるもの。外傾、外反傾向が強くなる。

Ａ５類　有段口縁を呈するものの、段が不明瞭なもの。

Ａ６類　器高に対し、坏部が深く、脚をもつもの。台付鉢とも受け取れるもの。

Ｂ類　口縁と坏底部の境に稜をもち、口縁が外反、外傾するもの。

Ｂ１類　口縁端部を丸くおさめるもの。脚部は円錐形を呈し、裾部は弱く外反する。

Ｂ２類　口縁端部がやや外傾し先細りするもの。口縁下端はやや突出する。

Ｂ３類　口縁端部が面取りされるまたは平坦面をもつもの。口縁端面をわずかにつまみあげ、下端を垂下させるもの、立ち上がりの稜の弱い小型を呈するものがある。脚部は棒状脚で有段のもの、無段のものがある。

Ｂ４類　坏部はやや深めで口縁は短く立ち上がる。

Ｂ５類　口縁端部が肥厚するもの。肥厚した端部断面には、方形を呈するもの、三角形を呈するものがある。

Ｃ類　坏部が浅い皿状を呈するもの。脚部は「ハ」の字状、裾が大きく広がるものがある。大型のものと小型のものがある。

Ｄ類　平坦な坏底部外面から口縁が内湾して開く。いわゆる東海系地方に系譜をもつもの。

Ｄ１類　口縁が大きく開く。外反、内湾する脚がつく。

Ｄ２類　口縁が内湾する。口径15cm前後以下のものが主体となる。外反、内湾する脚がつく。

Ｅ類　口径15cm以下の小型のものをまとめる。脚部の形状は不明である。出土点数は少ない。

Ｅ１類　外傾する口縁下端をわずかに垂下させる。下端に刻みを施すもの、内外面にミガキを施すものがある。

Ｅ２類　外傾した口縁端部をわずかに屈曲させる。スタンプ文、刺突文、赤彩を施すものがある。

Ｆ類　畿内布留式の系譜をもつもの。

Ｇ類　底部から直立、内傾ぎみに口縁が立ち上がるもの。

Ｈ類　坏部は深く、口縁が直線的に開くもの。

Ｉ類　その他のものである。口縁端部は緩やかに立ち上がる。直線文、波状文が施され、透孔を有す。

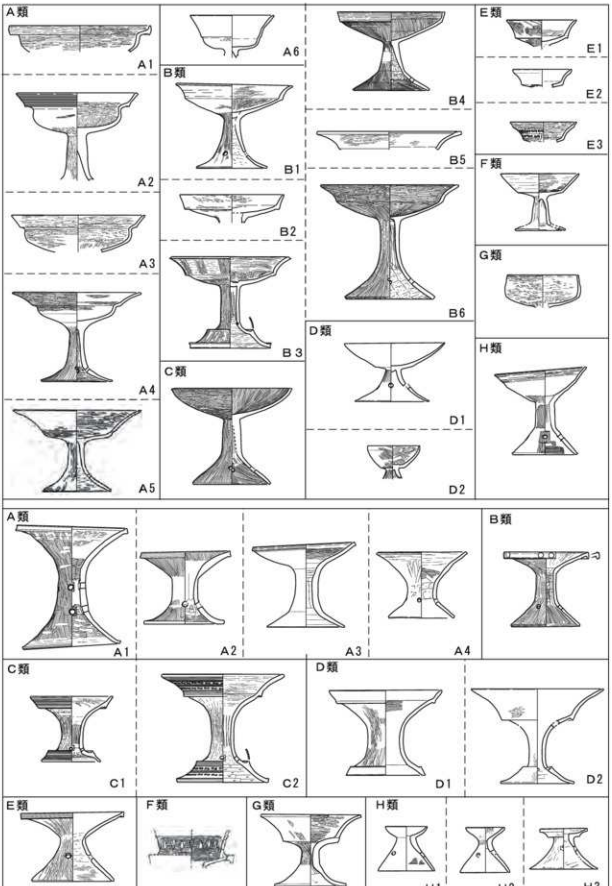
器台形土器（第139図）

Ａ類　口縁端部をヨコナデ調整するもの。受部が弧を描くように外傾、外反して大きく開き、受部、脚部の境が不明瞭なもの。

Ａ１類　大型で、器高は25cm以上となる。筒状の脚部に２段の透孔を有す。端部を面取りし、ナデによってわずかに上下に拡張する。

Ａ２類　受け部は外傾、外反し、口縁端部はナデ調整により面を有し、わずかに上下に拡張する。面が直立するもの、内傾するものがある。裾端部も受部と同様に面をもつものもある。

Ａ３類　受け部が内湾するもの。筒状の脚部と受け部の境がやや明瞭となる。口縁端部はナデ調整



第139図　高坏・器台形土器分類図（縮尺1/8）

により面を有す。

Ａ４類　口縁端部をナデ調整したもので、端部に面を有しないもの。

Ｂ類　口縁端部に面を有し、端部を上方、または下方に拡張させるもの。上下に拡張させ、断面がＴ字状となるものもある。口縁には擬凹線を施すもの、無文のもの、円形浮文で加飾するものがある。

Ｃ類　受け部は大きく外反し、擬凹線を施す有段口縁となるもの。脚裾部も擬凹線を施す有段となる。

Ｃ１類　有段部は幅広の面をもち、直立ぎみ、または外傾する。

Ｃ２類　Ｃ１類より口縁帯の幅が広く、口縁帯が受部の1／2近くから以上をしめるもの。外傾、外反度が強くなる。口縁帯には擬凹線文以外に、直線文、スタンプ文等で加飾する。

Ｄ類　Ｃ類と同様、有段となるが、無文のもの。

Ｄ１類　器形はＣ１類と同様である。有段部にはナデ調整が施される。

Ｄ２類　Ｄ１類より口縁帯の幅が広く、口縁帯が受部の1／2近くから以上をしめるもの。外傾、外反度が強くなる。有段部にはミガキ調整されるものが多い。

Ｅ類　大きく開く受部から、「ハ」の字状の脚部が付く。口縁端部を上下に拡張させるもの。拡張幅が狭いものと広いものがある。近江地方に系譜をもつと考えられるもの。

Ｆ類　北陸地方の弥生時代終末から古墳時代初頭にかけてみられる装飾器台をまとめる。丁寧なミガキを施されるものが多い。水滴形の透孔など、器種を特定できる破片を含めても出土点数は少ない。

Ｇ類　受部内面底に平坦面をもつ。口縁は大きく外反し、底面との境に稜をもつ。外反する脚がつく。内外面ともミガキが施される。

Ｈ類　小型器台をまとめる。

Ｈ１類　受部が内湾するもの。端部を面取りするものもある。

Ｈ２類　受部が外傾するもの。

Ｈ３類　受部に稜をもつもの。

鉢形土器（第140図）

Ａ類　有段口縁を呈するもの。口縁部には擬凹線がほどこされる。体部は半球状の浅いもの、甕状の深いものがある。

Ａ１類　屈曲した頸部から、口縁端部を上下に拡張し断面はＴ字状となる幅狭の口縁帯をもつもの。

Ａ２類　幅広の受部をもつもの、および内面の段が明瞭なもの。口縁帯の幅が狭いもの、幅が広いものがある。

Ａ３類　段部は不明瞭で、屈曲部からやや外傾するもの。

Ａ４類　大型で、内面に段を有しない有段口縁風を呈するもの。

Ｂ類　有段口縁を呈するもの。口縁部はナデ、ミガキ調整される。体部は半球状の浅いもの、甕状の深いものがある。

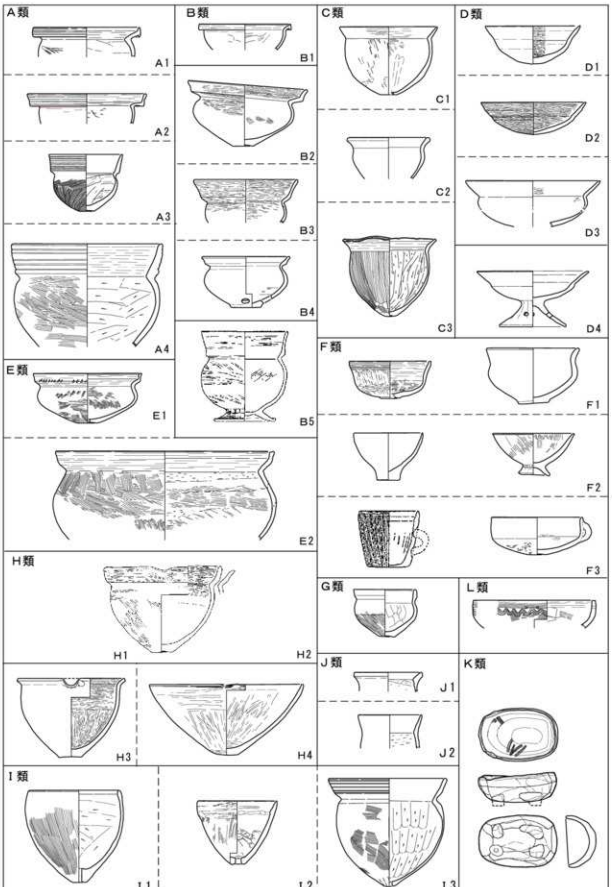
Ｂ１類　屈曲した頸部から、口縁端部を上下に拡張し断面はＴ字状となる幅狭の口縁帯をもつもの。

Ｂ２類　幅広の受部をもつもの、および内面の段が明瞭なもの。口縁帯の幅が狭いもの、幅が広いものがある。

Ｂ３類　段部は不明瞭で、屈曲部から外傾するもの。口縁の幅が広いもの体部が半球状のもの。

Ｂ４類　段部は不明瞭で、屈曲部から外傾するもの。口縁帯の幅が狭く、胴が張るもの。

Ｂ５類　口径と胴部最大径が同程度で低平な脚部がつく台付鉢。口縁は直立気味で球形胴部となる。



第140図　鉢形土器分類図（縮尺1/6）

Ｃ類　口縁が「く」の字状を呈するもの。深めのもの、浅めのものがある。

Ｃ１類　口縁端部を先細りさせるもの。

Ｃ２類　口縁部を丸くおさめるもの。

Ｃ３類　口縁端部を面取りするもの。

Ｄ類　丸底、または小さな底部から口が大きく開く、口径が器高を大きく上回る器高の低いもの。

Ｄ１類　口縁、頸部、体部の境が不明瞭なもの。有段口縁が弛緩したとみられるものを含む。

Ｄ２類　口縁が「く」の字状に屈曲するもの。

Ｄ３類　「ハ」の字状に広がる低い脚台が付くもの。

Ｅ類　口縁が受口状を呈するもの。近江地方に系譜をもつものを含む。

Ｅ１類　口縁外面下端に刺突列点文、体部上半に櫛描き直線文、刺突列点文を有する、いわゆる近江系の受口口縁のもの。口縁端部を面取りするもの、丸くおさめるものがある。

Ｅ２類　系統は不明だが、口縁が受口状を呈する大型のもの。口縁端部を面取りするもの、丸くおさめるもの、先細りさせるものがある。

Ｆ類　体部が外傾、内湾ぎみに立ち上がるもの。形態には多様なものを含む。主に小型土器で、口径・器高が10cm以下のものが多い。口径15cm前後のものまでを含む。

Ｆ1類　脚がつかないもの。丸底、平底、台状となるものがある。

Ｆ2類　脚がつくもの。

Ｆ3類　把手がつくもの。

Ｇ類　頸部を強くヨコナデ調整し、「く」の字、または有段状にくびれるもの。口径10cm前後以下の小型のものが多い。

Ｈ類　片口を有するもの。浅めのものと深めのものがある。内面に赤色顔料が残るものがある。

Ｈ１類　口縁が有段状を呈する。

Ｈ２類　口縁が「く」の字状を呈する。

Ｈ３類　体部が内湾ぎみとなる。

Ｉ類　有孔鉢。底部に焼成前穿孔されたもの。外面ハケ調整、内面ケズリ調整を施し、口縁内外面をヨコナデするものが多いが、そうでないものも多くみられ、多様である。底部が尖底状となるものを（ａ）、平底状となるものを（ｂ）とする。

Ｉ１類　緩やかに開く体部から口縁が内傾ぎみ、直立ぎみまたは端部が外傾するもの。

Ｉ２類　体部から口縁が直線的に開くもの。

Ｉ３類　有段状の口縁をもつもの。擬凹線を施すもの、無文のものがある。

Ｊ類　口縁はナデ、体部は口縁下までケズリを施す。緩やかに外方へ開く口縁をもつもの。

Ｊ１類　口縁が厚手のもの。

Ｊ２類　口縁が先細りのもの。

Ｋ類　平面形が楕円形を呈す。粘土貼付けの脚が4箇所につく。

Ｌ類　上記Ａ～Ｋ類に属さないもの。

手焙形土器（第141図）

Ａ類　口縁端部に刻みを施し、体部にも刻みを有す突帯を貼付けるなど装飾的なもの。

Ｂ類　口縁と覆い部の屈曲が弱く、飾られないもの。

脚部（第141図）脚部を有するものには高坏、器台をはじめ、甕、壺、鉢などにも例がある。上部の形状とは別に破片として確認した脚部のみの分類を行う。

Ａ類　筒状の脚柱部から裾部が屈曲して広がるものをまとめる。

Ｂ類　脚柱部から裾部が大きく開く無段のもの。

Ｂ１類　脚裾端部を丸くまたは面取りするもの。

Ｂ２類　脚裾端部をはね上げるもの。

Ｃ類　有段の脚裾部をもつもの。有段部には直線文、スタンプ文、刻み文などで加飾するものが多い。脚柱状部と段部の境に透孔を有す。

Ｃ１類　脚裾端部を丸くまたは面取りするもの。

Ｃ２類　脚裾端部をはね上げるもの。はね上げた端部に刻みを施すものもある。

Ｃ３類　脚裾端部を肥厚させるもの。

Ｃ４類　裾端部をナデ、面を形成するもの。台形状の段上部に直線文を施し、棒状部との傾斜面にスタンプ文で加飾する。

Ｄ類　円錐状を呈するものをまとめる。

Ｄ１類　外反して広がるもの。主に高坏のＤ類、器台のＨ類につくと考えられる。

Ｄ２類　内湾ぎみに広がるもの。主に高坏のＤ類、器台のＨ類につくと考えられる。

Ｅ類　裾部が大きく広がり、幅の狭い有段部をもつ。器台Ｃ類・Ｄ類の裾部となるもの。

Ｅ１類　有段部に擬凹線を施すもの。

Ｅ２類　有段部が無文のもの。

Ｆ類　裾端部を肥厚させ面となすもの。

Ｇ類　低平な有段脚をまとめる。

Ｇ１類　有段で、段部に擬凹線をもつもの。

Ｇ２類　有段で無文のもの。

Ｈ類　低平な無段のものをまとめる。

Ｈ１類　外反して裾が広がるもの。

Ｈ２類　直線的にのびるもの。

Ｈ３類　内湾および端部が内湾ぎみとなるもの。外面はミガキが施されるものもある。

Ｉ類　つまみだしたような形状のもの。指頭痕が観察される。

蓋形土器（第141図）

Ａ類　つまみの頂部が平坦、またはわずかにくぼむもの。

Ａ１類　口縁部が外反してのびるもの。

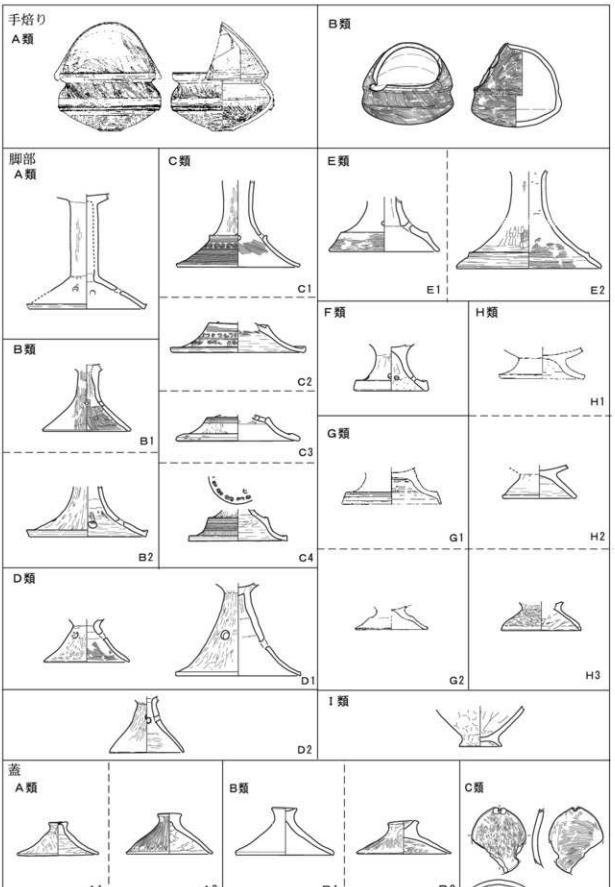
Ａ２類　口縁部が内湾または直線的にのびるもの。

Ｂ類　つまみの頂部がくぼむもの。通気孔を有すものがある。分類はＡ類に準ずる。

Ｃ類　つまみを有しないもの。

手捏ね土器

手捏ね成形によるものには、個々の器形ごとに多種多様であるため、細分は行わない。甕・壺・鉢・高坏・器台・蓋など通常の土器を模したものといえるが、傾向として鉢を模したものが多い。



第141図　手焙形土器・脚部・蓋分類図（縮尺 1/6）

２　東地区出土土器

東地区からは、住居址の床面、土坑からまとまった量の土器が出土している。主体となる時期は弥生時代後期後半から終末期にかけてであるが、少なからず古墳時代初頭から前期の土器も存在する。また包含層中において土器が集中している箇所があり、これらは平面では確認できなかったものの遺構に伴うものと判断される。層での分離は難しく、本来上層に属すると考えられるものが下層に含まれる場合もあり、弥生時代後期後半から古墳時代前期まで連綿として集落が営まれたことが、出土した土器からうかがえる。

主な遺構出土の遺物について取り上げる。その他の遺物については観察表をもってこれに代える。

（１）住居出土土器

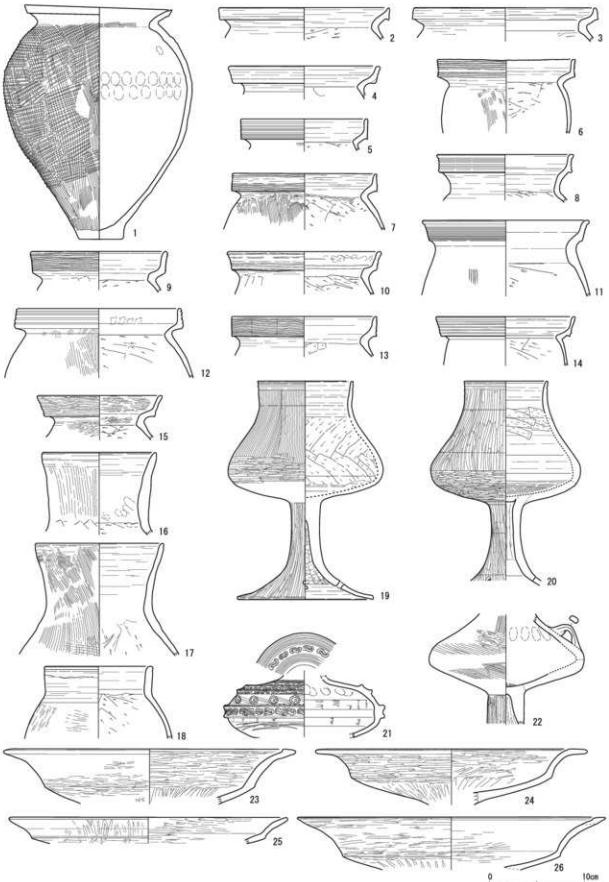
SI01出土土器（第142～144）

当住居に伴うと考えられる、床面またはわずかに浮いた状態で出土したものには１・６・10・12～14・16・20・22～24・27・31・33・34・36～38・40・42・44・48・50がある。２はＰ11から、41は周溝から、39・43は貼床下から出土している。また当住居の中央土坑（5041）からは多量の土器がまとまって出土している。（第144図）他は覆土層中からである。

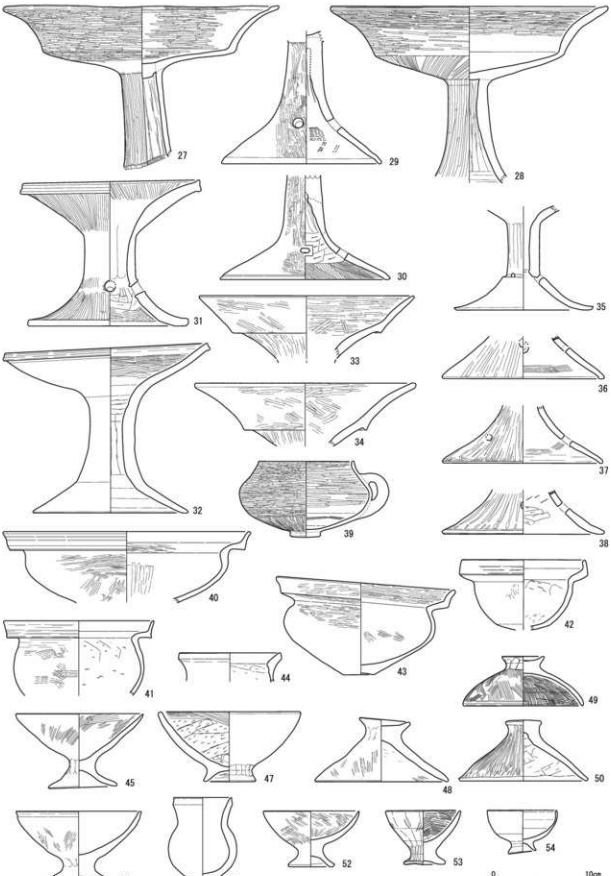
甕には有段口縁を呈するＣ類が多くあり、少数ながら、口縁端部に幅狭の面をもつＢ２類（１～３）が伴う。Ｂ類とした１はタタキ調整の後ナナメハケを施す。胴部最大径から底部にかけ直線的にすぼまる。煮炊きに使用されており、外面は被熱によって赤化、内面下半にはコゲ痕がある。この土器の破片はＣ３区からも少なからず出土している。２・３は口縁の立ち上がりが短い。Ｃ類としたものには、Ｃ２類（12）、Ｃ３類（５～９・13）、Ｃ４類（10・11・14）がある。無文のＤ類は１点（４）ある。有段口縁甕は、総じて内面の段が明瞭なものが多い。頸部内面が「く」の字に屈曲するもの（４～7・12・14・）、面をもつもの（９・10・13・15）、やや伸びたもの（８・11）がある。壺にはＣ類（15）、長頸となるＥ類（16・17）、短頸となるＦ類（18）、脚部を持つＨ類（19・20）、Ｉ類の体部となるもの（21・22）がある。19・20は口縁端部を内外から挟んでヨコナデした際の凹線を２条確認できる。22とともに胴部最大径付近にヨコミガキを、他はタテミガキを施す。21は肩部と胴部最大径の部分の２ヶ所に中央が窪んだ突帯を貼付けている。突帯の突出部には細かな刻みが施されるが、２本目の下段には施文されない。頸部下から櫛状工具による直線文、Ｓ字スタンプ文、直線文、２本の突帯の窪みにＳ字スタンプ文を施文し、突帯間には同心円文を2～3条のミガキ調整の擦痕で斜めに結び、連続渦文状としている。高坏にはＢ１類（23）、Ｂ５類（24～28）がある。24は端部のみ大きく外反させる。器台には口縁端部に面を有すＡ類（29・30）、口縁が拡張し外傾・外反するＤ類（31・32）がある。29・30の口縁端部は整形時のナデにより凹線状となる。31は32に比べ外反が強くなく、口縁部も短い。脚部には無段のＢ１類（33・34・36～38）が主体となる。鉢には有段口縁のＡ２類（40～42）、無文のＢ２類（43）、台付のＦ2類（45～47）、Ｆ3類（39）、Ｊ類（44）がある。40～43は口縁の段は明瞭で広めの面をもつ。43の外面は底部から胴部下半まで被熱痕があり器表面は荒れている。蓋にはＡ２類（50）、Ｂ１類（48）、Ｂ２類（47・49）がある。44は鉢でＪ類としたもの、51は壺形の小型土器、52～54は鉢形の小型土器である。

SI01中央土坑（SK5041）出土土器（第144図）

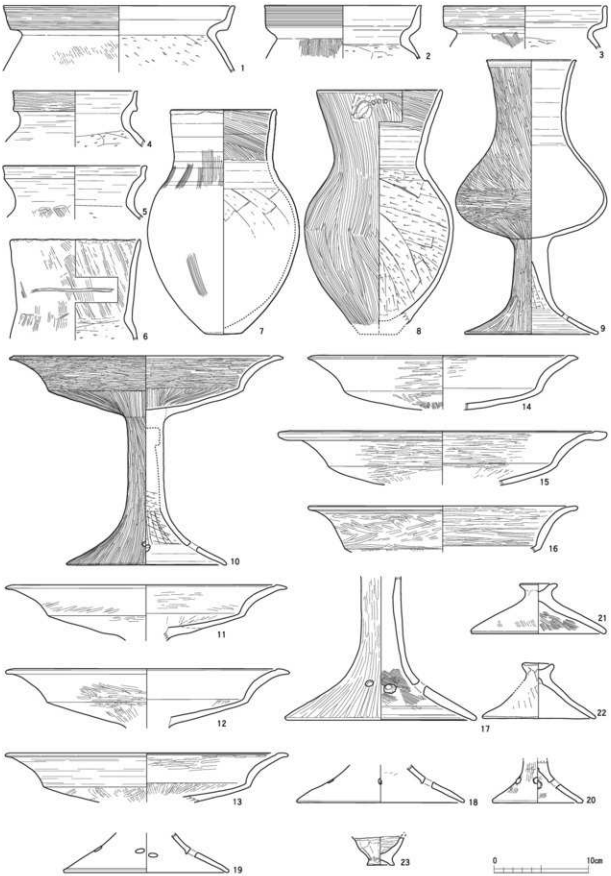
甕にはＣ類（１～３）がある。壺にはＣ類（４）、Ｅ類（６～８）、Ｆ類（５）、Ｈ類（９）がある。５は口縁を有段状とするＦ３類。６は頸部にヘラ描き文がある。７には籠目が残存する。８は口縁外面下に粘土塊を貼付け上方に盛り上げている。その横には竹管文を３点施文する。９は精製品である。高



第142図　SI01出土土器実測図１（縮尺1/4）



第143図　SI01出土土器実測図2（縮尺1/4）



第144図　SI01 中央土坑出土土器実測図（縮尺 1/4）

坏は出土量が多い。Ｂ５類（10～15）を主とし、Ｂ１類（16）が含まれる。10は棒状の脚部を有す大型のものであるが、他も同様な器高を呈すと考えられる。13は口縁外面をヨコナデ調整する。17～20は脚部でＢ１類にまとまる。21・22は蓋、23は手捏ね土器である。これらの土器は弥生時代後期後半、法仏Ⅱ式に位置付けられる。

SI02出土土器（第145図１・２）

２点を図示できたのみである。１は周溝内から、２はP２から出土した。

甕には有段口縁のＣ3類（１）がある。頸部内面にヘラ描きが３条ある。２は無段の脚裾部Ｂ1類である。これらの土器は弥生時代後期後半、法仏Ⅱ式に位置付けられる。

SI03出土土器（第145図５～25）

当住居に伴うと考えられる、床面またはわずかに浮いた状態で出土したものには８・10・13・14・21がある。15はP14から、11は周溝から出土している。他は覆土層中からである。

甕にはＣ３類があり（５）、端部が先細りする。壺にはＣ1a類（６）、Ｄ類（７）、Ｇ類（19～22）がある。高坏には、Ａ4類（10）、Ｂ5類（８・９）がある。８は９より口縁部が伸長し、やや小型化している。10の口縁も伸長しつつ、屈曲部が弱いものである。10は内面に赤彩痕がある。８・10は新しい様相を示す。器台にはＣ２類(12)、Ｄ２類(11)がある。12は連続渦文を２段施文する。鉢にはＢ２類(17)、Ｄ３類（16）、Ｆ１類（19）、Ｆ３類（20～22）がある。がある。脚部には有段のＣ1類（14･15）がある。14は４条の櫛描き直線文２段と半円の同心円文２段を交互に施す。脚部には他に13・18がある。23～25は手捏ね土器である。これらの土器は弥生時代後期後半から弥生時代終末期、法仏式から月影式期に位置付けられる。

SI05出土土器（第145図３・４）

２点を図示できたのみである。当住居に伴うと考えられる、床面から出土したものには３がある。他は覆土層中からである。

甕はＣ4類（３）がある。４は蓋のつまみ部である。これらの土器は弥生時代後期後半、法仏式期に位置付けられる。

SI06出土土器（第146図１～21）

当住居に伴うと考えられる、床面またはわずかに浮いた状態で出土したものには１・５・８～10・13・14がある。３はPit１から出土している。他は覆土層中からである。

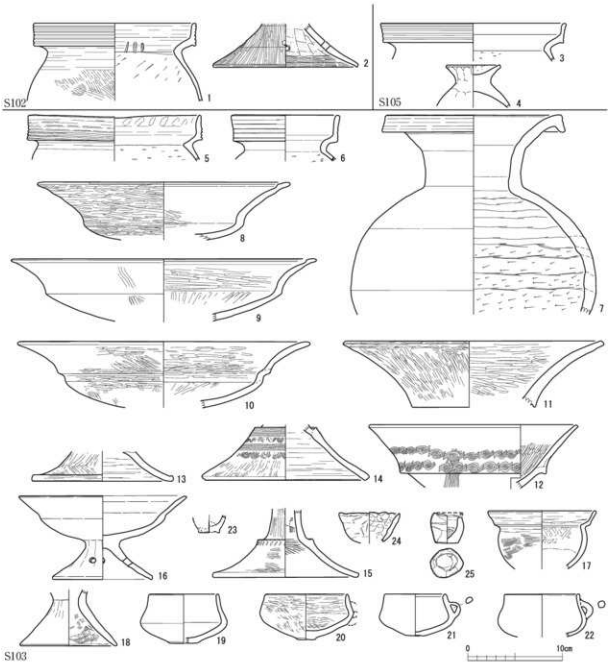
甕にはＣ３類（1～５）、Ｄ４類（６）、Ｂ２類（７）がある。１は外面にはススが付着し、内面胴部下半にはコゲ痕が残る。２は口縁端部が先細りし断面三角形状を呈す。３～５は端部を丸くおさめる。口縁部が無文の６はやや口縁が有段風を呈す。壺にはＥ１類（10）、Ｇ１類（９）がある。高坏にはＢ４類（12）、Ｂ５類（11）がある。11は坏底部の稜が強く、口縁の外傾・外反が弱いといえよう。器台はＣ２類（13）である。鉢にはＦ２類（16・17）、G類（14・15）がある。蓋のＣ類（21）は平面が木の葉形を呈す。紐孔が長軸の一端に残存している。このような蓋に見合う器形の土器は確認していない。14～17は鉢、18～20は蓋である。これらの土器は弥生時代後期後半、法仏Ⅱ式に位置付けられる。

SI07出土土器（第146図22～24）

高坏Ｄ２類（22・23）がある。２点とも貼床中から出土した。24は脚部Ｄ２類である。

これらの土器は古墳時代初頭に位置づけられる。

SI08出土土器（第147図）



第145図　SI02・03・05出土土器実測図（縮尺1/4）

当住居に伴うと考えられる、床面またはわずかに浮いた状態で出土したものには１・２・５～12・15・16・20がある。他は覆土層中からである。

甕はＣ類（３～７）が多い。口縁が直立し内面の段が明瞭なＣ３類が主体を占める。Ｂ２類（２）、Ｅ４類（１）、Ｆ２類（８）が伴う。１は近江地方の影響がうかがわれる。口縁から胴部にはススが、内面底部にはコゲが付着する。４は頸部外面の屈曲が弱い。６には肩部に櫛状工具による刺突文が施される。壺にはＥ類（10・11）、Ｍ類（12）がある。10・11は端部を丸くおさめるＥ２類である。10は球形の胴部から筒状の口頸部がつき、厚手の底部にはススが付着する。高坏にはＡ２類（15）、Ａ４類（13・14）がある。口縁が伸長し、無文の13・14は15より新相を示す。蓋にはＡ２類（19）、Ｂ２類（18）がある。鉢Ｆ１類の20の鉢は内外面赤彩痕がある。この住居址には、甕と壺に近江地方の影響が考えられる受口

を呈するものがある。これらの土器は弥生時代後期後半、法仏Ⅱ式に位置付けられる。

SI09出土土器（第148図21～23）

当住居に伴うと考えられる、床面またはわずかに浮いた状態で出土したものには22・23がある。21は覆土層中からである。

甕にはＣ３類（21）がある。鉢にはＣ３類（22）がある。22は内面をハケ調整したのち、内面の下半のみをケズリ調整することでハケ目を消し、ハケとケズリの境を明瞭にしている。外面にはススが付着する。高坏にはＢ５類（23）がある。これらの土器は弥生時代後期後半、法仏Ⅱ式に位置づけられる。

SI11出土土器（第148図１～20）

当住居に伴うと考えられる、床面またはわずかに浮いた状態で出土したものには１・３・５・７・８・12・13・16・17がある。他は覆土層中からである。

甕にはＣ３類（4～８）、Ｃ４類（10）があり、Ｃ類が主体をなす。Ｂ２類（２）、D2（９）、Ｆ３類（３）も少数ながら確認している。４～８は口縁が直立ぎみで段部は明瞭である。７は口縁端部が先細りする。10の胴部はミガキ調整される。壺にはＥ２類と想定できるもの（12）がある。鉢にはＢ１類（13）、Ｃ１類（10）、Ｈ２類（１）がある。１の内面には赤色顔料痕、外面にはススが付着している。赤色顔料の製造に関連して使用されたことを想起させる。器台にはＣ１類（15）がある。14は蓋、16・17は底部である。18、19は脚部だが、18は混入である。20は土玉である。これらの土器は弥生時代後期後半、法仏Ⅱ式に位置づけられる。

SI12出土土器（第149図１～17）

当住居に伴うと考えられる、床面またはわずかに浮いた状態で出土したものには１・８がある。２～４・６は土坑１から、５・12・14・15は中央土坑から、11は周溝から出土した。他は覆土層中からである。

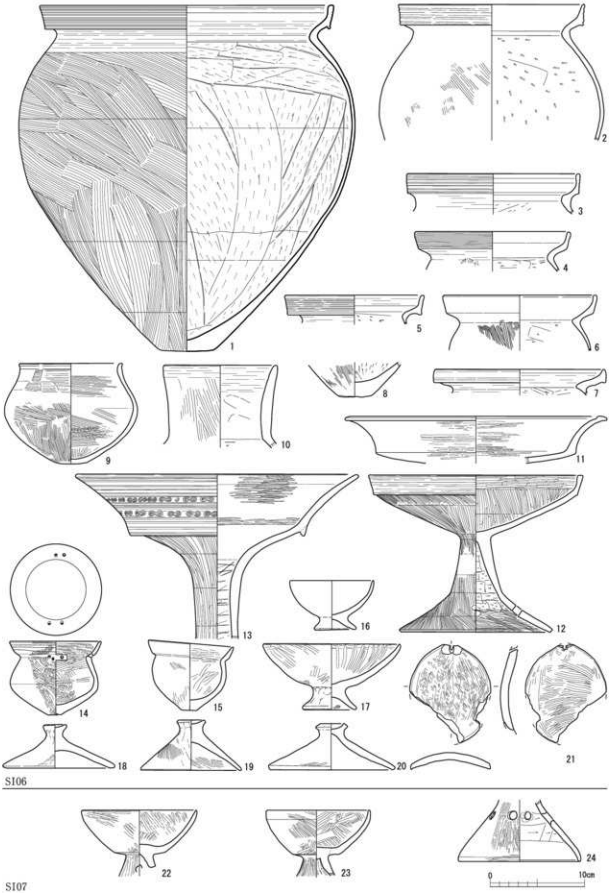
甕には有段口縁となるＣ類（１～５）がある。１は段が不明瞭なＣ1類、２・３・５はＣ3類、４はＣ２類となる。擬凹線を施さないＤ１類（６）も確認している。１は古相を示すと考えられる。壺は長頸壺となるＥ１類（７・８）がある。７の頸部には横方向のヘラ描き文がわずかに残存する。８は口縁端部のみを波状に打ち欠いたことを想起させる。高坏はA2類（９）、B1類（11）、B5類（10）がある。器台にはＣ１類（13）、鉢にはＢ３類（17）、Ｆ１類（16）、Ｉ２b類（14）がある。17には外面は口縁から胴部上半まで、内面は口縁から頸部まで赤彩痕がある。12は無段の脚部、15は有段となる口縁部である。これらの土器は弥生時代後期後半、法仏Ⅱ式に位置付けられる。

SI13出土土器（第150図1～19）

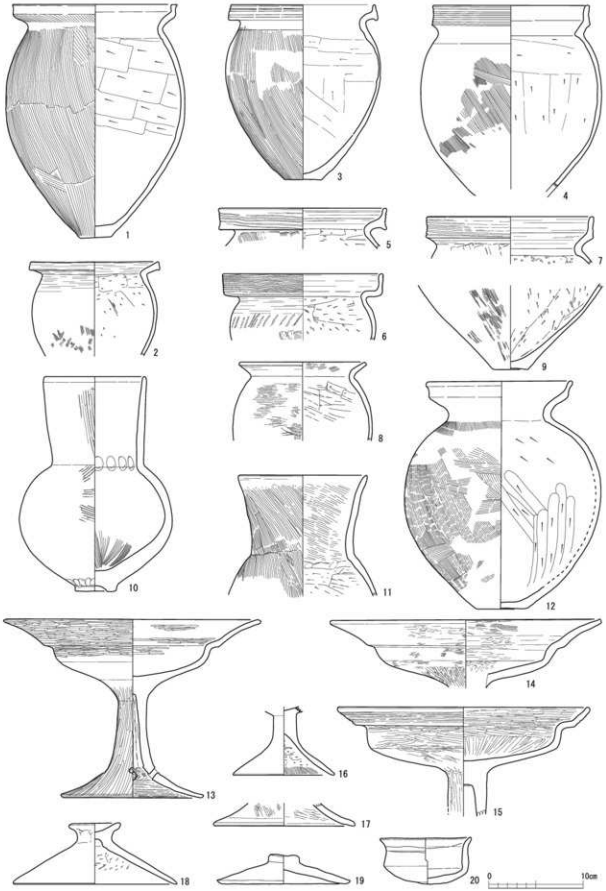
当住居に伴うと考えられる、床面またはわずかに浮いた状態で出土したものには２・４・12・16・19がある。１・３・11～13・15・17は中央土坑から出土した。他は覆土層中からである。

甕は有段口縁を呈するＣ類（１～４・６・７）が主体で、Ｂ２類（８）、Ｄ１類（５）がある。１はＣ２類となり、口縁端部が平坦となる。下端はやや垂下する。壺にはＣ１b類（５）、Ｅ１類（９）の他、D類（11・12）、Q類（10）など断面T字の口縁帯を持つものがある。10は肩部に櫛描き直線文と櫛描き波状文を交互に施す。11は口縁に擬凹線５条を施文した後、竹管文・Ｓ字スタンプで加飾する。高坏にはＢ５類（13）、Ｃ類（14）がある。器台にはＤ２類（17）がある。被熱により器表面は荒れており、受部内面は剥落・赤化し、ススが付着する。鉢にはＡ２類（18）、Ｃ３類（19）がある。19は使用による被熱の他、器表面は剥落している。これらの土器は弥生時代後期後半、法仏Ⅱ式に位置づけられる。

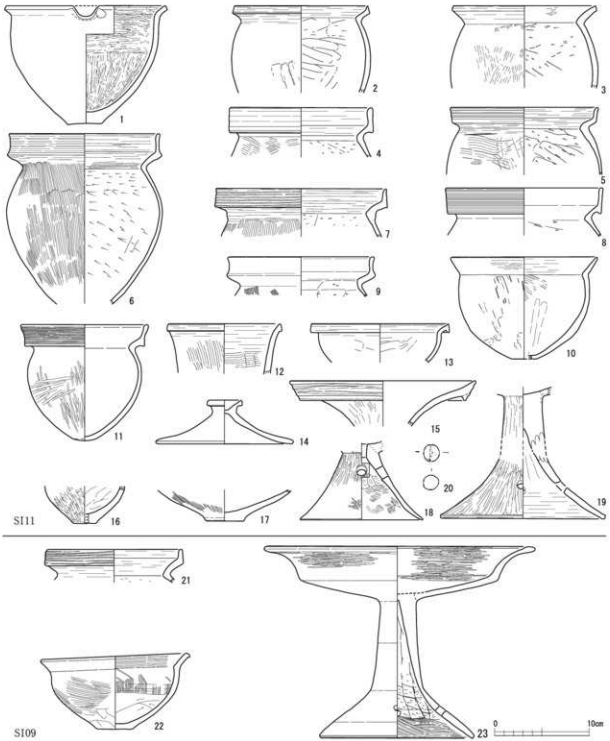
SI14出土土器（第150図20）



第146図 SI06・07出土土器実測図（縮尺1/4）



第147図　SI08出土土器実測図（縮尺1/4）



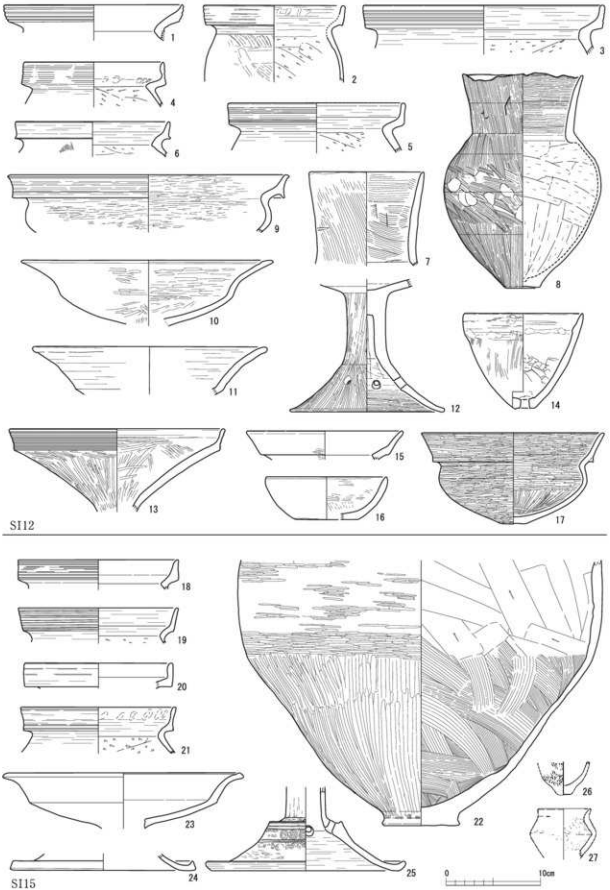
第148図　SI09・11出土土器実測図（縮尺1/4）

包含層から出土した１点のみである。

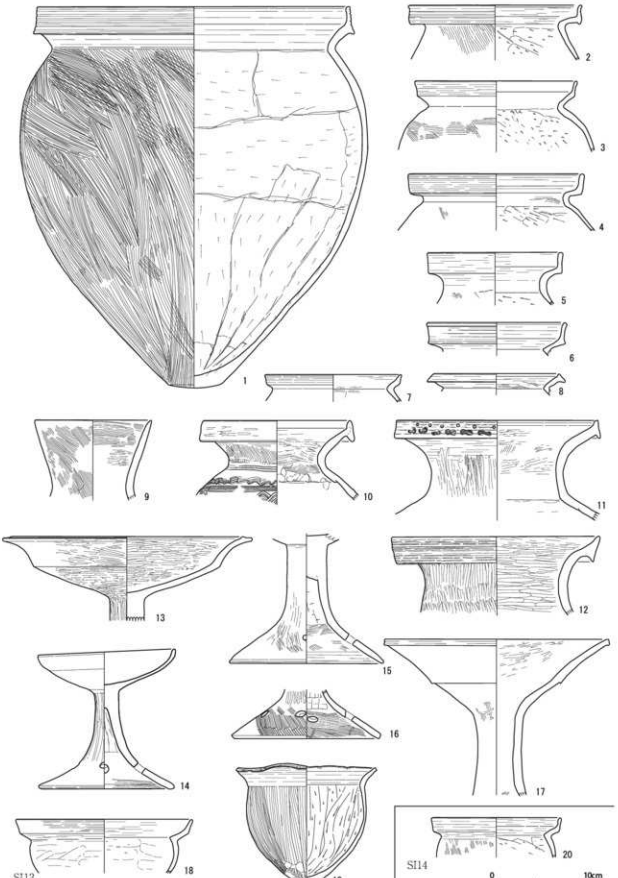
甕は有段口縁を呈すＤ３類（20）である。内面の稜は強い。弥生時代後期後半に位置づけられよう。

SI15出土土器（第149図18～27）

当住居に伴うと考えられる、床面またはわずかに浮いた状態で出土したものには18・20・23～25がある。他は覆土層中からである。



第149図　SI12・15出土土器実測図（縮尺1/4）



第150図　SI13・14出土土器実測図（縮尺1/4）

甕にはＣ類（18～21）がある。18・20・21は口縁が直立するＣ３類、19はＣ４類となる。厚手のもの（18・20）、薄手のもの（19・21）がある。高坏はＢ５類（23）がある。高坏の脚部となるものには有段のＣ２類（８）がある。沈線、スタンプ文で加飾する。22は壺の胴部で外面はミガキ調整される。26・27は手捏ね土器である。これらの土器は弥生時代後期後半、法仏式期に位置づけられる。

SI19出土土器（第151図）

当住居に伴うと考えられる、床面またはわずかに浮いた状態で出土したものには18・20・23～25がある。また、１は中央土坑から、５はＰ２から出土している。

甕には有段口縁で擬凹線を伴うＣ類（１～６）、無文のＤ類（７）がある。Ｃ類にはＣ3類（１・２・４・５）とＣ４類（３）がある。総じて器壁は薄手で端部を丸くおさめる。６と底面が有孔の７は同一個体と判断される。壺には有段口縁のＣ1b類（８）、長頸となるＥ類（９・10）、脚が付くＨ類と考えられるもの（11）がある。８は内外が赤彩される。９は口縁が直立し、肩部にＵ字形に粘土を貼り付ける。広口の10にはＵ形のヘラ描きがある。鉢は有段口縁のＡ・Ｂ類が主体となる（13～17）。口縁の幅が狭いもの（13・16）、幅が広いもの（14・15・17）がある。狭いものは直立し、広いものは外傾する傾向がある。総じて内面の段部は不明瞭である。鉢には他にＦ１類（21）、Ｆ２類（12）、Ｋ類（22）がある。22は四脚付鉢で、丸みを帯びた底部には、脚となる粘土塊が貼り付けられていたことがうかがわれる。平面形は楕円形、内面は丸底を呈す。外面はケズリの後ナデ調整を、内面はナデ調整を施す。高坏はＡ5類（18）がある。有段部が弛緩し器形全体が丸みを帯びる。器台には有段となる（19）がある。その他、蓋（20）、有段の脚部（23）、手捏ね土器（24・25）がある。これらの土器は弥生時代後期後半、法仏Ⅱ式に位置づけられる。

SI20出土土器（第152図１～21）

当住居に伴うと考えられる、床面またはわずかに浮いた状態で出土したものには５～７・９・13・15・17・18・20・21がある。10・14は中央土坑から出土した。なお、３・４・11は他の遺構の混入である。他は覆土層中からである。

甕には有段口縁のＣ類（１・６・７）、無文のＤ4類（２）、およびＦ1c類（５）がある。１・４はＣ5類、６は口縁が外傾するＣ4類となる。６・７は頸部が厚い。壺には小型のＣ2ｂ類（８）がある。２個１組の紐孔が対の位置にある。高坏には、Ａ３類（12）、Ｂ１類（９）、Ｂ５類（13）、Ｃ類（10）がある。12の内面には全体に被熱痕がある。器台の脚部には有段となる15、鉢にはＦ類（16～18･20）、Ｇ類（19）がある。蓋はＢ１類（21）である。これらの土器は弥生時代後期後半、法仏Ⅱ式に比定できよう。また１および混入している土器（３・４・11）は古墳時代初頭のものである。

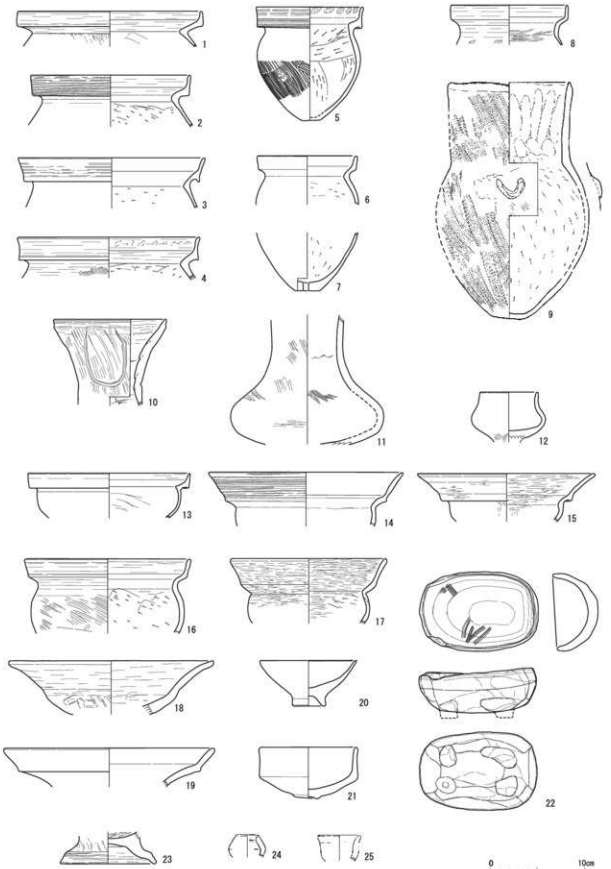
SI21出土土器（第152図22～31）

当住居に伴うと考えられる、床面またはわずかに浮いた状態で出土したものには24・25・27・30がある。22、28は周溝から出土している。他は覆土層中からである。

甕には有段口縁となるＣ5類（22・23）、Ｆ3類（25）がある。23の頸部内面にはハケ調整を残す。壺にはＬ３類（24）がある。高坏にはＤ１類（26）がある。鉢には有段口縁のＡ２類（28）、小型のＧ類（27）、有孔鉢Ｉ２類（31）がある。これらの土器は古墳時代初頭に位置付けられる。28の有段口縁の鉢は弥生時代後期後半のもので混入したものと判断する。

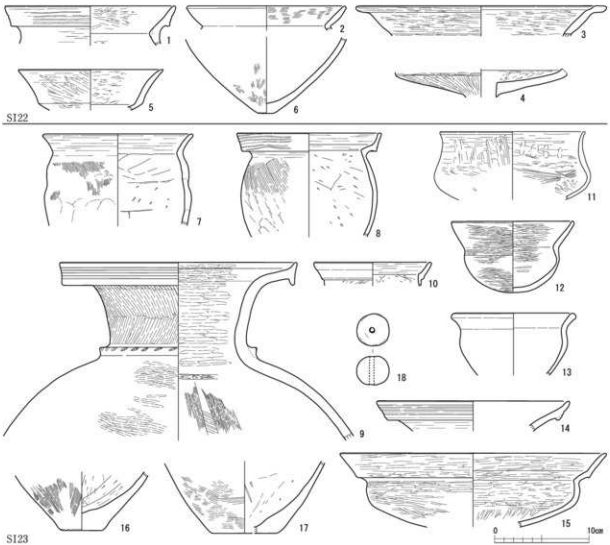
SI22出土土器（第153図１～６）

当住居に伴うと考えられる、床面またはわずかに浮いた状態で出土したものには２・４～６がある。



第151図 SI19出土土器実測図（縮尺1/4）

第152図　S120・21出土土器実測図（縮尺1/4）



第153図　SI22・23出土土器実測図（縮尺1/4）

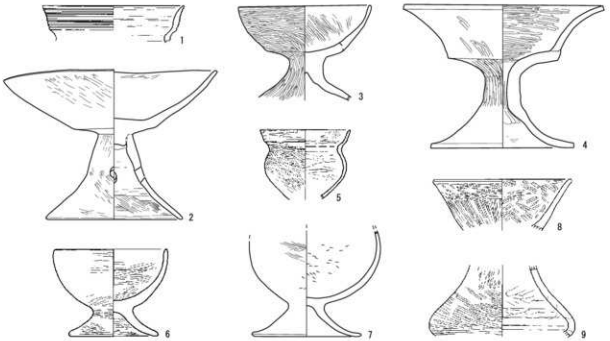
１はＰ８から出土している

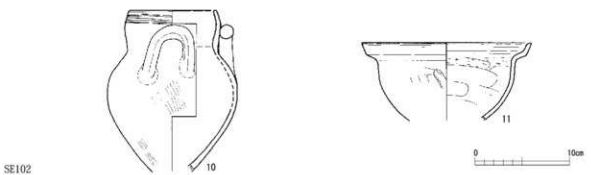
甕には有段口縁のＣ１類（１）、「く」の字口縁のＦ2c類（２）がある。１の口縁内面はミガキ調整される。高坏には床面から出土した４と同一個体と考えられる３があり、Ｂ５類となろう。端部の肥厚部分は水平方向に折り曲げられ断面は方形となる。小型高坏Ｅ類（５）となるものもある。また６の底面は径1.7cmと小さいものである。これらの土器は弥生時代終末期、月影式期に位置づけられる。

SI23出土土器（第153図７～18）

当住居に伴うと考えられる、床面またはわずかに浮いた状態で出土したものには８・９・13・14・16・17がある。またP14からは15が出土している。他は覆土層中からである。

甕には有段口縁のＣ4類（８）がある。８は頸部内面の稜は明瞭で、外面全体にススが付着している。壺には広口で筒状の頸部となるＤ類（９）がある。頸部と胴部の境にハケ状工具で刻みを施した突帯を有する。頸部のミガキ調整は、上半と下半で調整方向を変えており、装飾効果を高めている。鉢には「く」の字を呈すＣ２類（13）Ｆ１類（11）、Ｊ１類（10）がある。器台には有段口縁を呈すＣ１類（14）、高坏にはＡ３類（15）がある。16・17は底部片である。これらの土器は弥生時代後期後半、法仏Ⅱ式に位置づけられる。また、混在したものには「く」の字口縁を呈する７の甕、小型丸底を呈する鉢形の12があ





第 154 図　SE101・102 出土土器実測図

るが、これらは古墳時代初頭と考えられる。

（２）井戸出土土器

SE101出土土器（第154図１～９）

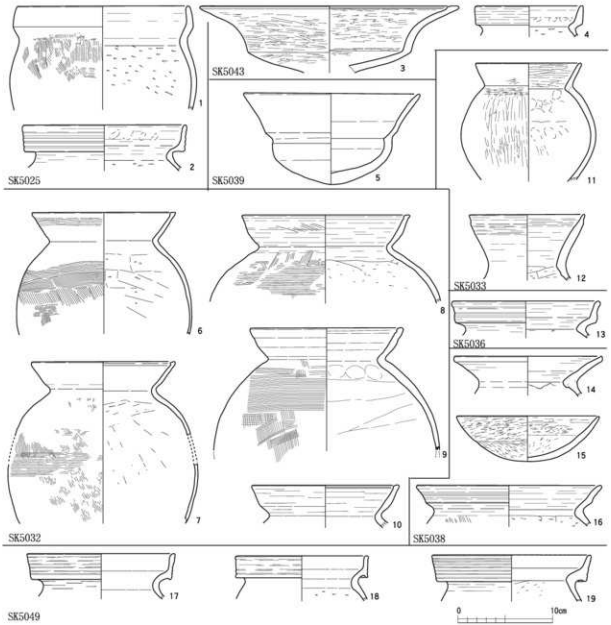
甕にはＣ５類（１）がある。端部は先細りとなる。高坏にはＤ１類（２）、小型のＤ２類（３）がある。器台にはＧ類（４）があり、脚部に透孔を有しないものである。５・６・８は鉢、９は脚が付く壺のＨ類と考えられる。７は球形の胴部に脚が付く。甕は在地の有段口縁が残り、高坏、器台には東海地方の影響がみられる。これらの土器は古墳時代初頭～古墳時代前期前半、月影Ⅱ式～白江式期に位置付けられる。

SE102出土土器（第154図10・11）

壺には把手が付くＳ類（10）がある。口縁には蛇行した擬凹線文３条を施す。把手は断面円形の逆Ｕ字を呈し、器体に接して付けられている。鉢には無文の有段口縁を呈すＢ2類（11）がある。これらの土器は弥生時代後期後半～終末期、法仏式期から月影式期に位置付けられる。

（３）土坑出土土器

主にまとまった量の遺物が出土した遺構のものを取り上げる。



第155図　東地区土坑出土土器実測図１（縮尺 1/4）

SK5025･5026出土土器（第155図１・２）

甕には口縁が内傾するＪ類（１）、有段口縁を呈すＣ3類（２）がある。これらの土器は弥生時代後期後半から終末期に位置づけられる。

SK5032出土土器（第155図６～10）

甕はＧ類で占められる。６の口縁外面にはヨコハケ調整が残り、口縁の端面は凹線条にくぼむ。８は肩部がやや張る。６・９の胴部にはススが付着する。これらの土器は古墳時代前期に位置づけられる。

SK5033出土土器（第155図11・12）

壺が２点ある。11は「く」の字を呈すＬ2類となる。頸部はヨコ方向、体部はタテ方向のミガキ調整が施される。12はＫ2類で、口縁は外傾し広口となる。。これらの土器は古墳時代前期に位置づけられる。

SK5036出土土器（第155図13）

甕が1点ある。有段口縁のＣ4類となる。弥生時代後期後半に位置付けられる。

SK5038出土土器（第155図14～16）

甕はＣ５類（16）となる。擬凹線を施す在地のものだが、断面形は「く」の字に近い。壺にはＬ２類(14)がある。鉢にはＤ１類(15)がある。15の体部中ほどには強いミガキ調整で不明瞭な沈線をつくり、有段口縁の意識を留めている。これらの土器は古墳時代初頭に位置づけられる。

SK5039出土土器（第155図５）

鉢が1点ある。B3類となる。弥生時代終末期に位置付けられる。

SK5042出土土器（第156図１・２）

壺にはＥ３類（１）がある。内面にヘラ描き文がある。甕はＣ３類（２）である。弥生時代後期後半に位置付けられる。

SK5043出土土器（第155図３・４）

甕はD３類（４）がある。高坏にはＢ５類がある。口縁は伸長し、中ほどから急に外反する。弥生時代終末期に位置付けられる。

SK5044出土土器（第156図４～22）

甕は有段口縁を呈すＣ類が主体となる。４・７はＣ２類、５・８・９・12はＣ３類、６はＣ４類となる。４は口縁下端を下方に垂下させる。４・５の口縁は端部がわずかにつまみ出された形状を呈し、口縁帯幅は他と比べ狭いものである。６の外面にはススが付着する。９は口縁内面に指頭圧痕を有す。10は「く」の字を呈するF2c類。壺にはＥ１類（11）、Ｇ２類（20）、Ｈ２類（12）がある。11は竹管状刺突を有す。20の頸部には対になる位置に穿孔され、蓋が伴うと考えられる。高坏はB5類（13・14）がある。鉢はＡ類（18・19）、Ｅ２類（16）がある。16の口縁には擬凹線が２条施され、在地系と外来系との折衷と考えられる。18は外面にススが付着している。器台ではＢ類（21）がある。これらの土器は弥生時代後期後半、法仏Ⅱ式に位置付けられる。

SK5045出土土器（第156図23～28）

壺にはD類（28）、Ｅ２類（23）がある。23の内面には指頭圧痕を確認できる。28は頸部下には断面三角形の突帯を貼付けハケ状工具で刺突を施す。鉢にはＣ３類（24）がある。端部がやや拡張する。胴部下半には被熱痕があり、ススが付着する。高坏にはＢ５類（25）がある。端部の肥厚はわずかである。23・24は脚部である。これらの土器は弥生時代後期後半、法仏式期に位置付けられる。

SK5047出土土器（第156図３）

甕はＣ４類となる。薄手で段部は明瞭となる。弥生時代後期後半、法仏式期に位置付けられる。

SK5049出土土器（第155図17～19）

甕は有段口縁のＣ類である。19は口縁が外傾する。弥生時代後期後半、法仏式に位置付けられる。

SK5050出土土器（第157図１・２）

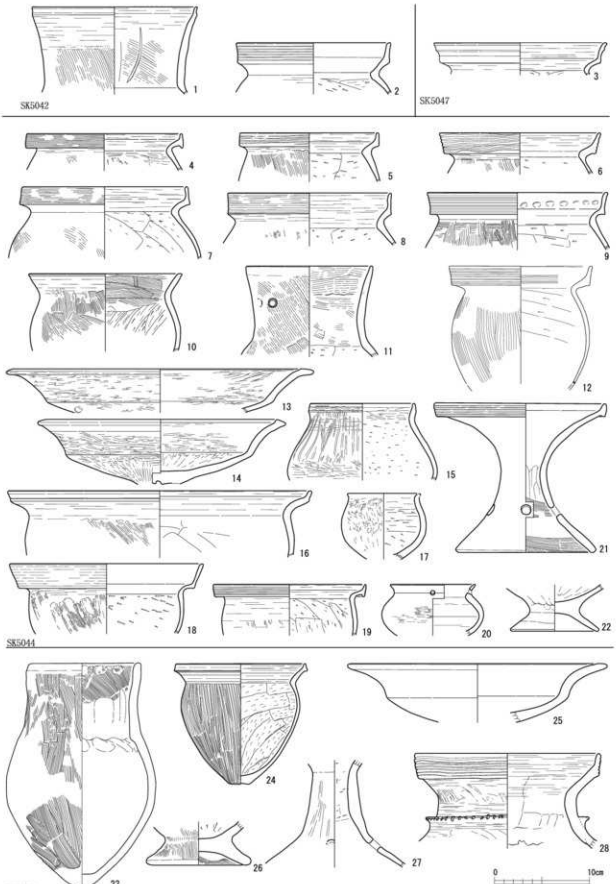
１は山陰系のH1類である。２は壺の胴部下半である。古墳時代前期に位置づけられる。

SK5058出土土器（第157図７）

器台が1点ある。C1類となる。弥生時代後期後半、法仏式期に位置付けられる。

SK5059出土土器（第157図３～６）

甕は口縁端部が面となり擬凹線を施すＢ１類（３）、無文のＢ２（４）、有段口縁を呈し無文のＥ類（５）、擬凹線を施すＣ４類（６）がある。６は肩部に刺突を施す。３～５にはススが付着する。これらの土器は弥生時代後期後半、法仏Ⅰ式に位置付けられよう。



第156図　東地区土坑出土土器実測図２（縮尺1/4）

SK5060出土土器（第157図８・９）

壺は口縁が広口を呈するＤ２類（８）。高坏はＢ５類（９）である。弥生時代後期後半、法仏式期に位置付けられる。

SK5064出土土器（第158図1～９）

甕には有段口縁を呈すＣ３類（１・３）がある。１の口縁内面には指頭圧痕がある。壺は有段口縁のＣ2ａ類（２）、短頸のＦ１類（４・５）がある。４は口縁部に６～7条の擬凹線を施す。高坏はＢ３類（７）、Ｂ5類（６）がある。器台にはＢ2類（９）がある。８は脚裾部である。これらの土器は弥生時代後期後半、法仏式に位置付けられる。

SK5071出土土器（第158図10～22）

甕は「く」の字を呈するＦ類（10・11・13・14）と端部を肥厚させるＧ類（12・15～18）が主体となる。山陰系のＨ類（19）を１点確認している。壺にはＬ類（20・21）、小型丸底を呈すＲ類（22）がある。これらの土器は古墳時代前期前半、古府クルビ式期に位置付けられる。

SK5073出土土器（第159図）

甕は「く」の字を呈するＦ類（２～10）が主体となる。総じて器面の調整は粗く、口縁部、胴部の接合痕が確認できるものが多いが、10は外面、口縁内面にミガキ調整を施し器形も整った精製品である。５には底部を中心に被熱痕があり、器表面は荒れている。有段口縁が弛緩した無文のＤ５類（１）が伴う。壺には口縁が「く」の字となるＬ３類（11・12）があり、Ｋ類と考えられるもの（14）が加わる。高坏はＤ１類（16）、とＤ類にともなう脚部（18）がある。器台は小型器台Ｈ類（19）とＨ類に伴う脚部（20・21）がある。これらは古墳時代前期初頭、白江式期に位置付けられる。

SK5074出土土器（第160図１～９）

甕は有段口縁のＣ類（１～６）が主体となる。1～４・６はＣ３類、５はＣ４類。３・４は口縁内面に指頭圧痕が確認できる。Ｉ類（８）が伴う。鉢はＡ2類（７）である。９の裾端部にはススが付着する。これらの土器は弥生時代後期後半～終末期、法仏式期から月影式期に位置付けられる。

SK5076出土土器（第160図10）

高坏が１点ある。Ａ４類である。弥生時代終末期に位置づけられる。

SK5077出土土器（第160図11）

高坏が１点ある。Ａ２類である。弥生時代後期後半に位置付けられる。

SK5078出土土器（第160図12～16）

甕には有段口縁のＣ類（12・13）がある。13はＣ２類である。壺にはＬ３類（15）がある。これらより古相を示すと考えられるものとして、Ｂ１類（14）がある。明瞭な有段口縁とはならないが、端部を拡張し、面としている。内面肩部には指ナデ痕が明瞭に残る。16は胎土、調整から14の底部と考えられる。これらの土器は弥生時代後期後半から古墳時代前期前半のものが混在している。

SK5079出土土器（第160図17・18）

17は壺である。Ｌ２類としておく。18は高坏でＡ４類である。弥生時代終末期に位置づけられる。

SK5081出土土器（第160図22）

22は脚部で、Ｂ１類である。裾部内面にはススが付着している。弥生時代に属すものである。

SK5082出土土器（第160図19～21）

甕にはＣ１類（20）、Ｃ４類（21）がある。20は内面の段が幅広く口縁端部がわずかにつまみだされ、

幅狭の面となる。21の器形はなで肩を呈し、20と比べ口縁の立ち上がりが明瞭となり、口縁帯が幅広くなる。20は古相であると考えられる。壺にはＥ１類（19）がある。これらの土器は弥生時代後期後半に位置付けられる。

SK5083出土土器（第157図10）

10は匙状土製品である。棒状の把手がつく。平面形は円形を呈し断面は楕円を半分にした形状を呈す。

SK5084出土土器（第第157図11～13）

甕は有段口縁のＣ３類（11・12）である。端部は先細りとなる。13は球形を呈する壺の胴部である。外面全体、内面頸部に赤彩を施す。弥生時代終末期に位置づけられる。

SK5085出土土器（第157図14～16）

壺にはＦ３類（15）、Ｅ１類（16）がある。16にはヘラ描きがある。高坏にはＡ３類（14）がある。口縁外面にはタテ方向のミガキを施す。弥生時代後期後半、法仏式期に位置付けられる。

SK5086出土土器（第162図１）

鉢が1点ある。Ｅ２類とする。大型の器形に比して薄手である。弥生時代後期と考えられる。

SK5087出土土器（第161図）

甕にはＧ２類（１・３）がある。壺には「く」の字を呈するＬ類（４・６・７・９）、Ｏ類（５）および小型丸底を呈すＲ類（８）がある。これらの土器は古墳時代前期前半に位置づけられる。

SK5088出土土器（第162図２）

甕が１点ある。Ｃ３類である。器形は胴部中位がやや張る。弥生時代終末期に位置づけられる。

SK5089出土土器（第162図３～６）

甕には有段口縁を呈し擬凹線を施すＣ３類（３・６）、無文のＤ類（４）がある。４にはハケ調整痕が残る。鉢にはＡ２類（５）がある。これらの土器は弥生時代後期後半、法仏式期に位置付けられる。

SK5093出土土器（第162図７）

有段となる脚裾部Ｃ２類である。ヘラ描き直線文と刺突が施される。弥生時代後期に位置付けられる。

SK5094出土土器（第162図８～13）

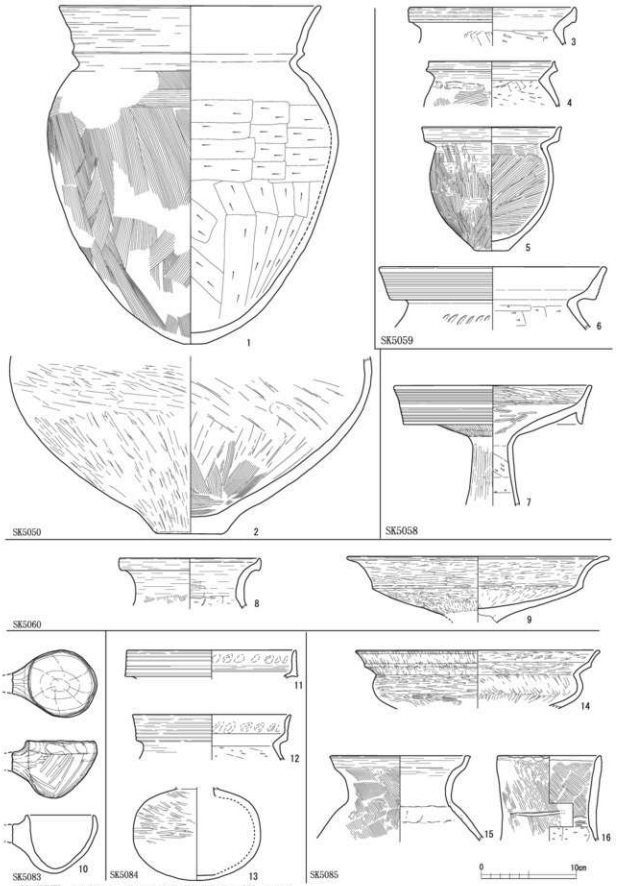
壺にはＥ１類（８・９）がある。８は頸部に竹管状刺突を施す。高坏にはＢ５類（10）、甕にはＦ２類（12）がある。鉢にはＢ４類（11）がある。胴部下半には径1.2㎝の焼成後穿孔がある。13は壺の胴部である。これらの土器は弥生時代後期後半から古墳時代初頭に位置付けられる。

SK5095出土土器（第162図14～21）

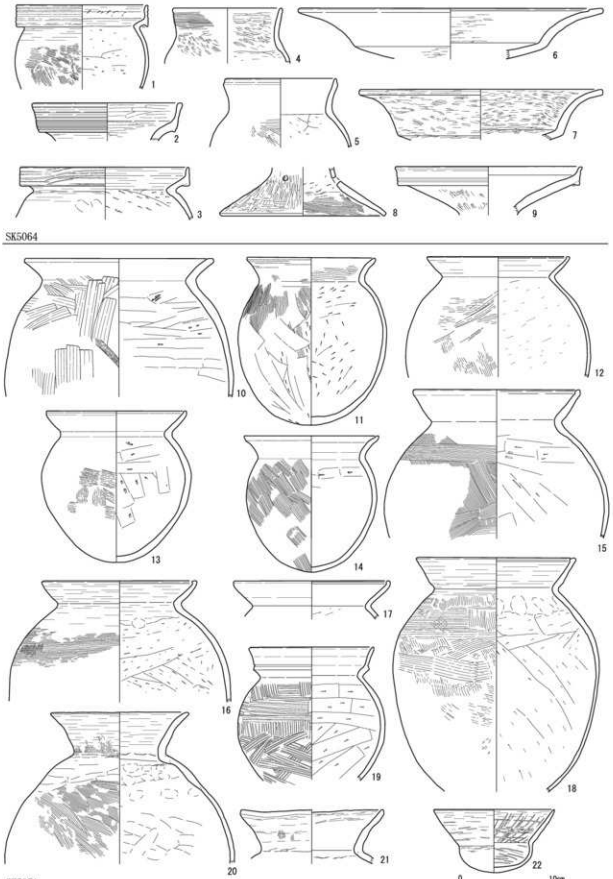
甕には「く」の字を呈すＦ2c類（16）、口縁端部が肥厚するＧ３類（14）がある。壺にはＬ３類（14）がある。鉢にはＤ１類（18）、Ｄ２類（17・19）、Ｇ類（20）、高坏にはＤ２類（21）がある。これらの土器は古墳時代前期に位置付けられる。

SK5100出土土器（第163図）

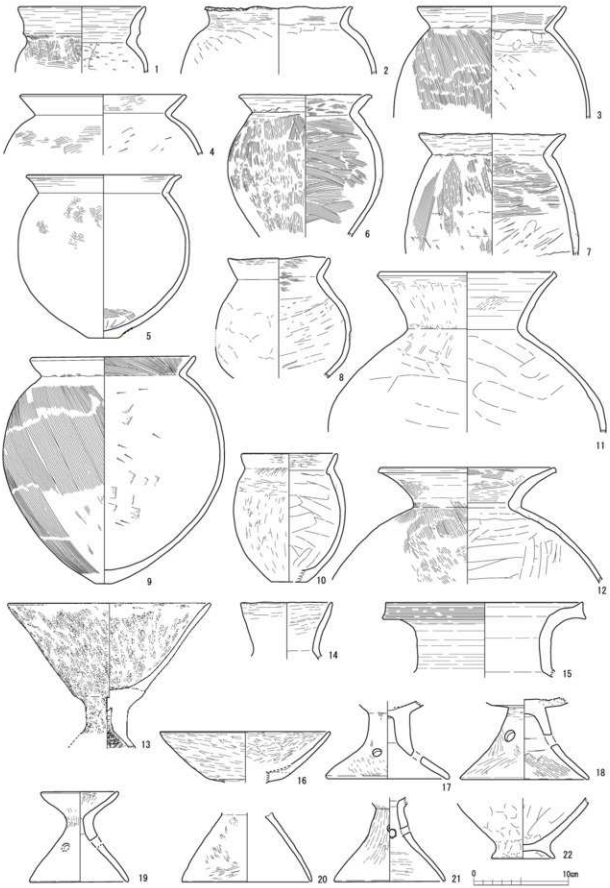
甕は有段口縁を呈し、擬凹線を施す甕Ｃ類（１・２・４・５・８）が主体となり、有段口縁で無文のＤ類（３）がともなう。２には肩部に擬凹線を施文するのと同様の原体を使用したと考えられる刺突を施す。刺突の上にはヨコナデ調整による凹線が１条できる。１・２・５・８の甕はなで肩を呈し、胴部最大径は中位にくる。また１～３・８の甕には胴部外面にススが明瞭に付着しており、１の内面底部にはコゲが確認できる。壺では有段口縁を呈すＣ類（６・７・９）、長頸を呈すＥ類（11・12・13）、短頸のＦ３類（10）がある。６・７の頸部には縦のヘラ描き文が施される。11の底部には竹管状刺突がある。



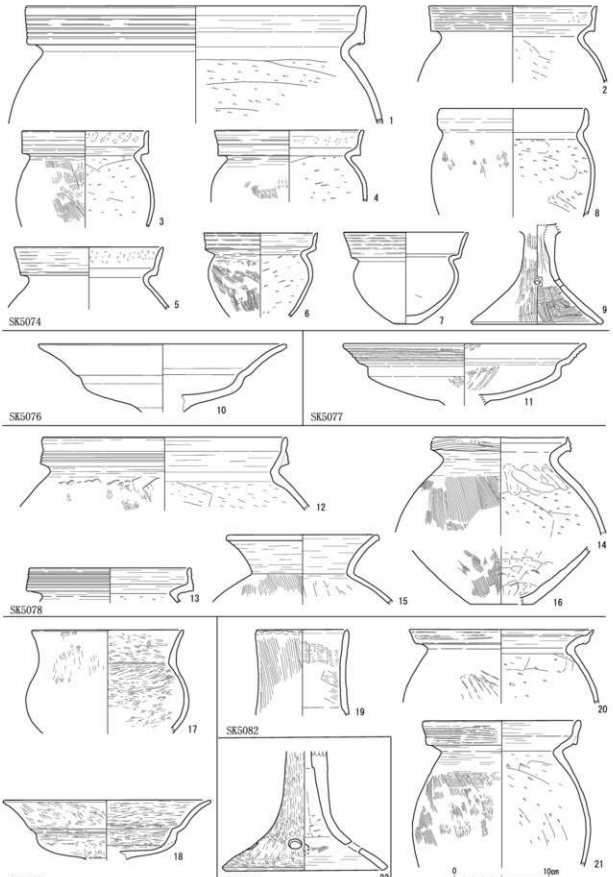
第157図　東地区土坑出土土器実測図３（縮尺1/4）



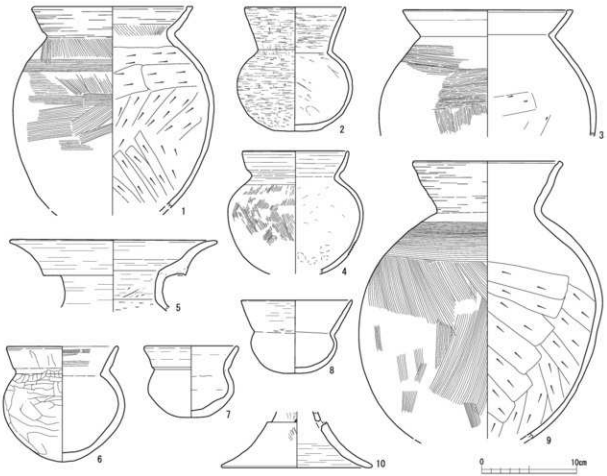
第158図　東地区土坑出土土器実測図４（縮尺1/4）



第159図　SK5073出土土器実測図（縮尺1/4）



第160図　東地区土坑出土土器実測図５（縮尺1/4）



第161図　SK5087出土土器実測図（1/4）

13の胴部には径１㎝の焼成後穿孔がある。10・11には底部から胴部中位まで、12は口縁下までススが明瞭に付着する。14は器台でＡ４類である。成形および調整は雑な印象を受ける。内面裾端部にはススが付着する。16は蓋であるが、この蓋に合う甕は復元したものの中にはなかった。これらの土器は弥生時代後期後半、法仏式に位置付けられる。

SK5108出土土器（第164図６・７）

６は壺Ｅ類の口縁である。先端が尖ったものによって描かれた線刻がある。７は高坏で、Ｄ２類となる。６は弥生時代後期後半のものと考えられるが、７は古墳時代初頭のものである。

SK5110出土土器（第164図８・９）

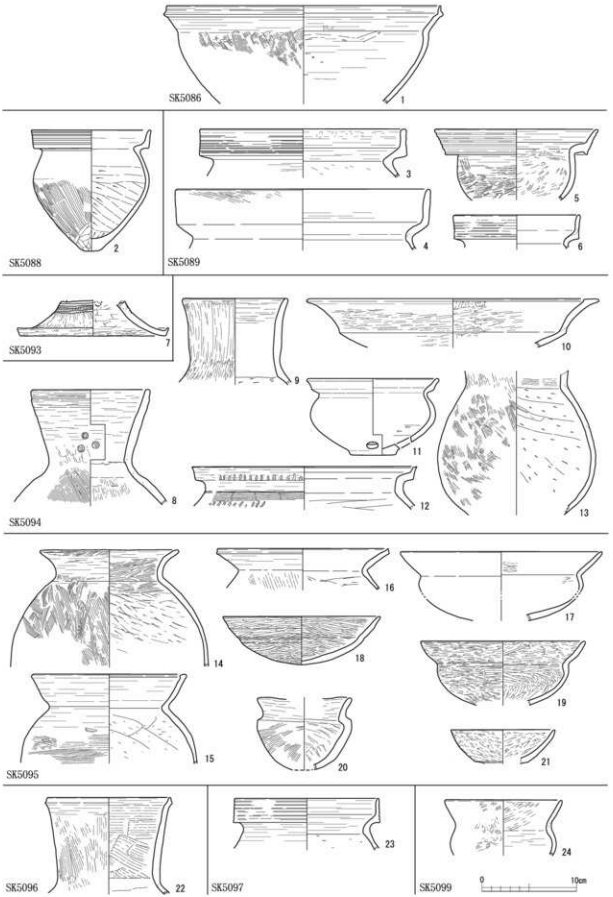
壺にはＣ2a類（８）がある。９は脚部でＢ１類である。弥生時代終末期に位置づけられよう。

SK5126出土土器（第164図１～５）

甕には有段口縁を呈す甕Ｃ３・Ｃ４類（１・２）がある。１は肩部から胴部下半までススが付着し、底部には認められない。高坏には内面の段が弱くなるＡ５類（３）がある。４は脚部、５は手捏ね土器である。これらの土器は弥生時代終末、月影式期に位置づけられよう。

SK5127出土土器（第165図）

甕には口縁端部が肥厚するＧ類（１～７）、「く」の字を呈するＦ類（８～11）があり、この２つが主体となり、Ｈ１類（12）がともなう。また、口縁が受け口状を呈するＥ類（８）も確認している。８は無文で口縁の稜も弱くなっている。端部はナデ調整により、やや外方に突出する。壺では長頸となるＥ２



第162図　東地区土坑出土土器実測図6（縮尺1/4）

第163図　SK5100出土土器実測図(縮尺1/4)

類（13）、二重口縁を呈するＯ類（14）がある。13の整形は雑で、手捏ねの印象をうける。高坏にはＤ2類（15・16）、器台にはＨ類（18）がある。鉢はＤ１類（17）である。16は透孔を有しない。これらの土器は古墳時代前期、古府クルビ式期に位置付けられる。

SK5128出土土器（第164図10～15）

甕には有段口縁を呈し、端部が先細りするＣ５類（10・11）、「く」の字を呈すＦ類（12・13）がある。14の高坏は、口縁が大きく開くＤ１類になると考えられる。15は器台の脚部である。外来の要素が加わるこれらの土器は古墳時代初頭、白江式期に位置付けられる。

SK5129出土土器（第166図１・２）

１は球形を呈す壺の胴部である。底部には板状の圧痕が確認できる。２は脚裾部である。

SK5138出土土器（第166図３～５）

甕にはＦ2b類（３）、口縁端部が肥厚する甕Ｇ２類（４）である。器台は小型器台でＨ類（５）となる。これらの土器は古墳時代前期、古府クルビ式期に位置付けられる。

SK5143出土土器（第166図７～12）

甕にはＣ３類（７）がある。壺にはＣ類（８・９）がある。８は無文だが、10は不明である。7・8の口縁下端はやや突出する。どちらも口縁は外傾する。器台にはＤ2類（11）がある。12は有段の脚部、９は蓋である。これらの土器は弥生時代終末、月影式期に位置づけられよう。

SK5146出土土器（第166図13～16）

甕には有段口縁を呈し、無文のＤ５類（13）がある。高坏は小型のＤ２類（14）がある。器台にはＤ２類（15）がある。口縁には波状文が施される。16は脚部である。これらの土器は古墳時代初頭、白江式期に位置付けられるが、15は弥生時代後期後半となる。

SK5147出土土器（第167図１～３）

１は手焙形土器のＢ類である。鉢部の口頸部は屈曲が弱く、内面には認められない。口縁部から連続して覆部となり、窓はやや上方に開く。面はわずかに上方につまみだされる。底部にはわずかに平坦面がある。内面に被熱の痕跡は確認できない。これに伴うものには、鉢にはＢ４類（２）、高坏にはＡ６類（３）がある。これらの土器は弥生時代終末から古墳時代初頭、に位置付けられる。

SK5159出土土器（第167図５・６）

甕には頸部内面にハケ調整を残す甕Ｃ4類（５）、壺には「く」の字を呈するＬ１類（６）がある。

SK5162出土土器（第167図9～12）

鉢にはＥ２類（９）がある。高坏の脚部と考えられる脚Ｃ３類（10）には裾端面に赤彩痕がある。またこのような例は多いのだが、内面裾部にはススが付着している。11・12は手捏ね土器である。弥生時代後期後半に位置付けられる。

SK5163出土土器（第167図13・14）

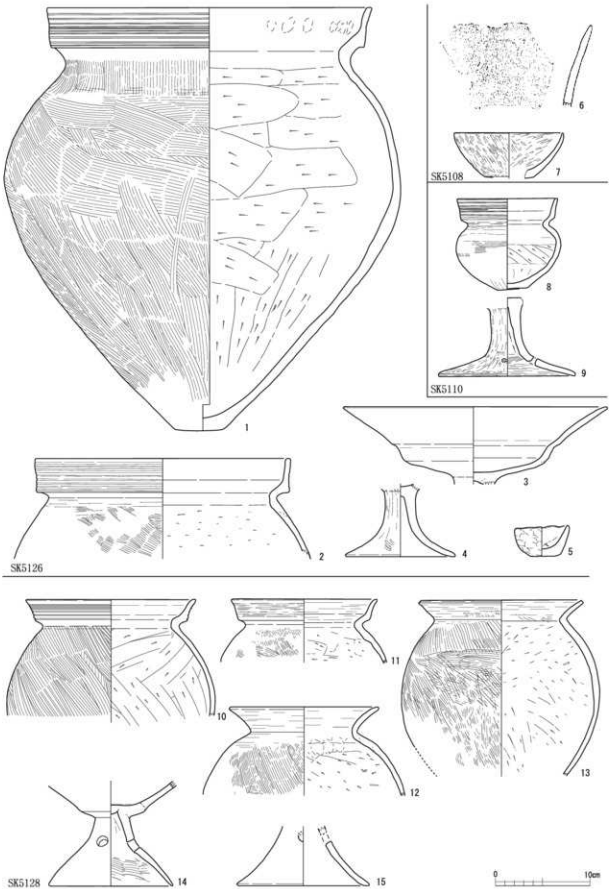
高坏が２点あり、Ｂ５類となる。13には有段の脚が付く。弥生時代後期後半に位置付けられる。

SK5167出土土器（第168図１～３）

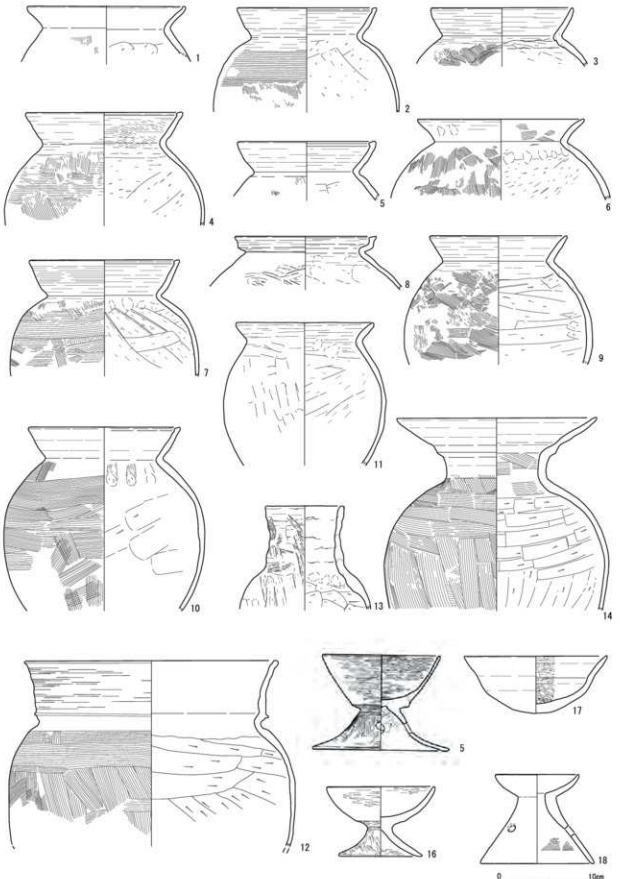
甕には内面の段が弱いＤ１類（１）がある。壺には短頸となるＦ１類（３）がある。２の体部は底部が台状となる。口縁の形状は不明である。これらは弥生時代後期後半と考えられる。

（４）溝出土土器

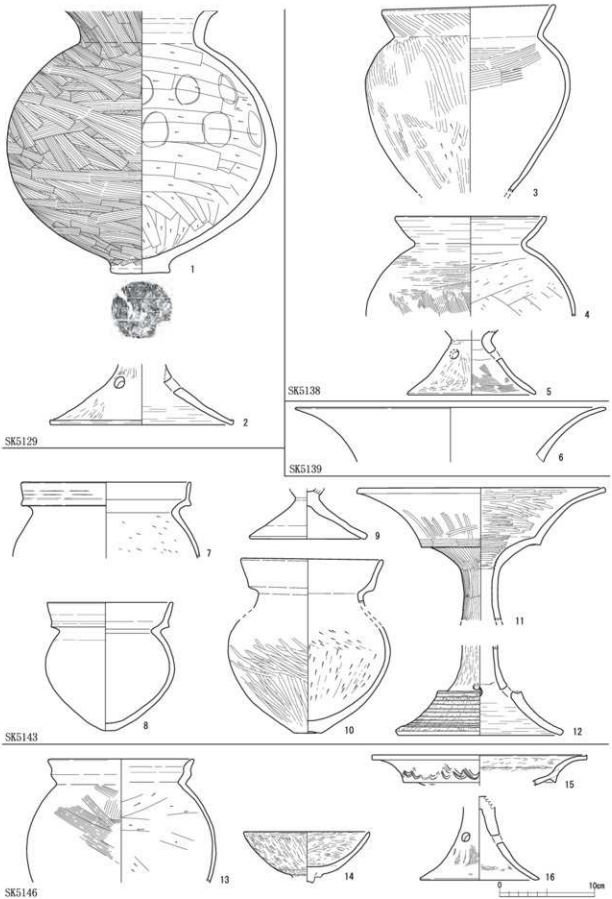
主にまとまった量の遺物が出土したものを取り上げる。



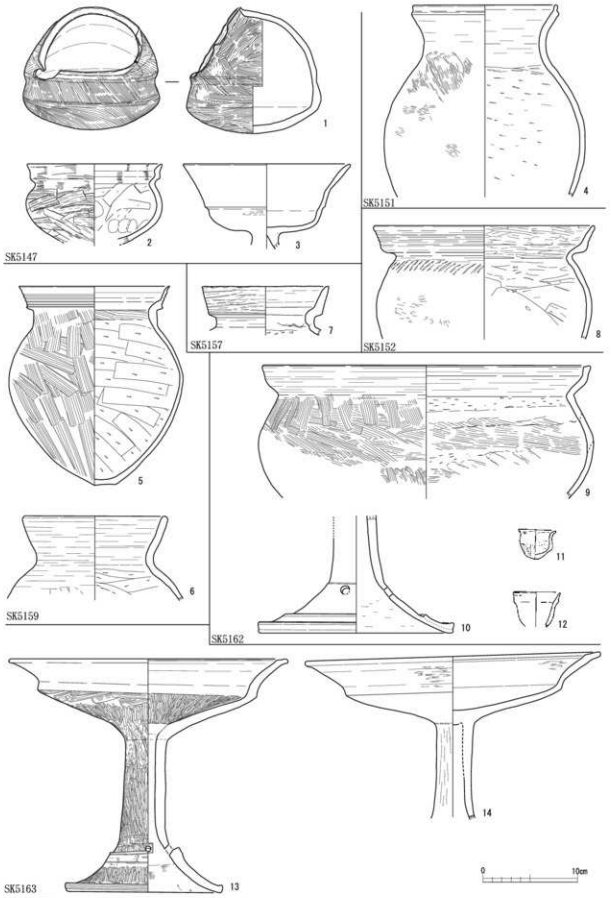
第164図　東地区土坑出土土器実測図７（縮尺1/4）



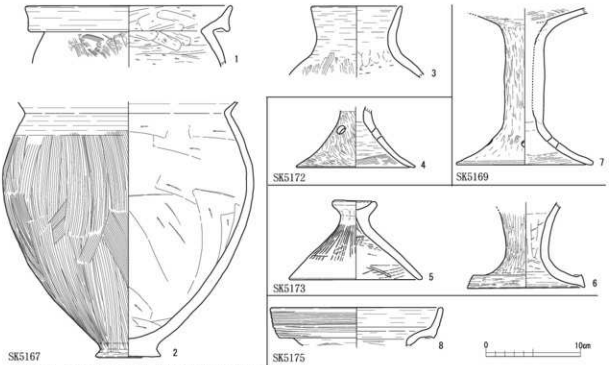
第165図　SK5127出土土器実測図（縮尺1/4）



第166図　東地区土坑出土土器実測図８（縮尺1/4）



第167図　東地区土坑出土土器実測図９（縮尺1/4）



第168図　東地区土坑出土土器実測図10（縮尺1/4）

SD1002出土土器（第169図１～８）

甕には有段口縁となるＣ３類（１～４）がある。いずれも頸部が厚く、口縁を強く屈曲させ立ち上げる。外面にはススが付着している。１～３は胴部最大径が中位やや上となり、底部はやや広く安定したものとなる。２・３は法量・器形に共通点が多いが、２の口縁内面には指頭圧痕が確認できる。４は器高が低いもので、胴部に焼成後穿孔される。壺には長頸となるＥ２類（８）がある。内面はケズリ調整を施し、器壁を薄く仕上げている。蓋にはＢ２類（５・６）がある。５はつまみの端部を面取し、６は丸く先細り状となる。鉢には有孔鉢Ｉ２ｂ類（７）がある。口縁はヨコナデ調整により内面がややくぼむ。これらの土器は弥生時代後期後半、法仏式Ⅱ式に位置づけられる。

SD1005出土土器（第169図９～16）

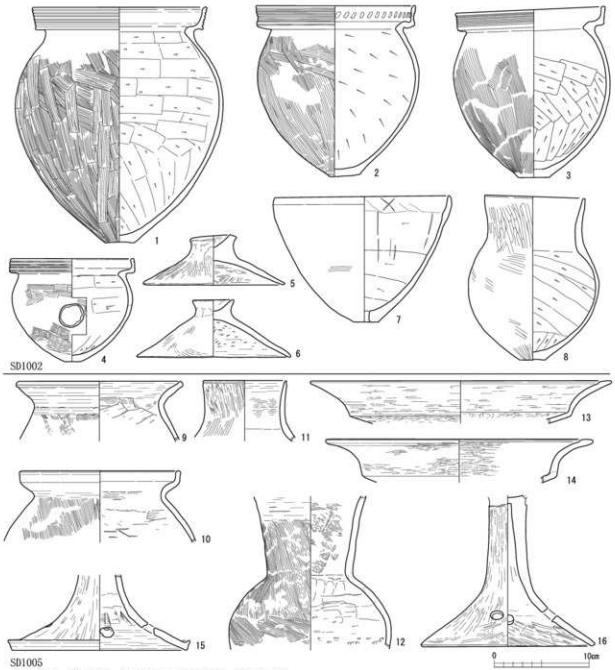
甕には口縁が「く」の字を呈するＦ2c類（９）、受け口状を呈するＥ４類（10）がある。壺にはＥ類（12）、Ｆ類と考えられるもの（11）がある。12にはわずかにカゴ目を確認することができる。高坏にはＢ５類（13・14）がある。14は13より口縁の外反が強い。15・16は脚部である。15は裾端部がはね上げぎみとなるＢ２類、16は平坦におさめるＢ１類である。これらの土器は弥生時代後期後半、法仏Ⅱ式に位置付けられる。

SD1006出土土器（第170図１～12）

甕には有段口縁を呈するＣ３・Ｃ４類（１・２・４・５）が主体となる。古相を示すＣ１類（３）の他、「く」の字を呈するＦ３類（６）も出土している。１の口縁部内面には強いヨコナデ調整による細かな条線が顕著である。また、４の内面にはコゲ痕がある。壺はＥ２類（７）。高坏の脚部となる12はＢ１類である。裾端部内面にはススが明瞭に付着している。鉢にはＦ類（９）がある。８は壺の11は鉢の胴部、10は蓋である。これらの土器は弥生時代後期後半に位置付けられる。

SD1007出土土器（第170図13～21）

甕には口縁端部がやや拡張したＢ２類（13）、Ｃ３類（14）がある。13にはススが付着する。14は口縁



第169図　SD1002・1005出土土器実測図（縮尺1/4）

段部がやや厚手となる。壺にはＥ１類（15）がある。口頸部は厚く、内面が盛り上がる。内面口縁下にヘラ描き文がある。高坏にはＢ５類（16）がある。口縁の外傾は強くなく、立ち上がりは短い。脚部には無段のＢ１類（17・19）、有段のＣ１類（18）がある。18は古相を示すと考えられ、無文で外面ミガキ調整される。棒状部との境の傾斜した面に透孔を有す。19は大型の高坏となる。21は径3.1cmの環状土製品である。これらの土器は弥生時代後期後半、法仏式期に位置づけられる。

SD1008出土土器（第170図22～24）

甕には有段口縁のＣ類（22・23）がある。22は外傾し端部が先細りとなるＣ４類に、23は有段部が弱くなり端部が先細りするＣ５類である。24は脚部を有す胴部下半である。これらの時期は弥生時代終末から古墳時代初頭に位置付けられる。

SD1010出土土器（第170図25）

甕が１点あり、Ｃ３類となる。指頭圧痕が明瞭である。弥生時代終末に位置付けられる。

SD1013出土土器（第170図26）

鉢が１点あり、Ｂ２類となる。端部はつまみあげられたように先細りする。段が明瞭である。弥生時代後期後半、法仏式期に位置づけられる。

SD1015出土土器（第170図27）

甕が１点あり、Ｃ３類となる。口縁帯の幅は狭い。弥生時代後期後半に位置付けられる。

SD1018出土土器（第171図１～６）

甕には「く」の字を呈すＦ類（１・４・５）、口縁端部が肥厚するＧ類（２・３）がある。１は胴部中位下がやや張る長胴を呈しやや内湾するＦ1b類である。３はＧ２類である。４は口縁が外傾し球胴を呈すＦ2b類である。５は口縁が外反し長胴を呈すＦ3b類である。１・２・３・５の外面にはススが付着する。また、小型器台Ｈ１類（６）がともなう。これらの土器は古墳時代前期前半に位置付けられる。

SD1019出土土器（第171図７～９）

壺には長頸となるＥ類（７・９）がある。７はＥ１類で、球形の胴部から緩やかに立ち上がる長めの口頸部となる。欠損のため不明瞭だが片口状を呈していたことがうかがえる。また、細いヘラ状工具による記号を有す。８は胴部が倒卵形を呈すＥ３類である。頸部には粘土塊を貼り付けたような痕跡を有す。７・８の胴部下半にはススが付着している。高坏にはＢ３類（９）がある。弥生時代後期後半に位置付けられる。

SD1032出土土器（第172図１）

４は壺Ｈ２類である。外面はミガキ調整されるのが通例であるが、これは粗めのハケ調整が施されている。弥生時代後期後半と考えられる。

SD1038出土土器（第172図２・３）

鉢Ｆ１類（２）、甕Ｃ４類（３）がある。弥生時代後期後半に位置付けられる。

SD1041出土土器（第171図10～13）

甕にはＣ１類（10）がある。口縁は外傾し端部は先細りする。内面に段が形成されない。口縁内面にはミガキ調整を施す。また、甕と考えられるものに11の胴部がある。面積の広い底部をもち、外面はハケ調整の後ミガキ調整する。ススが付着している。高坏にはＢ５類（13）がある。器台の脚部にはＥ１類（12）がある。弥生時代後期後半に位置付けられる。

SD1043出土土器（第172図４）

Ｊ類となる壺が１点ある。体部はそろばん玉状を呈し、外面をミガキ調整する精製品である。底部はわずかな面がある。

SD1048出土土器（第172図５・６）

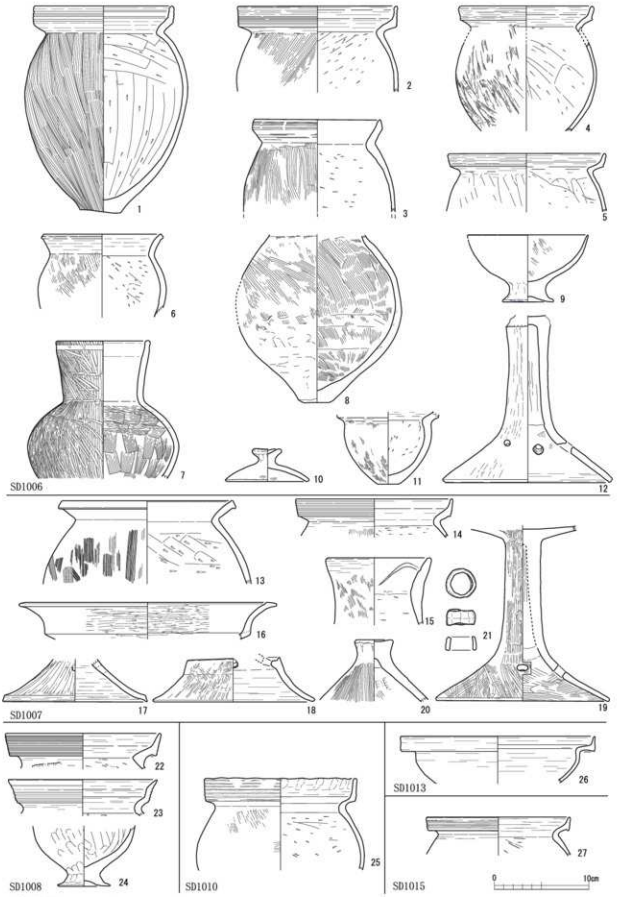
５は甕でＤ４類である。６は蓋でＢ１類である。弥生時代後期後半に位置付けられる。

（５）不明遺構出土土器

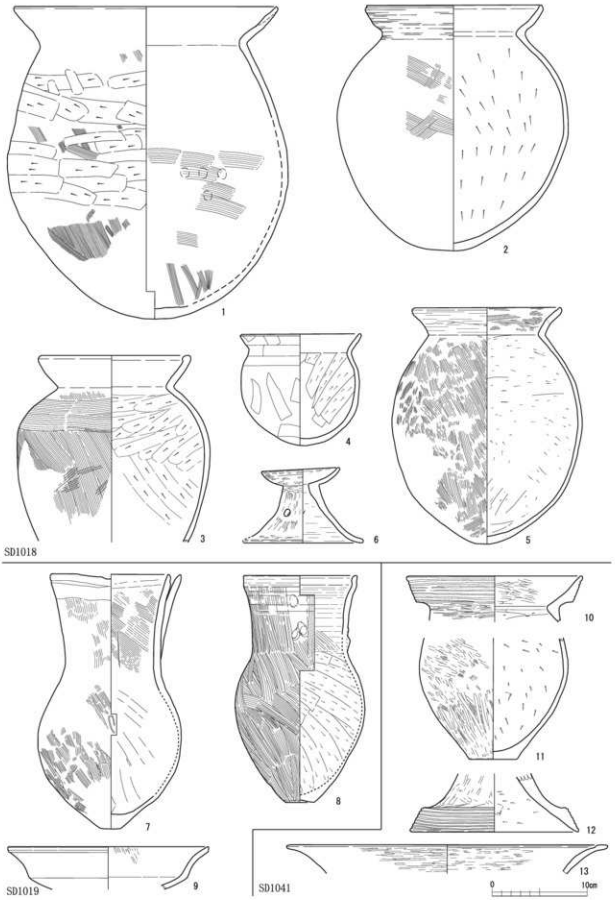
SX01出土土器（第173図１）

甕Ｃ５類（１）がある。頸部内面は強く屈曲する。口縁は「く」の字に近づき、擬凹線ではなくハケ調整が施されるなど、在地の土器の規範が緩んでいることが窺える。古墳時代初頭に位置付けられよう。

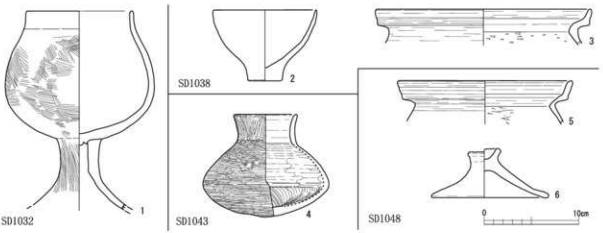
SX10出土土器（第173図９～13）



第170図　東地区溝出土土器実測図１（1/4）



第171図　東地区溝出土土器実測図２（縮尺1/4）



第172図　東地区溝出土土器実測図３（縮尺1/4）

甕には大型となるＨ１類（９）がある。肩部には波状文を有す。器台には受部底面が平坦となるＧ類(10)がある。SE101（第154図４）のものより全体に器壁は薄く、口縁の外反が強い。脚は「ハ」の字状に開き透孔を有す。鉢にはＣ２類（11)、Ｄ１類（13）がある。また、小型丸底を呈す壺Ｒ類（12）もある。これらの土器は古墳時代前期、古府クルビ式期に位置づけられる。

（６）ピット出土土器（第173図14～21）

ピットから出土した土器をまとめる。甕には口縁受口状のＥ４類(14)、擬凹線を施す有段口縁Ｃ類(15)、「く」の字を呈すＦ３類（16）がある。壺には「く」の字を呈すＬ２類（17・19)、付加状となり無文のＮ２類（18）がある。高坏には口縁が外反するＢ５類（20)、坏部が有段鉢状となるＡ４類（21）がある。

（７）川１出土土器（第174図１～６）

甕には「く」の字を呈すＦ１c類（１)、Ｆ２c類（２）がある。壺にはＬ類に該当すると考えられるもの（４・５）がある。４は頸部に突帯を貼付け、竹管状刺突を2段に施す。３は第199図11と同様な器形になると考えられる。断面が方形の突帯を２条貼付ける。また櫛描き直線文、波状文を２段ずつ施す。高坏にはＤ１類（６）がある。これらの土器は古墳時代初頭に位置づけられよう。

（８）土器集中区出土土器

Ａ３区集中区出土土器（第175図11～17）

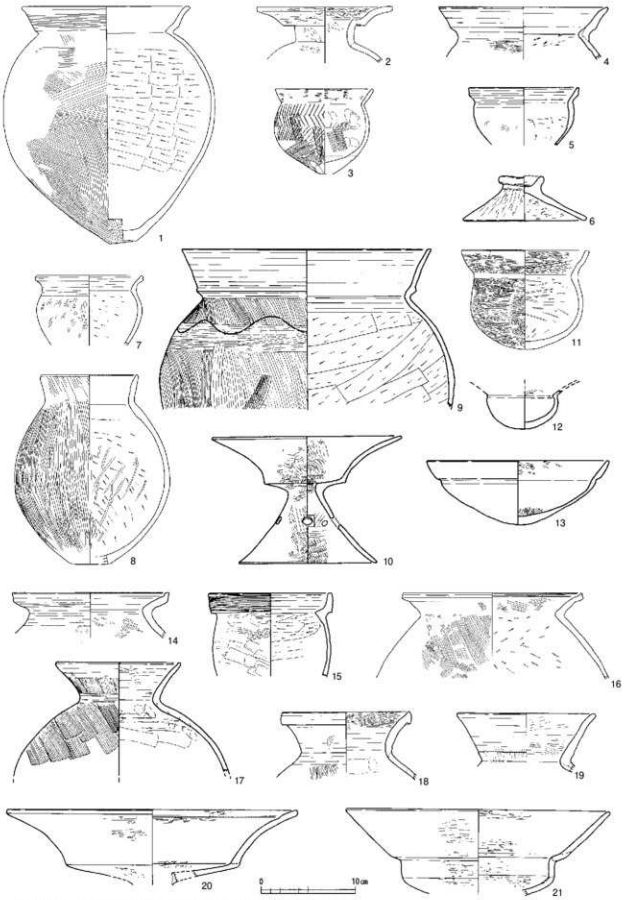
甕には有段口縁となるＣ４類（12)、「く」の字となるＦ2b類（11）がある。壺には有段口縁となるＣ1b類（13)、長頸となるＥ１類（14）がある。14には頸部に８本の縦線と１本の横線を組み合わせたヘラ描き文を有す。これらの土器は弥生時代後期後半、法仏Ⅱ式に位置付けられる。

Ａ３区墳墓周辺出土土器（第175図１～10）

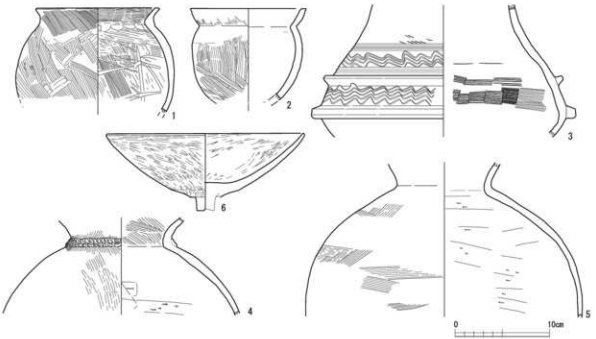
甕にはＣ３類（1・2）がある。口縁は直立し、1の端部は平坦面となる。壺には長頸となるＥ類（３・４)、短頸となるＦ類（５・７）がある。５は口縁下に粘土塊を貼り付ける。高坏にはＡ３類（９)、器台にはＡ２類（10）がある。鉢にはＦ２類（８）があり、口縁端面は面取りされる。壺が多いのは遺構の性格であろうか。これらの土器は弥生時代後期後半、法仏Ⅱ式の古相に位置付けられる。

Ａ７区集中出土土器（第176図１～５）

甕は有段口縁のＣ類（１～５）である。１には外面にススが、内面底部にはコゲが確認できる。３の口縁下端はやや突出する。壺はＥ類（４・５）である。４は外面ナデ調整が施される。これらの土器は弥生時代後期後半、法仏Ⅱ式に位置付けられる。



第173図　東地区不明遺構・ピット出土土器実測図（縮尺1/4）



第174図　川１出土土器実測図（縮尺1/4）

Ａ８区集中区出土土器（第176図６～８）

甕にはＣ類（６・８）がある。ともに口縁端部がやや先細りとなる。鉢にはＩ１ｂ類（８）がある。これらの土器は弥生時代後期後半から終末期、法仏式後半から月影式前半に位置付けられる。

Ｄ21区集中区出土土器（第176図９～11）

甕にはＧ２類（９･10）がある。９は頸部を厚く残す。10は薄くし、屈曲が強い。鉢にはＩ2a類（11）があり、成形が粗い印象を受ける。これらの土器は古墳時代前期前半に位置づけられる。

Ａ33区集中区出土土器（第177図）

甕には口縁が「く」の字を呈するＦ3b類（１）、口縁端部が肥厚するＧ類（２～７）がある。総じて内面頸部屈曲部までケズリを施すものはなく、口縁から頸部下までナデ調整している。壺には口縁「く」の字を呈するＬ類（８～10）がある。11は有段口縁となる大型のものである。山陰地方の影響が考えられる。鉢にはＤ１類（12）がある。底部は焼成後穿孔される。器台には小型器台となるＨ類（14～17）がある。これらの土器は、古墳時代前期、古府クルビ式期に位置付けられる。18は弥生時代後期後半の器台の脚部である。

Ａ34区集中区出土土器（第179図１～３）

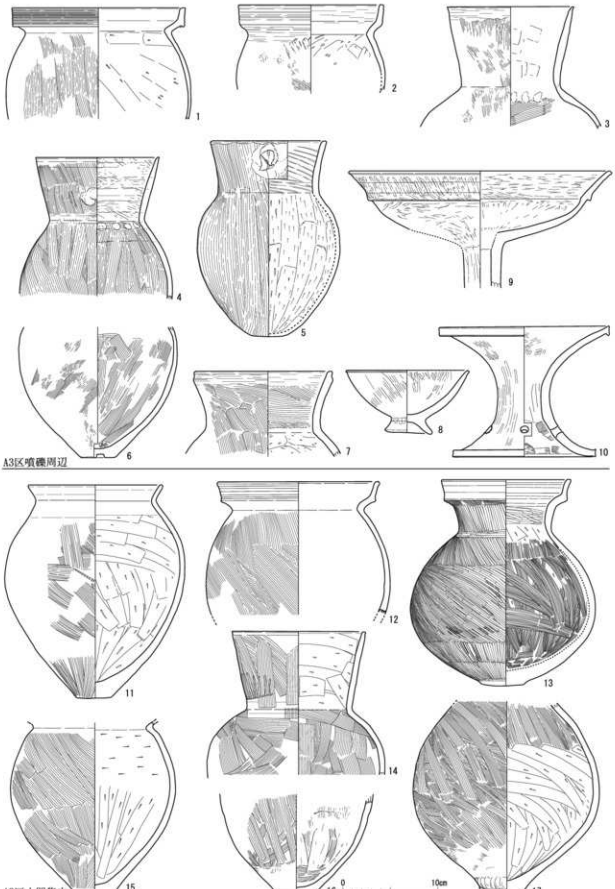
甕は大型のＨ類（１）である。山陰系である。壺はＫ１類（２）である。高坏はＤ１類（３）である。これらの土器は古墳時代前期前半に位置付けられる。

Ａ35区集中出土土器（第179図４～７）

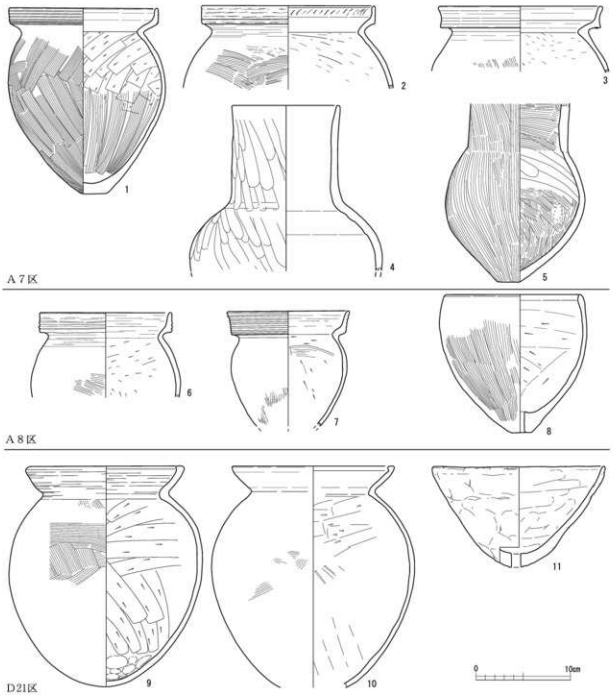
甕には「く」の字を呈すＦ2c・Ｆ3a類（５・６）、有段口縁のＣ４類（７）がある。５は安定した平底を有す。鉢にはＩ2a類（４）がある。これらの土器は古墳時代初頭に位置付けられる。

Ａ36区集中出土土器（第178図）

甕には有段口縁のＣ４・５類（１～５）が主体となり、「く」の字を呈するＦ２類（６）がともなう。Ｃ・Ｆ類ともに球形の胴部となり底部は小さい。壺はＭ類（８・９）Ｑ類（７）がある。８の口縁は有段



第175図　A3区土器集中区出土土器実測図（縮尺1/4）



第176図　Ａ７区・Ａ８区・Ｄ21区土器集中区出土土器実測図（縮尺1/4）

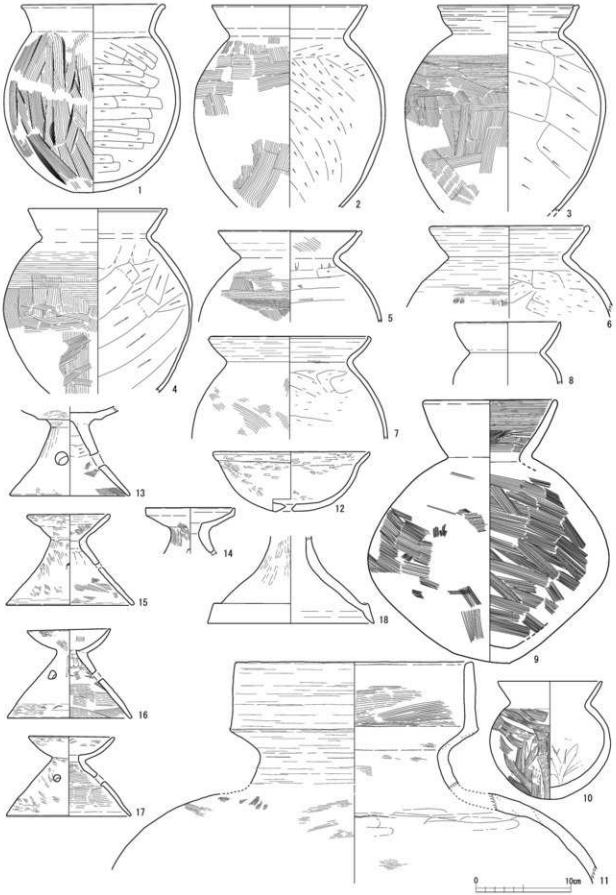
を想起させるが、有段の体を成していない。甕と同様球形の胴部となるが、底部は安定した平底となる。

ＡＢ40区集中区土器（第179図８～15）

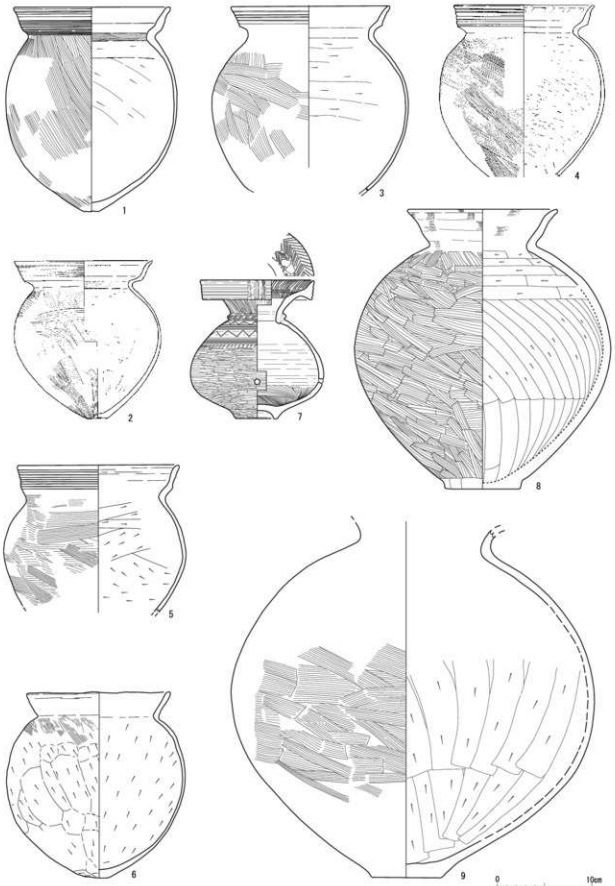
甕には有段口縁で擬凹線を施すＣ４類（８･11）と無文のＤ５類（10）、「く」の字を呈すＦ３類（12）がある。壺には二重口縁となるＯ類（９）がある。口縁下端には竹管上刺突を施した２個１組の円形浮文を５箇所に有す。鉢にはＡ３類（13）がある。器台には小型器台のＨ３類（15）がある。14は手捏ね土器である。これらの土器は古墳時代初頭、白江式期に位置づけられる。

（９）包含層出土土器

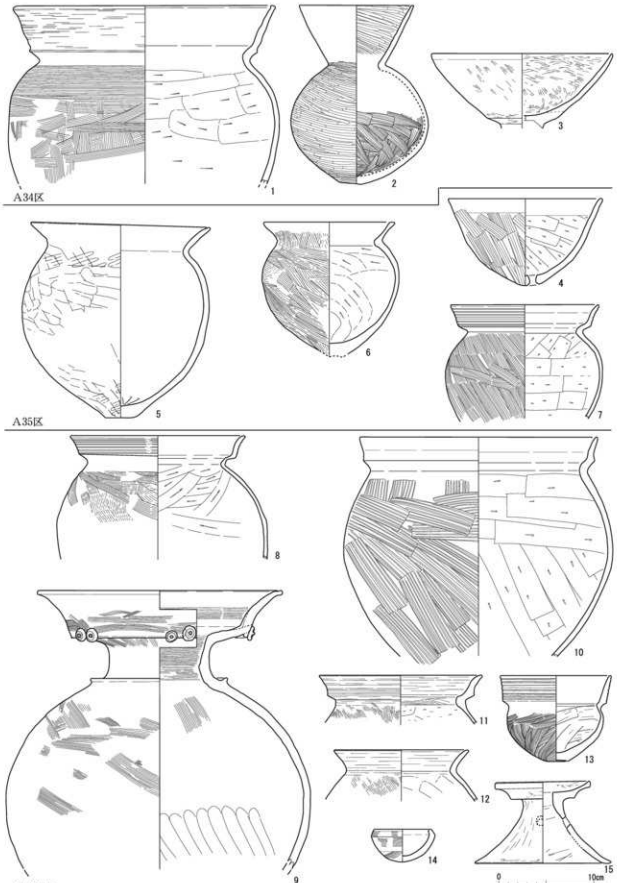
Ⅶ層出土土器（第180・181図）



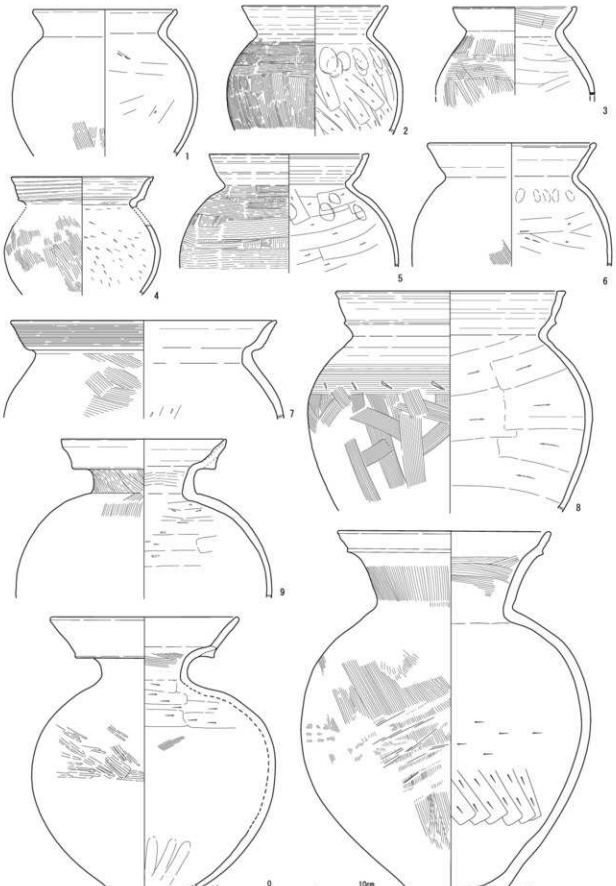
第177図　A33区集中区出土土器実測図（縮尺1/4）



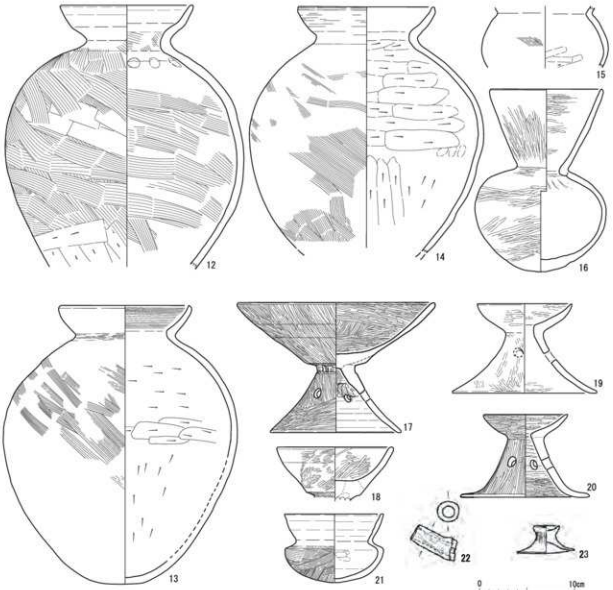
第178図　A36区土器集中区出土土器実測図（縮尺1/4）



第179図　A34・A35・ＡＢ40区出土土器実測図（縮尺1/4）



第180図　東地区Ⅶ層出土土器実測図１（縮尺1/4）



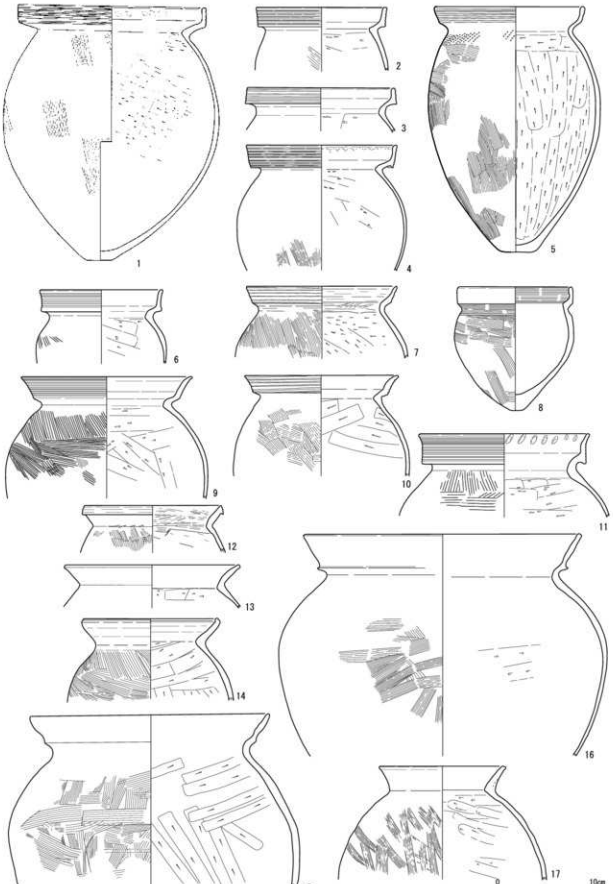
第181図　東地区Ⅶ層出土土器実測図２（縮尺1/4）

Ⅶ層から出土した土器を取り上げる。Ⅶ層からは、古墳時代初頭から古墳時代前期前半の土器が出土している。遺構および土器集中区にも同時期のものがあることから、本来はⅦ層中に掘り込まれた遺構が存在していたはずだが、面的には確認できなかった。甕・壺・高坏・器台・鉢・手捏ね土器が出土している。

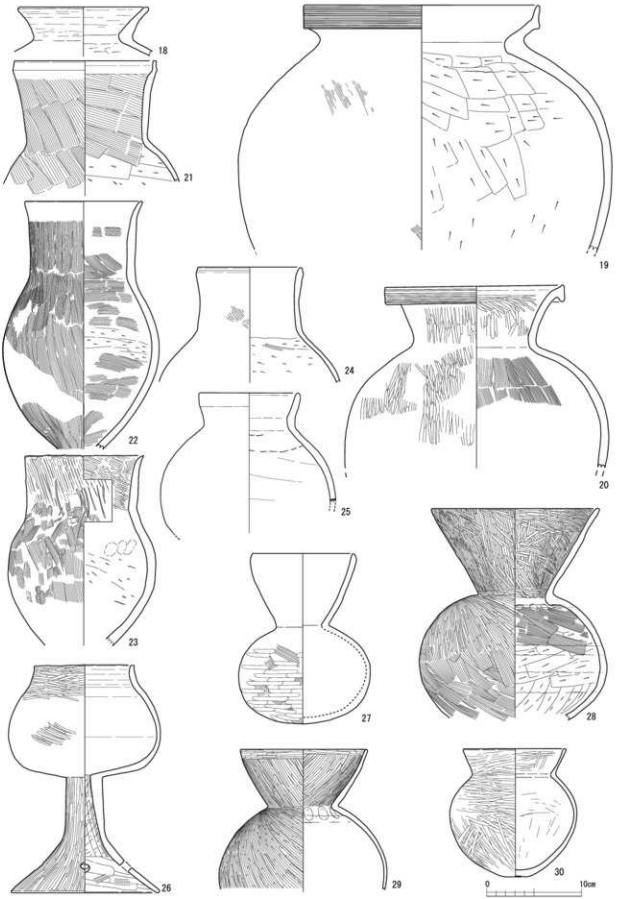
甕にはＣ５類（４・７）、F3c類（１）、Ｇ類（２・３・５・６）、Ｈ類（８）がある。体部は球形を呈するものが多い中で、３はなで肩を呈する。８は胴部最大径のやや上に刺突を施す。壺にはＫ１類(16)、Ｌ１類（12～14）、Ｏ類（９・10）、Ｐ類（11）、Ｒ類（21）がある。12～14は共通した形態を呈すが、12の内面はハケ調整される。21は頸部の屈曲が強く口縁ヨコナデ、体部はハケ調整が施される。高坏にはＤ１・Ｄ２類（17･18）が、器台はH1類（19･20）が確認できる。22は注口である。23は小型の蓋である。これらの土器はおおむね古墳時代初頭から古墳時代前期に位置付けられる。

Ⅶ層出土土器（第182～186図）

前述したように上層遺構に伴う土器も含むが、出土状況からの判断は困難である。また少量だがⅨ層



第182図　東地区Ⅶ層出土土器実測図１（縮尺1/4）



第183図　東地区Ⅶ層出土土器実測図２（縮尺1/4）